

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第224集

桜畑上遺跡 I

平成12・13・15～19年度 東駿河湾環状道路建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

(旧石器時代～縄文時代草創期編)

2010

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第224集

桜畑上遺跡 I

平成12・13・15～19年度 東駿河湾環状道路建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

(旧石器時代～縄文時代草創期編)

2010

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

序

愛鷹南麓から箱根西麓にかけての地域は旧石器時代から縄文時代を中心とする遺跡群の密集地帯として知られております。東駿河湾環状道路は沼津・三島市街の外縁部を通る形でこの遺跡密集地帯の上に建設され、その過程で多数の埋蔵文化財が発掘されることとなりました。

桜畑上遺跡は東駿河湾環状道路と新東名高速道路とが接続する地点に所在し、3万㎡を超える面積が7年度にわたって調査され、その結果、後期旧石器時代から縄文時代、古墳時代、中・近世に及ぶ膨大な数の遺構・遺物が出土しました。

本書ではその中の後期旧石器時代から縄文時代草創期の時期に関する調査成果を取録しております。この時代の資料は、約3万年前の第Ⅲスコリア帯の石器から後期旧石器時代終末の細石刃石器群、縄文時代草創期まで、1万数千年にわたる遺物が重層的に出土しました。とりわけ後期旧石器時代後半期にあたる第Ⅰ黒色帯から休場層の資料が充実しており、今後の研究にとって興味深い資料が含まれています。

本書が考古学の研究に寄与し、また愛好家の方々にも活用され、さらには本研究所の事業が幅広く一般の方々にも理解されますことを願ってやみません。

最後になりましたが、桜畑上遺跡の発掘調査並びに報告書作成にあたっては、国土交通省沼津河川国道事務所、静岡県教育委員会を始め多くの関係諸機関にご指導・ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。また、十年余に及ぶ期間の中で発掘調査・整理作業に携わられた多数の作業員の方々にもこの場を借りて感謝の意を表します。

平成22年9月

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所
所長 石田 彰

例言

1. 本書は、静岡県駿東郡上長窪字上野に所在する桜畑上遺跡（東駿河湾環状道路 No.6 地点）の発掘調査報告書である。本書では桜畑上遺跡の調査成果のうち、旧石器時代から縄文時代草創期までの資料を収録する。縄文時代早期以降に関しては続巻に収録される予定である。
2. 調査は東駿河湾環状道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘業務として、国土交通省中部地方整備局の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導の下、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。
3. 資料整理は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成 20 年 4 月から平成 22 年 7 月にかけて実施した。
4. 桜畑上遺跡の調査・資料整理の期間、及び体制は以下の通りである。

平成 12 年度

第 I 期調査（平成 12 年 7 月～9 月）

所長 齋藤 忠 副所長 山下 晃 常務理事兼総務部長 伊藤友雄 総務課長 杉木敏雄
会計係長 大橋 薫 調査研究部長 佐藤達雄
調査研究部次長兼調査研究一課長 及川 司
調査研究二課長 篠原修二 主任調査研究員 佐野暢彦

平成 13 年度

第 II 期・確認調査その 1（平成 13 年 4 月～7 月）

所長 齋藤 忠 副所長 山下 晃 常務理事兼総務部長 桑田徳幸 総務課長 本杉昭一
会計係長 大橋 薫 調査研究部長 佐藤達雄
調査研究部次長兼資料課長 栗野克己 調査研究部次長兼調査研究一課長 及川 司
調査研究二課長 篠原修二 主任調査研究員 佐野暢彦 調査研究員 越智 徹

平成 15 年度

第 II 期・本調査その 1（平成 15 年 8 月～16 年 3 月）

所長 齋藤 忠 副所長 飯田英夫 常務理事兼総務部長 桑田徳幸
総務部次長兼総務課長 鎌田英巳 調査研究部長 山本昇平
調査研究部次長兼資料課長 栗野克己 会計係長 野島尚紀
調査研究部次長兼調査研究二課長 佐野五十二
調査研究員 笹原千賀子 井鍋譽之 池ヶ谷和明

平成 16 年度

第 II 期・本調査その 2（平成 16 年 4 月～17 年 3 月）

所長 齋藤 忠 副所長 飯田英夫 常務理事兼総務部長 平松公夫
総務部次長兼総務課長 鎌田英巳 調査研究部長 山本昇平
調査研究部次長兼資料課長 栗野克己 会計係長 野島尚紀
調査研究部次長兼調査研究二課長 佐野五十二
主任調査研究員 中鉢賢治 調査研究員 池ヶ谷和明

平成 17 年度

第 II 期・確認調査その 2（平成 17 年 8 月）、本調査その 3（平成 17 年 4 月～18 年 3 月）

所長 齋藤 忠 常務理事兼総務部長 平松公夫 総務部次長兼総務課長 鈴木大二郎
調査研究部長 石川素久 調査研究部次長 栗野克己 事業係長 野島尚紀
調査研究部次長兼調査研究二課長 佐野五十二 主任調査研究員 中鉢賢治

調査研究員 片桐英生 木崎道昭 池ヶ谷和明

平成 18 年度

第Ⅱ期・本調査その4（平成 18 年 6 月～19 年 3 月）

所長 斎藤 忠 常務理事兼総務部長 平松公夫 総務部次長兼総務課長 鈴木大二郎
調査研究部長 石川素久 調査研究部次長 佐野五十三 稲葉保幸
調査研究部次長兼調査課長 及川 司 事業担当 望月高史
調査課係長 中鉢賢治 調査研究員 片桐英生 木崎道昭 日吉高幸

平成 19 年度

第Ⅱ期・本調査その5（平成 19 年 4 月～20 年 3 月）

所長 斎藤 忠 常務理事兼事務局長 清水 哲 事務局次長兼総務課長 大場正夫
事務局次長兼調査課長 及川 司 事務局次長 佐野五十三 稲葉保幸 事業担当 望月高史
調査課東部調査一係長 中鉢賢治 調査研究員 入野康孝

平成 20 年度

資料整理（平成 20 年 4 月～21 年 3 月）

所長兼常務理事 清水 哲 次長兼総務課長 大場正夫 次長兼調査課長 及川 司
次長兼事業係長 稲葉保幸 事業担当 青井拓司 調査課東部総括係長 中鉢賢治
調査研究員 入野康孝 常動囑託員 中村雄紀

平成 21 年度

資料整理（平成 21 年 4 月～22 年 3 月）

所長兼常務理事 天野 忍 次長兼総務課長 松村 亨 次長兼調査課長 及川 司
次長兼事業係長 稲葉保幸 次長兼東部総括係長 中鉢賢治 事業担当 青井拓司
調査研究員 入野康孝 常動囑託員 中村雄紀

平成 22 年度

資料整理（平成 22 年 4 月～22 年 7 月）

所長兼常務理事 石田 彰 次長兼総務課長 松村 亨 専門監兼事業係長 稲葉保幸
調査課長 中鉢賢治 調査一係長 勝又直人 常動囑託員 中村雄紀

5. 現地での基準点測量を株式会社シン技術コンサル、空中写真撮影を株式会社シン技術コンサル・株式会社東京航業研究所に委託した。
6. 石器実測の一部を株式会社シン技術コンサル、株式会社ラングに委託した。また、石器実測素図の作成を株式会社ラングに委託した。
7. 黒曜石の原産地推定分析を望月明彦・独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授に委託した。
8. 放射性炭素年代測定・炭化材樹種同定を株式会社加速器分析研究所に委託した。
9. 石器石材の同定は当研究所の森嶋富士夫が行った。
10. 本書の編集・執筆は中村が行った。
11. 遺物写真は平成 21 年度に杉山すず代が行った。
12. 調査と整理作業では下記の方々にご指導を賜った。厚く御礼申し上げる。（敬称略）
池谷信之 国武貞克 小崎 晋 佐藤宏之 鈴木敏中 瀬川裕市郎 高橋 豊
田村 隆 廣瀬高文 向坂鋼二 望月明彦 渡井英誉
13. 発掘調査資料は静岡県教育委員会が保管している。

凡 例

1. 桜畑上遺跡の測量は平成15年改定以前の旧国土座標(平面直角座標第Ⅷ系)に基づいて実施した。調査区内には一辺10mのグリッドを設定した。(A, 1)を原点としてX軸(南北)方向にアルファベット(A, B, C…Z, AA, AB…), Y軸(東西)方向に番号(1, 2, 3…)を付し、グリッドの南西角交点を以ってグリッドの呼称とした。なお、原点は第Ⅰ期調査で(A, 1) = (34200.000, -95200.000)、第Ⅱ期調査で(A, 1) = (34320.000, -94820.000)の点に置いており、異なるグリッド呼称を用いていたが、本書では第Ⅱ期調査の原点に基づくグリッド呼称を統一して用いる。

2. 遺物番号は第Ⅰ期調査、第Ⅱ期調査それぞれにおいて1から通し番号を付した。土器・石器で共通の番号を用い、礫、炭化物についてはそれぞれ別の通し番号とした。さらに土器:P、石器:S、礫:R、炭化物:Cの記号を付してこれらの遺物種の区別を付けた。

例えば、第Ⅱ期調査については次のように遺物番号が付されている。

土器・石器:1(P), 2(P)…、5(S), 6(P), 7(P), 8(S)…

礫:1(R), 2(R), 3(R)…

炭化物:1(C), 2(C), 3(C)…

第Ⅰ期調査と第Ⅱ期調査とは番号が重複するため、第Ⅰ期調査の番号は必要に応じて「Ⅰ-(遺物番号)」という形で表記することとした。

3. 接合番号は石器、礫それぞれについて1から通し番号を付した。分布図中で礫の接合番号は赤字で表記し、両者を区別した。

石器:接合1、接合2… 礫:接合1、接合2…(赤字で表記)

4. 本報告書所収の石器・礫の基本データ(出土位置・法量等)は第67～69表に収録している。

表中の計測値は以下の基準に基づいて示した。

長さ・幅・厚さ:石器は0.01cm単位まで計測。欠損部分の現存長は括弧付の値で示す。

礫は0.1cm単位まで計測。割れ等は計測値で表記していない。

重量 2000g以下のもの:0.1g単位まで計測。0.1gに満たない場合は「<0.1」と表記する。

2000gを超過するもの:10g単位まで計測。

なお、風化などにより劣化が激しく計測できなかった資料は計測値を「-」と表記し、その他遺物の事情により計測ができなかった資料は計測値を空欄としている。また、礫の一部には重量2000g以下でも10g単位までしか計測データが得られなかったものがある。

5. 石器の実測は原則として第三角投影図法に準拠した。本文中の石器の記載では実測図の向きに基づき、左右等は正面図に対する位置を示すものとする(従って、「裏面の右側縁」は裏面図で左側にきている)。

6. 土層の色調の記載は新版『標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監1997年版)に準拠した。

目 次

序／例言／凡例

第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 調査の方法	
第1節 調査の方法	
1 調査区と座標・グリッド	3
2 測量・遺物取り上げ	4
3 掘削	5
第2節 調査の経過	
1 発掘調査	6
2 資料整理	8
第3節 層序	
1 土層の堆積状況	8
2 基本層序	8
3 他の調査地点との対比	13
第Ⅲ章 調査の方法	
第1節 桜畑上遺跡の概要	14
第2節 地理的環境	15
第3節 歴史的環境	15
第Ⅳ章 資料の概要	
第1節 資料の概要	18
第2節 資料の分類	
1 資料の範囲	18
2 遺物分布と石器集中・露群	18
3 石器の分類	19
4 礫の分類	20
5 遺物の計測方法	20
第Ⅴ章 旧石器時代の遺構と遺物	
第1節 第Ⅲスコリア帯出土石器	21
第2節 第Ⅰ文化層	
1 概要	22
2 出土石器	22
第3節 第Ⅱ文化層	
1 概要	25
2 エリアA	26
3 エリアB	28
4 エリアC	31
5 エリアD	32
6 エリアE	33
7 その他の資料	48
第4節 第Ⅲ文化層	
1 概要	49
2 エリアA	50
3 エリアB	55

4	その他の資料	55
第5節	第IV文化層	
1	概要	58
2	エリアA	59
3	エリアB	62
4	エリアC	64
5	エリアD	66
6	エリアE	68
7	エリアF	70
8	エリアG	74
9	エリアH	79
10	エリアI	83
11	エリアJ	84
12	その他の資料	94
第6節	第V文化層	
1	概要	95
2	エリアA	97
3	エリアB	102
4	エリアC	108
5	エリアD	110
6	エリアE	117
7	エリアF	120
8	エリアG	126
9	エリアH	132
10	エリアI	132
11	エリアJ	135
12	エリアK	136
13	その他の資料	146
第7節	第VI文化層	
1	概要と遺物の分布	150
2	出土石器	152
第8節	表採・一括等の遺物	154
第9節	休場層の遺構	155
第VI章	縄文時代草創期の遺物	
第1節	資料の概要	157
第2節	出土石器	157
第VII章	まとめ	
第1節	旧石器時代	
1	文化層の概要	163
2	第I黒色帯～休場層下部の石器群について	167
第2節	縄文時代草創期	168
註・参考文献		170
附編		
附編1	蛍光X線分析による桜畑上遺跡出土の黒曜石器の産地推定	194
附編2	桜畑上遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）	230
附編3	桜畑上遺跡から出土した炭化材の樹種	233

挿図目次

第1図	東駿河湾環状道路関連の遺跡	1	第31図	第Ⅱ文化層(エリアE) 4号石器集中器種別分布図	36
第2図	桜畑上遺跡の調査区分	2	第32図	第Ⅱ文化層(エリアE) 5号石器集中器種別分布図	37
第3図	グリッドと調査区	3	第33図	第Ⅱ文化層 エリアE出土石器(1)	39
第4図	試掘坑配置図	4	第34図	第Ⅱ文化層 エリアE出土石器(2)	40
第5図	掘削深度図	5	第35図	第Ⅱ文化層 エリアE出土石器(3)	41
第6図	土層堆積状況(1)	9	第36図	第Ⅱ文化層 エリアE出土石器(4)	42
第7図	土層堆積状況(2)	10	第37図	第Ⅱ文化層 エリアE出土石器(5)	43
第8図	土層堆積状況(3)	11	第38図	第Ⅱ文化層 エリアE出土石器(6)	44
第9図	基本層序と桜畑上遺跡各地点の層序	13	第39図	第Ⅱ文化層 エリアE出土石器(7)	45
第10図	愛鷹山南東麓の地質構造	14	第40図	第Ⅱ文化層 エリアE出土石器(8)	46
第11図	桜畑上遺跡周辺の遺跡分布 (旧石器時代～縄文時代享創期)	17	第41図	第Ⅱ文化層 エリアE出土石器(9)	47
第12図	石器の計測位置	20	第42図	第Ⅱ文化層 エリアE出土石器(10)	48
第13図	S CⅢ・第Ⅰ文化層遺物分布図	21	第43図	第Ⅱ文化層エリア外出土石器	48
第14図	第Ⅲスコリア帯石材別分布図	22	第44図	第Ⅲ文化層遺物分布図	49
第15図	第Ⅲスコリア帯出土石器	22	第45図	第Ⅲ文化層 エリアA器種別分布図	51
第16図	第Ⅰ文化層エリア別分布図	23	第46図	第Ⅲ文化層 エリアA石材別分布図	52
第17図	第Ⅰ文化層出土石器	24	第47図	第Ⅲ文化層(エリアA) 1号礫群	52
第18図	第Ⅱ文化層遺物分布図	25	第48図	第Ⅲ文化層 エリアA出土石器(1)	53
第19図	第Ⅱ文化層エリアA遺物分布図	27	第49図	第Ⅲ文化層 エリアA出土石器(2)	54
第20図	第Ⅱ文化層エリアA出土石器	27	第50図	第Ⅲ文化層エリアB遺物分布図	55
第21図	第Ⅱ文化層エリアB遺物分布図	28	第51図	第Ⅲ文化層エリアB出土石器	56
第22図	第Ⅱ文化層 エリアB出土石器(1)	29			
第23図	第Ⅱ文化層 エリアB出土石器(2)	30			
第24図	第Ⅱ文化層エリアC遺物分布図	31			
第25図	第Ⅱ文化層(エリアC) 1号礫群	31			
第26図	第Ⅱ文化層エリアC出土石器	32			
第27図	第Ⅱ文化層エリアD遺物分布図	32			
第28図	第Ⅱ文化層エリアD出土石器	33			
第29図	第Ⅱ文化層 エリアE器種別分布図	34			
第30図	第Ⅱ文化層 エリアE石材別分布図	35			

第52図	ナイフ形石器(第53図72) 出土状況図	57	第80図	第IV文化層 エリアJ器種別分布図	86
第53図	第III文化層エリア外出土石器	57	第81図	第IV文化層 エリアJ石材別分布図	87
第54図	第IV文化層遺物分布図	58	第82図	第IV文化層 エリアJ出土石器(1)	89
第55図	第IV文化層エリアA遺物分布図	60	第83図	第IV文化層 エリアJ出土石器(2)	90
第56図	第IV文化層エリアA出土石器	61	第84図	第IV文化層 エリアJ出土石器(3)	91
第57図	第IV文化層エリアB出土石器	62	第85図	第IV文化層 エリアJ出土石器(4)	92
第58図	第IV文化層エリアB遺物分布図	63	第86図	第IV文化層 エリアJ出土石器(5)	93
第59図	第IV文化層エリアC出土石器	64	第87図	第IV文化層エリア外出土石器	94
第60図	第IV文化層エリアC遺物分布図	65	第88図	第V文化層遺物分布図	95
第61図	第IV文化層エリアD遺物分布図	66	第89図	第V文化層(エリアA) 1号礫群	97
第62図	第IV文化層エリアD出土石器	67	第90図	第V文化層 エリアA器種別分布図	98
第63図	第IV文化層エリアE遺物分布図	68	第91図	第V文化層 エリアA石材別分布図	99
第64図	第IV文化層エリアE出土石器	69	第92図	第V文化層 エリアA出土石器(1)	100
第65図	第IV文化層 エリアF器種別分布図	71	第93図	第V文化層 エリアA出土石器(2)	101
第66図	第IV文化層 エリアF石材別分布図	72	第94図	第V文化層 エリアA出土石器(3)	102
第67図	第IV文化層エリアF出土石器	73	第95図	第V文化層 エリアB器種別分布図	103
第68図	第IV文化層(エリアG) 1号礫群	74	第96図	第V文化層(エリアB) 2号礫群	103
第69図	第IV文化層 エリアG器種別分布図	75	第97図	第V文化層 エリアB石材別分布図	104
第70図	第IV文化層 エリアG石材別分布図	76	第98図	第V文化層 エリアB出土石器(1)	105
第71図	第IV文化層 エリアG出土石器(1)	77	第99図	第V文化層 エリアB出土石器(2)	106
第72図	第IV文化層 エリアG出土石器(2)	78	第100図	第V文化層 エリアB出土石器(3)	107
第73図	第IV文化層 エリアH器種別分布図	80	第101図	第V文化層エリアC出土石器	108
第74図	第IV文化層 エリアH石材別分布図	81			
第75図	第IV文化層エリアH出土石器	82			
第76図	第IV文化層 エリアI遺物分布図	83			
第77図	第IV文化層(エリアI) 2号礫群	83			
第78図	第IV文化層エリアI出土石器	84			
第79図	第IV文化層(エリアJ) 3・4号礫群	85			

第102図	第V文化層 エリアC遺物分布図 ……………	109	第123図	第V文化層 エリアH出土石器(1) ……………	133
第103図	第V文化層(エリアD) 3・4号線群 ……………	111	第124図	第V文化層 エリアH出土石器(2) ……………	134
第104図	第V文化層 エリアD器種別分布図 ……………	112	第125図	第V文化層エリアI出土石器 ……	135
第105図	第V文化層 エリアD石材別分布図 ……………	113	第126図	第V文化層 エリアJ遺物分布図 ……………	135
第106図	第V文化層 エリアD出土石器(1) ……………	114	第127図	第V文化層エリアJ出土石器 ……	136
第107図	第V文化層 エリアD出土石器(2) ……………	115	第128図	第V文化層 エリアK器種別分布図 ……………	138
第108図	第V文化層 エリアD出土石器(3) ……………	116	第129図	第V文化層 エリアK石材別分布図 ……………	139
第109図	第V文化層 エリアE遺物分布図 ……………	118	第130図	第V文化層 エリアK出土石器(1) ……………	140
第110図	第V文化層エリアE出土石器 ……	119	第131図	第V文化層 エリアK出土石器(2) ……………	141
第111図	第V文化層 エリアF器種別分布図 ……………	121	第132図	第V文化層 エリアK出土石器(3) ……………	142
第112図	第V文化層 エリアF石材別分布図 ……………	122	第133図	第V文化層 エリアK出土石器(4) ……………	143
第113図	第V文化層 エリアF出土石器(1) ……………	123	第134図	第V文化層 エリアK出土石器(5) ……………	144
第114図	第V文化層 エリアF出土石器(2) ……………	124	第135図	第V文化層 エリアK出土石器(6) ……………	145
第115図	第V文化層 エリアF出土石器(3) ……………	125	第136図	第V文化層 エリア外出土石器(1) ……………	147
第116図	第V文化層 エリアG器種別分布図 ……………	126	第137図	第V文化層 エリア外出土石器(2) ……………	148
第117図	第V文化層(エリアG) 5号線群 ……………	127	第138図	第V文化層 エリア外出土石器(3) ……………	149
第118図	第V文化層 エリアG石材別分布図 ……………	127	第139図	第VI文化層器種別分布図 ……	150
第119図	第V文化層 エリアG出土石器(1) ……………	129	第140図	第VI文化層石材別分布図 ……	151
第120図	第V文化層 エリアG出土石器(2) ……………	130	第141図	第VI文化層出土石器(1) ……	152
第121図	第V文化層 エリアH遺物分布図 ……………	131	第142図	第VI文化層出土石器(2) ……	153
第122図	第V文化層 エリアI遺物分布図 ……………	132	第143図	表採・一括等の石器 ……	154
			第144図	土坑位置図 ……………	155
			第145図	休場層の土坑 ……………	156
			第146図	縄文時代草創期器種別分布図 ……	158
			第147図	縄文時代草創期石材別分布図 ……	159
			第148図	縄文時代草創期の石器(1) ……	160
			第149図	縄文時代草創期の石器(2) ……	161

第150図	縄文時代草創期の石器(3) ……	162
第151図	文化層の概要(1) ……	164
第152図	文化層の概要(2) ……	165

第153図	第I黒色帯～ 休場層下部の石器群 ……	169
-------	------------------------	-----

挿表目次

第1表	東駿河湾環状道路関連遺跡の一覧 ……	1	第22表	第Ⅲ文化層 エリアB石材別器種組成 ……	55
第2表	発掘調査工程表 ……	6	第23表	第Ⅲ文化層 エリア外石材別器種組成 ……	57
第3表	基本層序 ……	12	第24表	第Ⅳ文化層石材別器種組成 ……	59
第4表	中部ロームの層序(TP149) ……	12	第25表	第Ⅳ文化層のエリアと遺物集中 ……	59
第5表	過去の調査出土資料の概要 (旧石器時代) ……	14	第26表	第Ⅳ文化層 エリアA石材別器種組成 ……	59
第6表	桜畑上遺跡周辺の遺跡一覧 ……	16	第27表	第Ⅳ文化層 エリアB石材別器種組成 ……	62
第7表	遺構・遺物の概要 (旧石器時代～縄文時代草創期) ……	18	第28表	第Ⅳ文化層 エリアC石材別器種組成 ……	64
第8表	第Ⅰ文化層石材別器種組成 ……	22	第29表	第Ⅳ文化層 エリアD石材別器種組成 ……	66
第9表	第Ⅱ文化層石材別器種組成 ……	26	第30表	第Ⅳ文化層 エリアE石材別器種組成 ……	70
第10表	第Ⅱ文化層のエリアと遺物集中 ……	26	第31表	第Ⅳ文化層 エリアF石材別器種組成 ……	70
第11表	第Ⅱ文化層 エリアA石材別器種組成 ……	26	第32表	第Ⅳ文化層 5号石器集中石材別器種組成 ……	70
第12表	第Ⅱ文化層 エリアB石材別器種組成 ……	28	第33表	第Ⅳ文化層 6号石器集中石材別器種組成 ……	70
第13表	第Ⅱ文化層 エリアC石材別器種組成 ……	31	第34表	第Ⅳ文化層 エリアG石材別器種組成 ……	74
第14表	第Ⅱ文化層 エリアD石材別器種組成 ……	32	第35表	第Ⅳ文化層 エリアH石材別器種組成 ……	79
第15表	第Ⅱ文化層 エリアE石材別器種組成 ……	34	第36表	第Ⅳ文化層 エリアI石材別器種組成 ……	83
第16表	第Ⅱ文化層 4号石器集中石材別器種組成 ……	35	第37表	第Ⅳ文化層 エリアJ石材別器種組成 ……	84
第17表	第Ⅱ文化層 5号石器集中石材別器種組成 ……	35	第38表	第Ⅳ文化層 7号石器集中石材別器種組成 ……	85
第18表	第Ⅱ文化層 エリア外石材別器種組成 ……	48			
第19表	第Ⅲ文化層石材別器種組成 ……	50			
第20表	第Ⅲ文化層のエリアと遺物集中 ……	50			
第21表	第Ⅲ文化層 エリアA石材別器種組成 ……	50			

第39表	第IV文化層 8号石器集中石材別器種組成 …… 85	第54表	第V文化層 7号石器集中石材別器種組成 …… 120
第40表	第IV文化層 9号石器集中石材別器種組成 …… 85	第55表	第V文化層 エリアG石材別器種組成 …… 128
第41表	第IV文化層 エリア外石材別器種組成 …… 94	第56表	第V文化層 エリアH石材別器種組成 …… 132
第42表	第V文化層石材別器種組成 …… 96	第57表	第V文化層 エリアI石材別器種組成 …… 132
第43表	第V文化層のエリアと遺物集中 …… 96	第58表	第V文化層 エリアJ石材別器種組成 …… 135
第44表	第V文化層 エリアA石材別器種組成 …… 97	第59表	第V文化層 エリアK石材別器種組成 …… 137
第45表	第V文化層 エリアB石材別器種組成 …… 102	第60表	第V文化層 11号石器集中石材別器種組成 …… 137
第46表	第V文化層 エリアC石材別器種組成 …… 108	第61表	第V文化層 12号石器集中石材別器種組成 …… 137
第47表	第V文化層 エリアD石材別器種組成 …… 110	第62表	第V文化層 エリア外石材別器種組成 …… 146
第48表	第V文化層 2号石器集中石材別器種組成 …… 110	第63表	第VI文化層石材別器種組成 …… 152
第49表	第V文化層 3号石器集中石材別器種組成 …… 110	第64表	休場層の土坑の土層 …… 156
第50表	第V文化層 エリアE石材別器種組成 …… 117	第65表	縄文時代草創期 石材別器種組成 …… 157
第51表	第V文化層 エリアF石材別器種組成 …… 120	第66表	第I黒色帯～休場層下部の 石器群の編年 …… 168
第52表	第V文化層 5号石器集中石材別器種組成 …… 120	第67表	石器接合資料の一覧 …… 172
第53表	第V文化層 6号石器集中石材別器種組成 …… 120	第68表	石器属性表 …… 173
		第69表	礫属性表 …… 189

写真図版目次

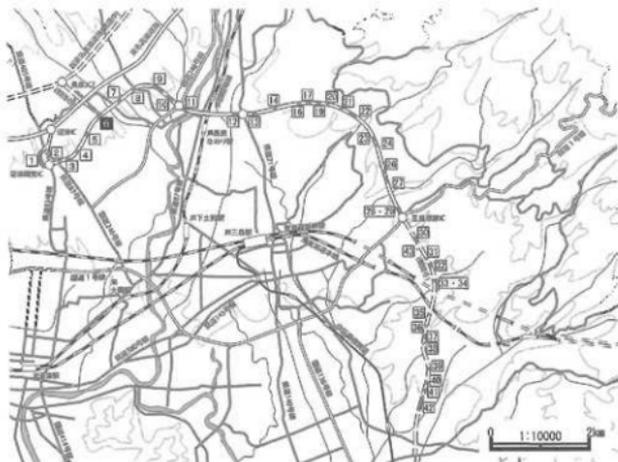
図版1	調査区全景	第II文化層エリアC 3号石器集中・1号礫群	
図版2	遺跡遠景(東側から) 桜畑上遺跡上空から愛鷹山を望む	図版4	第II文化層エリアE4・5号石器集中
図版3	1-1区・1-2区完掘状況 7-2区完掘状況 4-2区完掘状況 第II文化層エリアB 2号石器集中	第III文化層エリアA 第III文化層エリアB 2号石器集中 第IV文化層エリアB 1号石器集中 第IV文化層エリアG 1号礫群 第IV文化層エリアJ 8号石器集中	

- 第Ⅳ文化層エリアD (奥) と
第Ⅴ文化層エリアE (手前)
- 図版 5 第Ⅴ文化層エリアA 1号礫群
第Ⅴ文化層エリアD 3号礫群
第Ⅴ文化層エリアD 4号礫群
第Ⅴ文化層エリアG中央部
第Ⅴ文化層エリアH 9号石器集中
第Ⅴ文化層エリアK 12号石器集中
1号土坑
2号土坑
3号土坑
- 図版 6 TP I -3 土層断面
(休場層上位～中部ローム層)
TP1-10 土層断面
(表土～第Ⅲスコリア帯)
TP2-2 土層断面
(表土～第Ⅲスコリア帯)
TP71 土層断面
(漸移層～中部ローム層)
TP82 土層断面
(休場層上位～第Ⅲスコリア帯)
TP18 土層断面
(耕作土～第Ⅲ黒色帯)
- 図版 7 第Ⅱ・第Ⅲ文化層出土石器
- 図版 8 第Ⅳ文化層出土石器
第Ⅴ文化層出土石器
- 図版 9 第Ⅵ文化層出土石器
縄文時代草創期出土石器
- 図版 10 SCⅢ・第Ⅰ文化層出土石器 (1)
第Ⅰ文化層出土石器 (2)
第Ⅱ文化層エリアA出土石器
第Ⅱ文化層エリアB出土石器
- 図版 11 第Ⅱ文化層エリアC・
エリアD出土石器
第Ⅱ文化層エリアE出土石器 (1)
- 図版 12 第Ⅱ文化層エリアE出土石器 (2)
- 図版 13 第Ⅱ文化層エリアE出土石器 (3)
- 図版 14 第Ⅱ文化層エリアE出土石器 (4)
第Ⅱ文化層エリアF出土石器
第Ⅲ文化層エリアA出土石器 (1)
- 第Ⅲ文化層エリアA出土石器 (2)
- 図版 15 第Ⅲ文化層エリアB出土石器
第Ⅲ文化層エリアF出土石器
第Ⅳ文化層エリアA出土石器
第Ⅳ文化層エリアB出土石器
第Ⅳ文化層エリアC出土石器
第Ⅳ文化層エリアD出土石器
第Ⅳ文化層エリアE出土石器
第Ⅳ文化層エリアF出土石器
- 図版 16 第Ⅳ文化層エリアG出土石器
第Ⅳ文化層エリアH出土石器
第Ⅳ文化層エリアI出土石器
第Ⅳ文化層エリアJ出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリアJ出土石器 (2)
第Ⅳ文化層エリアJ出土石器 (3)
- 図版 17 第Ⅳ文化層エリア外出土石器
第Ⅳ文化層エリアA出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリアA出土石器 (2)
第Ⅳ文化層エリアB出土石器
第Ⅳ文化層エリアC出土石器
第Ⅳ文化層エリアD出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリアD出土石器 (2)
- 図版 18 第Ⅳ文化層エリアE出土石器
第Ⅳ文化層エリアE出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリアE出土石器 (2)
- 図版 19 第Ⅳ文化層エリアF出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリアF出土石器 (2)
第Ⅳ文化層エリアF出土石器 (3)
- 図版 20 第Ⅳ文化層エリアG出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリアG出土石器 (2)
第Ⅳ文化層エリアG出土石器 (3)
- 図版 21 第Ⅳ文化層エリアH出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリアH出土石器 (2)
第Ⅳ文化層エリアH出土石器 (3)
- 図版 22 第Ⅳ文化層エリアI出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリアI出土石器 (2)
第Ⅳ文化層エリアI出土石器 (3)
- 図版 23 第Ⅳ文化層エリアJ出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリアJ出土石器 (2)
第Ⅳ文化層エリアJ出土石器 (3)
- 図版 24 第Ⅳ文化層エリアK出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリアK出土石器 (2)
第Ⅳ文化層エリアK出土石器 (3)
- 図版 25 第Ⅳ文化層エリア外出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリア外出土石器 (2)
第Ⅳ文化層エリア外出土石器 (3)
- 図版 26 第Ⅳ文化層エリア外出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリア外出土石器 (2)
第Ⅳ文化層エリア外出土石器 (3)
- 図版 27 第Ⅳ文化層エリア外出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリア外出土石器 (2)
第Ⅳ文化層エリア外出土石器 (3)
- 図版 28 第Ⅳ文化層エリア外出土石器 (1)
第Ⅳ文化層エリア外出土石器 (2)
第Ⅳ文化層エリア外出土石器 (3)
- 図版 29 表採・一括等の石器
縄文時代草創期出土石器 (1)
- 図版 30 縄文時代草創期出土石器 (2)

第I章 調査に至る経緯

桜畑上遺跡は駿東郡長泉町上長窪に所在する、旧石器時代から縄文時代の埋蔵文化財包蔵地として周知の遺跡である。

今回の桜畑上遺跡の調査の起因となったのは国土交通省による東駿河湾環状道路の建設である。東駿河湾環状道路は沼津市岡宮から両南町平井を結ぶ総延長約15km、構造規格第1種第3級の自動車専用道路である。これは高規格幹線道路「伊豆縦貫自動車道」の一部を構成し、沼津・三島都市圏の環状道路として整備されているもので、慢性的な渋滞状態にある沼津・三島市街地を迂回し、東名沼津インター



第1図 東駿河湾環状道路関連の遺跡

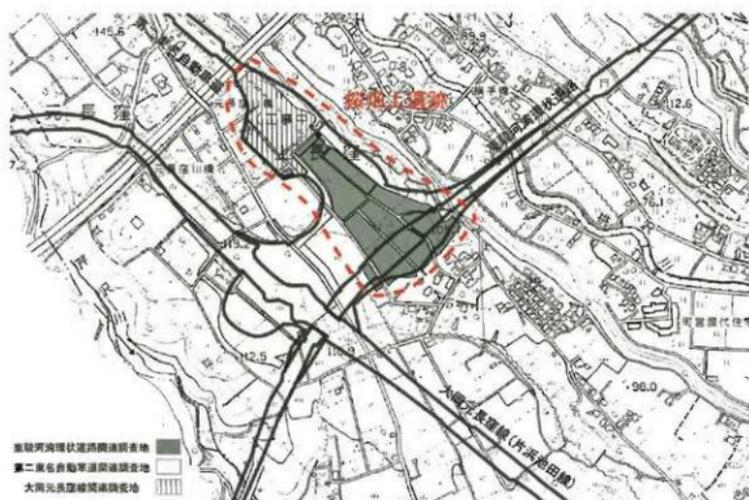
第1表 東駿河湾環状道路関連遺跡の一覧

№	遺跡	時期	報告	№	遺跡	時期	報告
1	上松原平	縄文早期	第148編『上松原平遺跡』(2004年)	23	加賀ノ岡	旧石器	第71編『加賀ノ岡遺跡』(1996年)
2	虎杖原古墳	古墳	第142編『寺林遺跡・虎杖原古墳』(2003年)	24	(遺跡名なし)		年報17(2001年)
3	寺林	旧石器	第142編『寺林遺跡・虎杖原古墳』(2003年)	25	(遺跡名なし)	遺構・遺物なし	年報17(2001年)
4	丸尾北	旧石器、縄文早期～後期	第210編『丸尾北遺跡』(2009年)	26	五百町		第73編『徳場遺跡B地点・五百町遺跡』(1998年)
5	拾遺B	旧石器、縄文	年報18C(2002年)	27	桃橋	旧石器、縄文早期	第50編『徳場遺跡A地点』(1994年)、 第50編『徳場遺跡B地点・五百町遺跡』(1998年)
6	阿保上	旧石器・縄文・古墳		27	桃橋	旧石器、縄文早期	第73編『徳場遺跡B地点・五百町遺跡』(1998年)
7	山岸A	縄文	年報14(1998年)	28	下原	旧石器	第64編『下原遺跡Ⅰ』(1985年)、 第72編『下原遺跡Ⅱ』(1986年)、 第106編『下原遺跡Ⅲ』(1998年)
8	矢戸	旧石器、縄文	年報14(1998年)	29	下原	旧石器	第64編『下原遺跡Ⅰ』(1985年)、 第72編『下原遺跡Ⅱ』(1986年)、 第106編『下原遺跡Ⅲ』(1998年)
9	池田田	縄文早期・前期	第122編『池田田遺跡』(2000年)	30	押出シ	縄文中期	第111・116編『押出シ遺跡』(1989・2000年)
10	鏡平	旧石器、縄文早期・前期	第137編『鏡平遺跡』(2002年)	31	生尻沢	旧石器、古墳	第114編『生尻沢遺跡』(1989年)
11	大平	弥生・中世	第129編『大平遺跡Ⅰ』(2001年)、 第198編『大平遺跡Ⅱ』(2009年)	32	中巻	旧石器	第98編『中巻遺跡』(1998年)
12	藤	遺構・遺物なし	年報17(2001年)	33	桂林A	旧石器	第101編『桂林遺跡』(1988年)
13	新田	遺構・遺物なし	年報17(2001年)	34	(遺跡名なし)		(遺跡名なし)
14	北ノ入	縄文中期	第118編『北ノ入遺跡』(1989年)	35	(遺跡名なし)	近世	年報14(1998年)
15	(遺跡名なし)			36	又ウケノ山	有実史跡群	年報14(1998年)
16	長平岡平	縄文	第97編『長平岡平遺跡』(1988年)	37	(遺跡名なし)	縄文、近世	年報14(1998年)
17	小島	縄文中期	第105編『小島遺跡』(1988年)	38	向山	弥生・古墳・中世	第145編『向山古墳群』(2004年)
18	熊倉B	縄文早期・中期	第100編『熊倉B遺跡』(1998年)	39	大井神原	近世～近代?	年報21(2005年)
19	上ノ池	旧石器、縄文早期	第89編『上ノ池遺跡』(1984年)	40	長命洞B	縄文、中・近世	年報21(2005年)
21	(遺跡名なし)			41	大地内山B	遺構・遺物なし	年報10(2000年)
22	八田原	旧石器、縄文早期	第37編『八田原遺跡』(1987年)	42	(遺跡名なし)	遺構・遺物なし	年報10(2000年)
				43	農山C	縄文	年報26(2010年)

チェンジから箱根西麓への交通の迅速化を企図して計画された。昭和62年に都市計画決定、平成7年度に着手されている。平成21年7月27日にはその一部にあたる沼津インターチェンジから三島塚原インターチェンジの区間が開通し、中間の一部インターチェンジを除いて供用が開始されている。

東駿河湾環状道路の計画路線は箱根西麓から愛鷹山麓の遺跡密集地帯を通過するため、平成2年に確認調査が実施され、その結果を受けて同年から財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所によって埋蔵文化財包蔵地の調査が開始された。これまでに23遺跡で本調査が実施され、22遺跡については報告書が刊行済みである(第1図、第1表)。

桜畑上遺跡は東駿河湾環状道路が新東名(第二東名)高速道路の長泉インターチェンジに接続する部分(長泉ジャンクション)に当たる。これに加えて長泉インターチェンジには主要地方道大岡元長窪線のアクセス道路がつながることになっており、このため同遺跡では国土交通省所管の東駿河湾環状道路、日本道路公園(現・中日本高速道路株式会社)の新東名高速道路、静岡県沼津土木事務所所管の主要地方道大岡元長窪線の新東名アクセス道路と、3つの事業用地が入り組むこととなった(第2図)。したがって発掘調査については、平成12年度から本調査が開始された新東名長泉インターチェンジ部分を皮切りに、3つの事業で分割して実施することとなった。各事業の調査地は、遺跡の北側が新東名高速道路分、中央から南側が東駿河湾環状道路分で、その東西に大岡元長窪線分の調査地が広がるという配置になっている(大岡元長窪線関連調査地は桜畑上遺跡の西に隣接する中峯遺跡、柏窪B遺跡にも及んでいる)。なお、大岡元長窪線関連部分、新東名関連部分に関してはすでに報告書が刊行されており(静岡県埋蔵文化財調査研究所2003・2005・2009)、本書に始まる東駿河湾環状道路関連調査地点の報告が一連の桜畑上遺跡の調査報告の最後を締めくくるものとなる。



第2図 桜畑上遺跡の調査区分

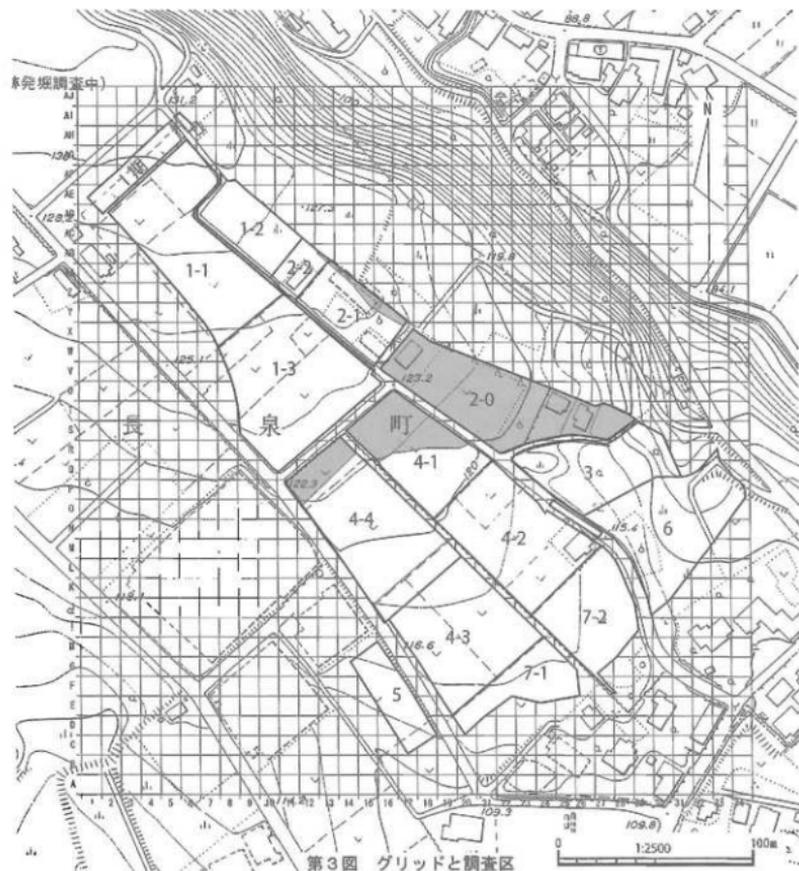
第Ⅱ章 調査の方法

第1節 調査の方法

1 調査区と座標・グリッド

東駿河湾環状道路関連用地の桜畑上遺跡の調査は2期に分けて実施された。第1期調査区は調査用地の北西部分の帯状の区画であり、第2期調査区がそれ以外の調査用地の大部分を占める区画である。

第2期調査区は広範囲に及ぶため、1～7区に分割されている。1・2・4・7区に関しては、確認調査の結果本調査が必要とされた部分についてさらに1-1～3、2-1～2（20は本調査対象外となった範囲）、4-1～4、7-1～2に細分している（第3図、グレーで示した範囲は本調査対象外）。



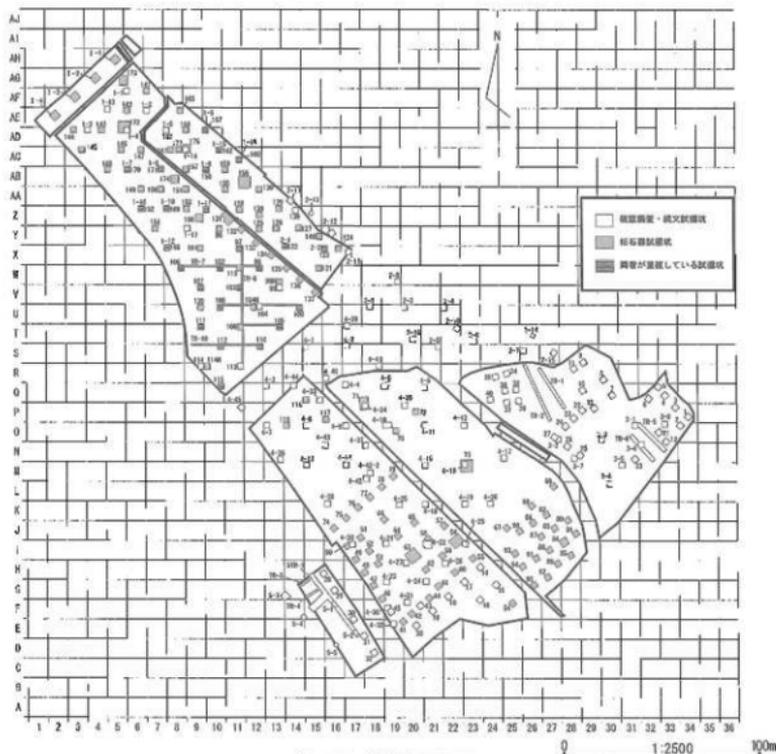
測量座標は平成15年改定以前の旧国土座標（平面直角座標第Ⅷ系）に基づいた。さらに、調査区内には一辺10mのグリッドを設定した。(A, 1)を原点としてX軸（南北）方向にアルファベット(A, B, C…Z, AA, AB…), Y軸（東西）方向に番号(1, 2, 3…)を付し、グリッドの南西角交点を以ってグリッドの呼称とした。

原点は第Ⅰ期調査では(A, 1) = (34200.000, -95200.000)、第Ⅱ期調査では(A, 1) = (34320.000, -94820.000)の点に置いた。なお、以下の記述では両調査地点について第Ⅱ期調査の原点に基づくグリッド呼称を統一して用いる。

2 測量・遺物取り上げ

遺物の取り上げ位置と地形は光波で測定し、上記座標内での位置(X, Y座標)と標高(Z座標)とを記録した。地形測量は遺構検出面を基本に、当該の層の上面を約1~2m間隔で座標値を測定した。各種座標の管理には株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を用いた。

遺物番号は第Ⅰ期調査、第Ⅱ期調査それぞれにおいて1から通し番号を付した。土器・石器で共通の番号を用い、礫、炭化物についてはそれぞれ別の通し番号とした（巻頭の凡例参照）。



第4図 試掘坑配置図

3 掘削

発掘調査は基本的に次のような手順で行われた。

①確認調査

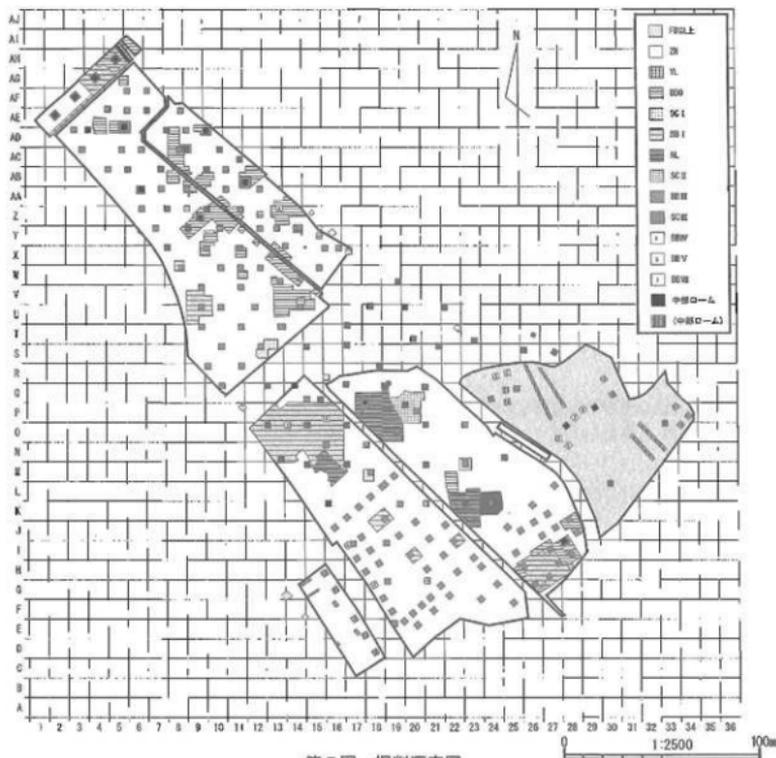
本調査に先立って遺物・遺構の分布状況を確認するため確認調査が実施された。試掘坑は3×3mの正方形の範囲を基本とし、約20m間隔で設定された。試掘坑は深さ約2m、第Ⅲ黒色帯から第Ⅲスコリア帯に到達するまでを目安として掘削された。

②本調査(縄文時代以降)

確認調査の結果に基づき本調査の範囲が設定された。本調査では漸移層までを全面掘削の対象として縄文時代の遺構確認が実施された。これに先立ち、確認調査が十分でなかった区域では追加で試掘坑が設けられている。また調査区によっては、確認調査の結果に基づき、古墳時代や中・近世以降の遺構確認面と縄文時代の遺構確認面との、合わせて2面で遺構確認が実施された。

③本調査(旧石器時代)

旧石器時代の遺物の主たる包含層である休場層以下の層に関しては全面掘削の対象とせず、試掘坑を設け、遺物の出土する範囲を抽出して本調査が行われた。確認調査の結果に加え、縄文時代の層の調査



第5図 掘削深度図

後に追加して休場層以下を対象とする試掘坑を設けて本調査の範囲が設定された。なお、3・5・6区に関しては上部ローム層の堆積が著しく良好でなかったり、削平を受けていたりしたため旧石器時代の本調査の対象から除外された。

試掘坑の配置は第4図、調査区の最終的な掘削深度は第5図の通りである。

第2節 調査の経過

1 発掘調査

前述の通り桜畑上遺跡の調査は2期に分けて実施されており、第I期調査が平成12(2000)年、第II期調査が平成13(2001)年、平成15(2003)～20(2008)年にわたって行われた。以下では年度ごとにその経過を述べる。

第2表 発掘調査工程表

年	12		13		15		16		17		18		19		20	
	7	12	6	12	8	12	8	12	8	12	8	12	8	12	2	
第I期	1-1区															
	1-2区															
	1-3区															
	2-1区															
	2-2区															
第II期	3区															
	4-1区															
	4-2区															
	4-2区(遺構)															
	4-3区															
	4-4区															
	5区															
	6区															
	7-1区															
	7-2区															

(1) 平成12年度 第I期調査(平成12年7月1日～9月8日)

第I期調査は新東名長泉インターチェンジへの接続部分が先行調査されたもので、調査区の北側約700mを対象に実施された。縄文時代早期の土器、竪穴状の遺構、陥穴状土坑、休場層から旧石器時代の石器集中が出土した。

(2) 平成13年度 第II期・確認調査その1(平成13年4月2日～7月6日)

1～5区(但し4-4区の一部及び1-3区を除く)の26,538㎡を対象に確認調査が実施された(実掘面積957㎡)。縄文時代の遺物が広範囲に分布することが確認された他、2区の北側で中世の溝状遺構、1・2・4区で旧石器時代の遺物が確認された。また、2-0区の全域、2-1区の一部、4-1・4-4区の北西側は本調査対象外となった。

(3) 平成15年度 第II期・本調査その1(平成15年8月1日～16年3月31日)

前年度確認調査した3区(2,800㎡)・4-3区(3,448㎡)・5区(991㎡)、及び隣接する6区(2,450㎡)・7-1区(1,863㎡)の本調査が実施された。

3・6区の調査 8月に3区の調査を開始し、10月からは隣接する6区も合わせて調査された。古墳時代の住居跡、縄文中期の遺構群が出土し、12月に縄文時代の遺構確認面で空中撮影、現地説明会が実施された。調査は3区が翌1月、6区は3月に完了した。

4-3区の調査 2月に表土除去が実施された。

5区の調査 11～12月にかけて実施され、縄文時代中期の遺物包含層、谷頭部に並ぶ土坑群が調査された。

7-1区の調査 2月から縄文時代包含層の調査に入り、住居跡等中期の遺構が確認された。

(4) 平成16年度 第Ⅱ期・本調査その2 (平成16年4月5日～17年3月31日)

4-1・2区 (調査対象面積4,809㎡)、4-3・7-1区 (4,413㎡)、7-2区 (1,365㎡)の本調査が実施された。当初は4-4区が調査予定範囲に含まれていたが、工事計画の変更等により4-1・2区、7-2区を優先して調査することに変更された。

4-3区の調査 4月から7月にかけて縄文時代包含層の調査が実施され、竪穴住居9基をはじめとする遺構が検出された。縄文時代の包含層を全面掘削した段階で空中撮影が行われた。これら遺構の実測作業と並行して6月から旧石器時代の試掘坑の掘削に入り、調査は8月までに完了した。

7-1区の調査 4-3区の調査と並行して旧石器時代の試掘坑の掘削に入り、調査は7月までに完了した。第Ⅰ黒色帯、休場層で複数の石器集中が調査された。

4-1・2区、7-2区の調査 4-3区、7-1区の調査と並行して表土除去が実施され、8月から縄文時代の調査が開始された。竪穴住居・竪穴状遺構10基(重複する遺構含む)等主として中期中葉の遺構群が調査され、翌年1月に空中撮影が完了した。4-1・2区では2・3月から確認調査時に遺物が出土した地点に調査区を設定して旧石器時代の調査が実施され、休場層から石器集中や礫群が出土した。

(5) 平成17年度 第Ⅱ期・本調査その3 (平成17年4月1日～18年3月31日)

確認調査その2 (平成17年7月20日～8月19日)

4-2区道路部分、4-4区、7-2区の本調査(4,755㎡)、及び未着手となっていた1-3区の確認調査(実掘面積315㎡)が実施された。

1-3区の確認調査 試掘坑を20箇所、トレンチを東西方向に4本、南北方向に1本設定して実施された。まず栗色土層上面で時期不明の溝状遺構2基の存在が確認された。続いて縄文時代の層では多数の地点から遺物や焼土跡等が出土したため途中で掘削が中止され、本調査の基礎資料としての記録簿作成の後、埋め戻しが行われた。

7-2区の調査 前年度より継続した縄文時代の調査が5月に完了した。続いて旧石器時代の試掘坑が掘削され、第Ⅰ黒色帯で遺物集中に当たったため調査区が拡張された。7月に調査が完了した。

4-4区の調査 工事計画の関係から5・6月に南東部が先行して調査され、縄文時代の層が全掘された後、旧石器時代の層が試掘坑6箇所を設定して調査された。残りの部分は10～翌3月に調査が行われ、縄文時代層の調査で中期中葉の住居跡3基等を検出した後12月に空中撮影が実施された。翌1月から旧石器時代の調査が開始され、確認調査での遺物出土地点に調査区を設定し、また追加して試掘坑を設けながら進められ、3月までに完了した。第Ⅰ黒色帯や休場層直下黒色帯で石器集中や礫群が出土した。

4-2区道路部分の調査 縄文時代の包含層・遺構の掘削が実施され、5月中に完了した。

(6) 平成18年度 第Ⅱ期・本調査その4 (平成18年6月1日～19年3月30日)

1-3区 (4,200㎡)、2-1・2区 (1,890㎡)の本調査が実施された。

1-3区の調査 第1面(栗色土層上面)で溝状遺構、土坑等、第2面(休場層上面)で縄文時代の土坑や焼土等が検出され、12月に空中撮影が完了した。その後旧石器時代の調査に入り、試掘坑(第Ⅲ黒色帯まで)を設けて遺物出土地点で掘削範囲を拡張する方法で調査され、休場層、第Ⅰスコリア帯で石器集中、礫群が出土した。

2-1・2区の調査 1-3区同様縄文時代とそれ以降との2面で遺構確認を実施することとした。第1面で溝状遺構、土坑等が検出され、第2面の掘削中で本年度の作業が終了した。

(7) 平成19年度 第Ⅱ期・本調査その5 (平成19年4月2日～20年3月31日)

2-1・2区 (1,890㎡)、1-1・2区 (5,100㎡)の本調査が実施された。

2-1・2区の調査 前年度より継続した縄文時代の調査は5月に完了し、空中撮影が実施された。その後旧

石器時代の調査に入り、試掘坑（第Ⅲ黒色帯まで）を設けて遺物出土地点で掘削範囲を拡張する方法で調査され、主に休場層から石器集中、礫群が出土した。

1・1・2区の調査 縄文時代以降の層では2面で遺構確認が実施された。7月から包含層掘削に入り、第1面で溝状遺構、土坑等、第2面で縄文時代の土坑や焼土等が検出され、翌年1月には空中撮影が実施された。続いて旧石器時代の調査が2区と同様試掘坑を設定する方法で実施され、やはり主に休場層から石器、礫が出土した。3月には埋め戻しと設備の撤収が行われ、これにより桜畑上遺跡の発掘調査の全工程が終了した。

2 資料整理

基礎整理作業の一部は現地調査と並行して実施されていたが、平成20年度より財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所東駿河湾整理事務所（駿東郡清水町）にて本格的な資料整理を実施している。

第3節 層序

1 土層の堆積状況（第6～8図）

調査地は北西から南東方向にゆるやかに下る尾根上で、第Ⅰ期調査区から第Ⅱ期1区、2区、4区、7区にかけての帯状の部分が尾根の背の部分にあたり、その両側が谷に向かって低くなる地形となっている。北側から東側は桃沢川の谷へ下る急斜面となっており、桃沢川の谷へと向かう支谷が3・6区に入り込んでいた。また西側から南側にも浅い谷が入っている。

尾根の背部分は4区の一部を除いて土層の残存状況が良好で、ローム層においても現地地形とほぼ同様、なだらかに傾斜した堆積を示していた。

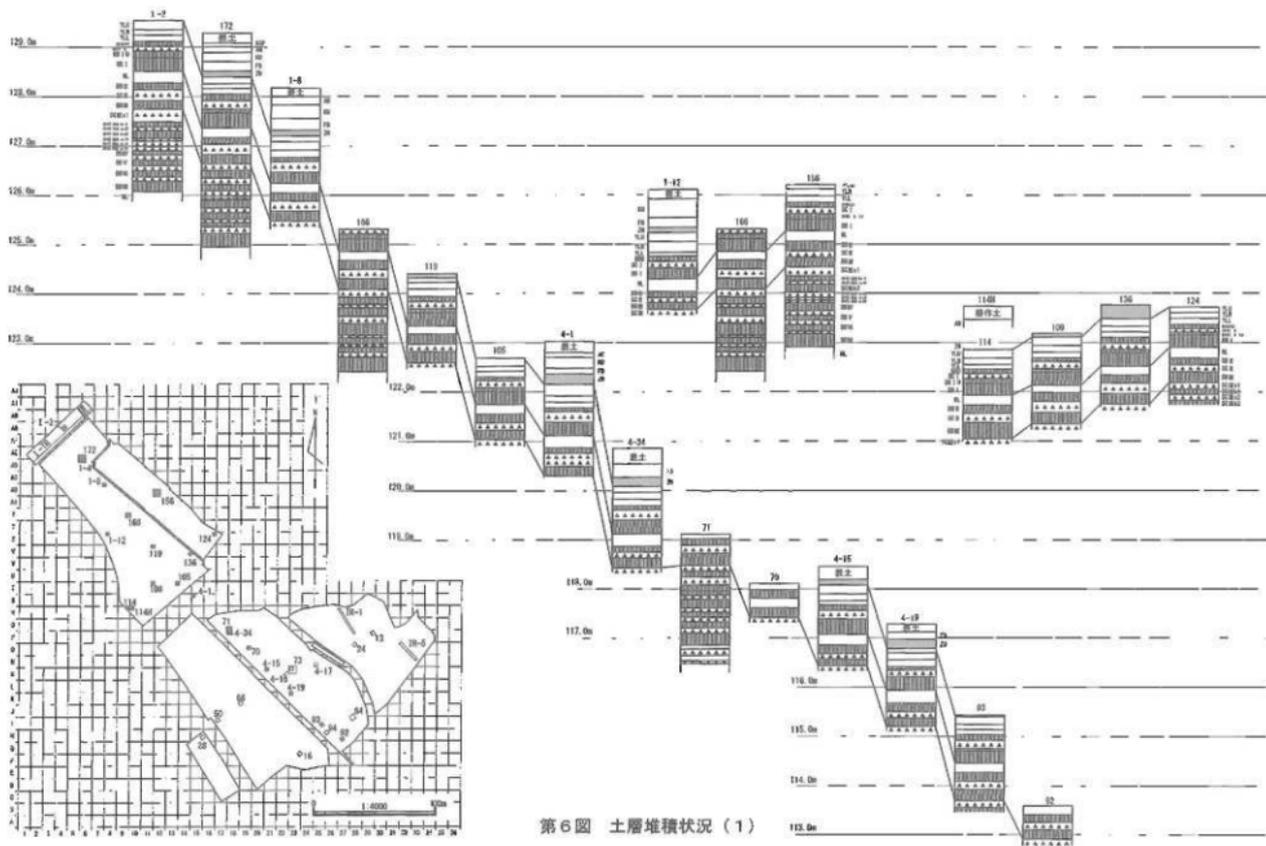
一方、3・6区の谷地形や5区の傾斜地付近では土層の堆積が良好でなく、変則的な層序を示していた。3・6区の谷は3区側と6区側との二股に分かれており、それぞれ上部受塵ローム層の大部分を大きく削っていた。6区の谷では谷の中央部では上部ローム下半部の層が残存しておらず、第Ⅰ黒色帯～休場層の直下に中部ロームが堆積しており、上部ローム下半部の層は谷の両端に残存するのみとなっている。この谷は休場層～富士黒土層が堆積したところに大きく埋没し、浅くなっている。3区の谷も同様で、上部ロームに由来するスコリア質土などが谷の端部に残存し、谷の中央部では上部ローム下半部の層が中部ロームまで削られた状態となっている。5区も上部ロームの堆積は良好でなく、部分的には富士黒土層や漸移層の下が中部ロームとなるような状況も確認された。また、谷を埋めるように上層は大規模な地形改変を受けている箇所もあり、5区からそれに隣接する4区の一部にかけては大きく攪乱を受けていた。

2 基本層序

本遺跡の調査は開始から終了まで中断の期間を挟んで7年に及んでいる。このため途中でローム層の分層基準等に変更が生じており、調査時期によって層位の呼称に若干の齟齬を生じている。

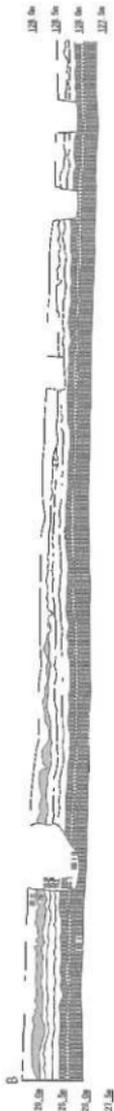
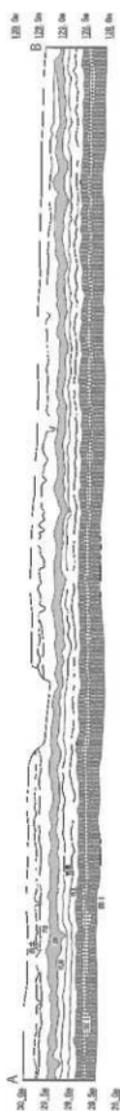
そこで、本報告中では以下に掲げる基本層序に統一し、層名や土層柱状図を提示する際にはこれに則ったものを使用することとする（第3表、第9図）。なお、上部ローム最下部の第Ⅳスコリア層については明瞭に確認されず、分層されていない。

中部ロームに関しては調査坑 TP149 において層序の確認が実施されている。スコリア層を挟む褐色のローム層が連続し、三島バミスが中部ローム最上部から約2.5m下位で確認された（第4表、第9図）。

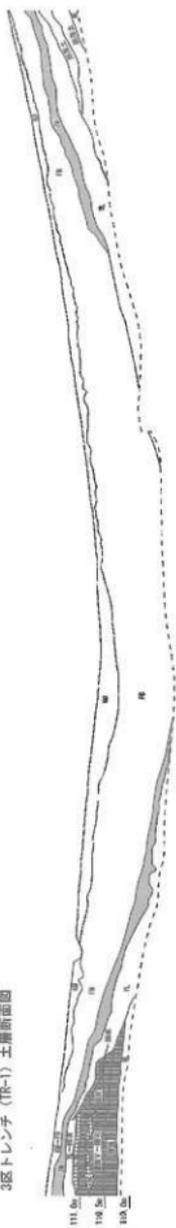


第6圖 土層堆積狀況 (1)

第1期別荘区トレンチ (I-R) 南東部土層断面図

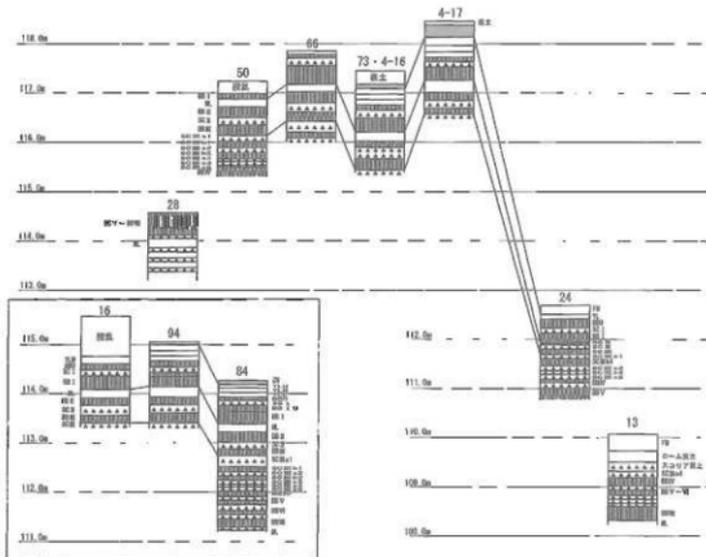
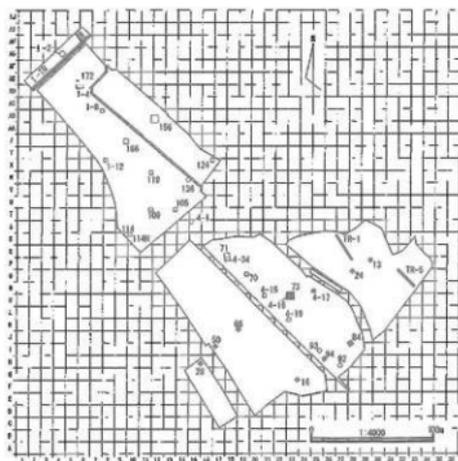
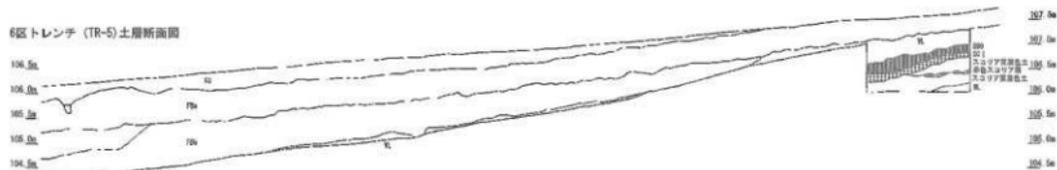


3区トレンチ (TR-1) 土層断面図



第7図 土層堆積状況 (2)

6区トレンチ (TR-5) 土層断面図



第8図 土層堆積状況 (3)

第3表 基本層序

番号	層序名	略号	色調	
1	表土・耕作土			
2	新期スコリア	NS		地表部分の土層は広い範囲で整地や耕作の影響を受けており、下の2・3層は第Ⅰ期調査区等ごく一部の地区に残るのみであった。
3	カワゴ平/バエ	KGP		
4	暗褐色土層	AN		
5	栗色土層	KU		
6	富士黒土層	FB		
7	漸砂層	ZN		
8	休増層上位	YLU	褐色土	7.5YR 4/3
9	休増層中位	YLM	褐色土	7.5YR 4/4
10	休増層下位	YLL	褐色土	7.5YR 4/4
11	休増層下下黒色帯	BB0	暗褐色土	7.5YR 3/3
12	第Ⅰスコリア層	SC I	褐色土	7.5YR 4/3
13	第Ⅰ黒色帯	BB I	黒褐色土	10YR 2/1
a		BB I U		この層でも上層はスコリアの量が多い傾向があり、特にこの部分が分割できた場合はBB I U (13a)とBB I (13b)とに分けている。 3~5mmの褐色スコリアを中量、2~3mmの黄色スコリアを少量含む。
b		BB I		1~3mmの褐色スコリアを少量含む。
14	ニセローム	NL	にぶい黄褐色土	10YR 4/3
15	第Ⅱ黒色帯	BB II	黒褐色土	10YR 2/2
16	第Ⅱスコリア層	SC II	黒褐色土	10YR 2/2
17	第Ⅲ黒色帯	BB III	黒色土	10YR 2/1
18	第Ⅲスコリア帯スコリア1	SC III s1	極暗褐色土	7.5YR 2/3
19	第Ⅲスコリア帯黒色帯1	SC III b1	極暗褐色土	7.5YR 2/3
20	第Ⅲスコリア帯スコリア2	SC III s2	暗赤褐色土	5YR 3/3
21	第Ⅲスコリア帯黒色帯2	SC III b2	極暗褐色土	7.5YR 2/3
22	第Ⅲスコリア帯スコリア3	SC III s3	黒褐色土	7.5YR 3/2
23	第Ⅲスコリア帯スコリア4	SC III s4	褐色土	7.5YR 4/3
24	第Ⅲスコリア帯スコリア5	SC III s5	暗赤褐色土	5YR 3/2
25	第Ⅳ黒色帯	BB IV	黒褐色土	7.5YR 3/2
26	スコリア帯	SC	黒褐色土	7.5YR 3/2
27	第Ⅴ黒色帯	BB V	黒褐色土	10YR 2/2
28	スコリア帯	SC	黒褐色土	10YR 2/2
29	第Ⅵ黒色帯	BB VI	黒褐色土	7.5YR 3/2
30	スコリア帯	SC	黒褐色土	7.5YR 3/2
31	第Ⅶ黒色帯	BB VII	黒褐色土	10YR 2/2
32	中部ローム層	ML		

第4表 中部ロームの層序 (TP149)

番号	色調		番号	色調	
32	黒褐色土	7.5YR 3/1	45	褐色土	7.5YR 4/4
33	褐色土	7.5YR 4/4	46	褐色土	7.5YR 4/4
34	褐色土	7.5YR 4/4	47	明褐色土	7.5YR 5/6
35	褐色土	10YR 4/4	48	明褐色土	7.5YR 5/6
36	褐色土	7.5YR 4/4	49	明褐色土	7.5YR 5/6
37	褐色土	7.5YR 4/3	50	褐色土	10YR 4/6
38	にぶい赤褐色土	5YR 4/4	51	褐色土	7.5YR 4/4
39	褐色土	7.5YR 4/4	52	褐色土	10YR 4/6
40	褐色土	7.5YR 4/3	53	褐色土	7.5YR 4/6
41	褐色土	7.5YR 4/3	54	褐色土	7.5YR 4/4
42	褐色土	10YR 4/6	55	褐色土	7.5YR 4/4
43	明褐色土	7.5YR 5/6	56	褐色土	7.5YR 4/4
44	褐色土	7.5YR 4/4	57	褐色土	7.5YR 4/4

第三章 遺跡の概要

第1節 桜畑上遺跡の概要

桜畑上遺跡は愛鷹山の南東側山麓、桃沢川と芹沢川とに挟まれた緩やかな尾根上の、桃沢川に面した一帯に立地している。遺跡の範囲は尾根の地形沿いに長く、北西側から南東側へ約4kmに及んでいる。

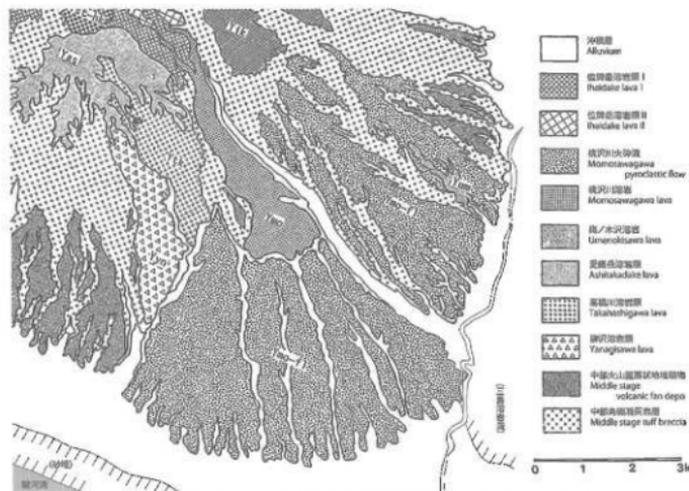
遺跡の存在は早くから知られており、特に縄文時代中期の集落跡として著名であったが、現在までに旧石器時代、縄文時代、古墳時代、古代・中世以降の各時期の遺物・遺構の存在が明らかにされている。

本章ではこのうち、本書で取り扱う旧石器時代から縄文時代草創期にかけての遺跡の概要を述べることにする。桜畑上遺跡で旧石器時代の調査が本格的に実施されたのは近年になってからで、平成11年1月に開始された新東名（第二東名）高速道路建設に伴う発掘調査が最初である。続いてこれに接続する大岡元長窪線、及び本書で扱う東駿河湾環状道路の建設に伴う調査が実施され、現在ではこれらの道路建設により遺跡の大部分が消滅している。

旧石器時代の調査については、多層位にわたり遺物が出土しており（第5表）、AT下位については調査範囲が限定的なこともあり出土遺物は少ないが、第I黒色帯から休場層にかけては資料が充実している。縄文時代草創期に関しては、桜畑上遺跡では現在までまとまった遺構・遺物は出土していない。新東名関連調査区で草創期前半に属すると考えられる尖頭器・有基尖頭器19点、後半に属する多縄文土器2個体の出土が報告されているのみである。

第5表 過去の調査出土資料の概要（旧石器時代）

層位	大岡元長窪線関連調査区	新東名関連調査区
YL	石器集中3、礫群2、土坑・小穴3	石器集中10、礫群8
SC I		石器集中2
BB I	石器集中2、礫群3	石器集中7
NL	ナイフ形石器	石器集中1
BB II	剥片	
SC II		礫群1
BB III	剥片	
SC III		石器集中1
BBIV・V		台形礫石器等



第10図 愛鷹山南東麓の地質構造（由井・藤井1987より改変）

第2節 地理的環境

桜畑上遺跡が位置する愛鷹火山は開析の進んだ成層火山で、頂部から放射状に伸びる谷によって深く侵食されている。山体の南側では標高200～300m付近で急峻な地形から緩斜面へと地形が変化するが、後者の緩傾斜地は山体の崩落物などから成る火山麓扇状地堆積物により形成された地形である。愛鷹山南東麓では桃沢川火砕流堆積物が広く堆積して緩斜面を形成した(第10図)後、その上に富士・箱根等を給源とする火山灰が厚く堆積した。愛鷹山南東麓でも桃沢川、高橋川の間の扇状の地域は特にゆるやかな地形で、その東西と比べて開析が進行せず浅い谷が入るのみとなっており、幅の広い平坦部をもつ尾根が連続している。こうした地形の特性は遺跡の立地にも影響を与えたと考えられ、特に第Ⅲ黒色帯の陥穴状土坑の立地・分布との関係が注目されている(今村2006)。桜畑上遺跡が位置するのはこの桃沢川南西側の緩斜面にあたる。調査時点での地形は農地等の造成に伴う地形の改変を受けかなり平坦な地形であった。旧地形はこれよりは起伏があり、調査区の3・6区、及び5区には谷が入るなどしていたものの、概ねなだらかな地形が展開していたようである。

第3節 歴史的環境

先史時代の遺跡は前節で述べた標高200～300m以下の緩斜面上に多数分布している。後期旧石器時代から縄文時代草創期の資料が出土した遺跡の分布を第11図に、遺跡ごとの出土資料の時期(層位)を第6表に示す。

ニセローム以下の時期については今回の調査ではごく限られた数の資料しか出土していないが、愛鷹山麓では後期旧石器時代初頭に相当すると考えられる第Ⅵ黒色帯から連続と遺跡が残されている。近隣でも富士石遺跡、清水柳北遺跡、中見代第Ⅰ遺跡、三明寺遺跡などニセローム以下で重層的に資料が出土した遺跡が分布する。また、愛鷹・箱根山麓では第Ⅲ黒色帯から陥穴状土坑群が多数発見されているが、桃沢川と高橋川との間では現在のところこの時期の陥穴状土坑の発見例がないことが知られている。

第Ⅰ黒色帯以上の層では遺跡が増加し、休場層では遺跡分布が後期旧石器時代で最も拡大する。本遺跡が立地する桃沢川以西の地区では幅の広い尾根上を広範囲にわたって利用した遺跡も多い。

この時期は愛鷹・箱根編年(静岡県考古学会1995・1996)で第3期(南関東のⅣ層下部・Ⅴ層段階に並行)、第4期(砂川期以降に並行)、第5期(細石刃石器群)の大別3期に分けて捉えられ、おおよそ第Ⅰ黒色帯～休場層直下黒色帯が第3期、休場層が第4期に相当するものと捉えられてきた。しかし寺林遺跡で休場層下位から第3期に相当する石器群が出土するなど、最近10年程度の調査事例の蓄積により休場層下位を出土層準として第4期に先行する時期の石器群の出土例が増加しており、石器群の変遷がより精緻に捉えられるようになってきている。

縄文時代草創期の遺跡の多くは尖頭器類が単独或いは散在的に出土した遺跡である。土器は草創期前半の隆線文土器以降の資料が見つかっており、中見代第Ⅰ遺跡、拓南東遺跡(隆線文土器)、清水柳北遺跡(押圧縄文土器)、葛原沢第Ⅳ遺跡(隆線文、押圧縄文、表裏縄文土器)、丸尾北遺跡(表裏縄文土器)などの遺跡がある。葛原沢第Ⅳ遺跡では押圧縄文土器期の住居跡も出土している。

第6表 桜畑上遺跡周辺の遺跡一覧

市町村	県番号	遺跡名	旧石器	B B VII	B B VI	B B V	B B IV	S C III b 2	S C III b 1	B B III	B B II	N L	B A I	S C I	B B I	Y L	草創期	備考
沼津	117	中原田門丸														○		市教委調査1978
沼津	119	長塚	○															
沼津	137	葛原沢Ⅱ	○															
沼津	139	葛原沢	○															
沼津	142	土手上			○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	市教委調査1988,1995
沼津	143	葛原沢ⅢⅣ						○	○	○	○		○		○	○	○	市教委調査
沼津	144	西洞					○	○	○	○	○		○		○	○	○	市教委調査1999
沼津	145	中見代Ⅲ						○	○	○	○		○		○	○	○	市教委調査1988
沼津	146	中見代Ⅱ		○									○		○	○	○	市教委調査1988
沼津	147	広合(尾上広合)												○				市教委調査1987,1990,1991
沼津	148	ニツ洞		○	○	○	○						○	○	○	○	○	市教委調査1991,1993
沼津	149	広合南															○	市教委調査1990
沼津	150	中見代Ⅰ			○	○	○			○	○		○		○	○	○	市教委調査1989
沼津	158	木戸上	○							○	○							愛蔵碑文研、市教委調査1985
沼津	159	上松沢平								○	○						○	県埋文研調査
沼津	161	東熊堂荒狗	○															
沼津	171	尾上イラウネ北												○			○	
沼津	172	清水榎北			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市教委調査1988,1990
沼津	177	清水榎	○														○	市教委調査1988
沼津	178	寺林						○									○	市教委調査1994,県埋文研調査
沼津	179	寺林南										○	○	○				市教委調査1985
沼津	183	柏葉尾													○		○	市教委調査1996
沼津	188	子ノ神		○										○	○			市教委調査1982
沼津	189	大谷津							○								○	市教委調査1982,1990,1994
沼津	194	三明寺				○	○	○	○	○	○						○	市誌下、市教委調査
沼津	A	拓南東													○		○	市教委調査1998
沼津	D	丸尾北															○	県埋文研調査
長泉	6	向田A						○	○	○	○						○	県埋文研調査
長泉・沼津	7	尾上イラウネ															○	沼津市教委調査
長泉	9	中尾															○	町教委調査1986
長泉	10	イラウネ								○	○						○	町教委調査1986
長泉	11	野台											○	○			○	町教委調査1986
長泉	13	中釜																調査団1971
長泉	14	柏窪B(柏窪西)	○															調査団1971
長泉	17	富士石		○	○	○	○			○	○		○					町教委調査1981、県埋文研調査
長泉	18	東野	○															県埋文研調査
長泉	19	八分平B															○	町教委調査1981
長泉	23	通平B		○														郷土誌、町史上
長泉	30	上山地A															○	町教委調査
長泉	37	池田B											○			○	○	県埋文研調査2000
長泉	38	鉄平								○	○							郷土誌、県埋文研調査2002
長泉	40	東野Ⅱ續下	○															町教委調査1985
長泉	41	中見代															○	町教委調査1985
長泉	43	茶不知															○	県埋文研調査1985
長泉	45	上野A															○	郷土誌、町教委調査1979
長泉	47	上野B															○	町史上
長泉	49	大久瀬	○															町史上
長泉	54	桜畑上				○	○	○	○				○	○	○	○	○	調査団1971、県埋文研調査
長泉	59	西福寺									○	○	○					町教委調査1975、1976
長泉	60	平庭	○															町教委調査1976
長泉	61	陣場上B												○				町教委調査1976
長泉	62	陣場上A																町教委調査1976
長泉	65	尾尻	○															沼津商業高校調査
長泉	F	細尾		○	○					○	○	○		○				県埋文研調査
長泉	I	西山																○
福野	60	平林Ⅰ(富沢平林)															○	市史Ⅰ



第IV章 資料の概要

第1節 資料の概要

旧石器時代に帰属すると考えられる資料は石器 1797 点、礫 324 点が出土した。これらは主に第Ⅲスコリア帯から漸移層にかけて出土しており、出土層位に基づき以下の7期（第Ⅲスコリア帯と第Ⅰ～Ⅵ文化層）に区分した。また、休場層中から土坑が3基見つかったが、帰属文化層の特定が困難であるため石器・礫とは別個に提示する。縄文時代草創期に帰属すると考えられる資料は石器 32 点が出土した（第7表）。

第7表 遺構・遺物の概要(旧石器時代～縄文時代草創期)

時代・文化層	層位	石器	礫	石器集中	礫群	土坑	炭化物集中
旧石器時代	SCⅢ	第Ⅲスコリア帯黒色帯I	1				
	第Ⅰ文化層	第Ⅱ黒色帯～ニセローム	7				
	第Ⅱ文化層	第Ⅰ黒色帯	590	36	5	1	1
	第Ⅲ文化層	第Ⅰスコリア層～休場層直下黒色帯	63	32	2	1	
	第Ⅳ文化層	休場層下位～中位	401	176	9	4	
	第Ⅴ文化層	休場層中位～上位	639	80	12	5	
	第Ⅵ文化層	漸移層	87				
	休場層	休場層下位					3
縄文時代草創期	その他	9					
	漸移層～暗褐色土層	32					

第2節 資料の分類

1 資料の範囲

旧石器時代の資料については次のようにして抽出を行った。

- ①休場層以下のローム層から出土した石器 1390 点、礫 324 点（攪乱や混在の可能性の高い資料を除いた数値）は明らかに旧石器時代の包含層に含まれるものとして扱った。
- ②漸移層の資料では、まず細石刃石器群関連資料など、形態から旧石器時代の資料と判断されるものを旧石器時代に含めた。第Ⅰ期調査区、第Ⅱ期1・2・4・7区のうち漸移層出土の縄文時代の資料が少ない区域では休場層の遺物分布と対比・検討して旧石器時代の資料に含めたものがある。また、4・7区では上層の縄文時代の遺構と比較して下位に来る資料を抽出した。なお、漸移層からは礫5点も出土しているが、他の資料との関連が不明瞭であるため旧石器時代の資料からは除外した。
- ③富士黒土層以上の層でも、休場層で石器が密集して出土している範囲では母岩や接合関係の検討を行った。また、形態から旧石器時代の資料と判断されるものを旧石器時代に含めた。

縄文時代草創期の資料については、形態から該当する石器の抽出を行った。関連する遺構や土器は確認されていない。

2 遺物分布と石器集中・礫群

遺跡は一統きの尾根上の緩斜面であるが、調査範囲の制約等もあり遺物の分布範囲はモザイク状に分散された状態となっている。そこで、遺物の分布密度が比較的高い範囲で区切って分析単位を設定した。

これを「エリア」と呼称し、各文化層内でアルファベット記号を付けて区別している。

エリア内でさらに遺物の密集した範囲として石器集中と礫群とを設定した。

石器集中は次のように設定した。水平分布上での石器間の距離が2m以内のもの同士を一纏まりの組としてとらえたとき、4点以上になった組を石器集中とする。但し、その石器集中を中心として同母岩と見られる石器が散在する場合は2m以上離れていても石器集中に含めたものがある。また、石器間距離が2m以内でも分布密度の高い範囲が複数に分けられる場合は別個の石器集中として分離したものがあ

る。礫については、遺物間の距離が2m以内のもの同士を一纏まりの組としてとらえたとき、4点以上になった組を礫群とした。

3 石器の分類

出土石器は以下の基準に基づき分類した。

尖頭器 尖頭部を含むほぼ全周を二次加工で整形した尖頭形の石器。

有茎尖頭器 尖頭器のうち、基部に着柄のためと考えられる作り出し（茎部）をもつもの。

角錐状石器 尖頭器のうち、特に鋸歯調整加工で整形されたもの。

ナイフ形石器 尖頭形石器で、素材縁をを残した尖頭部と二次加工により整形された基部をもつ石器。

尖頭部は素材形状のままの場合と片側縁の二次加工による場合とがあり、後者の場合尖頭部の加工と基部加工とを連続させた背部加工となっているものが多い。

切出形石器 素材縁を刃部に設定し、両側縁を二次加工により整形した石器で、ナイフ形石器よりも

先端角が鋭く斜刃～平刃となる石器。側縁を素材打面や折れ面とし二次加工を省略する場合もある。

掻器 二次加工で弧状の刃部を作り出した石器。刃部は幅に比して厚く、急斜度の二次加工で整形されている。

削器 二次加工により直線状、或いは内湾する刃部を作り出した石器。

楔形石器 両極打法が行われた痕跡のある石器。

礫器 礫の端部を打ち欠いて刃部を作出した石器。

敲石 自然礫をそのまま敲打に利用した石器。敲打痕の有無で判別する。

二次加工剥片 二次加工のある石器で、加工痕が部分的なため上記の器種に当てはまらないもの。或いは、二次加工のある石器の破片で小片のため分類不能のもの。

微細剥離痕剥片 縁部での刃縁状の剥離痕など、二次加工によるものか判別の困難な微細な剥離痕のみが見られる石器。剥離痕の長さが約1mm以内であることを目安とした。

剥片・碎片 剥片類は現存長により剥片と碎片とに区分した。現存長で長さ・幅・厚さとも1cm未満のものを碎片とし、それ以外を剥片とした。

削片 有樋（面取り）尖頭器のファシット作出時に剥離された剥片。なお、彫器削片は出土していない。

細石刃 縦長の剥片で、両側縁及び背面の縁がほぼ平行であり、基本的には幅が1.0cm程度以下のもの。

石核 細石刃核以外の石核を一括した。

細石刃核 細石刃を剥離した石核。

原石 石器石材として搬入されたと考えられる礫をその他から区別して原石とした。デイサイト、輝石安山岩など礫群礫に一般的な石材は基本的に礫とし、剥離痕等がある場合のみ石器として扱ったため、原石として分類されたものはない。

4 礫の分類

前記の通り、自然石の状態のもので、剥離痕や使用痕（敲打痕）がないもののうち、石器石材の可能性が高いものを除外したものを礫として分類した。

さらに表面の特徴から「赤化」（礫表面が赤く変色した状態）、「黒色付着物」（タール状の付着物）を被熱の痕跡として記録した。

5 遺物の計測方法

石器の計測に際しては、長さ、幅、厚さの向きを実測図の置き方に準じて設定した。まず器種ごとに縦軸を次のように設定した。

尖頭器、有茎尖頭器、角錐状石器、ナイフ形石器：尖頭部を上とした向き。

切出形石器：基部個側縁が左右対称となる向き。

搔器、礫器：主たる刃部（二次加工部位）を下とした向き。

削器、二次加工剥片、微細剥離痕剥片、剥片、細石刃：打面を上とし、剥離方向を縦軸とした向き。

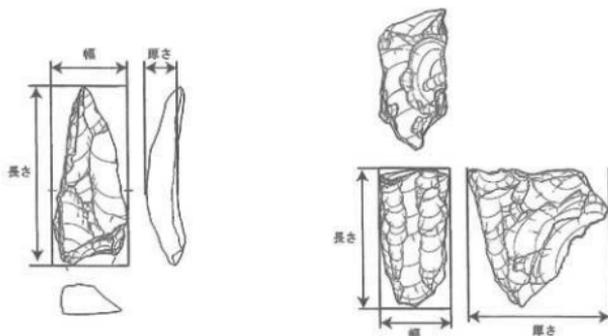
楔形石器：主たる両極剥離の打撃部位を上下に置いた向き。

敲石：主たる敲打痕部分を下とした向き。

石核・細石刃核：主要な最終剥離面を正面に置き、それに対する打面を上とした向き。

この縦軸に平行で、各辺が石器の輪郭に接する長方形を想定し、その長方形の縦方向の辺を長さ、横方向の辺を幅とした。厚さは石器の反り等を計上せず長さ・幅に直交する方向の最大長を測定した。

礫の計測については、長軸を長さとし、これに直交する向きを幅・厚さとした（但し、(幅)≧(厚さ)で両者は直交する向きとする）。

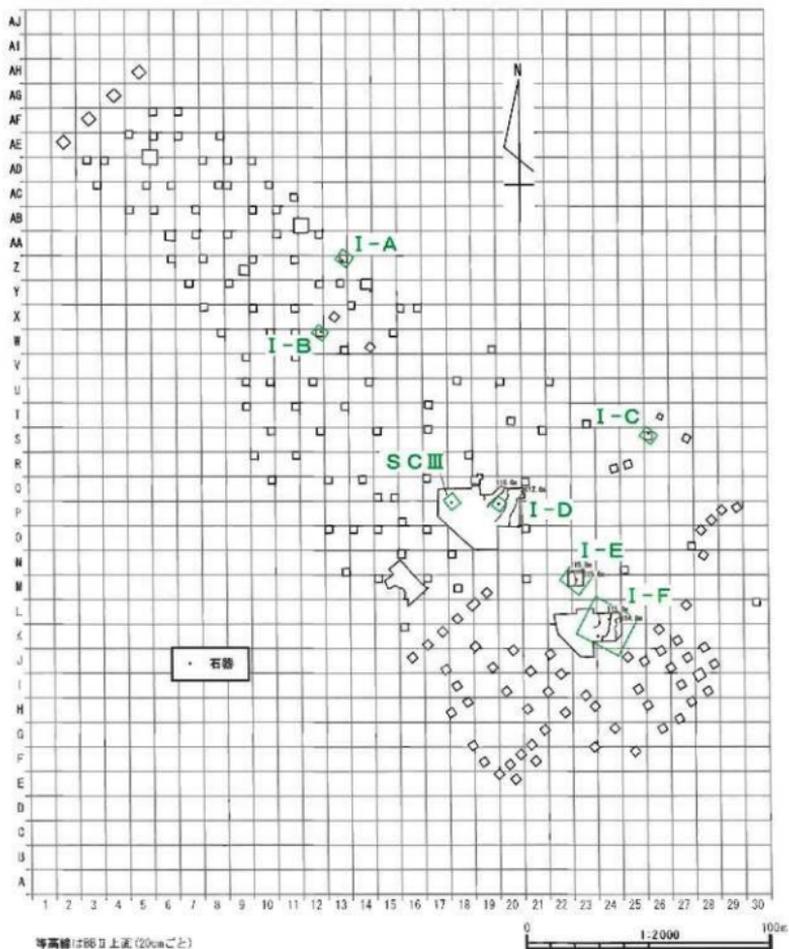


第12図 石器の計測位置

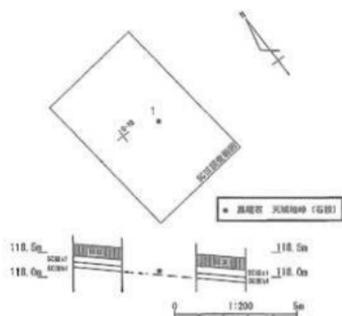
第V章 旧石器時代の遺構と遺物

第1節 第Ⅲスコリア帯出土石器

P-18グリッドで第Ⅲスコリア帯黒色帯1より石核1点(第13～15図1)が出土した。同層準からの出土石器はこの1点のみであるため文化層という呼称は適用しない。



第13図 SCⅢ・第Ⅰ文化層遺物分布図



第14図 第Ⅲスコリア帯石材別分布図



第15図 第Ⅲスコリア帯出土石器

第2節 第Ⅰ文化層

1 概要

第Ⅰ文化層は第Ⅱ黒色帯からニセロームにかけて出土した石器7点から成る（第13図、第8表）。広範囲から散発的に出土しており、特に密集した分布は認められない。石器が出土した地点（第13図中のⅠ-A～F）について出土状況を図示する（第16図）。

第8表 第Ⅰ文化層石材別器種組成

	黒曜石		ホルンフェルス		建築頁岩	合計
	和田英吾ライト	箱根畑宿	天城柏峠			
ナイフ形石器			1			1
微細刺遺物						1
剥片		1	1	1	1	4
石核				1		1
合計	1	1	2	2	1	7

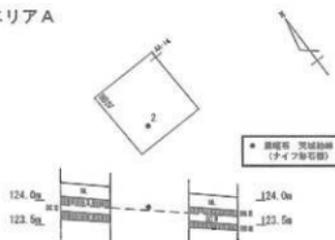
2 出土石器（第17図）

2は黒曜石（天城柏峠群）製のナイフ形石器である。一側縁加工で基部は破損している。背部加工は厚く、部分的に後上調整も認められる。

3～5は剥片である。いずれも石刃状の形態を呈し、5は末端が階段状となっている。

6はホルンフェルス製の石核である。やや扁平な亜円稜の周縁に打面を設け、幅広の剥片が剥離されている。

エリアA



エリアB



エリアC



エリアD



エリアE

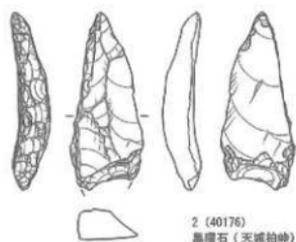


エリアF

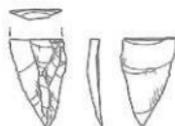


第16図 第I文化層エリア別分布図

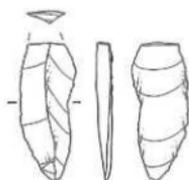
0 1:200 5m



2 (40176)
黒曜石 (天城拾得)



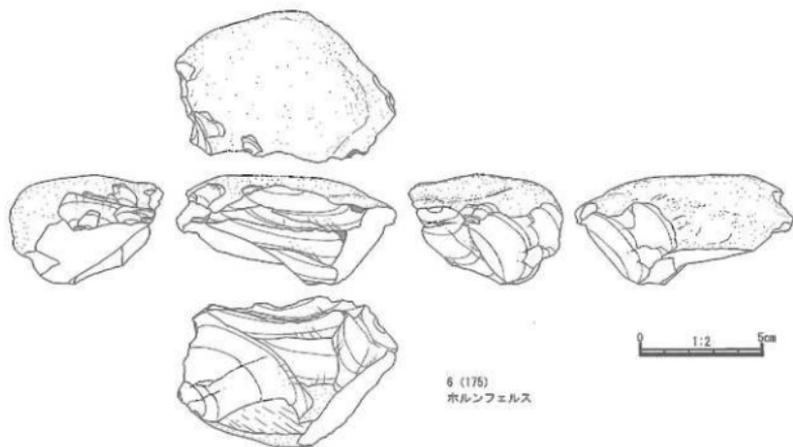
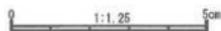
3 (32517)
黒曜石 (天城拾得)



4 (39256)
ホルンフェルス



5 (309)
珪質頁岩



6 (175)
ホルンフェルス

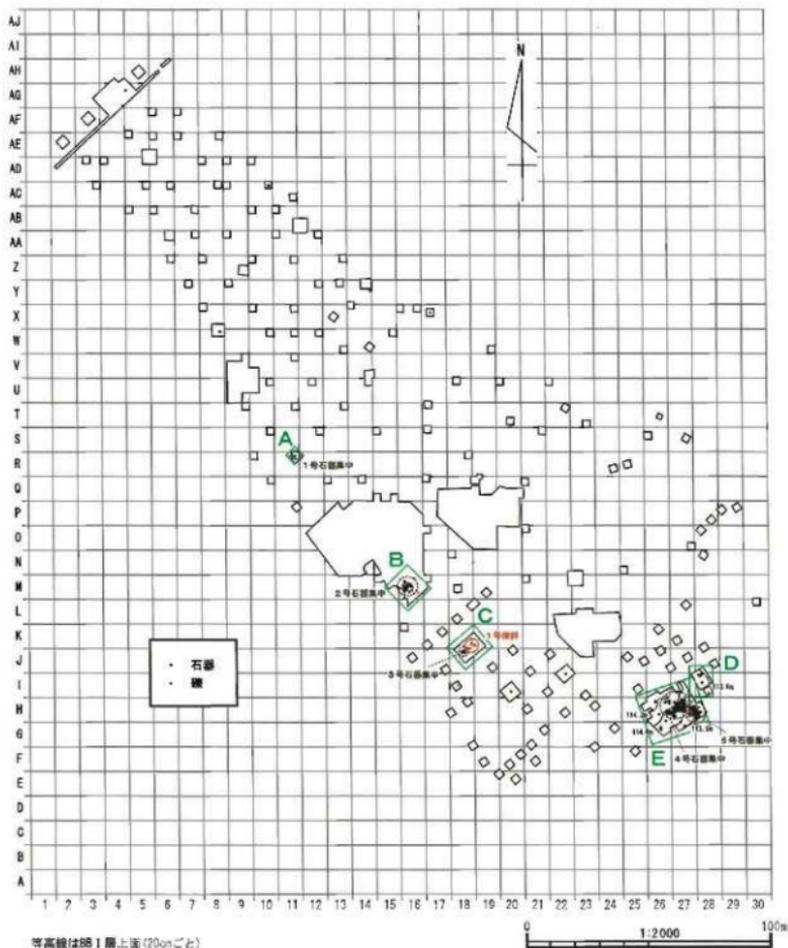


第17図 第I文化層出土石器

第3節 第Ⅱ文化層

1 概要

主として第Ⅰ黒色帯から出土した石器590点、礫36点から成る（第18図、第9表）。遺物分布は調査区の南側に偏っており、エリアA、B、C、D・Eの4箇所までまとまった分布が認められる。石器集中5箇所、礫群1箇所を認定しており、エリアごとの資料と遺物集中の構成は第10表の通りである。



第18図 第Ⅱ文化層遺物分布図

第9表 第Ⅱ文化層石材別器種組成

	黒曜石													合計			
	諏訪星ヶ台	和田原山	和田土産橋北	和田土産橋南	和田土産橋西	和田土産橋ライト	伊丹冷山	箱根畑宿	天城柏峠	推定不可	業分析	ホルンフェルス	珪質頁岩		碧玉(碧玉石)	細粒砂岩	石英肉砂岩
ナイフ形石器	1							3	1			2					8
切出形石器	1																1
掻器	7							1				1					9
削器	1							1									2
敲石															1	1	2
二次加工剥片	1												2				3
微細剥離産剥片	3							4									8
剥片	60	6	4	1	18	1	5	114	1	17	18	19	20	1			305
砕片	11	1	1		3		2	10		2	188		15				245
石核	1				2			1		1							6
原石																	1
合計	106	7	5	1	24	1	7	134	5	20	216	23	38	1	1	1	590

第10表 第Ⅱ文化層のエリアと遺物集中

エリア	石器集中	群群	ナイフ形石器	切出形石器	掻器	削器	敲石	二次加工剥片	微細剥離産剥片	剥片	砕片	石核	原石	石器合計	種
A 1号										2	1	1		4	0
B 2号			2	1	1	1		1		38	26	2		72	3
C 3号	1号									4	15			19	18
D							1			3			1	5	2
E 4号-6号			4		7	1	1	2	8	255	203	3		484	10
外			2		1					3				6	3
合計	5箇所	1基	8	1	9	2	2	3	8	305	245	6	1	590	36

2 エリアA

(1) 遺物の分布 (第19図)

R-11 グリッドの遺物群を一括する。石器4点が分布するのみだが狭い範囲でまとまっており、これを1号石器集中とした。

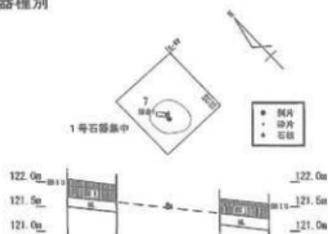
(2) 出土石器 (第20図)

7 (接合資料1) は黒曜石 (天城柏峠群) の接合資料である。板状礫の破片が節理面で分割されており、このうち一方 (7a) が石核として利用されている。この石核は原礫の角を利用して縦長剥片を剥離したものである。

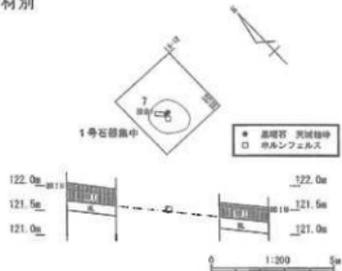
第11表 第Ⅱ文化層エリアA石材別器種組成

	黒曜石	ホルンフェルス	合計
剥片	1	1	2
砕片	1		1
石核	1		1
合計	3	1	4

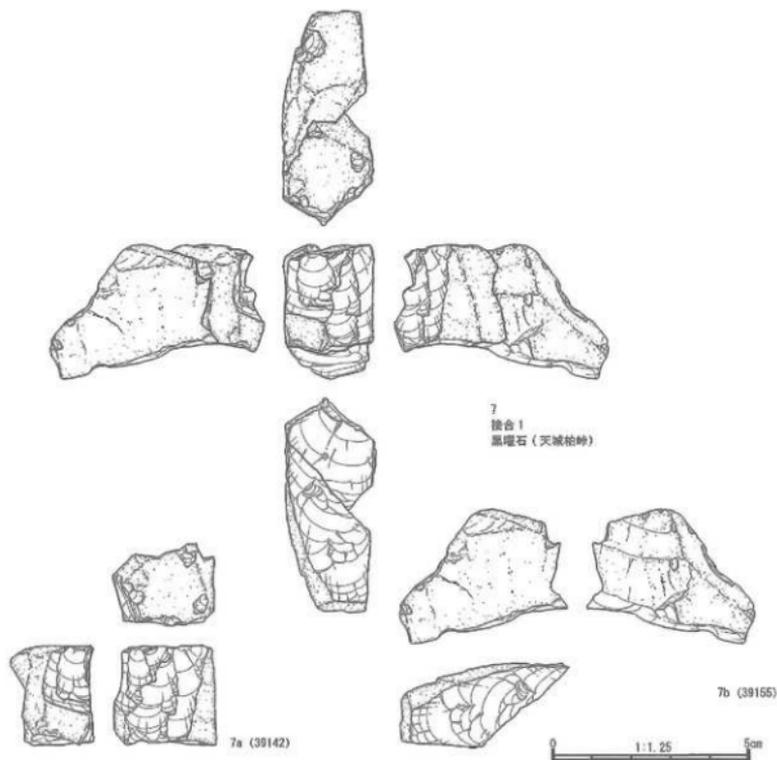
器種別



石材別



第19図 第Ⅱ文化層エリアA遺物別分布図



第20図 第Ⅱ文化層エリアA出土石器

3 エリアB

(1) 遺物の分布 (第21図)

M-16グリッドの遺物群を一括する。石器72点、燻3点が出土した。石器群は全体が1箇所にまとまった分布を示しており、2号石器集中とした。

2号石器集中 径約5mの範囲にまとまり、出土層位は第Ⅰ黒色帯上部を中心としつつも一部が上・下層まで及んでいた。石器群は信州系黒曜石、特に和田系のもを主体としている。

(2) 出土石器 (第22・23図)

ナイフ形石器・切出形石器 (8~10)

8は黒曜石(和田土屋橋西群)製のナイフ形石器である。

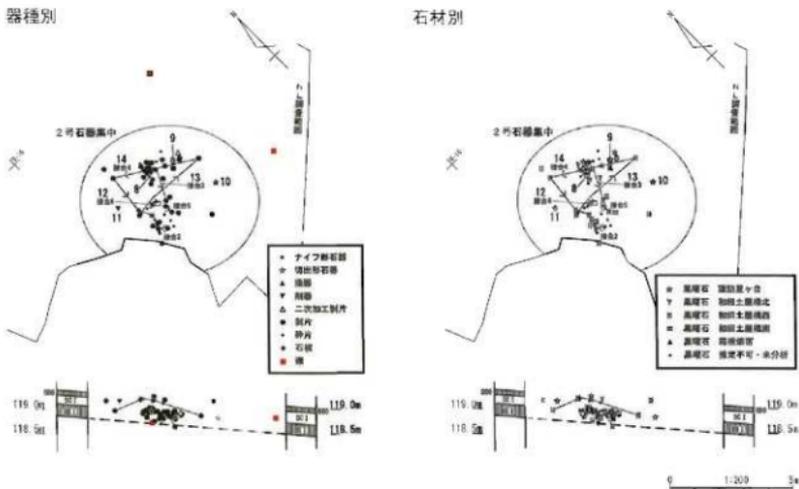
右側縁は基部側を腹面からの加工で抉り、左側縁は基部側が素材剥離時に生じたと思われる割れを利用して背面に稜上から平坦調整を入れ、器体中ほどから急斜度調整で背部を作出している。基部に打面を一部残し、また先端側は欠損している。9は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製のナイフ形石器である。幅広い割片を折断した三角形の割片を素材としており、左側縁基部側に切り立った折れ面、右側縁に斜めの折れ面を置き、両側縁の加工で基部を整形している。先端側は右側縁が燻香状剥離となっており、左側縁の方が鋭利な刃部となっている。10は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製の切出形石器である。寸詰まりの割片を素材とし、右側縁に背部加工、左側縁基部には縁辺を潰す形で微細な剥離を施し、基部に打面を残置している。

搔器・削器 (11・12)

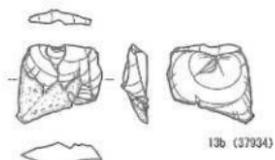
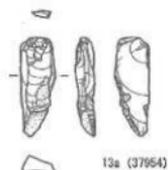
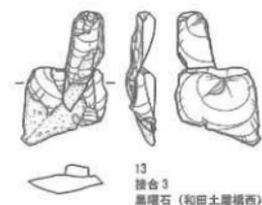
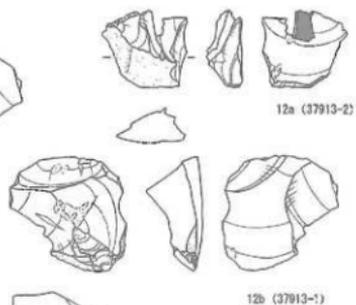
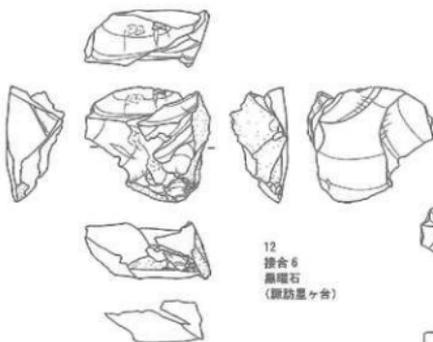
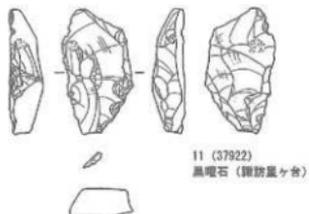
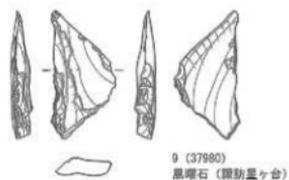
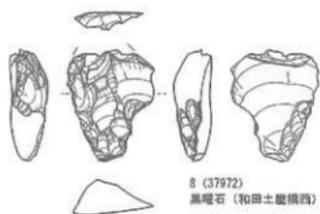
11は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製の削器である。図中の正面が腹面、下部に残る面は素材の打面と見ら

第12表 第Ⅱ文化層エリアB石材別器種組成

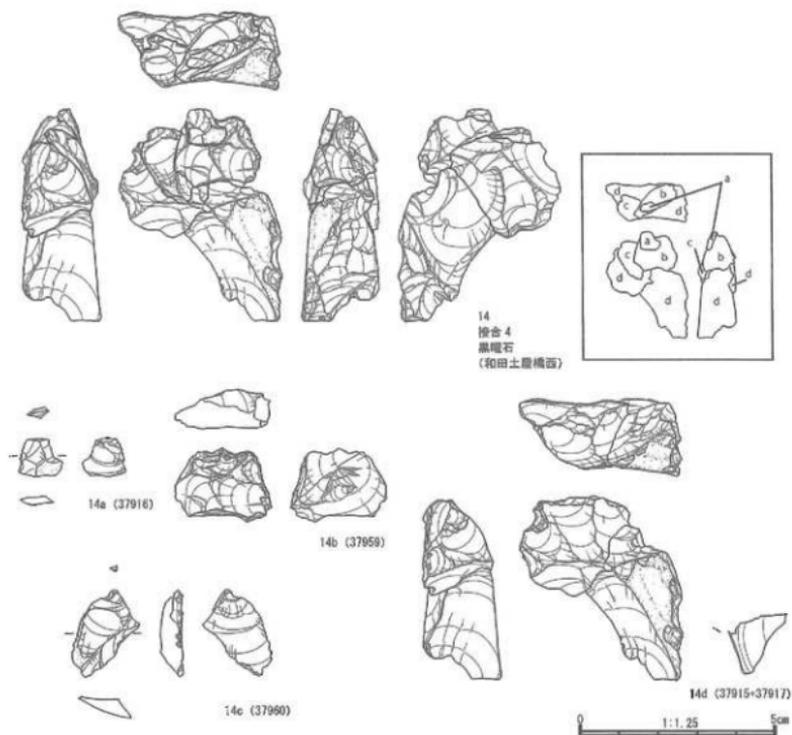
	黒曜石						合計
	諏訪星ヶ台	和田土屋橋北	和田土屋橋南	箱根燻	推定不可	未分析	
ナイフ形石器	1		1				2
切出形石器	1						1
搔器	1						1
削器	1						1
二次加工割片	1						1
割片	11	4	18	1	1	1	28
砕片			1	3			22
石核				2			2
合計	16	5	24	1	1	1	24



第21図 第Ⅱ文化層エリアB遺物分布図



第22図 第Ⅱ文化層エリアB出土石器(1)



第23図 第Ⅱ文化層エリアB出土石器(2)

れ、打瘤部が分厚くなった剥片を素材とし、左側縁中央部に急斜度の剥離で抉入状の刃部を設けている。12bは黒曜石(諏訪星ヶ台群)製の掻器である。素材剥片末端の限られた範囲に急斜度の二次加工が施されている。

剥片・石核・接合資料(12～14)

12(接合資料6)は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製の剥片、掻器から成る接合資料である。

13(接合資料3)は黒曜石(和田土屋橋西群)製の剥片2点から成る接合資料である。13aは縦割りに折断されている。13aの剥離後、作業面高を大きく減少させる工程を挟んで13bが剥離されている。

14(接合資料4)は黒曜石(和田土屋橋西群)製の剥片3点と石核とから成る接合資料である。図の正面側では14a～c等の寸詰まりの剥片が剥離されている一方、裏面では多方向から大きく剥離されており、これにより石核の厚みが大きく減じたものと考えられる。

4 エリアC

(1) 遺物の分布 (第24図)

J-18、K-18・19グリッドの範囲である。石器19点、礫18点が出土した。石器と礫とは隣り合って別個に集中域を形成しており、それぞれ3号石器集中、1号礫群とした。

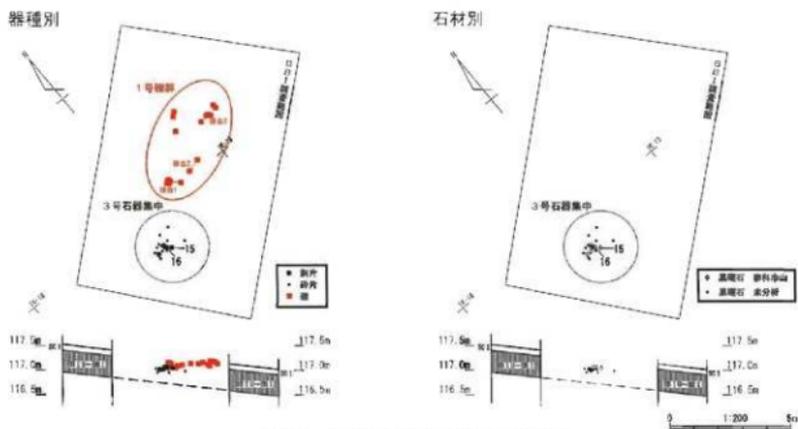
3号石器集中 J-18グリッド出土の黒曜石製石器19点から成る。原産地分析ができたもの6点は全て蓼科冷山群であった。径約2mの範囲にまとまり、出土層位は第I黒色帯上部であった。

1号礫群 (第25図) K-18・19グリッド出土の礫18点から成る。4kgの

玄武岩礫1点以外は輝石安山岩である。出土層位は第I黒色帯上部で、ほぼ同レベルで面的に分布していた。礫1点に黒色の付着物があったが、それ以外に礫に被熱の痕跡等は認められなかった。

第13表 第II文化層エリアC石材別器種組成

	黒曜石		合計
	蓼科冷山	未分析	
刮片	4		4
砕片	2	13	15
合計	6	13	19



第24図 第II文化層エリアC遺物分布図



第25図 第II文化層(エリアC) 1号礫群

(2) 出土石器 (第26図)

15・16は黒曜石(夢科冷山群)製の剥片である。出土石器はこうした小形の剥片・碎片であり、二次加工や石核調整により生じたものと考えられる。



第26図 第Ⅱ文化層エリアC出土石器

5 エリアD

(1) 遺物の分布 (第27図)

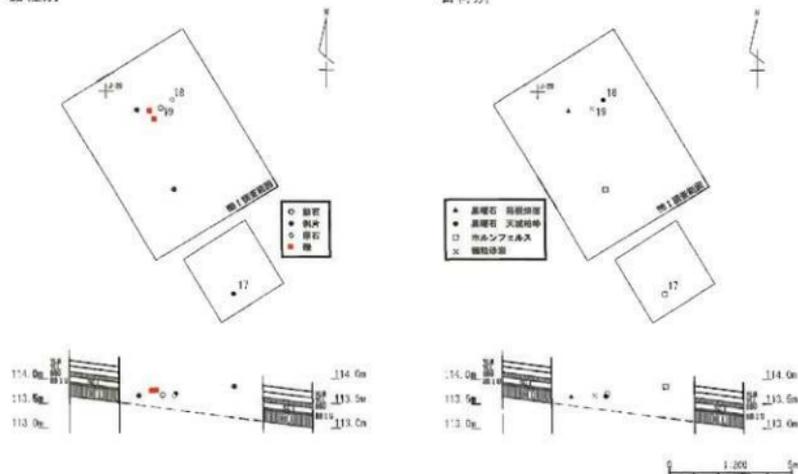
I-28グリッドの遺物群である。石器5点、礫2点が出土したが、散在的な分布のため集中部としては捉えていない。南西側約10mの箇所からエリアEに属する遺物群が密集しており、その外縁に属する資料と考えられる。上層に第Ⅳ文化層エリア1の遺物群が重複して分布する。

第14表 第Ⅱ文化層
エリアD石材別器種組成

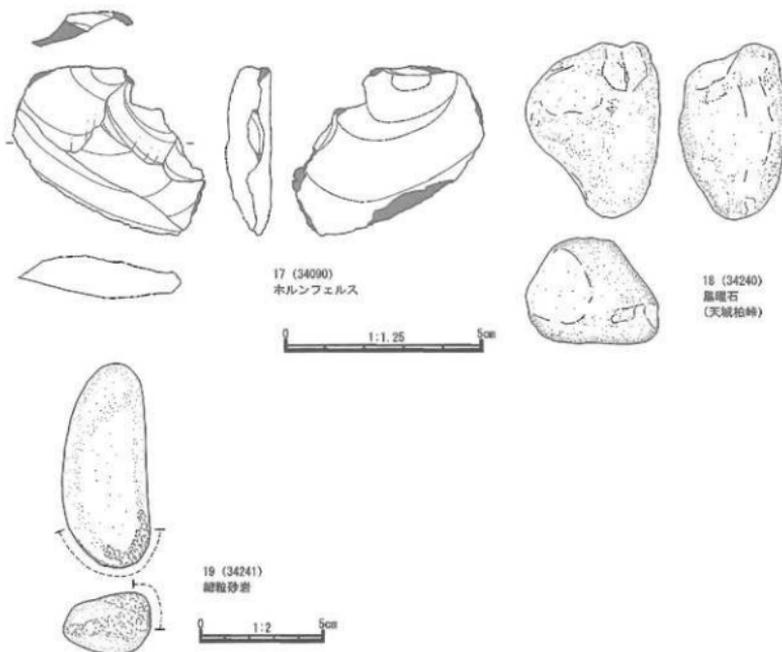
	黒曜石		ホルンフェルス	細粒砂岩	合計
	箱根燧石	天城拾神			
原石				1	1
剥片	1		2		3
原石		1			1
合計	1	1	2	1	5

器種別

石材別



第27図 第Ⅱ文化層エリアD遺物分布図



第28図 第Ⅱ文化層エリアD出土石器

(2) 出土石器 (第28図)

17はホルンフェルス製の剥片である。出土層位は休場層下位で第Ⅳ文化層の資料と重なり、そちらへ帰属する可能性もあるが、第Ⅱ文化層の資料に石質が類似することからこれに含めた。単剥離打面の幅広い剥片で、背面剥離痕から同様の剥片が連続的に剥離されていたことが窺える。

18は黒曜石(天城柏峠群)の原石である。歪角礫で、柏峠産黒曜石としてはありふれた大きさのものである。

19は細粒砂岩製の敲石である。細長い窪の下端部に敲打痕がめぐっている。

6 エリアE

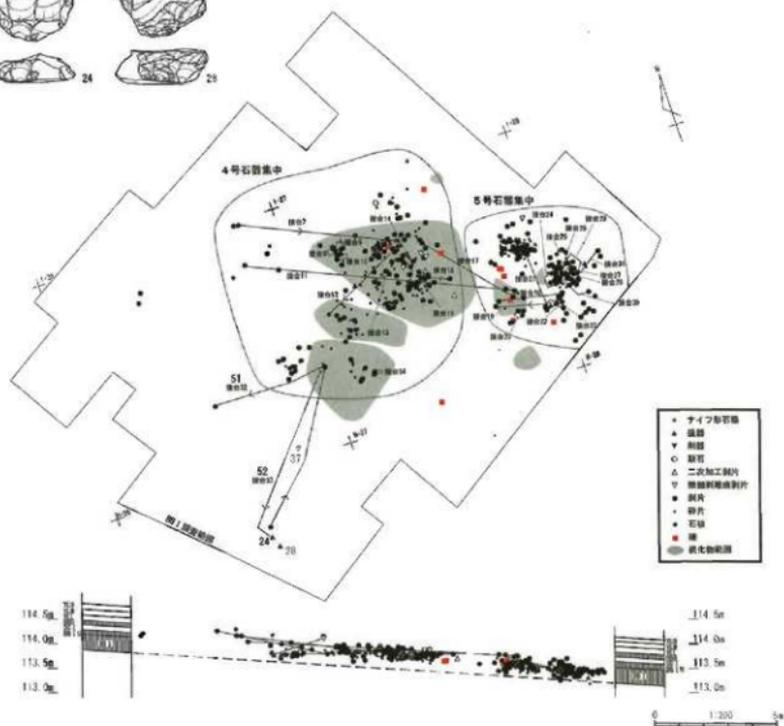
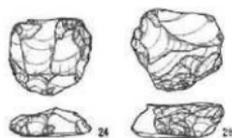
(1) 遺物の分布 (第29・30図)

H-27グリッドを中心とする範囲である。石器484点、礫10点が出土した。石器群には大きく2つのまとまりが認められ、4号・5号石器集中とした。分布状況から見て、両石器集中とも複数の集中部が複合している可能性があるものである。また、これらと重複する形で炭化物集中が認められた。

4号石器集中(第31図、第16表) H-27グリッドを中心に位置し、出土層位は第Ⅰ黒色帯上部を中心とする。石器273点から成り、石材は諏訪星ヶ台群を中心とする黒曜石主体で、これに珪質頁岩、ホルンフェルス等が伴っている。

第15表 第Ⅱ文化層エリアE石材別器種組成

	基礎石							合計		
	深田屋ヶ台	和田屋山	和田芙蓉ライイト	鹿嶋宿	推定不可	未分析	ホルンフェルス			
ナイフ形石器				3			1	4		
鋸器	5			1			1	7		
削器				1				1		
砥石								1		
二次加工製片							2	2		
詳細彫刻製片	3			4			1	8		
剥片	68	6	1	112	16	16	15	20	255	
砕片	11	1		10	2	163	1	15	203	
石核	1			1	1				3	
合計	88	7	1	132	19	179	18	38	1	484



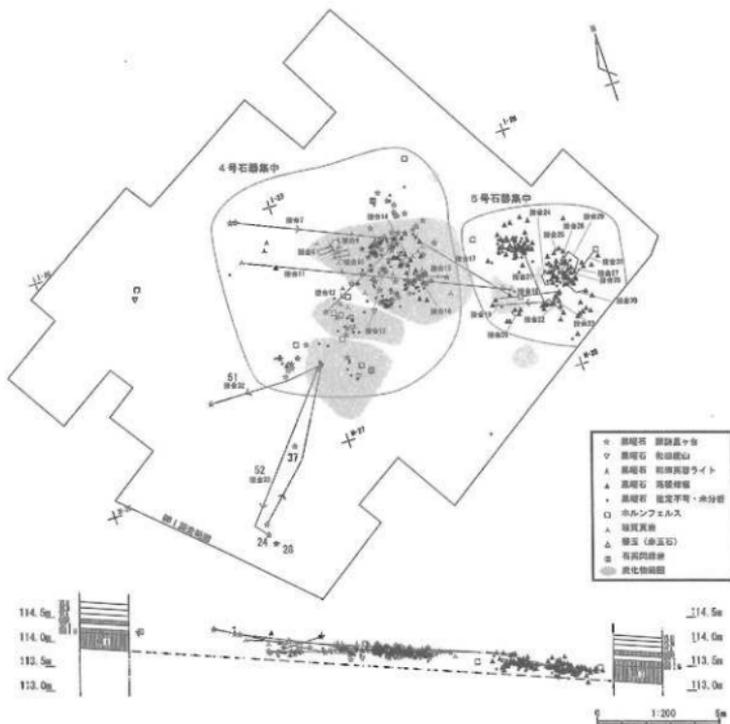
第29図 第Ⅱ文化層エリアE器種別分布図

第16表 第Ⅱ文化層4号石器集中石材別器種組成

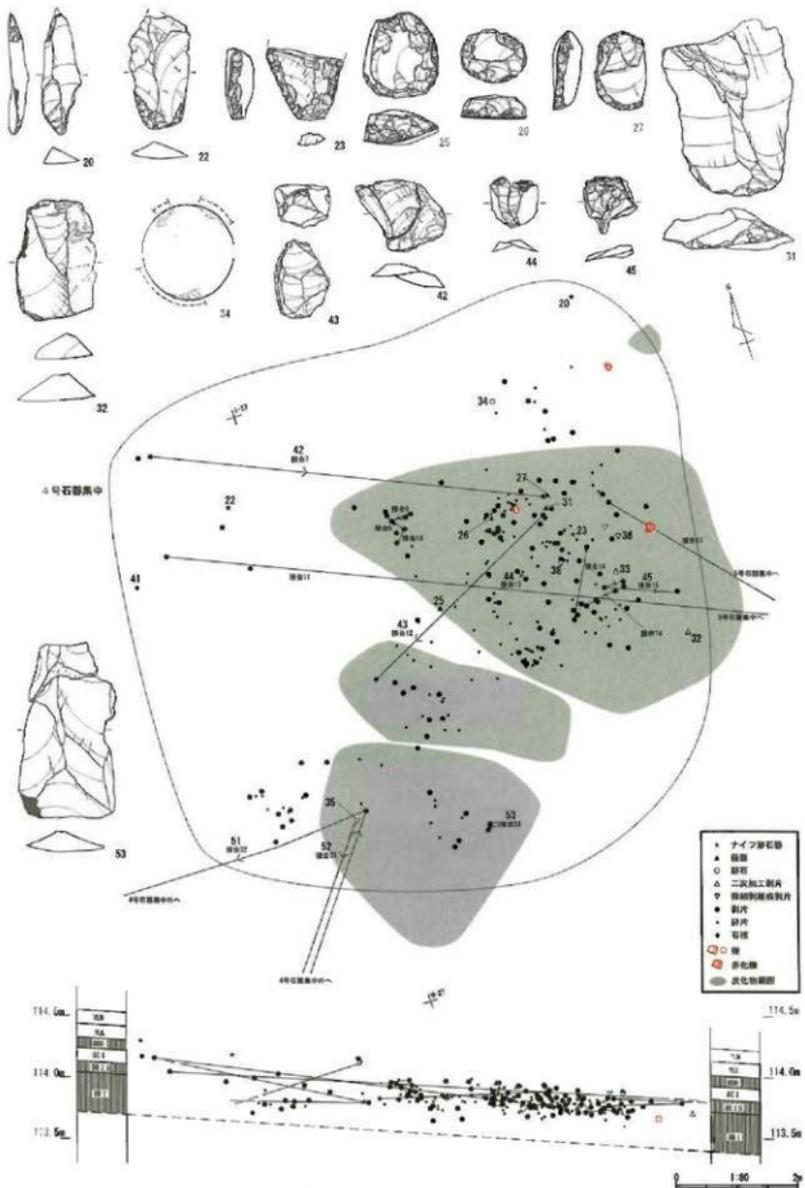
	黒曜石						石英閃緑岩	合計
	諏訪屋ヶ台	和田原山	和田実野ライト	霧根畑	推定不可	未分析		
ナイフ形石器				2		1		3
掻器	31							4
敲石							1	1
二次加工製片						2		2
微細割離直製片	2		1			1		4
製片	65	5	1	16	1	10	7	124
砕片	11	1		2	1	102	1	15
石核	1							2
合計	82	6	1	21	3	112	10	37
								1
								273

第17表 第Ⅱ文化層5号石器集中石材別器種組成

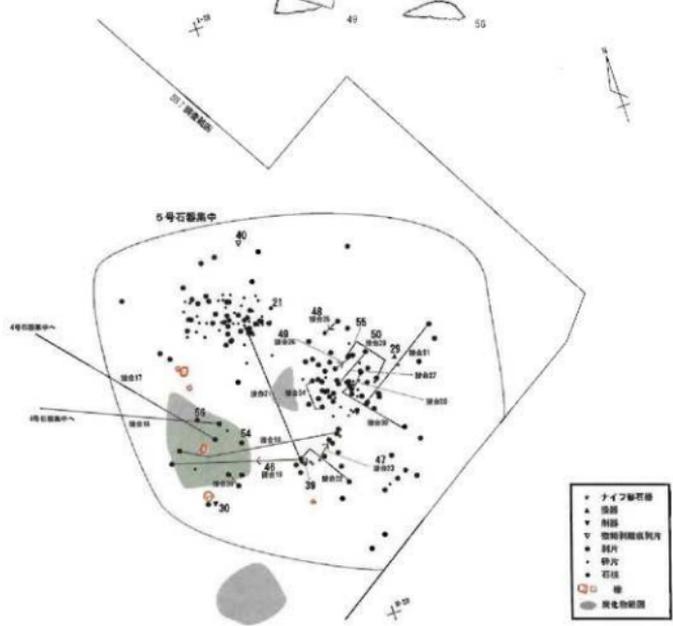
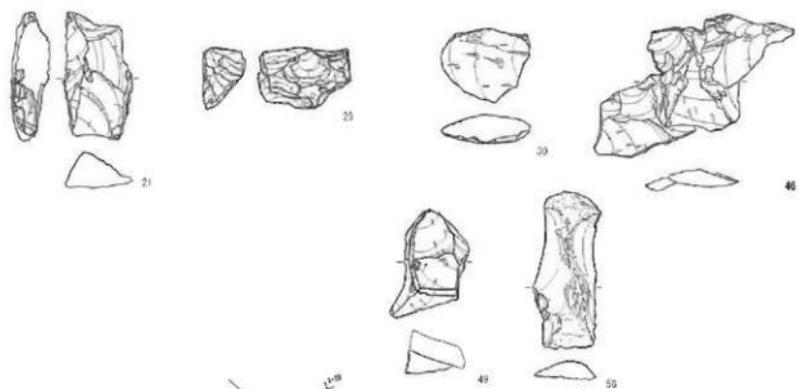
	黒曜石						ホルンフェルス	碧玉(赤玉石)	合計
	諏訪屋ヶ台	霧根畑	推定不可	未分析	推定不可	未分析			
ナイフ形石器									1
掻器	1								1
削器		1							1
微細割離直製片				3					3
製片	1	96	15	6	7	1	1	1	127
砕片		8	1	60					69
石核			1						1
合計	1	111	16	66	7	1	1	1	203



第30図 第Ⅱ文化層エリアE石材別分布図



第31図 第Ⅱ文化層（エリアE）4号石器集中器種別分布図



- | | |
|---|------------|
| ◆ | フリント製石器 |
| ▲ | 投擲器 |
| ▼ | 刮削器 |
| ▽ | 凹形刮削器(或刮削) |
| ● | 刮片 |
| ◆ | 棒状 |
| ● | 石核 |
| ○ | 核 |
| ◎ | 核(或石核) |



第32図 第Ⅱ文化層(エリアE)5号石器集中器種別分布図

5号石器集中(第32図、第17表) H-27・28グリッドに位置し、出土層位は第I黒色帯上部を中心とする。石器203点から成り、4号石器集中とは対照的に箱根畑宿群の黒曜石が主体である。

炭化物集中 4号石器集中と重複する範囲を中心に、一部5号石器集中の範囲にも分布していた。4号石器集中付近から遺存状態の良いな炭化材が採取されており、試料を3片抽出して放射性炭素年代測定、及び樹種同定を実施した。年代測定では24180 ± 110yrBP、24190 ± 100yrBP、24340 ± 100yrBPの結果が得られ、樹種同定ではハンノキ属ハンノキ亜属に同定された。

(2) 出土石器(第33～42図)

ナイフ形石器(20～23)

20はホルンフェルス製で、基部は主に右側縁の鋸歯状調整で整形され、先端部は左側縁の二次加工で整形されている。21は黒曜石(箱根畑宿群)製で、主に左側縁に基部加工が施され、先端部は折れた後に転用・再加工のため二次加工が入れている。22は黒曜石(箱根畑宿群)製のナイフ形石器である。縦長剥片を素材に、打面を残置し、基部周辺に限定して両側縁を二次加工している。23は黒曜石(箱根畑宿群)製のナイフ形石器である。打面を残置し、基部両側縁を二次加工している。器体上半部を折損している。

搔器・削器(24～31)

24～28は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製の搔器である。いずれも厚手の剥片を素材とし、24・25・27は素材打面を残置している。刃部加工の範囲は様々で、26では下縁から両側縁を巡り、折れ面となっている基部側にも部分的に刃部加工が及んでいる。25・27では下縁から片側縁まで、器体をほぼ半周している。24では右側縁基部側と下縁左側とに限られ、28では下縁の一部に限られている。29は黒曜石(箱根畑宿群)製の搔器とした資料であるが、他のものと比べて微細剥離痕が少なく、異なる器種の可能性もある。30は黒曜石(箱根畑宿群)製の削器である。二次加工は腹面側に限られ、左側縁から下縁まで弧状の刃部を形成している。31はホルンフェルス製の搔器である。大形剥片の末端部に弧状の刃部を設けている。二次加工剥片・微細剥離痕剥片(32・33・35～40)

32は珪質頁岩製の二次加工剥片で、厚手の縦長剥片の両側縁に二次加工が認められる。33は珪質頁岩製の二次加工剥片で、左下隅に二次加工が施されている。35～37は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製の微細剥離痕剥片で、総じて縦長剥片素材である。38～40は黒曜石(箱根畑宿群)製の微細剥離痕剥片である。38では小形剥片の両側縁に縁辺を潰す形で剥離が認められる。39は厚手剥片の左側縁の縁辺を潰す形で、40では右側縁の縁辺が刃毀れするように微細な剥離が入っている。

敲石(34)

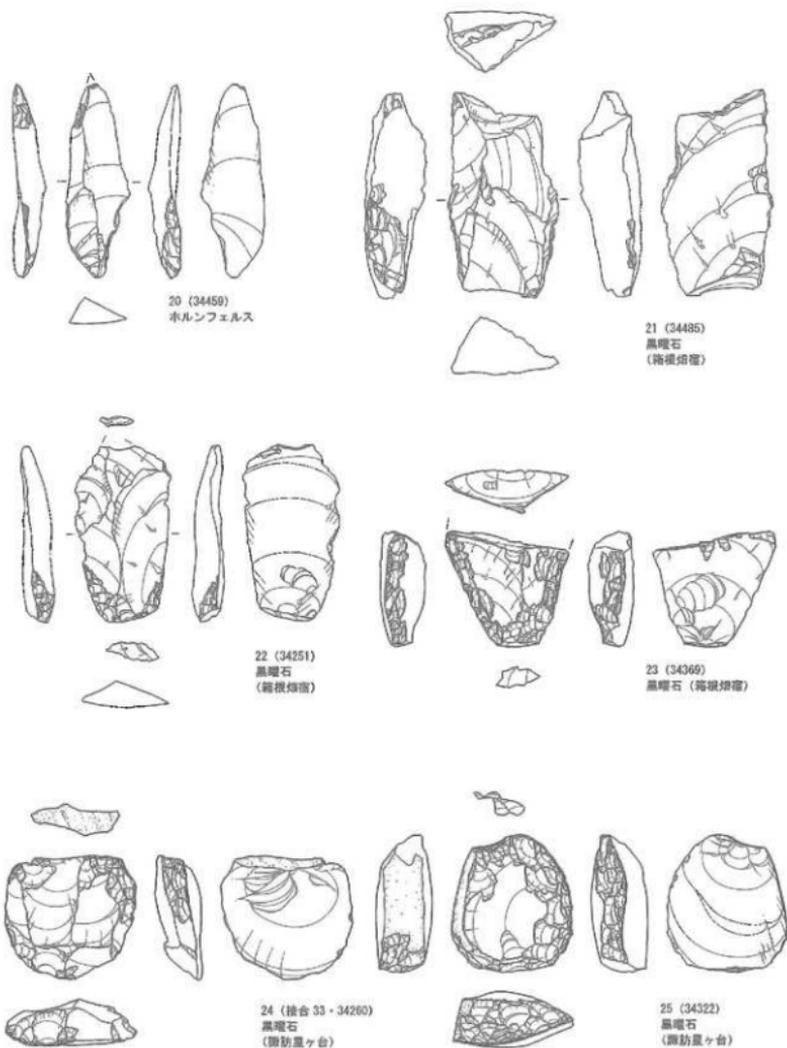
石英閃緑岩の円礫の下部と上部にそれぞれ敲打痕が認められる。

剥片・石核・接合資料(41～56)

41～52はエリアEの資料の主体を占める黒曜石製の資料である。41は石核で、表面の風化のため原産地分析では推定不可であったが、外観上の特徴では畑宿産に近い。42～45・51・52は諏訪星ヶ台群黒曜石の接合資料である。本文化層では同石材の厚さ1cm前後の剥片を素材とする搔器(24～28)が特徴的であり、搔器を含む52(接合資料33)や厚手の剥片を含む51(接合資料32)も存在するが、全体としては少数派で、厚さ1cm前後に達する剥片は4点のみである。主体となっているのは42～45に見られる小形剥片である。46～50は箱根畑宿群の黒曜石の接合資料である。諏訪星ヶ台群の黒曜石に比べて製作された剥片に厚手・大形の傾向が窺える。

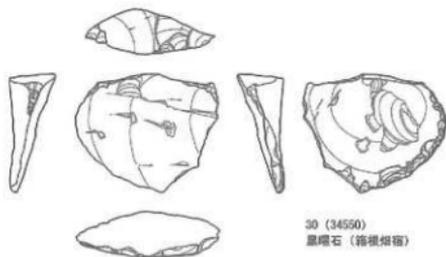
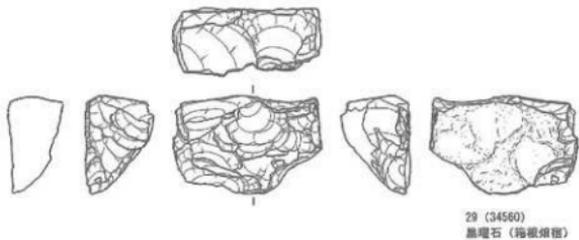
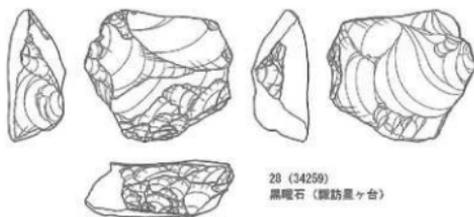
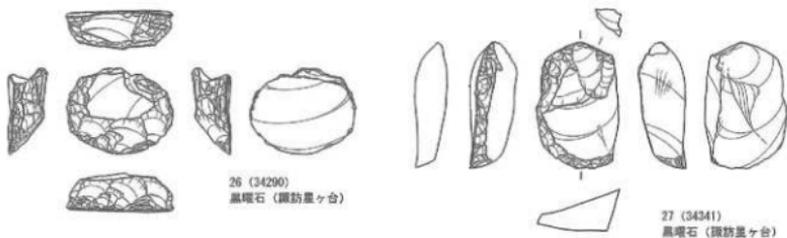
53～55はホルンフェルス製の剥片である。石刃状を呈するもの(53・54)が含まれる。

56は碧玉(赤玉石)製の剥片である。単剥離背面で原礫の角から剥離され、石刃状剥片となっている。

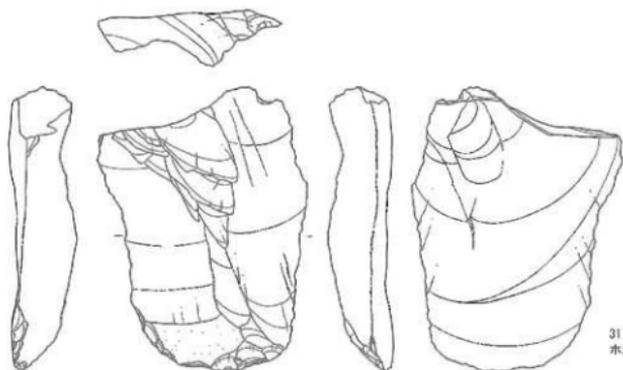


0 1:1.25 5cm

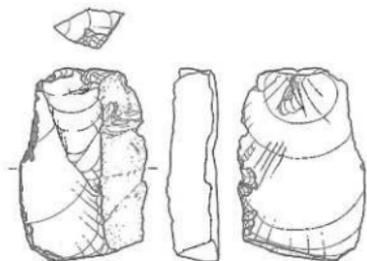
第33図 第II文化層エリアE出土石器(1)



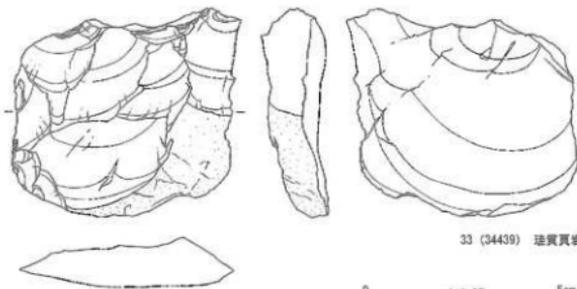
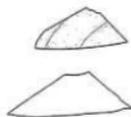
第34図 第Ⅱ文化層エリアE出土石器(2)



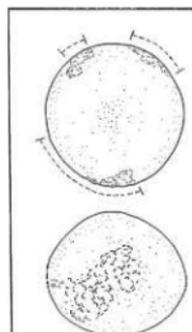
31 (34526)
ホルンフェルス



32 (34453)
珪質頁岩



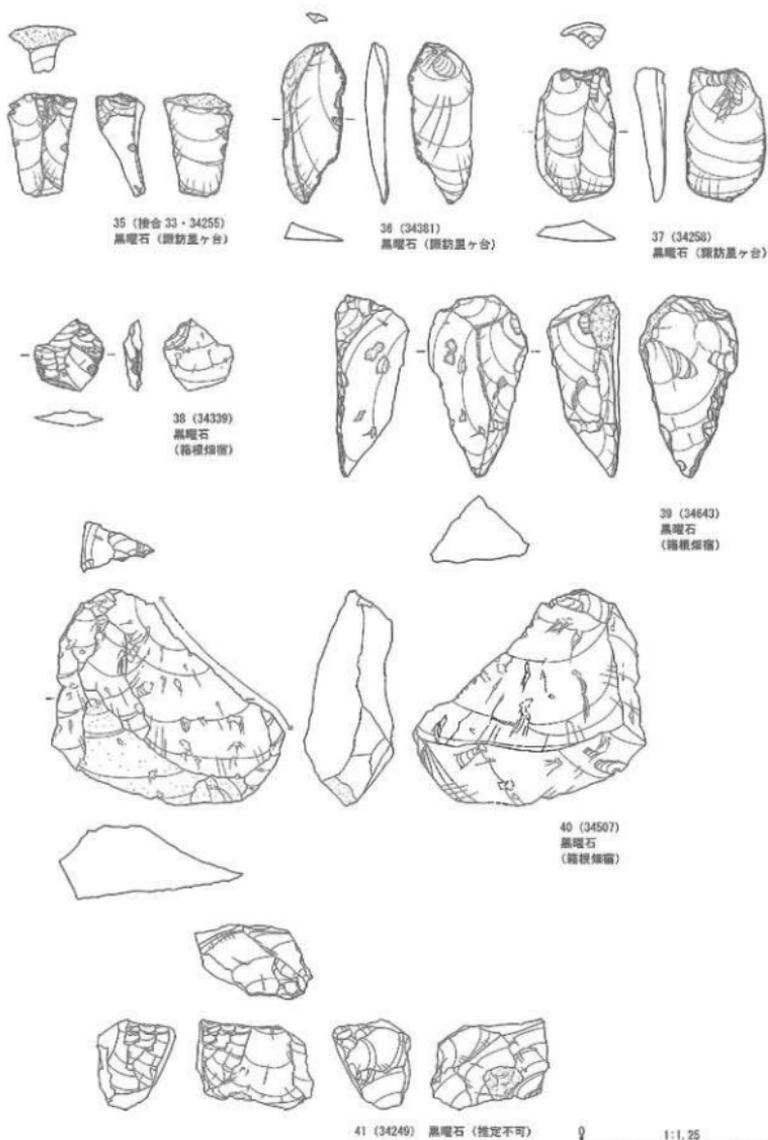
33 (34439) 珪質頁岩



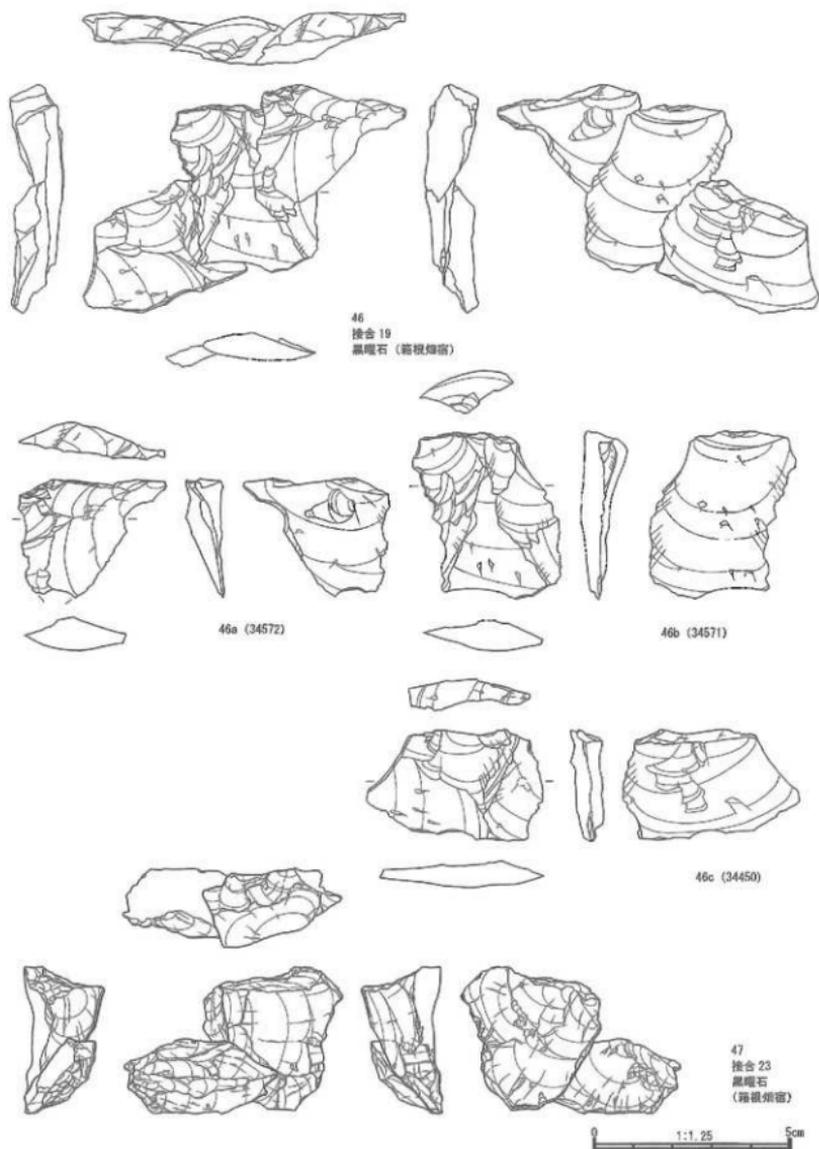
34 (34846) 石英閃綠岩



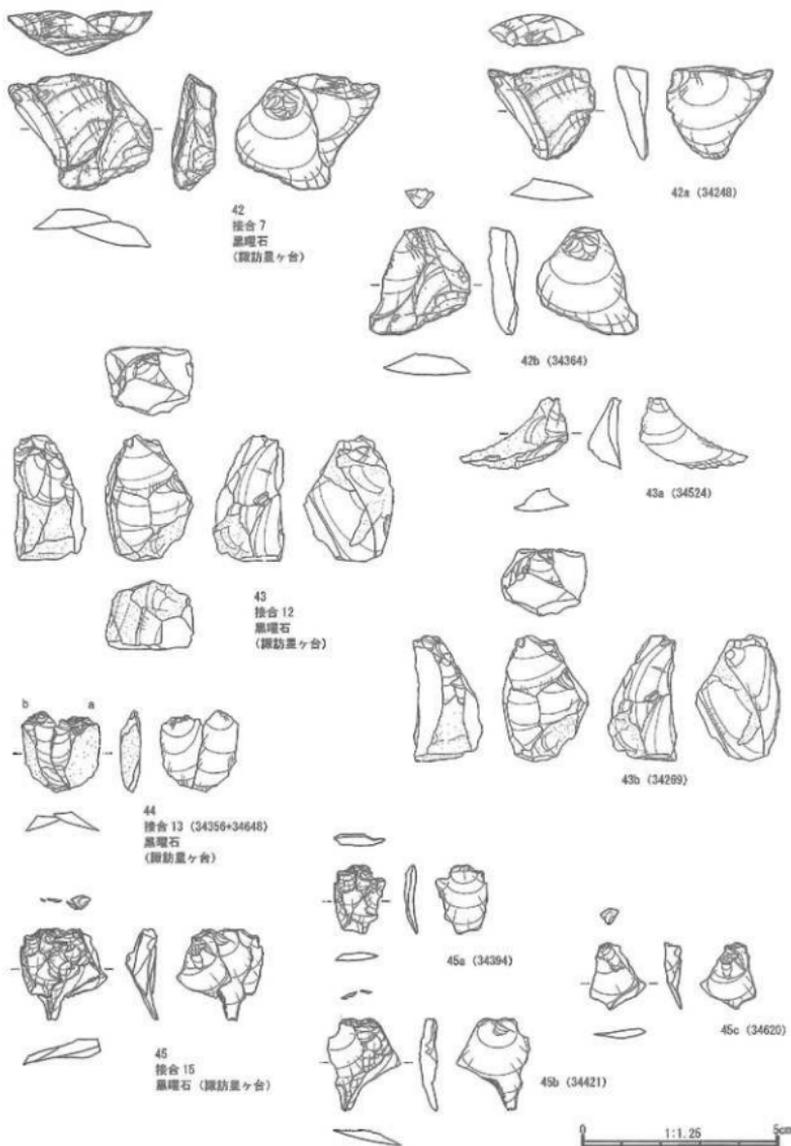
第35図 第Ⅱ文化層エリアE出土石器(3)



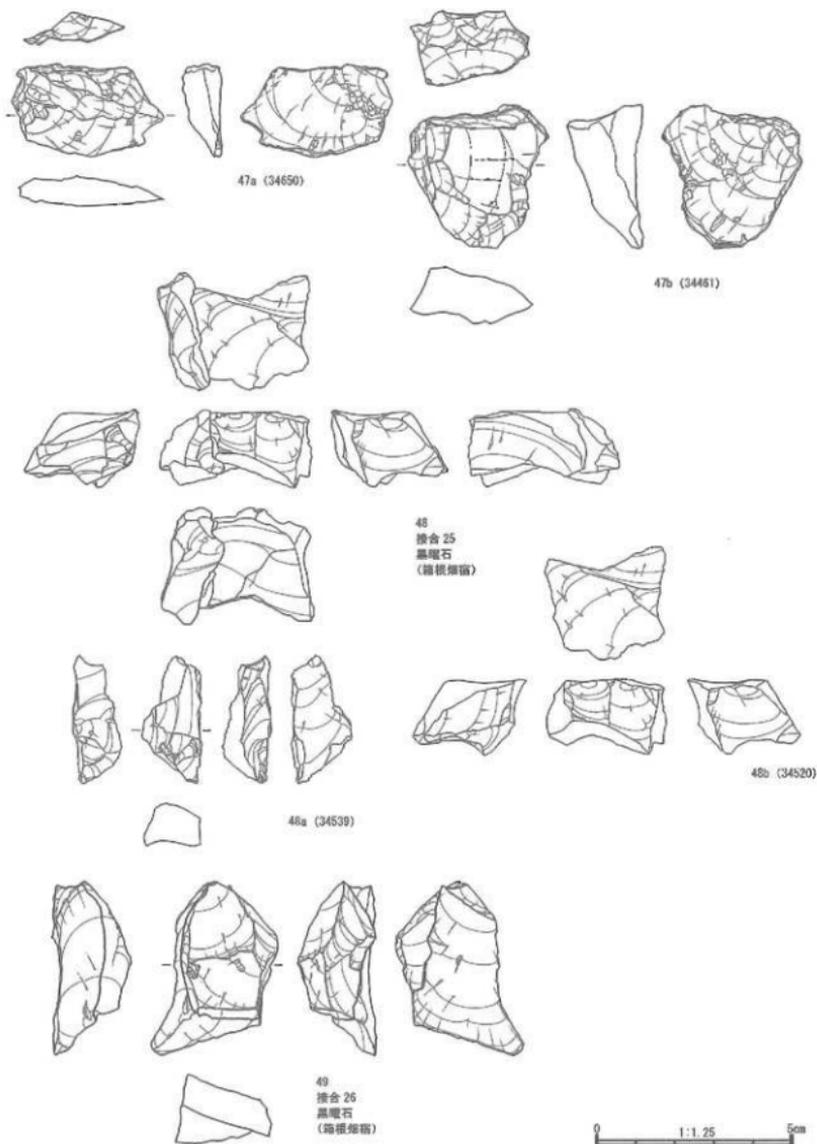
第36図 第Ⅱ文化層エリアE出土石器(4)



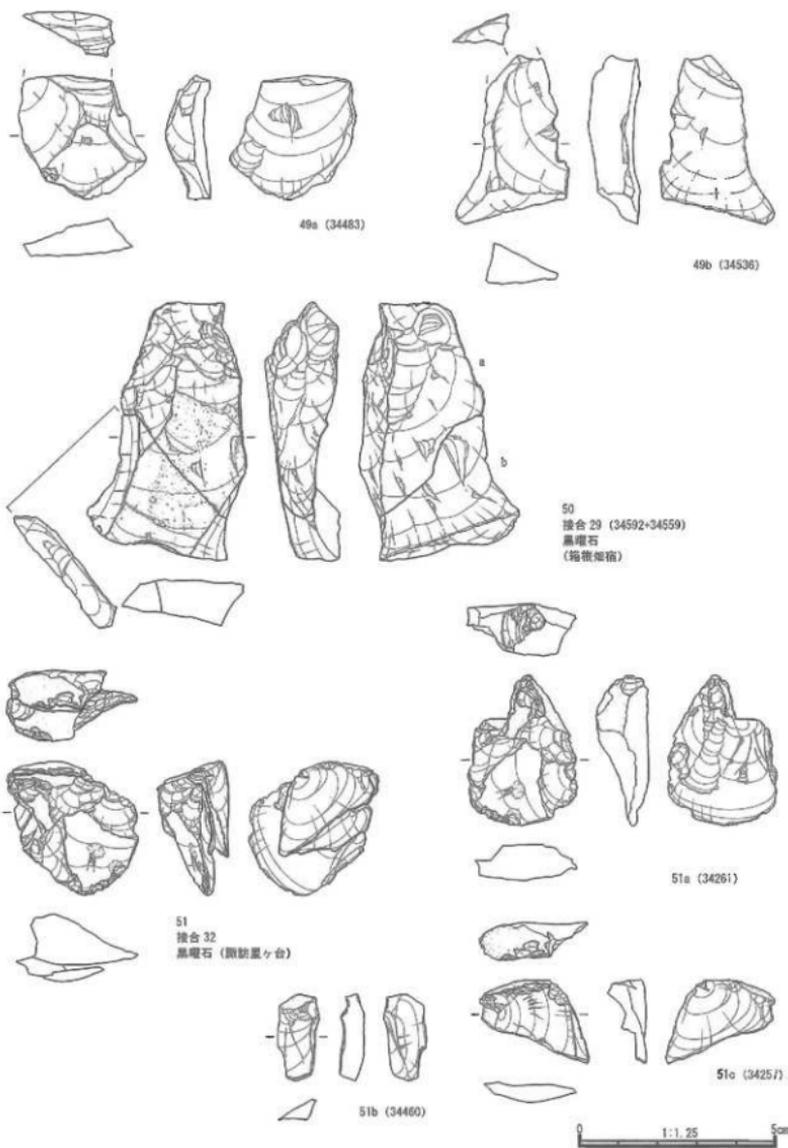
第38図 第Ⅱ文化層エリアE出土石器(6)



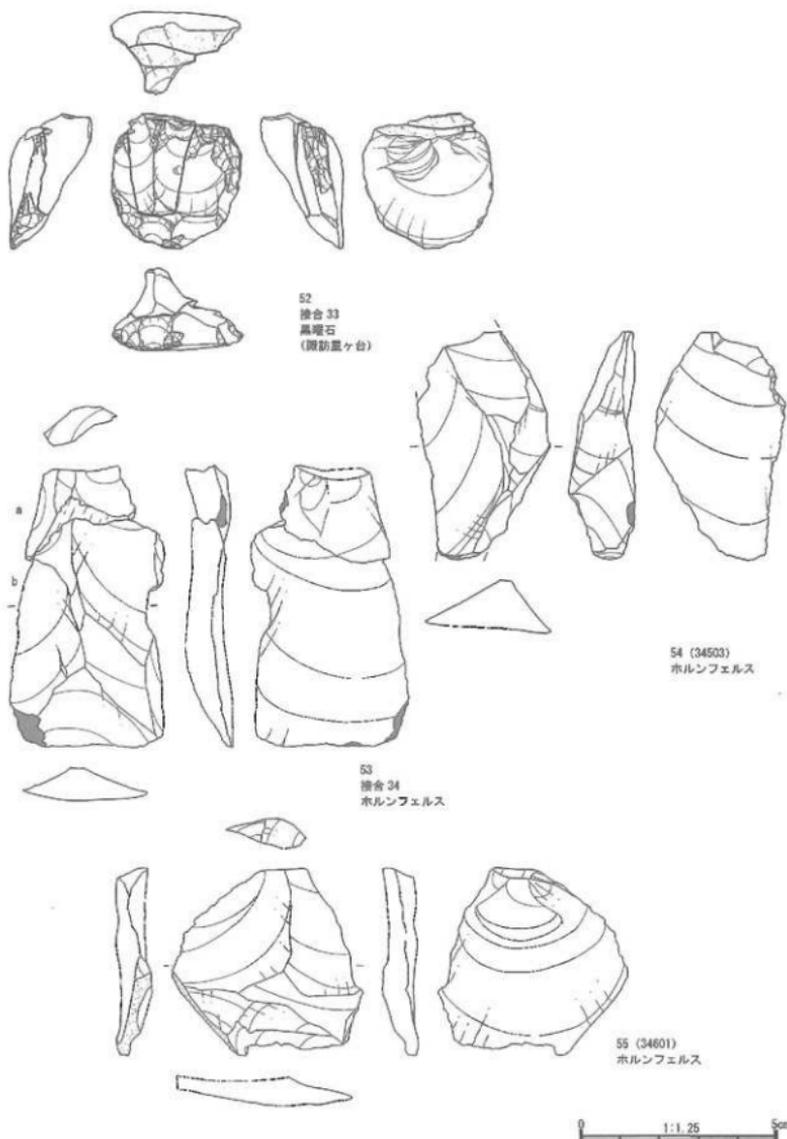
第37図 第Ⅱ文化層エリアE出土石器(5)



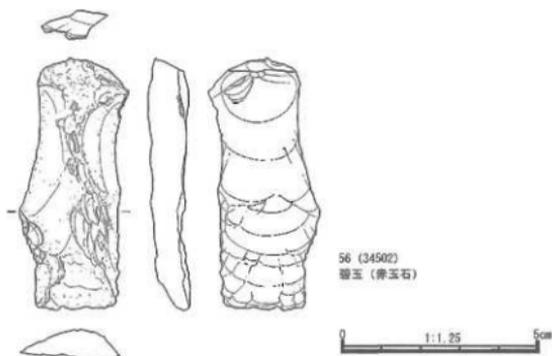
第39図 第II文化層エリアE出土石器(7)



第40図 第II文化層エリアE出土石器(8)



第41図 第Ⅱ文化層エリアE出土石器(9)



第42図 第Ⅱ文化層エリアE出土石器 (10)

7 その他の資料 (第43図)

上記のエリアA～Eの範囲外で散在的に出土した資料として石器6点、礫3点がある。石器のうち剥片以外の3点を図示した。

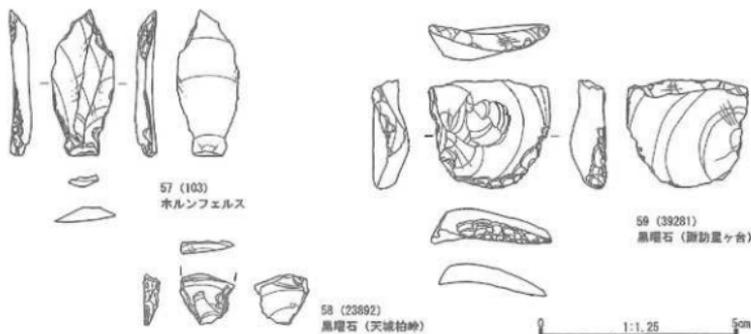
57はホルンフェルス製のナイフ形石器である。先端は両側縁からの加工で尖らせ、基部は両側縁とも挟入状とし、素材打面を残している。AC-10グリッド、第Ⅰ黒色帯出土。

58は黒曜石(天城柏峠群)製のナイフ形石器である。基部側の破片としているが、器体上部を折損し、右側縁も破損しているためもとの形態は推定しがたい。I-22グリッド、第Ⅰ黒色帯出土。

59は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製の搔器である。素材剥片は背面側へ反り返った形で末端側は櫛番状剥離となっている。腹面側の一辺に弧状の刃部を設けている。W-8グリッド、第Ⅰ黒色帯出土。

第18表 第Ⅱ文化層
エリア外石材別器種組成

	黒曜石		ホルンフェルス	合計
	諏訪星ヶ台	天城柏峠		
ナイフ形石器		1	1	2
搔器	1			1
剥片	1	1	1	3
合計	2	1	2	6

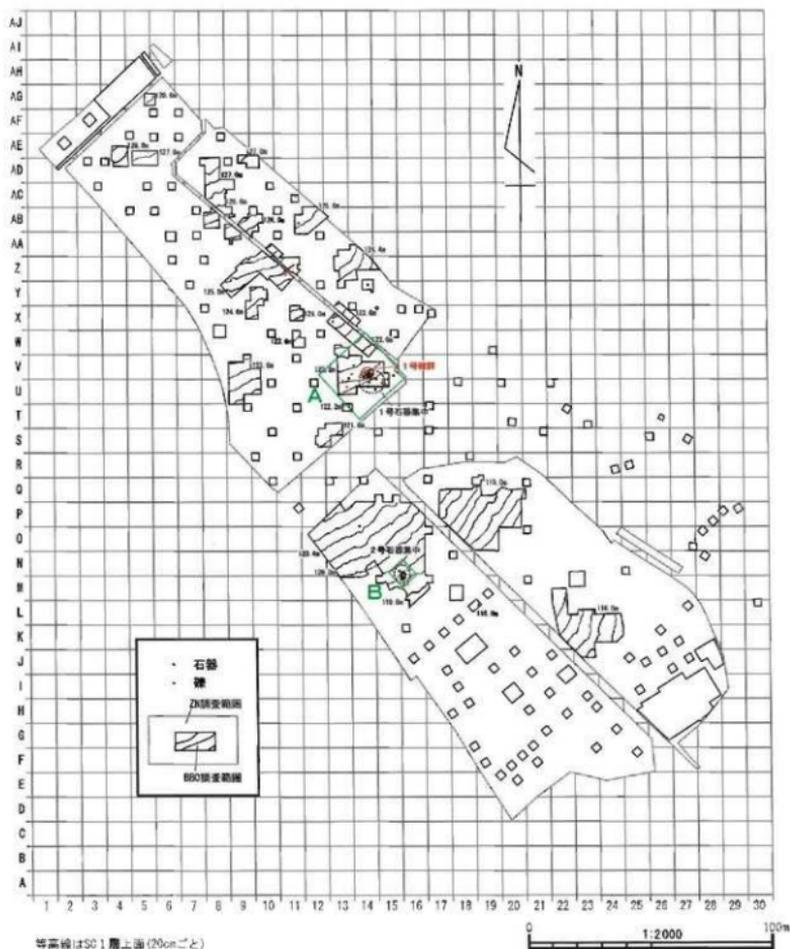


第43図 第Ⅱ文化層エリア外出土石器

第4節 第Ⅲ文化層

1 概要

主として第Ⅰスコリア層から休場層下位にかけて出土した石器63点、礫32点から成る（第44図、第19表）。資料がまとまって分布する地点は2箇所あり、エリアA、Bとした。石器集中2箇所、礫群1箇所を認定しており、エリアごとの資料と遺物集中の構成は第20表の通りである。



第44図 第Ⅲ文化層遺物分布図

第19表 第三文化層石材別器種組成

	黒曜石	天城拾峰	未分析	ホルンフェルス	ガラス質黒色安山岩	碧玉(赤玉石)	合計
ナイフ形石器	2	1		1			4
削器				1			1
二次加工製片		2					2
製片	1	1	18	1	10	3	2
砕片			1	5	9	1	16
石核	1		1			2	4
合計	4	1	23	6	21	6	2

第20表 第三文化層のエリアと遺物集中

エリア	石器集中	礫群	ナイフ形石器	削器	二次加工製片	製片	砕片	石核	石器合計	礫
A	1号	1号	1	1		18	13	3	36	25
B	2号		2		1	17	3	1	24	1
外			1		1	1			3	8
合計	2箇所	1基	4	1	2	36	16	4	63	32

2 エリアA

(1) 遺物の分布(第45・46図)

V-14グリッドを中心とする範囲。石器36点、礫25点が分布する。石器・礫は重複して1箇所集合中部を形成していた(1号石器集中、1号礫群)が、その周囲にも少数の石器・礫が散在する。

第IV文化層エリアFの石器・礫と分布が重複する。出土層位が休場層直下黒色帯にまとなり、やや下位にあることから両者を分離したが、出土層位の差は僅かであるため、同一文化層の可能性もある。

1号石器集中 V-14グリッド南東部を中心に位置し、出土層位は主に第Iスコリアから休場層下位であるが、より上層の石器とも接合関係が確認されている。石器31点から成り、石材はホルンフェルスが最多だが黒曜石、ガラス質黒色安山岩、碧玉(赤玉石)といった各種石材が伴う。

1号礫群(第47図) 1号石器集中とやや北寄りの位置で重複して分布する。出土層位も石器群と重複するが、1号石器集中のほうが幾分下位まで分布している(調査時の記録では礫は休場層下位にままとまっている)。礫20点から成り、4割の8点に被熱の痕跡が認められた。

第21表 第三文化層エリアA石材別器種組成

	黒曜石	天城拾峰	未分析	ホルンフェルス	ガラス質黒色安山岩	碧玉(赤玉石)	合計
ナイフ形石器	1						1
削器				1			1
製片	1	1	4		8	2	10
砕片			1	2	9	1	13
石核	1				2		3
合計	3	1	5	2	10	2	26

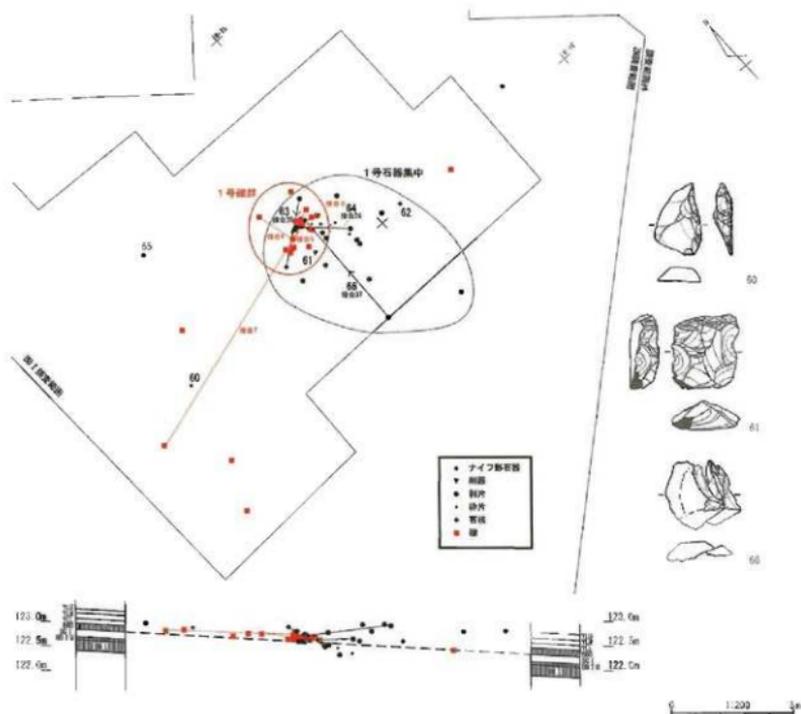
(2) 出土石器(第48・49図)

ナイフ形石器(60)

黒曜石(諏訪星ヶ台群)製で、素材剥片打面側を斜めに切り取った一側縁加工のものである。基部側に当たる素材の末端は蝶番状剥離となっており、特に加工はない。石器集中外から出土。

削器(61)

ホルンフェルス製で両側縁に鋸歯状の刃部を設けている。



第45図 第三文化層エリアA器種別分布図

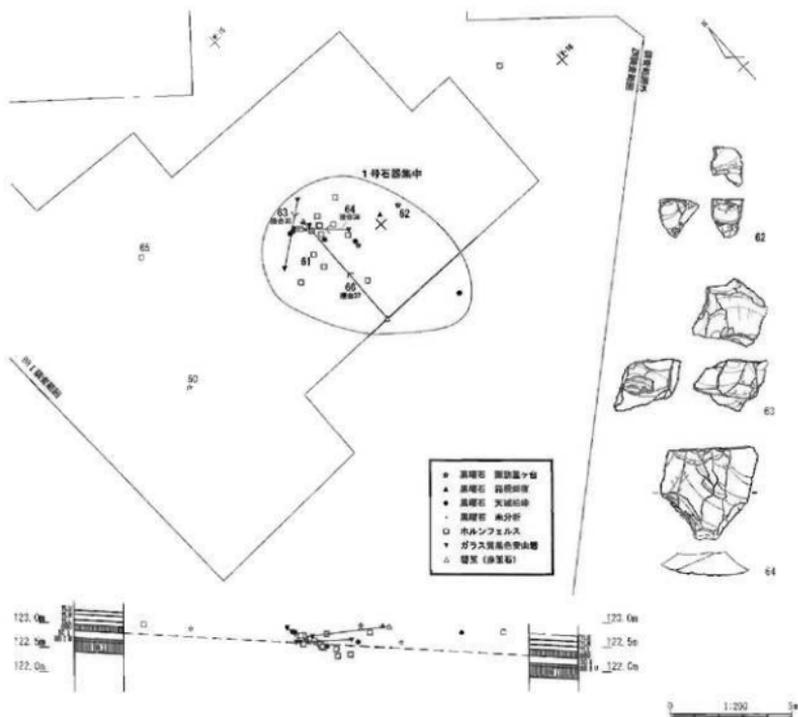
剥片・石核・接合資料 (62～67)

62は黒曜石（諏訪星ヶ台群）製の石核である。単設打面で角錐状を呈する。

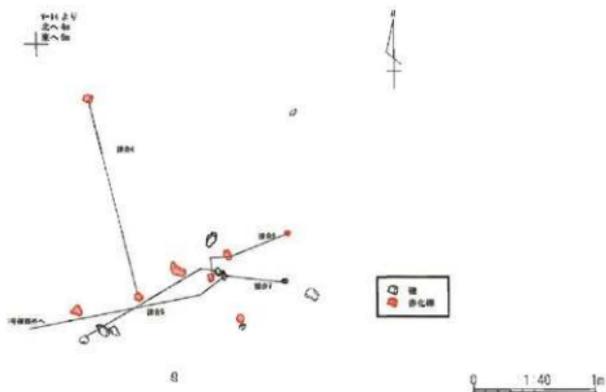
63（接合資料35）・64（接合資料36）はガラス質黒色安山岩の接合資料である。63bは打面転移が繰り返されてサイコロ状になった石核で、剥片1点（63a）が接合している。64は剥片素材の石核で、折れ面を打面として小口面から剥離が行われている。

65はホルンフェルス製の剥片である。背面の大半が礫面で覆われた比較的大形の剥片で、同様の資料はもう1点出土している。

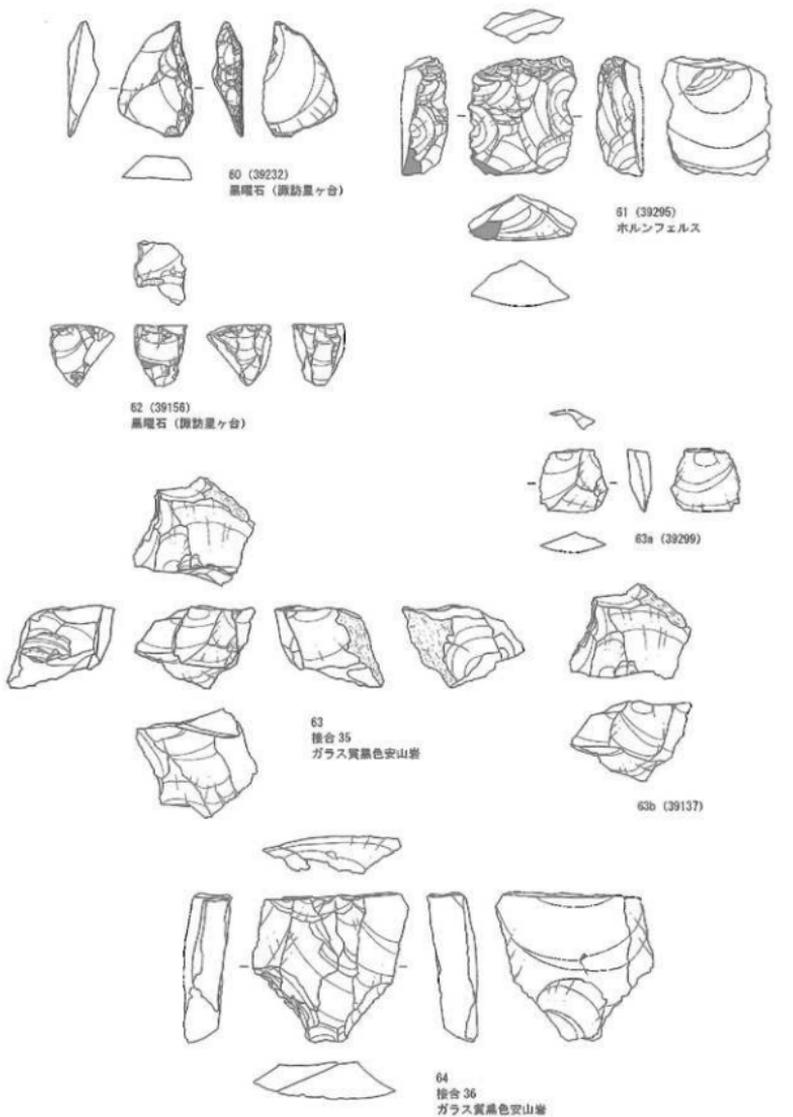
66（接合資料37）は碧玉（赤玉石）の剥片2点から成る接合資料である。背面に原礫面の残る資料であるが、同石材の資料はこの2点のみである。



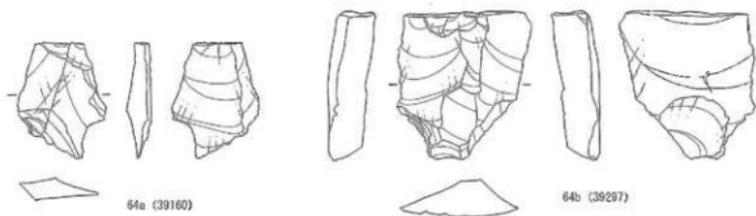
第46図 第Ⅲ文化層エリアA石材別分布図



第47図 第Ⅲ文化層(エリアA)1号標群

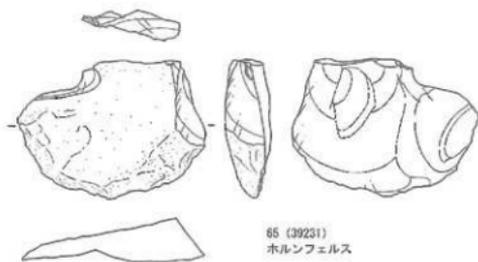


第48図 第三文化層エリアA出土石器(1)



64a (39160)

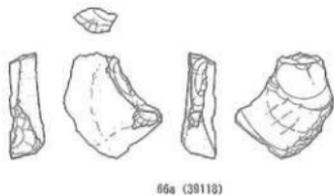
64b (39297)



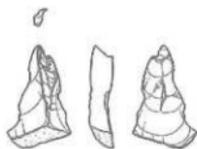
65 (39231)
ホルンフェルス



66
場合 37
碧玉 (赤玉石)



66a (39118)



66b (39228)



第49図 第三文化層エリアA出土石器(2)

3 エリアB

(1) 遺物の分布 (第50図)

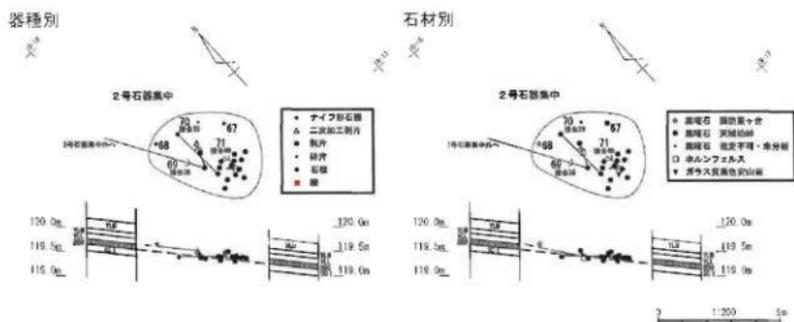
N-16グリッドを中心とする範囲。石器24点、礫1点が分布する。石器は1箇所の集中部を形成して出土(2号石器集中)、礫1点も同範囲から出土した。

2号石器集中 M-16グリッド北西部付近で径約3mの範囲に分布する。出土層位は休場層直下黒色帯を中心にまとまっている。また、P-14グリッド出土の石器と接合関係をもつ石器がある。石材は天城柏峠群の黒曜石が主体を占めている。

第22表 第Ⅲ文化層

エリアB石材別器種組成

	黒曜石		天城柏峠		未分析	ホルンフェルス	ガラス質黒色安山岩	合計
	諏訪屋ヶ台							
ナイフ形石器	1							2
二次加工剥片		1						1
剥片		14	1	1	1			17
礫片					3			3
石核		1						1
合計	1	17	1	1	1	1	1	24



第50図 第Ⅲ文化層エリアB遺物分布図

(2) 出土石器 (第51図)

ナイフ形石器 (67・68)

67は黒曜石(天城柏峠群)製で二側縁加工のもの、68は黒曜石(諏訪屋ヶ台群)製で、基部と右側縁先端部とに面的調整を加えたものである。いずれも基部に打面が残されている。

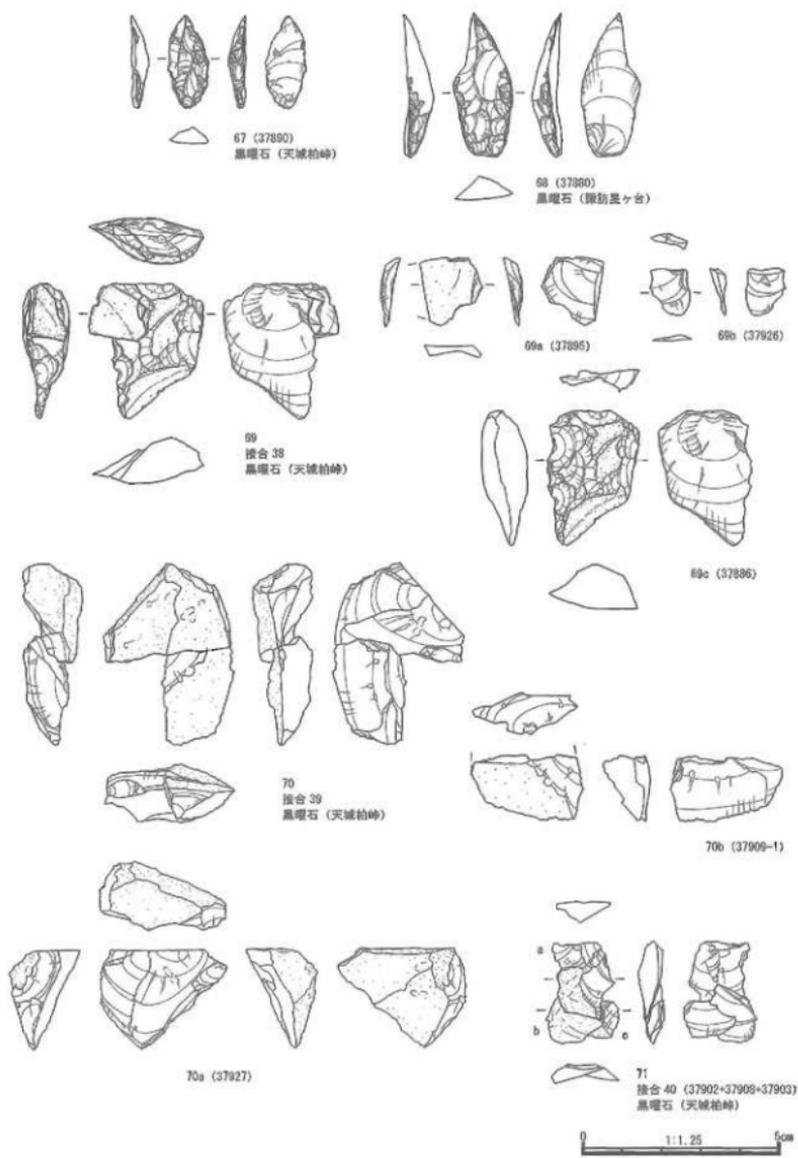
剥片・石核・接合資料 (69～71)

全て黒曜石(天城柏峠群)の接合資料である。69(接合資料38)は鋸歯状厚形調整加工により削器の刃部を作出する際の剥片2点が接合したものである。このうち69aは2号石器集中から約26m北西方向へ離れたP-14グリッドから出土したものである。70(接合資料39)では剥片が折断され一方(70a)が石核となっている。71(接合資料40)は小形の剥片の連続的な剥離を示す。接合資料中のb、cは上半部を折損している。

4 その他の資料 (第53図)

上記のエリアA・Bの範囲外で、石器3点、礫6点が散在的に出土した。石器のうち剥片以外の2点を図示した。

72はY-14グリッドで出土したホルンフェルス製のナイフ形石器である。第Ⅰ黒色帯の最上部から出土しており(第52図)、第Ⅱ文化層に入れるか判断が分かれるところであるが第Ⅲ文化層に含めて提示



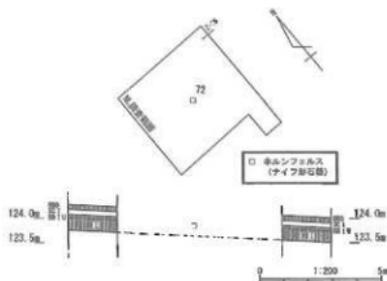
第51図 第三文化層エリアB出土石器

する。先細りの形状の剥片を素材とし、基部両側縁を内湾形に加工し、打面の一部を残置している。石質は風化面が灰白色を呈するもので、愛鷹山麓の遺跡で一般的に出土する黄白色～白色のホルンフェルスとは異なるようである。

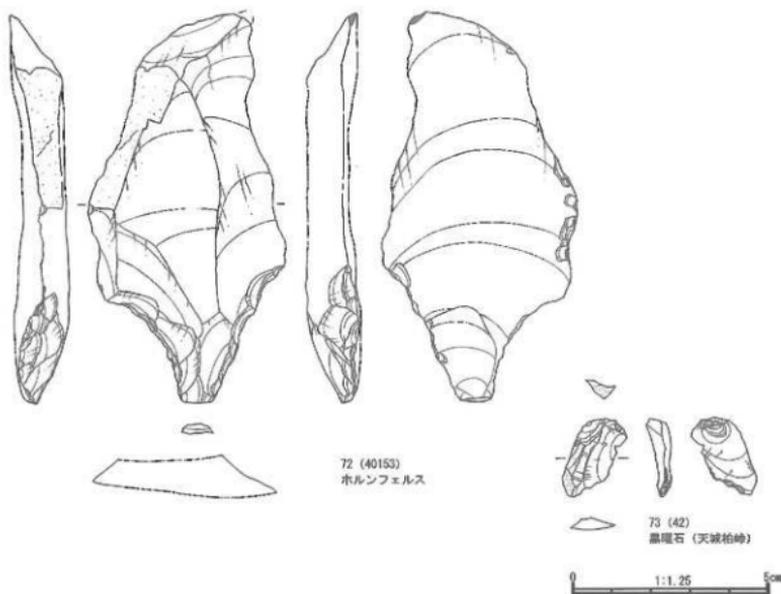
73 は黒曜石（天城柏峠群）製の二次加工剥片である。末端部に腹面への二次加工が施されている。

第23表 第三文化層
エリア外石材別器種組成

	黒曜石 天城柏峠	ホルンフェルス	合計
ナイフ形石器		1	1
二次加工剥片	1		1
剥片		1	1
合計	1	2	3



第52図 ナイフ形石器（第53図72）出土状況図

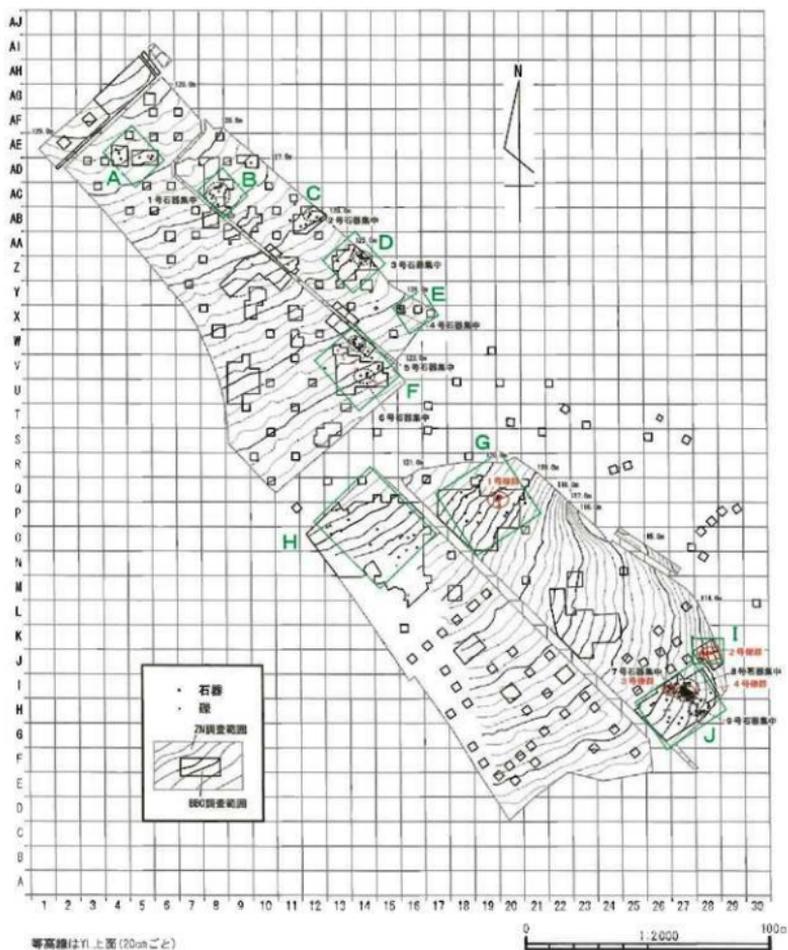


第53図 第三文化層エリア外出土石器

第5節 第IV文化層

1 概要

休場層下位から中位を中心に出土した石器401点、礫176点から成る（第54図、第24表）。資料がまとまって分布する地点は10箇所あり、エリアA～Jとした。さらに石器集中9箇所、礫群4箇所を認定しており、エリアごとの資料と遺物集中の構成は第25表の通りである。



第54図 第IV文化層遺物分布図

第24表 第四文化層石材別器種組成

器種	黒曜石		ホルンエルス			ガラス質黒色安山岩	チャート	白滝頁岩	達貢シルト岩	硬質緑泥岩	デイサイト	輝石安山岩	玄武岩	網紋砂岩	合計
	厚防蓋ヶ倉	和田産山	和田小深沢	和田土産横西	那珂冷山	新根畑宿									
角鋸状石器															1
ナイフ形石器	9			2	4	1				2		7			27
切出形石器				2	2							1			5
楕巻				2	2										6
削器		2			2							1			5
楔形石器												1			1
礫類													1		1
二次加工剥片					1	3						1			6
微細割産直剥片			1		1										2
削片					1										1
剥片	3			1	40	85		1	2	32	7	32	7		215
砕片					1	4				2	110	5			122
石核					1					2	1	1			6
合計	11	3	1	1	50	103	1	7	1	36	117	47	11	1	401

第25表 第四文化層のエリアと遺物集中

エリア	石器集中	礫群	角鋸状石器	ナイフ形石器	切出形石器	楕巻	削器	楔形石器	礫類	二次加工剥片	微細割産直剥片	削片	剥片	砕片	石核	石器合計	礫
A				1	2					1						5	3
B	1号						1						11	2		15	1
C	2号		1							1			6	2		16	0
D	3号			1		1							20	4		27	0
E	4号			2						1			3		1	7	0
F	5号・6号			1	1	2				1		1	21	1		28	11
G	1号			3			1			1			8		1	14	114
H				7	1			1					9	2	1	21	2
I	2号						1						1			2	27
J	7号~9号	3号・4号		10	3	2	2		1	2			132	111	2	265	16
外				2	1								3			7	2
合計	9箇所	4基	1	27	8	7	4	1	1	6	2	1	215	122	6	401	176

2 エリアA

(1) 遺物の分布 (第55図)

AD・AE4・5グリッド付近。石器5点、礫3点が分布する。出土層位は休場層直下黒色帯から休場層下位である。

(2) 出土石器 (第56図)

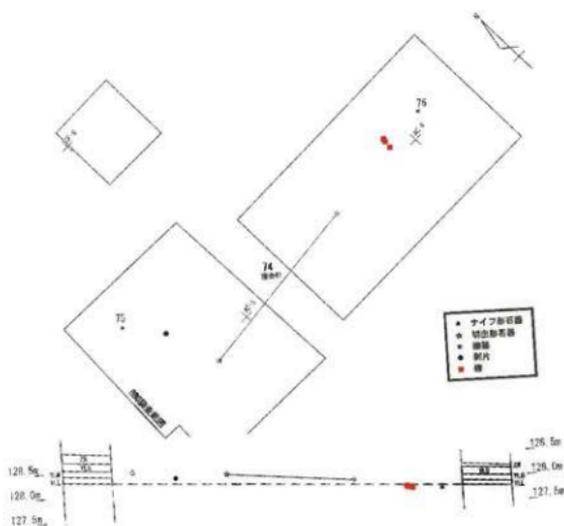
74は黒曜石(天城峠群)製の切出形石器で、素材剥片を横位に用い、左側縁は打面を残し、右側縁は鋸歯状加工で直線状に仕上げている。2つに折れており、約8m離れて出土した。

75はナイフ形石器の基部破片と考えられる資料である。黒曜石(箱根黒岩橋群)製の大型剥片の打面を基部に置き、右側縁を二

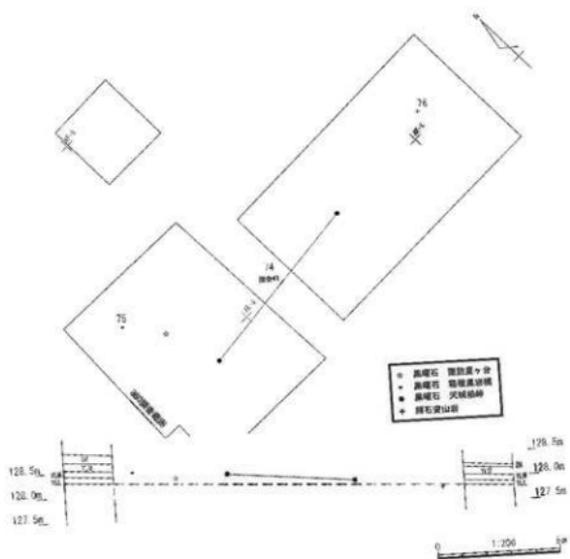
第26表 第四文化層
エリアA石材別器種組成

器種	黒曜石			合計
	厚防蓋ヶ倉	箱根黒岩橋	天城峠峠	
ナイフ形石器		1		1
切出形石器			2	2
楕巻			1	1
削片	1			1
合計	1	1	2	5

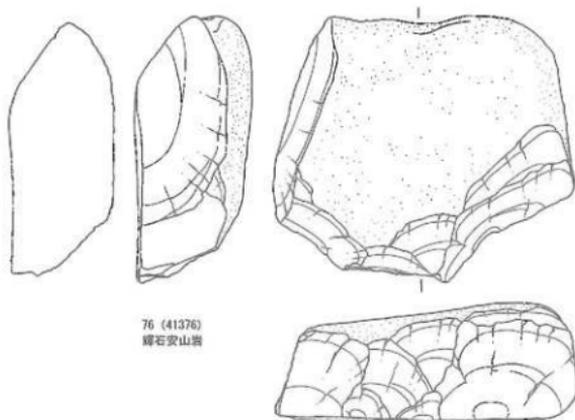
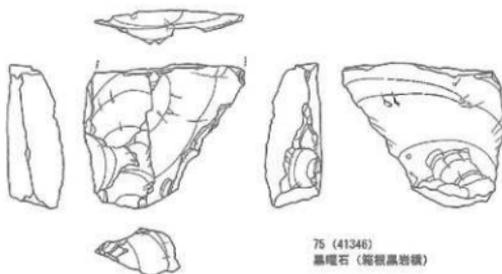
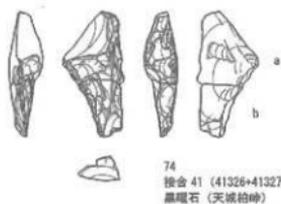
器種別



石材別



第55図 第IV文化層エリアA遺物分布図



第56図 第IV文化層エリアA出土石器

次加工でやや内湾させている。

76は輝石安山岩製の礫器である。平らな形状の亜角礫断片の一辺に片刃の刃部を設けている。刃部角は急斜度で、特に中央部付近では垂直に近くなっている。

3 エリアB

(1) 遺物の分布 (第58図)

AC-8グリッドを中心とする範囲。石器15点、礫1点が分布する。石器は1箇所の集中部を形成して出土(1号石器集中)し、礫1点も同範囲から出土した。

1号石器集中 長径約8mの範囲に分布し、北側に特に集中した分布を示す。出土層位は休場層下位を中心に休場層中位から第Iスコリア層に及ぶ。石器は黒曜石(箱根畑宿群)製のものから成る。

(2) 出土石器 (第57図)

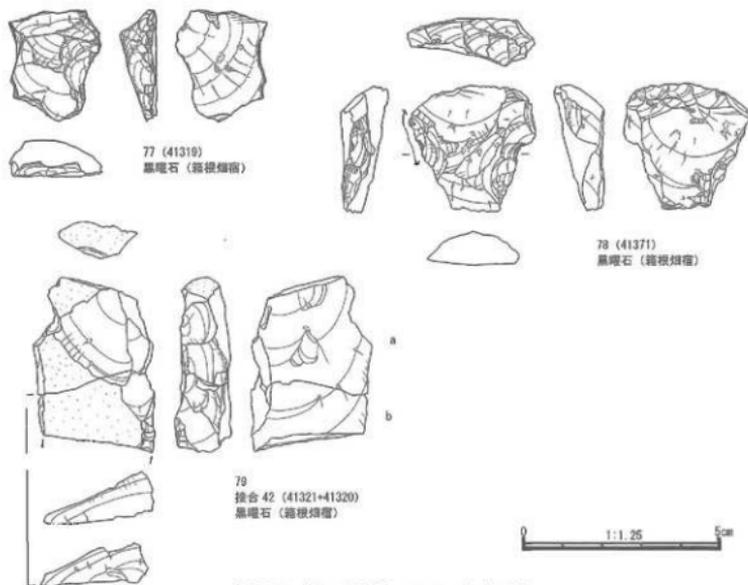
77は黒曜石(箱根畑宿群)製の削器である。右側縁が二次加工で凹字状に整形されている。主に上下の突出部に二次加工されているが、内湾部もエッジ部分に微細剥離痕が顕著に見られる。

78は黒曜石(箱根畑宿群)製の微細剥離痕剥片である。主に左側縁のエッジ部分に微細剥離痕が認められる。

79(接合資料42)は黒曜石(箱根畑宿群)の接合資料である。打面、背面の大部分が角礫面の縦長剥片が3つ以上に折れたうちの2点が接合している。右側縁側は大きく剥離されており、石核として利用されていた可能性もある。

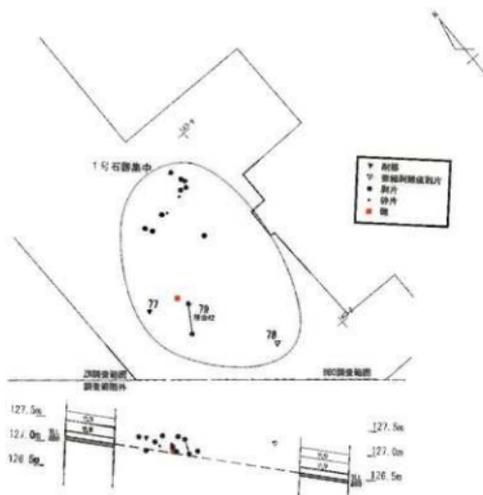
第27表 第四文化層
エリアB石材別器種組成

	黒曜石		合計
	箱根畑宿群	衆分析	
削器	1		1
微細剥離痕剥片	1		1
剥片	11		11
砕片	1	1	2
合計	14	1	15

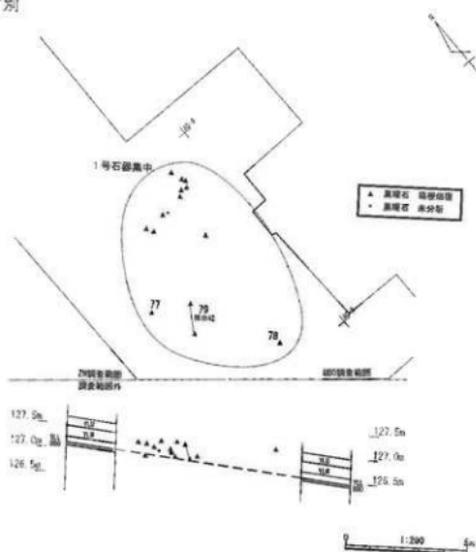


第57図 第四文化層エリアB出土石器

器種別



石材別



第58図 第IV文化層エリアB遺物分布図

4 エリアC

(1) 遺物の分布 (第60図)

AB-12 グリッドを中心とする範囲。石器 10 点が分布する。分布はやや散漫であるが東側の分布域を2号石器集中とした。

2号石器集中 長径約8mの範囲に石器6点が分布する。出土層位は調査時の所見によれば休場層直下黒色帯である。

(2) 出土石器 (第59図)

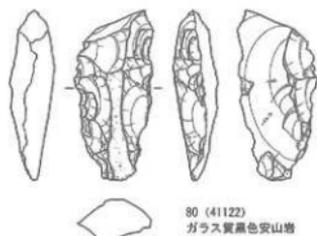
80はガラス質黒色安山岩製の角錐状石器である。幅広剥片を横位に用い、打面側で表裏、末端側で表面へ二次加工し、結果的に横断面形は扁平な菱形に近くなっている。

81は黒曜石(箱根畑宿群)製の二次加工剥片である。縦長剥片が折損したものであり、右側縁に二次加工が認められる。

82(接合資料43)は黒曜石(箱根畑宿群)製の剥片である。

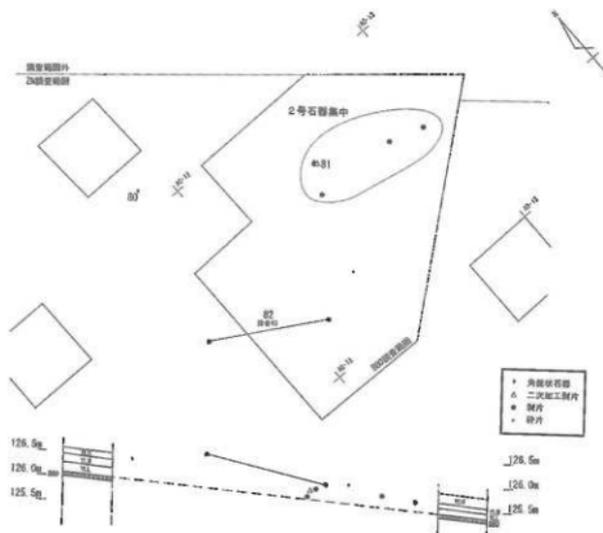
第28表 第IV文化層
エリアC石材別器種組成

	黒曜石	ガラス質黒色安山岩	合計
角錐状石器		1	1
二次加工剥片	1		1
剥片	1	5	6
碎片		2	2
合計	1	6	7

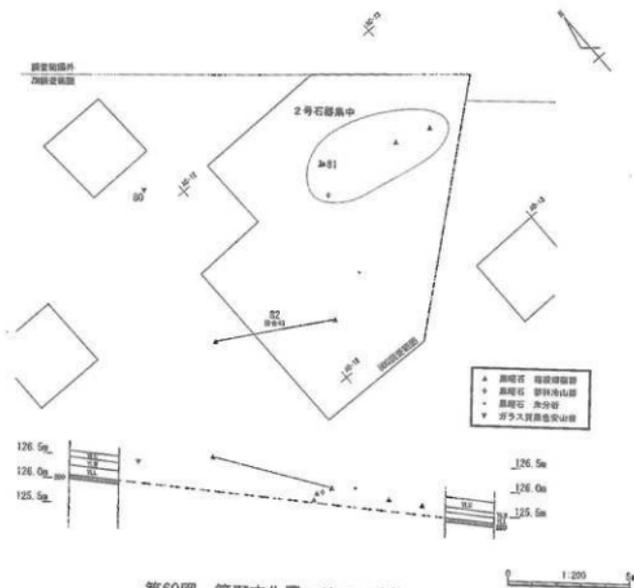


第59図 第IV文化層エリアC出土石器

器種別



石材別



第60図 第IV文化層エリアC遺物分布図

0 1:200 5m

5 エリアD

(1) 遺物の分布 (第61図)

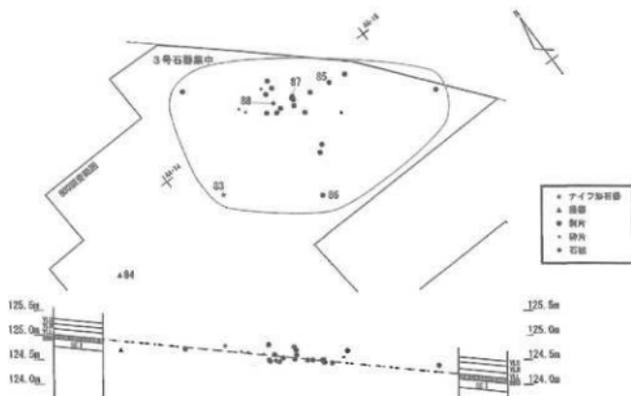
AA・Z-14グリッドを中心とする範囲。石器27点が分布し、このうちまとまって分布するものを3号石器集中とした。石器集中外の1点(珪質シルト岩製)以外の石器は全てホルンフェルス製である。

3号石器集中 長径約10mの範囲に石器26点が分布する。出土層位は休場層下位を中心に、休場層直下黒色帯から漸移層に及ぶ。

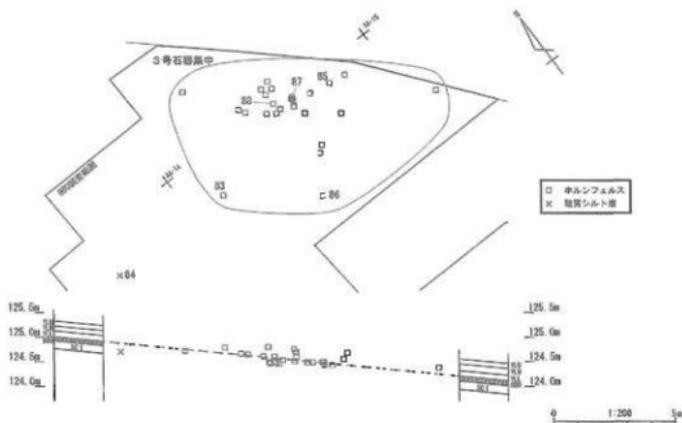
第29表 第四文化層
エリアD石材別器種組成

	ホルンフェルス	珪質シルト岩	合計
ナイフ形石器	1	1	1
種類	1	1	1
剥片	20	20	40
碎片	4	4	8
石核	1	1	2
合計	26	1	27

器種別

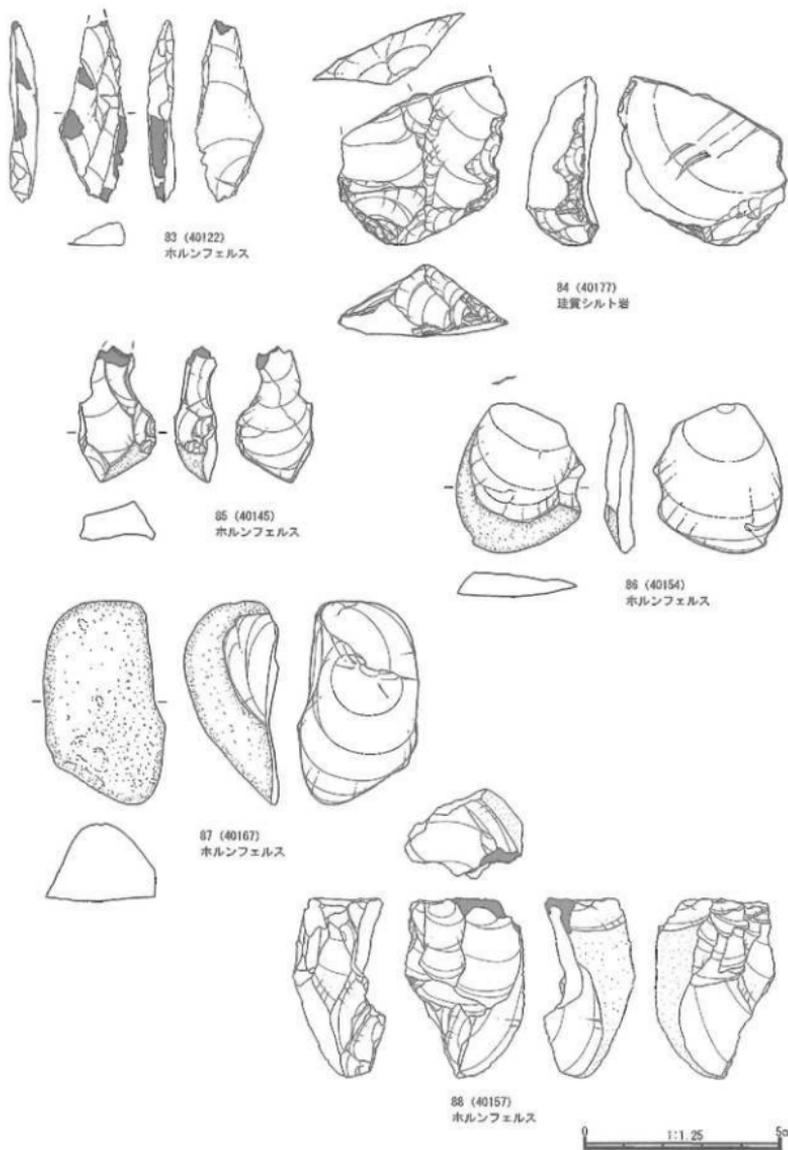


石材別



第61図 第四文化層エリアD遺物分布図

0 1:200 5m



第62図 第四文化層エリアD出土石器

(2) 出土石器 (第62図)

ナイフ形石器 (83)

ホルンフェルス製、石刃素材で二側縁加工のものと見られる。風化による劣化・損傷が激しい。

掻器 (84)

珪質シルト岩製で、厚手の剥片の端部右半分に弧状の刃部が設けられている。上部は折損している。

剥片・石核 (85～88)

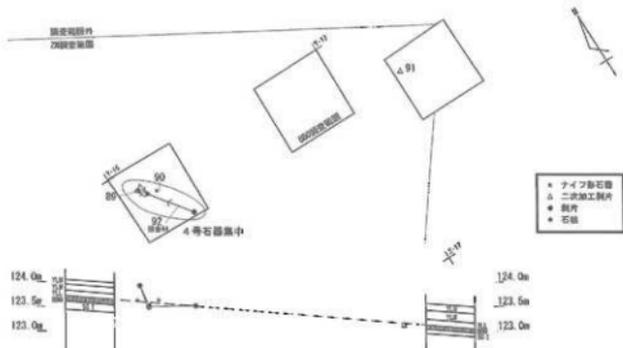
全てホルンフェルス製である。石核 (88) にはやや縦長の剥片が剥離された傾向が窺われるが、伴って出土している剥片 (85～87) は必ずしもそうではない。

6 エリアE

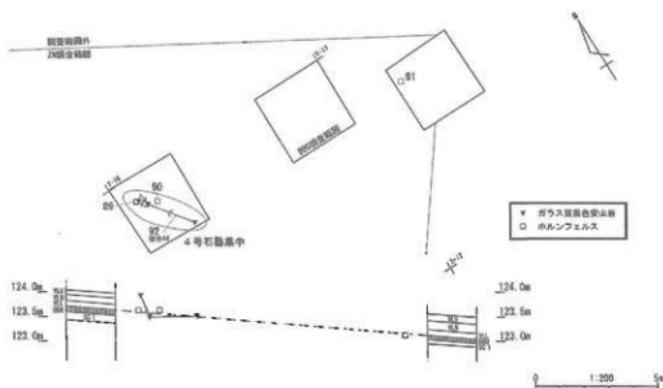
(1) 遺物の分布 (第63図)

X-16グリッドを中心とする範囲。石器7点が分布し、このうちまとまって分布するものを4号石器集

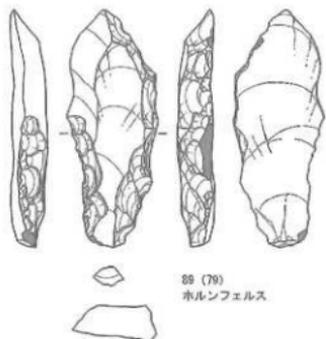
器種別



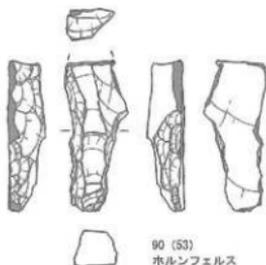
石材別



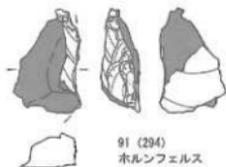
第63図 第IV文化層エリアE遺物分布図



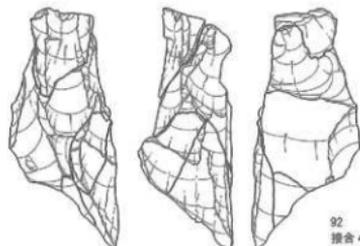
88 (79)
ホルンフェルス



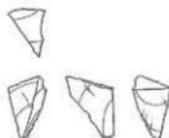
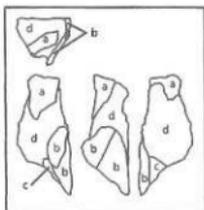
90 (53)
ホルンフェルス



91 (294)
ホルンフェルス

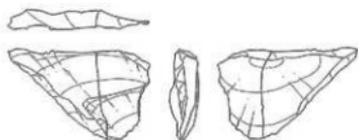


92
標舎 44
ガラス黄黒色火山岩

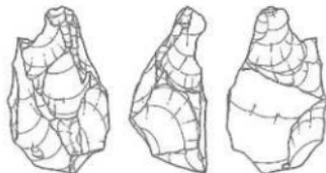


92a (54)

92a (51)



92b (78)



92d (52)



第64図 第IV文化層エリアE出土石器

中とした。

4号石器集中 長径約3mの範囲に石器6点が分布する。出土層位は調査時の記録によれば休場層中位を中心とする。

(2) 出土石器 (第64図)

ナイフ形石器 (89・90)

2点ともホルンフェルス製である。89は基部に打面を残し、鋸歯状厚形調整により二側縁加工を施している。90は器体上部を欠くため断定はできないが、素材の用い方が逆であるもの89同様の加工による二側縁加工となっており、類品の可能性がある。

二次加工剥片 (91)

ホルンフェルス製で風化による損傷が著しいが、鋸歯状厚形調整加工の痕跡が認められる。89・90のようなナイフ形石器の断片の可能性もある。

接合資料 (92)

92 (接合資料 44) はガラス質黒色安山岩の剥片3点、石核1点から成る。基本的には上方から縦長剥片が剥離されているが、最後に下方に打面転移して92b、92cが剥離される。

第30表 第IV文化層
エリアE石材別器種組成

	ホルンフェルス	ガラス質黒色安山岩	合計
ナイフ形石器	2		2
二次加工剥片	1		1
剥片		3	3
石核		1	1
合計	3	4	7

7 エリアF

(1) 遺物の分布 (第65・66図)

V・W-14グリッドを中心とする範囲。石器28点、礫11点が分布し、石器がまとまる範囲を5号石器集中・6号石器集中とした。第Ⅲ文化層エリアAの石器群と範囲が重複する。

5号石器集中 (第32表) 径約5mの範囲に石器15点が分布する。出土層位は休場層直下黒色帯から休場層上位に及ぶ。黒曜石 (礫料冷山群) 製のものがまとまって出土している。

6号石器集中 (第33表) 径約4mの範囲に石器5点が分布する。出土層位は休場層下位を中心とする。

第31表 第IV文化層エリアF
石材別器種組成

	黒曜石	ガラス質黒色安山岩	合計
ナイフ形石器		1	1
切出形石器		1	1
礫	2		2
二次加工剥片	1		1
剥片	1		1
剥片	10	2	12
剥片		1	1
合計	22	4	26

(2) 出土石器 (第67図)

ナイフ形石器 (93)・切出形石器 (94)

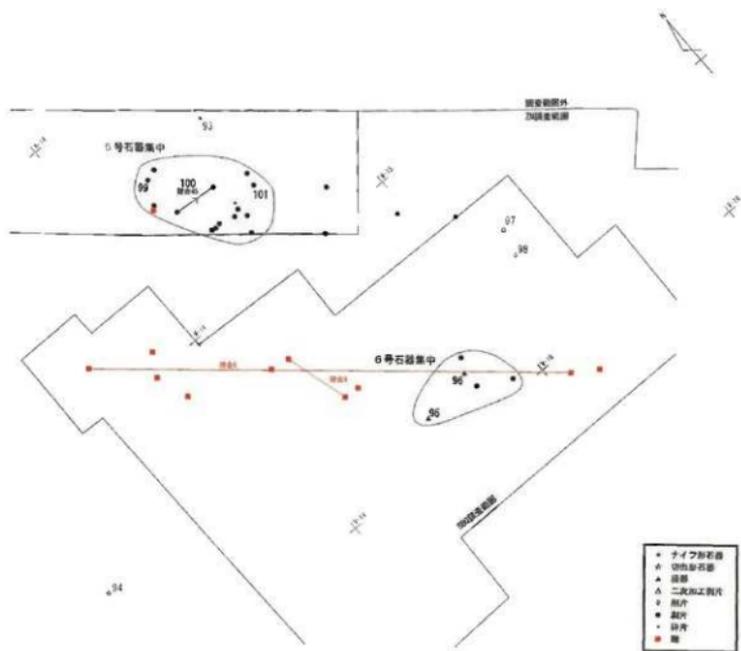
ともに黒曜石 (天城柏峠群) 製。93は素材剥片を横位に用い、打面側に背部加工した二側縁加工となっている。94も素材剥片を横位に用い、右側縁の他、裏面にも二次加工が施されている。

第32表 第IV文化層
5号石器集中石材別器種組成

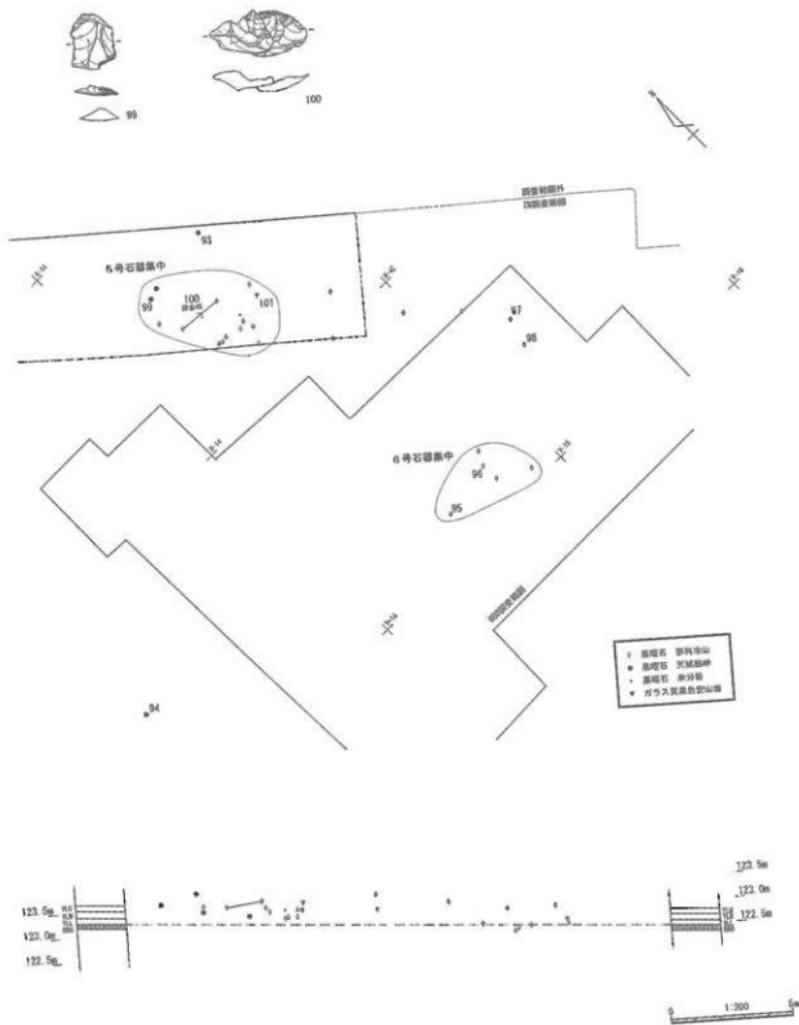
	黒曜石	ガラス質黒色安山岩	合計
剥片	11	2	13
剥片		1	1
合計	11	3	14

第33表 第IV文化層
6号石器集中石材別器種組成

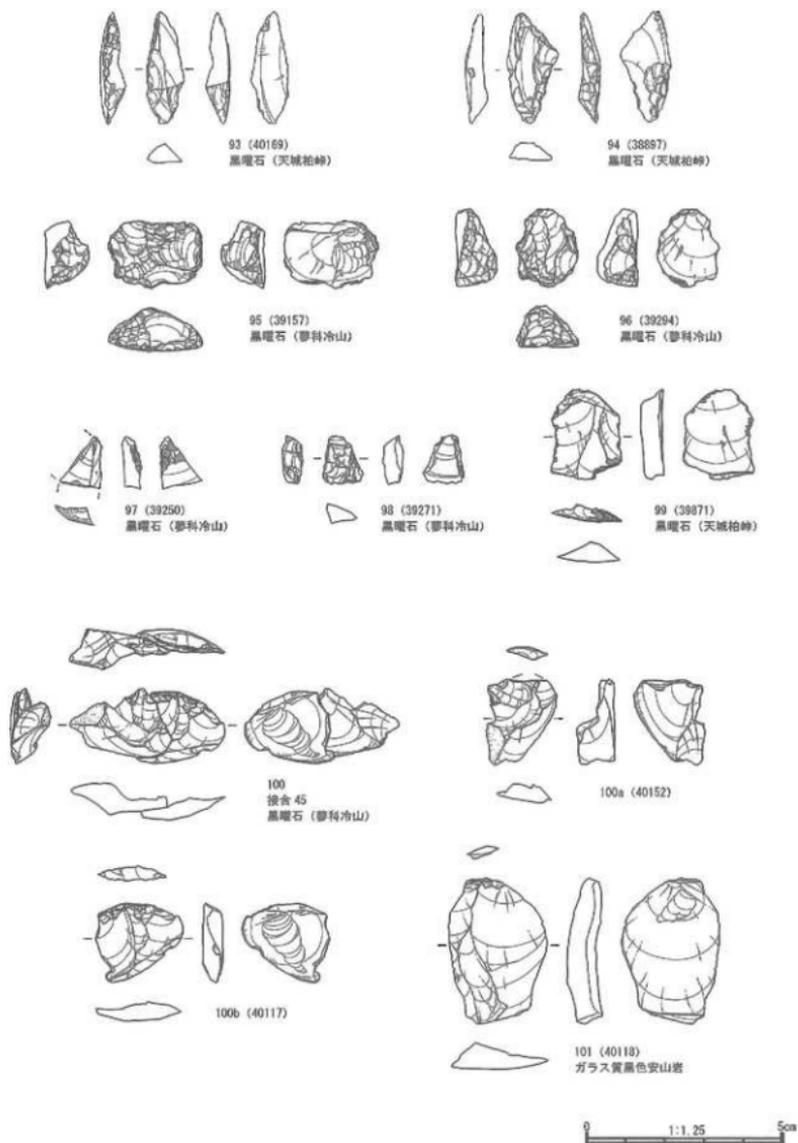
	黒曜石	合計
礫	2	2
剥片	3	3
合計	5	5



第65図 第IV文化層エリアF器種別分布図



第66図 第IV文化層エリアF石材別分布図



第67図 第IV文化層エリアF出土石器

播器 (95・96)

ともに黒曜石（蓼科冷山群）製。素材の末端側を大きく削り、急斜度の刃部を作出している。刃部は突出部をもち、やや鋸歯状を呈する。

二次加工剥片 (97)

黒曜石（蓼科冷山群）製。腹面側に平坦剥離が施されているが、小片のため元の形状は不明である。

削片・剥片・接合資料 (98～101)

98は黒曜石（蓼科冷山群）製の削片と考えられる資料である。両面調整された石器の端部から剥離されたことが窺われ、有頭尖頭器に関連するものの可能性がある。

99・100(接合資料 45)は黒曜石製の削片及び接合資料である。天城柏峠群、蓼科冷山群のものがあるが、いずれも図のように寸詰まりの剥片である。101はガラス質黒色安山岩製の剥片である。この石材はこの1点のみであった。

8 エリアG

(1) 遺物の分布 (第69・70図)

P-19 グリッド周辺の範囲。石器 14 点、礫 114 点が分布する。石器は散在するが、礫は Q-20 グリッド付近でまとまっており、これを 1 号礫群とした。

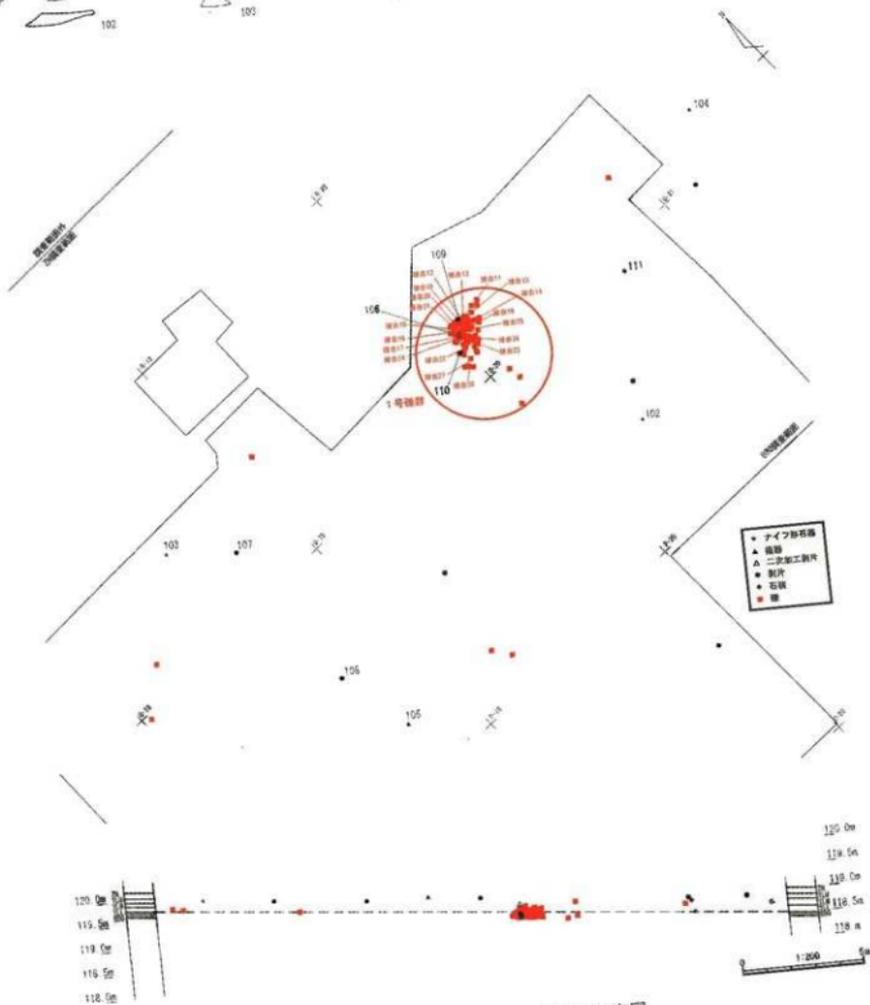
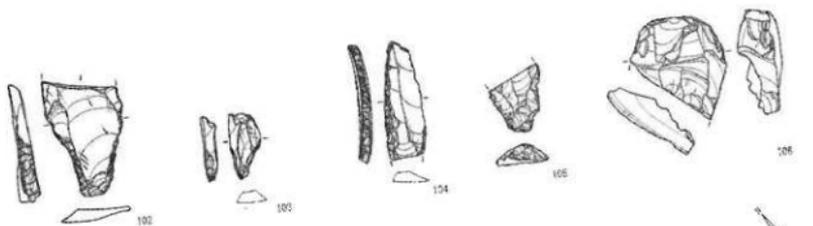
1 号礫群 (第 68 図) 径約 5 m の範囲で礫 108 点から成る。大半の礫は径 2 m の範囲に密集し、出土層位は休場層下位から休場層直下黒色帯に及ぶ。赤化、黒色付着物など被熱痕跡をもつ礫が 40 点含まれる。周辺の石器群との関係は不明だが第 71 図 106、第 72 図 109・110 は礫群の範囲内から出土している。

第34表 第IV文化層エリアG石材別器種組成

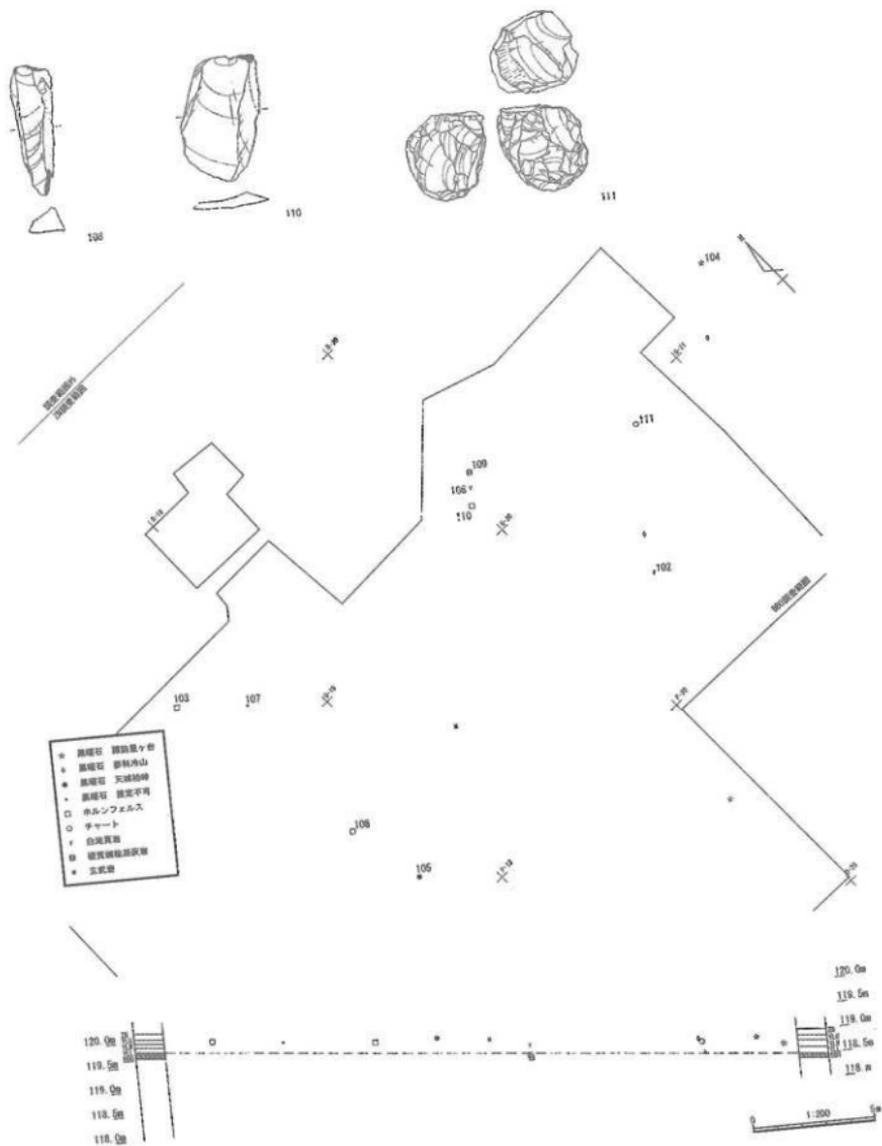
	黒曜石				ホルンフェルス	チャート	白滝頁岩	硬質凝灰岩	玄武岩	合計
	諏訪尾ヶ台	蓼科冷山	天城柏峠	推定不可						
ナイフ形石器	1				1		1			3
播器			1							1
二次加工剥片							1			1
削片	1	2		1	2			1	1	8
石柱							1			1
合計	2	2	1	1	3	1	2	1	1	14



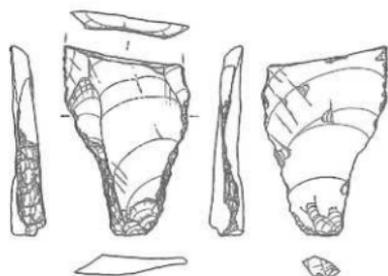
第68図 第IV文化層（エリアG）1号礫群



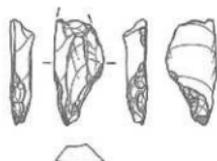
第69図 第IV文化層エリアG器種別分布図



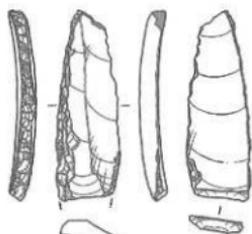
第70図 第IV文化層エリアG石材別分布図



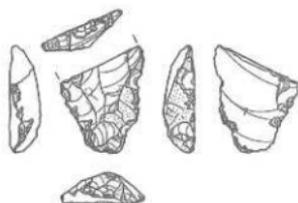
102 (32455)
白滝頁岩



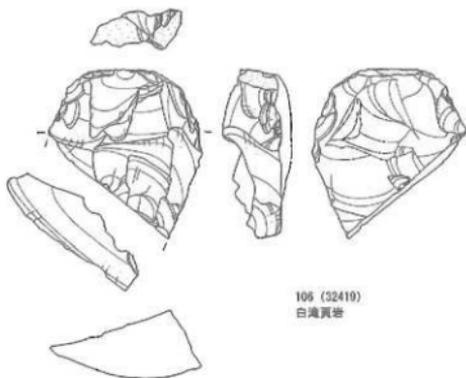
103 (32460)
ホルンフェルス



104 (30134)
黒曜石 (諏訪屋ヶ谷)



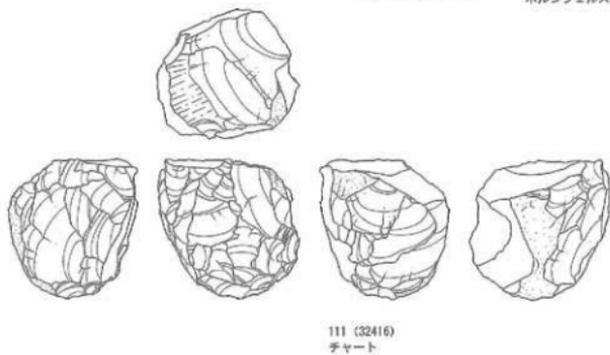
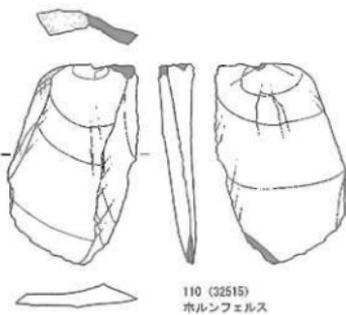
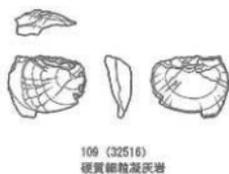
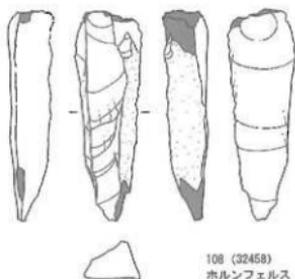
105 (32461)
黒曜石 (天城峠峠)



106 (32410)
白滝頁岩



第71図 第IV文化層エリアG出土石器(1)



第72図 第IV文化層エリアG出土石器(2)

(2) 出土石器 (第71・72図)

ナイフ形石器 (102～104)

102は白滝頁岩製で、打面を残置し、基部両側に内湾する二次加工を入れている。器体上部は折れている。石材は暗黄灰色の地に黒褐色の斑文が入るもので、典型的な白滝頁岩の特徴をもつ(註1)。103はホルンフェルス製で、縦長剥片を素材とし、両側縁に基部加工を施しており、特に右側縁を内湾させている。先端は折損している。104は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製の石刃状剥片を素材とした二側縁加工のものである。基部及び先端を欠く。

搔器 (105)

黒曜石(天城柏峠群)製で、縦長剥片の末端部に刃部を設けている。二次加工は側縁にも断続的に認められる。

二次加工剥片 (106)

白滝頁岩製で、102に類似した特徴をもつ石質である。厚手の剥片素材で打面を残し、その周縁に二次加工が施されており、末端側は折れている。

剥片・石核 (107～111)

種々の石材が出土している。黒曜石製のものは107の剥片をはじめ概して小形である。硬質細粒凝灰岩は109の剥片1点のみである。ホルンフェルスは縦長剥片が2点見られる(108・110)。チャートも111の石核1点のみで、打面転移を繰り返してサイコロ状の形態となっている。他に玄武岩製の剥片1点が出土した。

9 エリアH

(1) 遺物の分布 (第73・74図)

O・P-13～16周辺の範囲。石器21点、礫2点が広い範囲に散在する。休場層を中心に暗褐色土層から出土したものもある。ほぼ同層位のP-14グリッドの出土資料1点が下層の第Ⅲ文化層出土石器と接合しており(69a:接合資料38)、資料の混在の可能性も考えられる。

(2) 出土石器 (第75図)

ナイフ形石器 (112～118)

112～117は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製で、いずれも縦長剥片を素材とする二側縁加工品である。

118はホルンフェルス製で、風化による劣化が激しく両端は失われているが、石刃状剥片を素材とする二側縁加工であったと見られる。

切出形石器 (119)

黒曜石(蓼科冷山群)製。素材打面は正面右側縁からの剥離が左側縁まで及ぶことにより消滅している。

削器 (120)

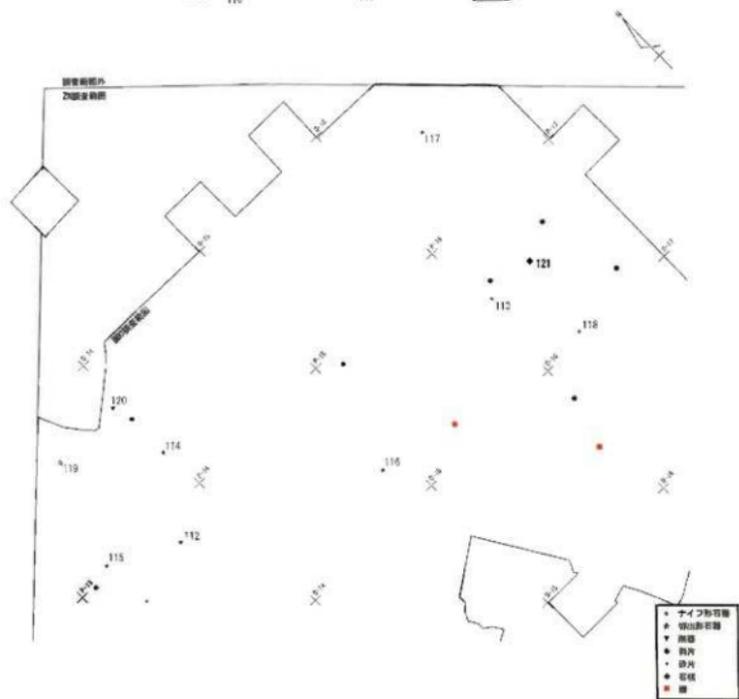
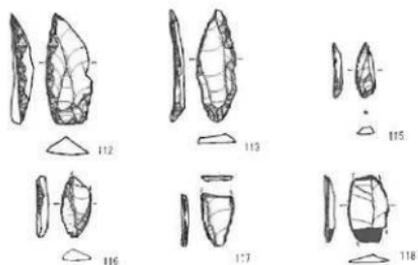
黒曜石(和田鷹山群)製の縦長剥片の右側縁に二次加工を施したもの。打面を残し、末端は蝶番状となっている。本遺跡の旧石器時代資料中では最大の黒曜石資料である。

石核 (121)

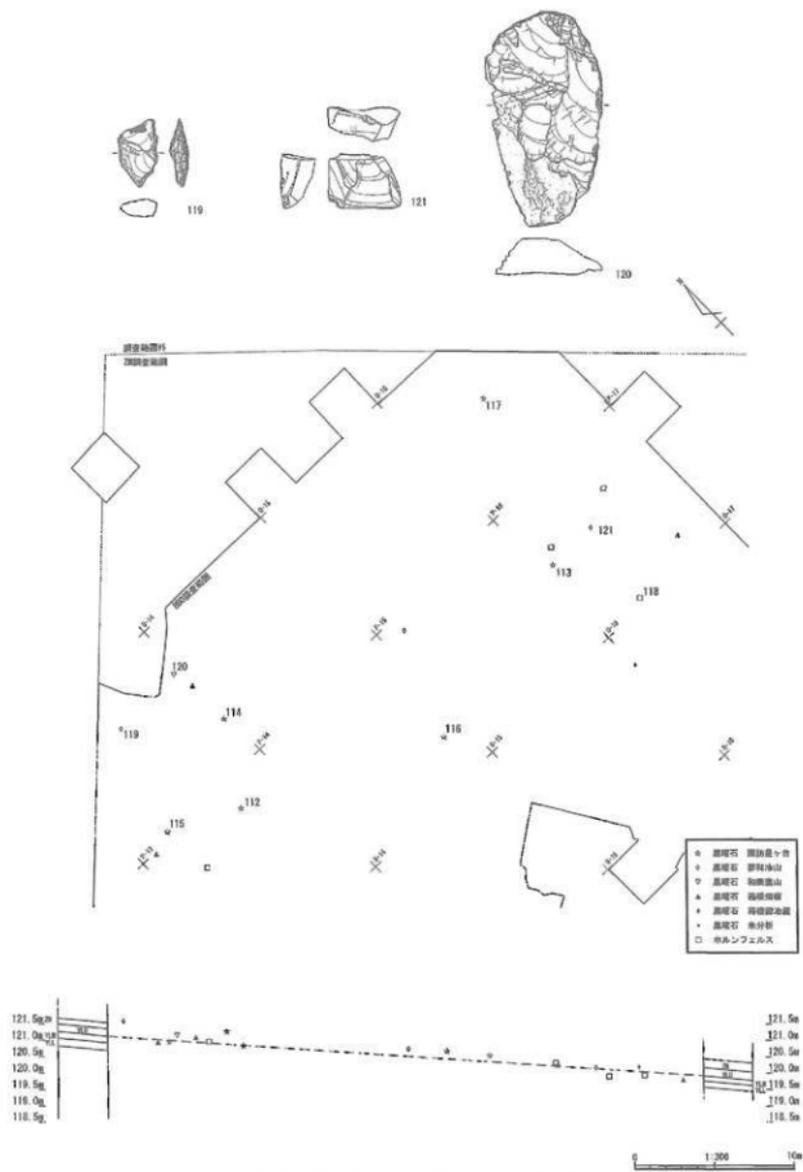
黒曜石(蓼科冷山群)製で折断剥片を素材とする。

第35表 第四文化層エリアH石材別器種組成

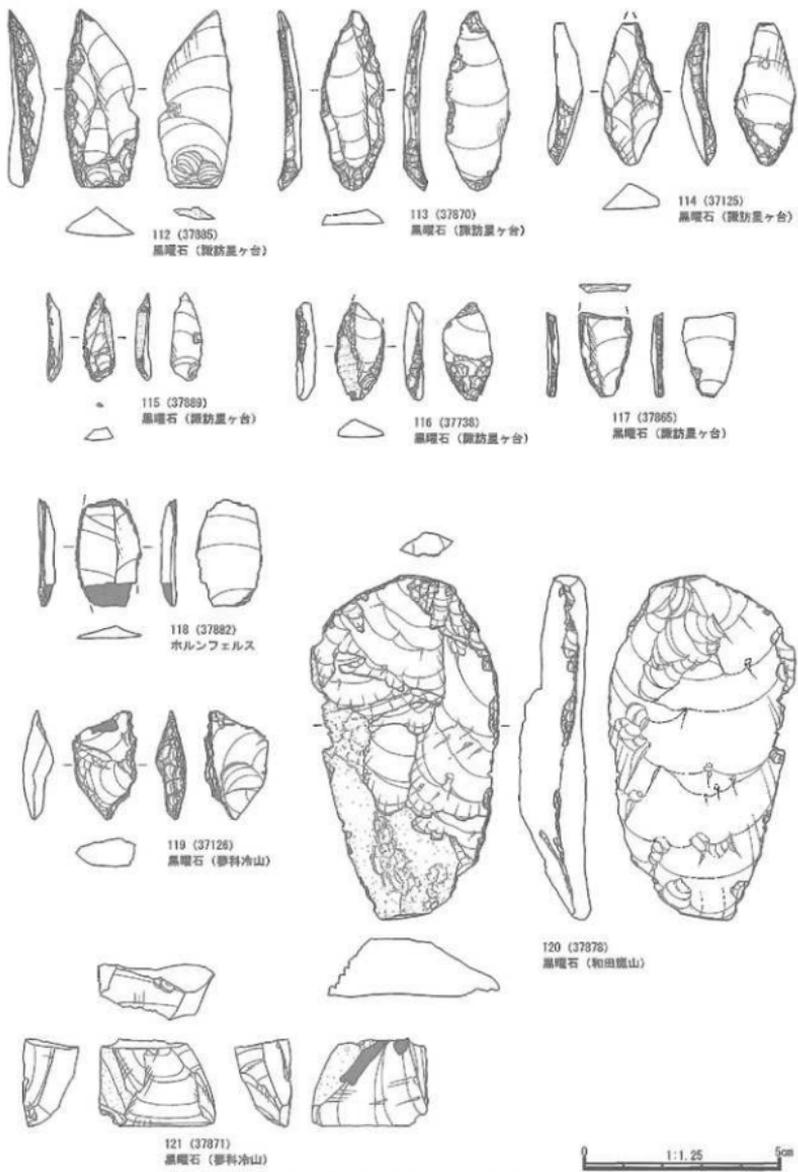
	諏訪星ヶ台	和田鷹山	蓼科冷山	箱根御座	箱根御座	未分析	ホルンフェルス	合計
ナイフ形石器	6						1	7
切出形石器			1					1
削器		1						1
剥片			1	3	1		4	9
砕片							1	1
石核			1					1
合計	6	1	3	3	1	1	6	21



第73図 第IV文化層エリアH器種別分布図



第74図 第IV文化層エリアH石材別分布図



第75図 第IV文化層エリアH出土石器

10 エリア1

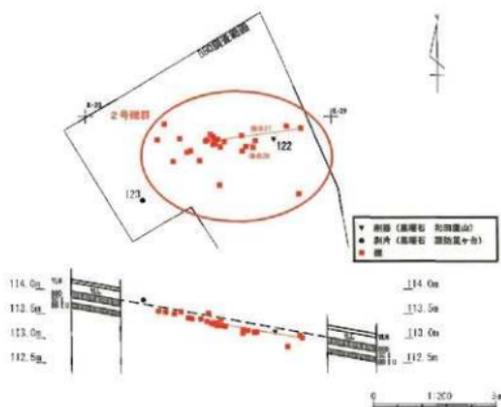
(1) 遺物の分布 (第76図)

J28グリッドを中心に石器2点、礫27点が出土した。礫はほぼ1箇所にまとまって出土しており、これを2号礫群とする。出土層位は調査時の記録によると休場層下位にまとまっている。

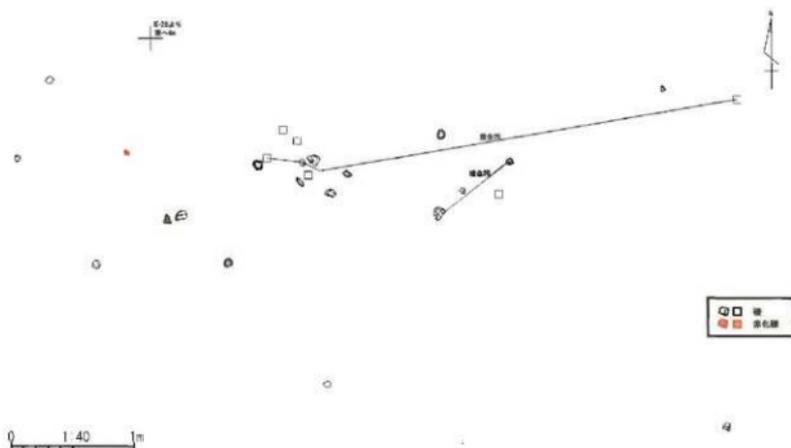
2号礫群(第77図) 東西約6mの範囲に分布する。礫27点中、赤化したもの1点、付着物のあるもの5点がある。

第36表 第IV文化層
エリア1:石材別器種組成

	黒曜石		合計
	諏訪屋ヶ台	和田産山	
削片		1	1
割片	1		1
合計	1	1	2



第76図 第IV文化層エリア1 遺物分布図



第77図 第IV文化層(エリア1) 2号礫群

(2) 出土石器 (第78図)

122は黒曜石(和田鷹山群)製の削器である。左側縁の上半と右側縁の下半に抉入状の刃部を設けている。123は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製の石刃状剥片である。調整打面で、頭部調整が顕著である。



第78図 第IV文化層エリアI出土石器

11 エリアJ

(1) 遺物の分布 (第80・81図)

H・I-27・28グリッドを中心とする範囲。石器265点、鏝16点が分布し、それぞれ分布がまとまる範囲を7号～9号石器集中、3・4号鏝群とした。

第37表 第IV文化層エリアJ石材別器種組成

	黒曜石							ガラス質黒色安山岩	ホルンフェルス	未分析	推定不可	神津島黒曜岩	羅根燧石	夢科赤山	和田鷹山	諏訪星ヶ台	ダイヤサイト	合計
	1	1	2	3			2											
ナイフ形石器	1	1	2	3			2	1										10
切出形石器				1	1													3
掻器					2													2
削器					1												1	2
楔形石器							1											1
二次加工剥片					2													2
剥片				18	66		31	7	6	3	1							132
破片		1	3			2	105											111
石植									1									2
合計	1	1	22	78	1	35	112	8	5	2								265

7号石器集中(第38表) 3号鏝群と重複し、径約4mの範囲に分布する石器12点から成る。調査時の記録によると出土層位は休場層中位主体であり、8号石器集中よりやや上位に来る傾向があるが、構成石材等が共通するため同一文化層とした。

8号石器集中(第39表) 4号鏝群と重複し、径約9mの範囲に分布する石器223点から成る。出土層位は休場層中位から下位を中心とする。

第38表 第IV文化層
7号石器集中石材別器種組成

	黒曜石		ホルンフェルス	デイスサイト	合計
	箱根産	推定不可			
張器	1				1
剥片	6	1	2		9
石核			1	1	2
総計	7	1	3	1	12

第39表 第IV文化層8号石器集中石材別器種組成

	黒曜石				ホルンフェルス	ガウス黄黒色安山岩	合計
	箱根産	夢科冷山	箱根産	神津島産			
ナイフ形石器	1	3		2			6
切出形石器		1			1		2
張器	1						1
削器	1					1	2
楔形石器		1					1
二次加工剥片		2					2
剥片	11	51		25	7	2	99
砕片	1	3		2	104		110
合計	13	62	1	29	111	2	223

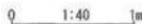
第40表 第IV文化層9号石器集中石材別器種組成

	黒曜石			デイスサイト	合計
	原坊屋ヶ台	夢科冷山	箱根産		
ナイフ形石器	1	2			3
切出形石器					
剥片	6	5	5	1	17
砕片				1	1
合計	7	7	5	1	21

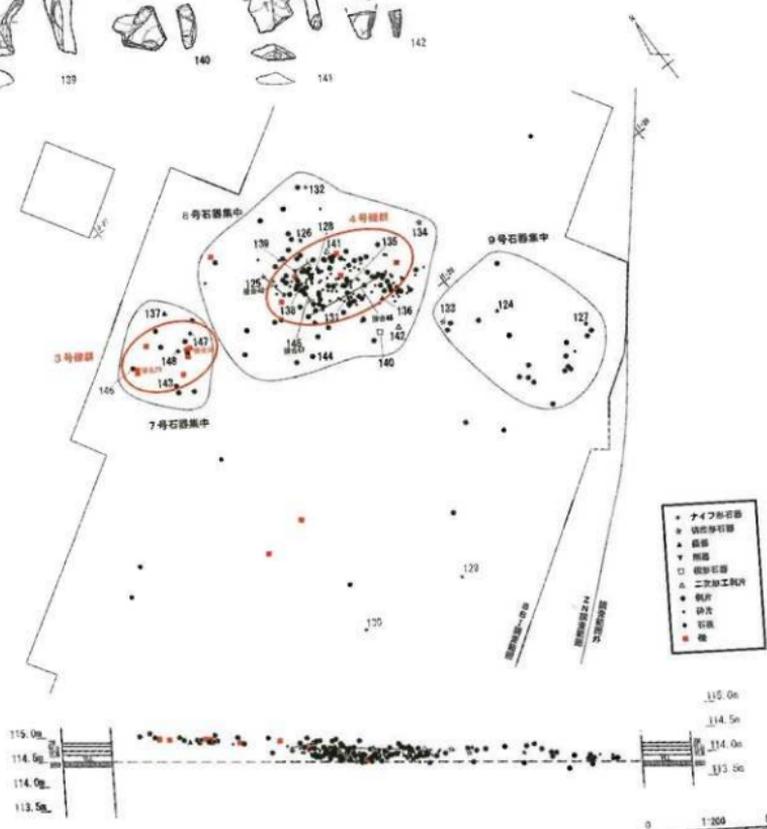
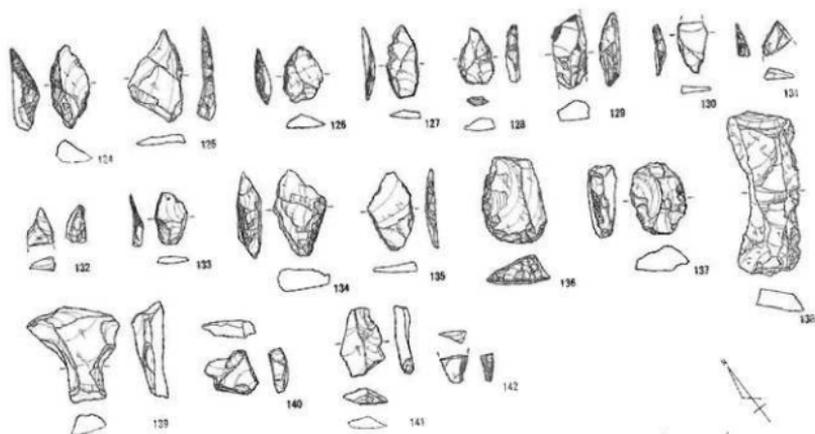
3号礫群



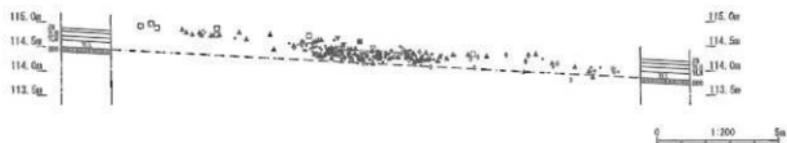
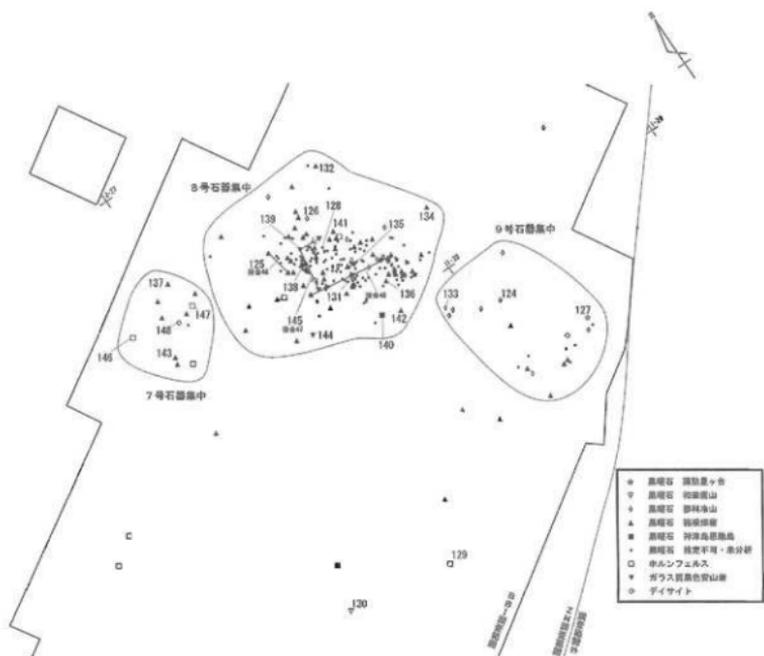
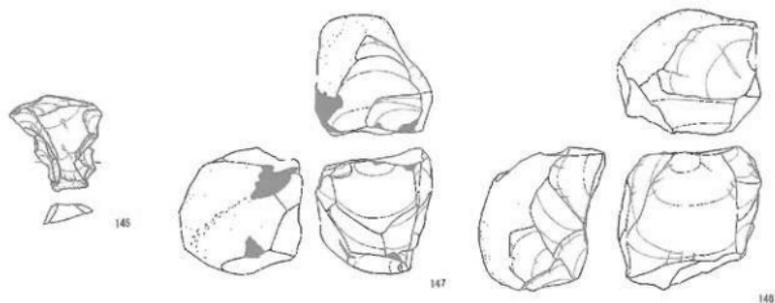
4号礫群



第79図 第IV文化層(エリアJ) 3号・4号礫群



第80図 第IV文化層エリアJ器種別分布図



第81図 第IV文化層エリアJ 石材別分布図

9号石器集中(第40表) 径約6mの範囲に分布する石器21点から成る。出土層位は休場層中位を中心とする。

3号礫群(第79図) 径約2mの範囲に分布する礫8点から成る。長径約20cmの礫の周囲に小形礫が散在するもので、被熱痕跡のある礫はない。出土層位は休場層中位である。

4号礫群(第79図) 礫5点から成る。いずれも長径10cm前後の礫で、被熱痕跡は見られない。分布は径約5mの範囲にやや分散しており、出土層位は休場層中位・下位である。

(2) 出土石器(第82～86図)

ナイフ形石器(124～132)

124は黒曜石(蓼科冷山群)製で、右側縁表面の平坦調整で素材を薄くした後、右側縁表面へ背部加工を入れている。125は黒曜石(箱根畑宿群)製幅広剥片を横位に用い、打面側は残して素材末端側に背部加工を施している。126は黒曜石(蓼科冷山群)製で、左側縁を背部としており、右側縁の刃部には微細剥離痕が連続している。127は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製、二側縁加工で刃部には損傷と見られる挟入状の剥離が入っている。128は黒曜石(分析不可だが恐らく畑宿産)製、二側縁加工で基部に素材打面を残している。129はホルンフェルス製で、風化のため劣化し上下部を欠いているが、右側縁に鋸歯状厚形調整加工が施されている。130～132はナイフ形石器の破片と考えられる資料である。132は比較的厚形で鋸歯状厚形調整加工が施されたものと見られる。

切出形石器(133～135)

133は黒曜石(蓼科冷山群)製で、寸詰まりの剥片の打面を基部とし、左側縁に側縁加工し、右側縁には素材剥離面を残したものである。134は黒曜石(箱根畑宿群)製で、素材剥片を横位に用い、左側縁に二次加工、右側縁に素材打面を残している。135はガラス質黒色安山岩製で素材剥片を斜位に用い、両側縁に二次加工を施している。

掻器(136・137)

136は黒曜石(箱根畑宿群)製で厚手剥片の末端から左側縁に二次加工が施されている。137は黒曜石(箱根畑宿群)製で、両側縁に弧状の刃部加工がなされている。

削器(138・139)

138は黒曜石(箱根畑宿群)製で縦長剥片の右側縁に二次加工が施されている。139はガラス質黒色安山岩製で、両側縁に挟入状の加工が入っている。

楔形石器(140)

黒曜石(神津島恩馳島群)製で上下端に潰れがある。神津島恩馳島群の黒曜石はこの1点のみだが、同産地の黒曜石は上層に多く分布していたことから、混在の可能性も否定できない。

二次加工剥片(141・142)

いずれも黒曜石(箱根畑宿群)製。141は縦長剥片の末端に二次加工がある。142は小片だが片側縁に二次加工が連続しているようであり、ナイフ形石器の可能性がある。

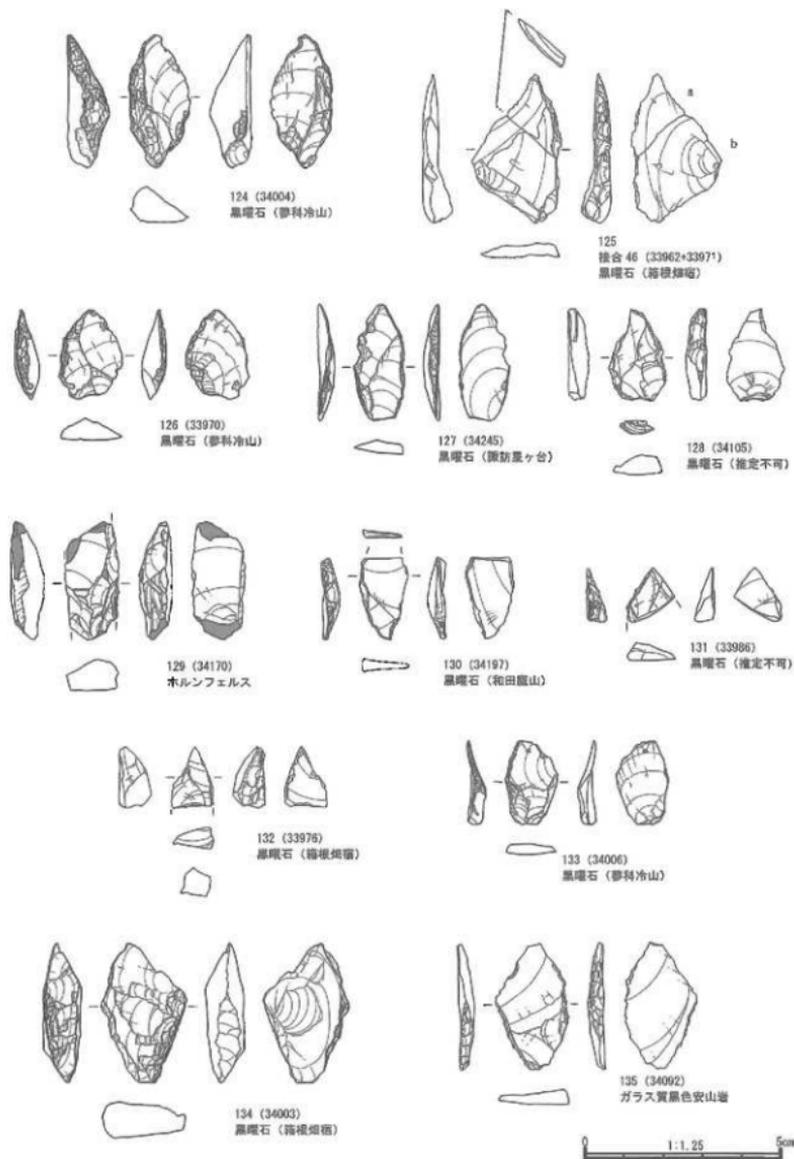
剥片・石核・接合資料(143～148)

黒曜石は箱根畑宿群が主体で、寸詰まりの形態の剥片(143)が多い。

ガラス質黒色安山岩の資料は図示した2点(144、145)で全てである。比較的厚手で、礫面が見られる。145(接合資料47)は削器(139)の両側縁に刃部加工時の剥片が接合したものである。

ホルンフェルスは剥片6点、石核1点が出土した(146、147)。147は亜円礫素材の石核で、両設打面から幅広の剥片が剥離されている。

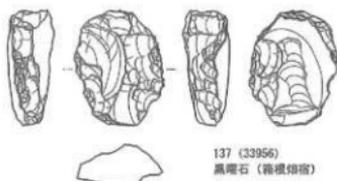
デイサイトは2点出土した。148は亜円礫素材の石核で、打面転移で裏面以外が剥離面となっている。



第82図 第IV文化層エリアJ出土石器(1)



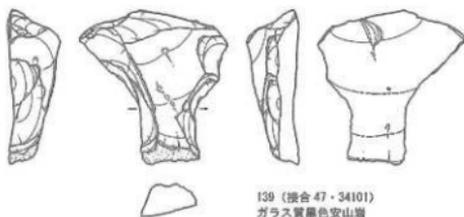
136 (34051)
黒曜石 (箱根燗宿)



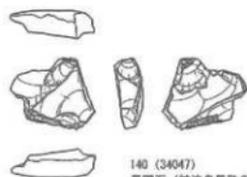
137 (33956)
黒曜石 (箱根燗宿)



138 (33966)
黒曜石 (箱根燗宿)



139 (接合 47・34101)
ガラス質黒色安山岩



140 (34047)
黒曜石 (神津島恩敷島)



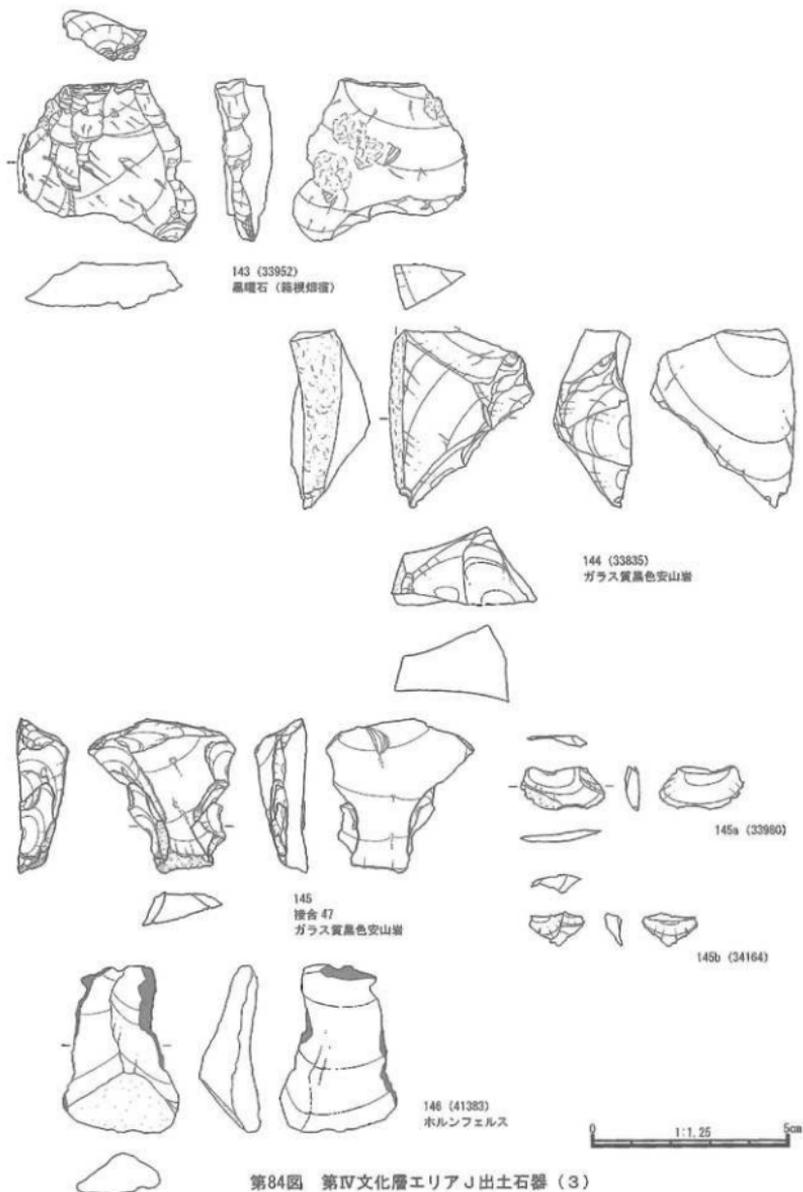
141 (34057)
黒曜石 (箱根燗宿)



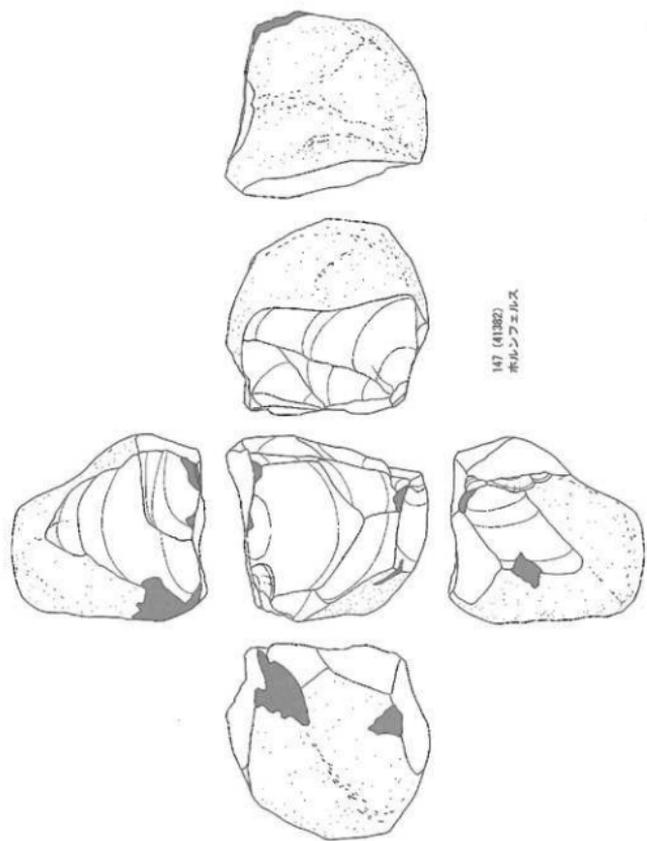
142 (33988)
黒曜石 (箱根燗宿)



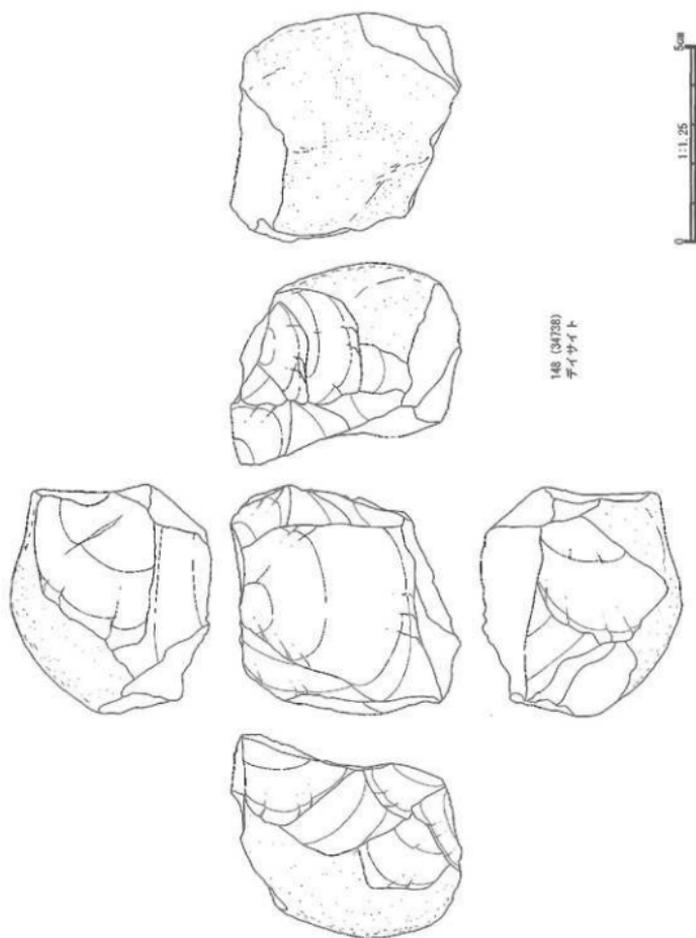
第83図 第IV文化層エリアJ出土石器(2)



第84図 第IV文化層エリアJ出土石器 (3)



第85図 第IV文化層エリアJ出土石器(4)



第86図 第IV文化層エリアJ出土石器(5)

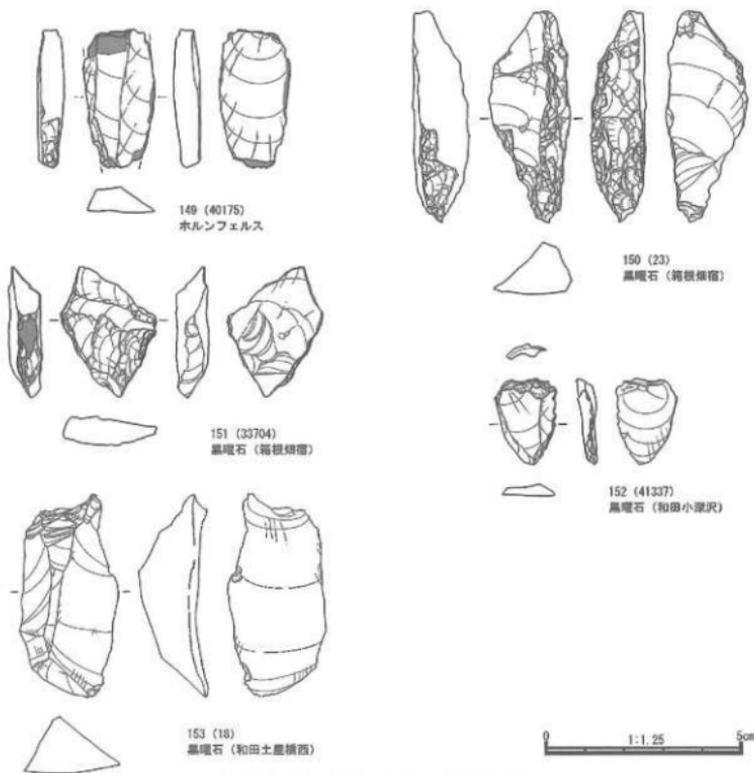
12 その他の資料（第87図）

上記のエリアA～Jの範囲外の休場層直下黒色帯～休場層中位から出土した石器6点、礫1点を第IV文化層に含めた。また、漸移層から出土した石器のうち形態などから第IV文化層に関連付けられる石器1点もここに含めた。

149はホルンフェルス製のナイフ形石器で、風化による損傷が激しいが石刃状剥片の片側縁に二次加工が見られる。150は黒曜石（箱根畑宿群）製の二側縁加工ナイフ形石器で、分厚い背部は対向調整が施されている。151は黒曜石（箱根畑宿群）製の切出形石器で、漸移層出土だがエリアJに類品がある（第82図134）ためここに含めた。152は黒曜石（和田小深沢群）製の微細剥離痕のある剥片である。153は黒曜石（和田土屋橋西群）製の剥片である。

第41表 第IV文化層
エリア外石材別器種組成

	黒曜石	ホルンフェルス	硬質珪酸塩灰岩	細粒砂岩	合計
ナイフ形石器		1	1		2
切出形石器		1			1
微細剥離痕剥片	1				1
剥片	1		1	1	3
合計	1	2	1	1	7

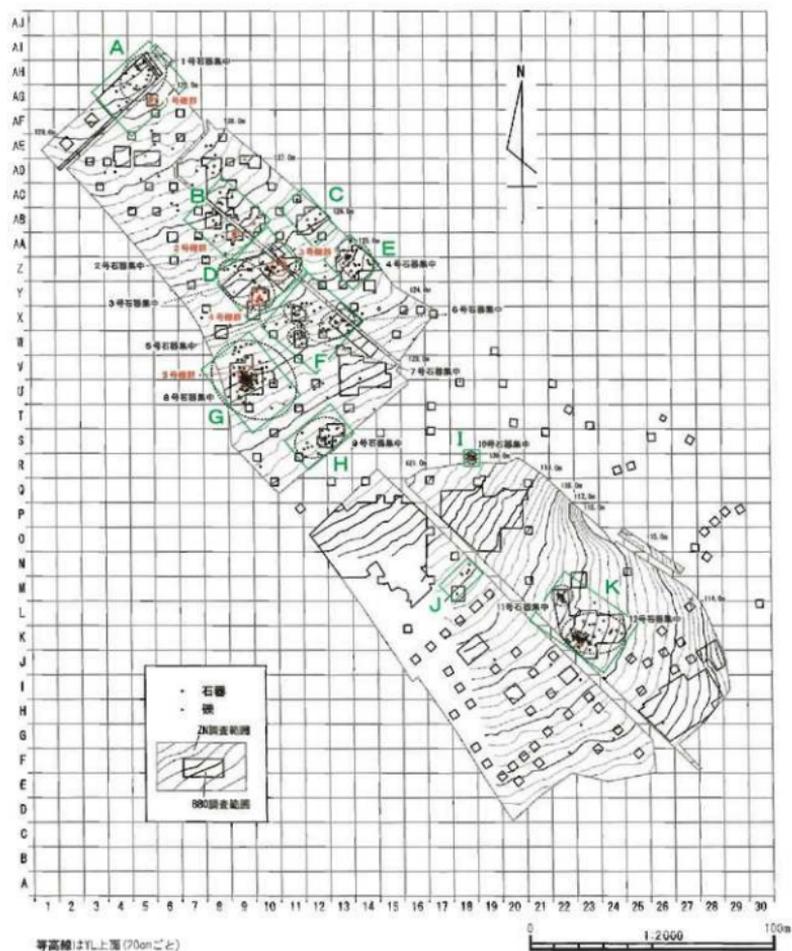


第87図 第IV文化層エリア外出土石器

第6節 第V文化層

1 概要

休場層中位から上位を中心に出土した石器639点、礫80点から成る(第88図、第42表)。資料がまとまって分布する地点は11箇所あり、エリアA～Kとした。石器集中12箇所、礫群5箇所を認定しており、エリアごとの資料と遺物集中の構成は第43表の通りである。



第88図 第V文化層遺物分布図

第42表 第V文化層石材別器種組成

	黒曜石											ホ ル ン フ ェ ル ス	ガ ラ ス 質 黒 色 安 山 岩	珪 質 頁 岩	白 滝 頁 岩	瑤 玉 (赤 玉 石)	メ ノ ウ	珉 紋 岩	輝 石 安 山 岩	玄 武 岩	計 数
	諏 訪 風 ヶ 倉	和 田 鹿 山	和 田 小 深 沢	初 田 土 屋 橋 西	豊 科 冷 山	箱 根 畑 宮	箱 根 黒 岩 橋	天 城 給 神	推 定 不 可	未 分 析	計 数										
尖頭器	9	3	1			1		1				3	31								21
ナイフ形石器	14	4		1	13	14		4		1		10					2				85
切出形石器		3			1	9															13
掻器						4															4
削器									1												1
楔形石器																					1
鏃器																					1
二次加工剥片	1					3						5	2				1				12
微細剥離成剥片									1												1
剥片	21				6	119		10	11	1	180		7	1	6	2					364
砕片						9					32	101									142
石核	1				1	3					7						2				14
合計	46	10	1	1	21	163	1	15	13	34	306	5	7	1	8	3	2	1	1	630	

第43表 第V文化層のエリアと遺物集申

エリア	石器集申	群群	尖頭器	ナイフ形石器	切出形石器	掻器	削器	楔形石器	鏃器	二次加工剥片	微細剥離成剥片	剥片	砕片	石核	石器合計	種
A	1号	1号	5	3						1		26	1	2	38	5
B		2号	2	1	1					1		12		1	18	11
C				1							1	1	5		9	0
D	2号・3号	3号・4号	1	6	1							35	6		50	31
E	4号		1	3	1	1				2		18	3	1	30	3
F	5号~7号			12		1				2		29	2	3	49	0
G	8号	5号	1	5	3	2				1		106	117	1	237	7
H	9号			3								22	6	2	33	1
I	10号											12			13	3
J			1	4											6	0
K	11号・12号			3	2		1			3		88	6	3	106	13
外			10	25	2					1		11	1		50	6
合計	12箇所	5基	21	66	12	4	1	1	1	12	1	364	142	14	630	80

2 エリアA

(1) 遺物の分布 (第90・91図)

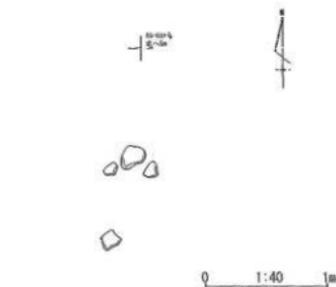
AH5グリッドを中心とする範囲。石器38点、礫5点が出土した。このうちまとまって分布する部分をそれぞれ1号石器集中、1号礫群とした。出土層位は休場層上位が中心であるが、漸移層や富士黒土層など上層に拡散する傾向が見られる。

1号石器集中 石器32点から成る。出土層位は休場層上位を中心とし、その上下の層にも及ぶ。

1号礫群(第89図) 礫5点から成る。1号石器集中の分布範囲の南側で径約1mの範囲にまとまっており、出土層位は休場層上位である。この礫群の礫には被熱痕跡は認められない。

第44表 第V文化層エリアA石材別器種組成

	諏訪星ヶ台	藤科冷山	箱根御宿	天城柏峠	未分析	ホルンフェルス	ガラス質黒色安山岩	珪質頁岩	玄武岩	合計
尖頭器	1					2	2			5
ナイフ形石器	2			1						3
二次加工剥片										1
剥片	14	2	3	1		3		2	1	26
砕片					1					1
石核	1	1								2
合計	19	3	3	2	1	5	2	2	1	38



第89図 第V文化層(エリアA)1号礫群

(2) 出土石器 (第92～94図)

尖頭器 (154～158)

154・155はガラス質黒色安山岩製である。154は縦長剥片を素材とし、右側縁表面、左側縁裏面の加工によって縁辺が作られている。155は風化が進んでいるが両面加工と見られる。156は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製で、精緻な両面加工で整形されている。157・158はホルンフェルス製で、やはり風化が進んでいるが両面加工と見られる。158は細身の形態で、本文化層に帰属するのではなく縄文草創期に属する有蓋尖頭器である可能性も考えられる。

ナイフ形石器 (159～161)

159・160は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製で、159は左側縁基部がやや内湾する二側縁加工、160は一個縁加工である。161は黒曜石(天城柏峠群)製、二側縁加工で基部に打面を残置する。

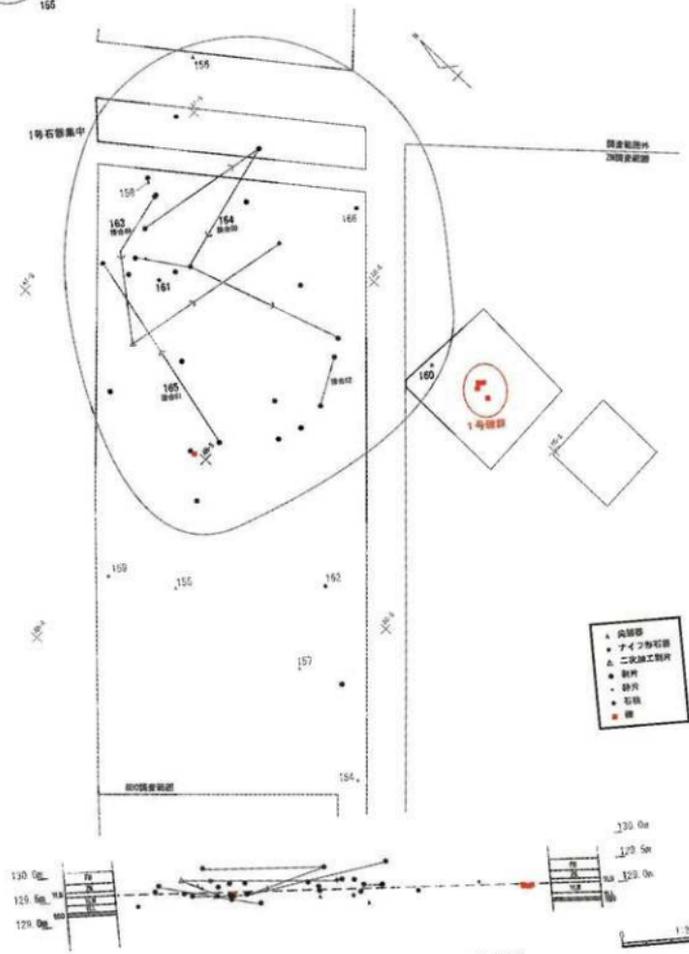
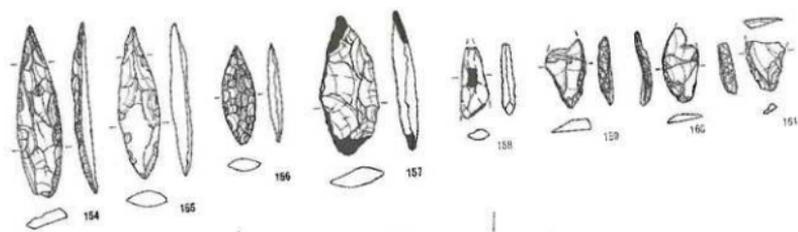
剥片・石核・接合資料 (162～166)

162は黒曜石(藤科冷山群)製の石核である。

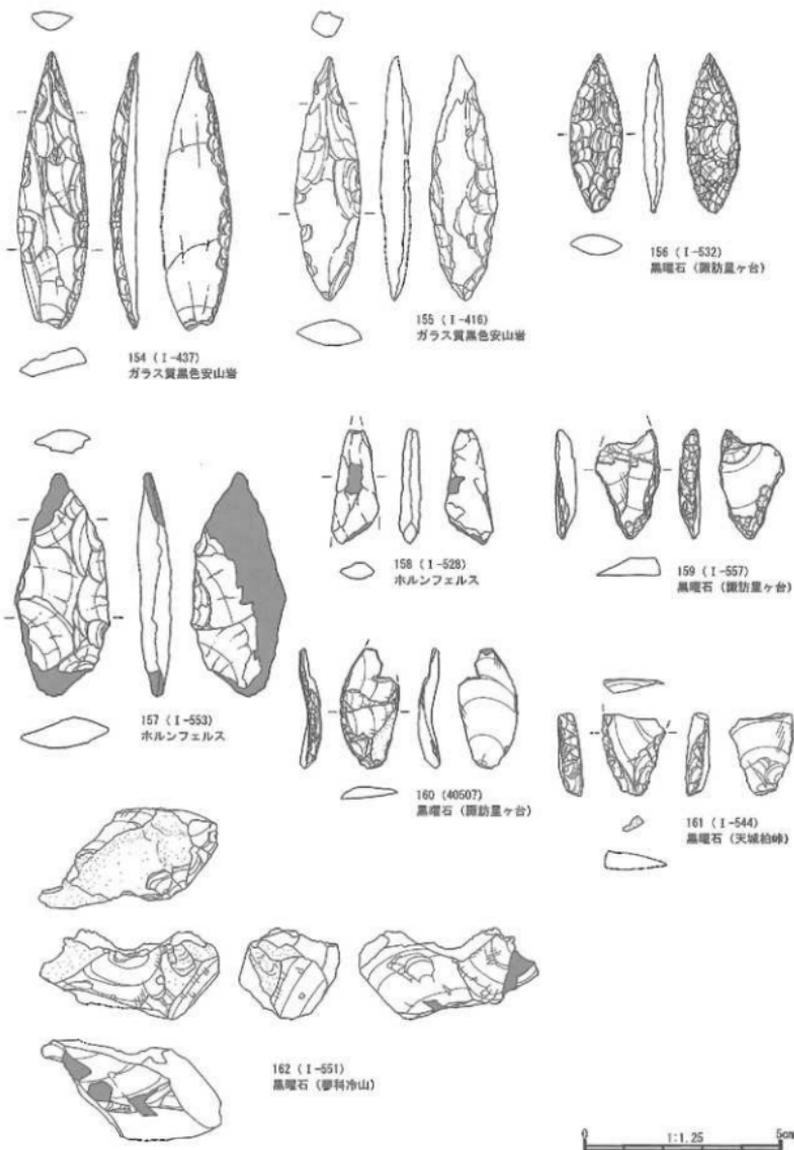
163～165は黒曜石(諏訪星ヶ台群)の接合資料である。163(接合資料49)・164(接合資料50)は板状礫からの剥片剥離を示す接合資料で、打面形成後縦割りに剥離した工程が認められる。163では163bが内反剥離を起こし、石核の下端が大きく剥離されている(写真図版20-163は163b接合前の状態)。165(接合資料51)は同様の板状礫の角から剥離されたものの可能性がある。

166は玄武岩製の剥片である。風化が進んでいるものの背面は先行剥離で覆われている。しかしこの石材は第V文化層には1点しか見られない。

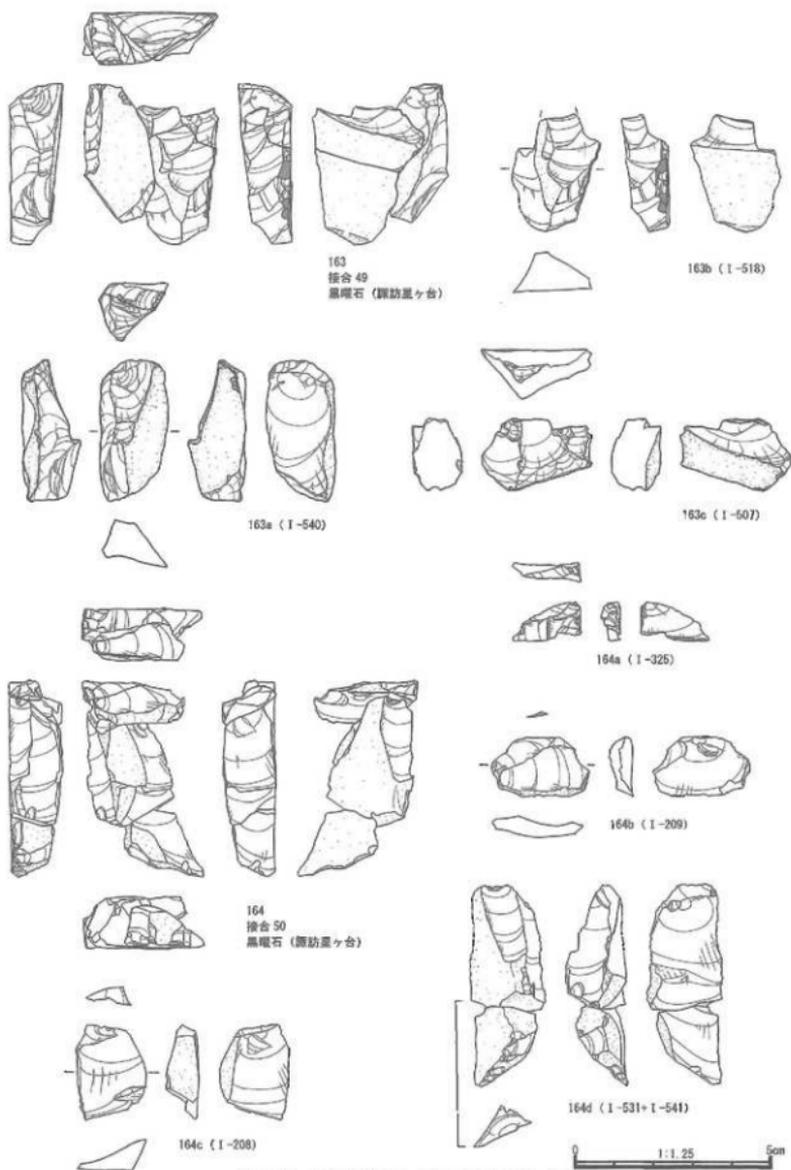
以上のほか、ホルンフェルス、珪質頁岩の剥片が少数ずつある。



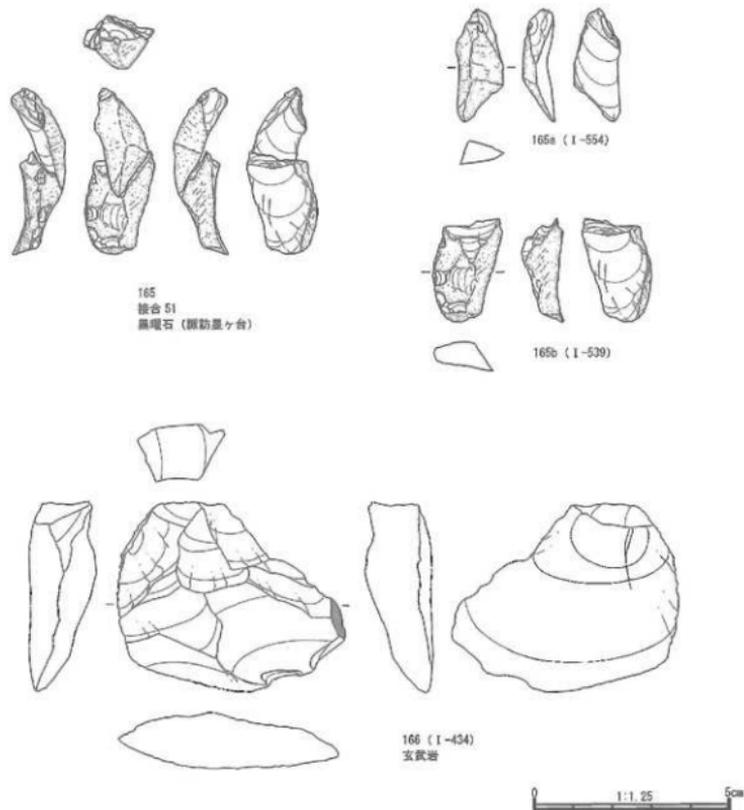
第90図 第V文化層エリアA器種別分布図



第92図 第V文化層エリアA出土石器(1)



第93図 第V文化層エリアA出土石器(2)



第94図 第V文化層エリアA出土石器 (3)

3 エリアB

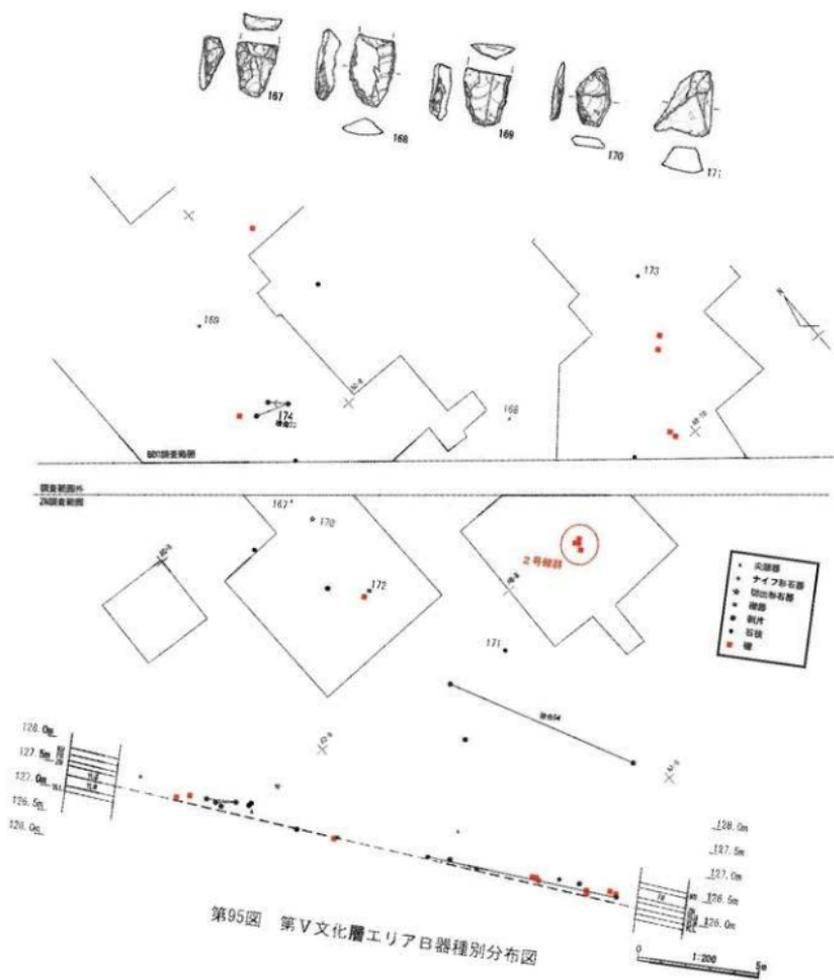
(1) 遺物の分布 (第95・97図)

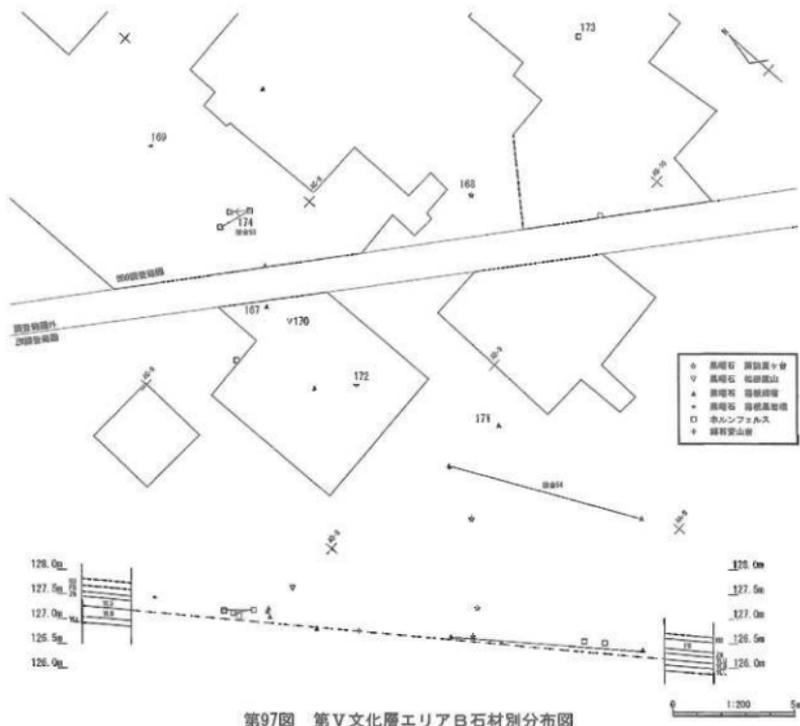
AB8・9グリッド周辺の範囲。石器18点、礫11点が出土した。このうちAA-9グリッドにまとまって分布する礫を2号礫群とした。休場層上位を中心として漸移層からも出土しており、一部は暗褐色土層に含まれる。

2号礫群 (第96図) 礫4点が径約1mの範囲にまとまる。出土層位は休場層上位である。この礫群の礫には被熱痕跡は認められない。

第45表 第V文化層エリアB石材別器種組成

	黒曜石					輝石安山岩	合計
	諏訪型ヶ台	和田道山	箱根洞窟	箱根黒岩橋	ホルンフェルス		
尖頭器			1				2
ナイフ形石器					1		1
切出彫石器		1					1
礫群						1	1
剥片	1		6		5		12
石核					1		1
合計	2	1	7	1	6	1	18





第97図 第V文化層エリアB石材別分布図

(2) 出土石器 (第98～100図)

尖頭器 (167・168)

167は黒曜石(箱根燧石群)製、片面加工で甲高の形態、168は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製、周縁加工で、いずれも尖頭部を折損したものと見られる。

ナイフ形石器 (169)・切出形石器 (170)

169は黒曜石(箱根燧石群)製、二側縁加工品の基部破片と見られる。170は黒曜石(和田麓山群)製で、素材を横位に用い、左側縁を素材打面、右側縁を素材末端の自然面とし、表面に平坦加工がある他は先端部にわずかに調整を加えている。

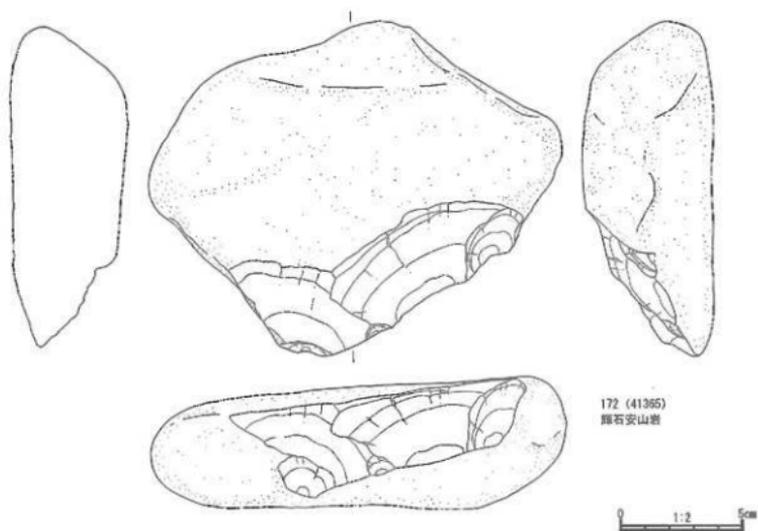
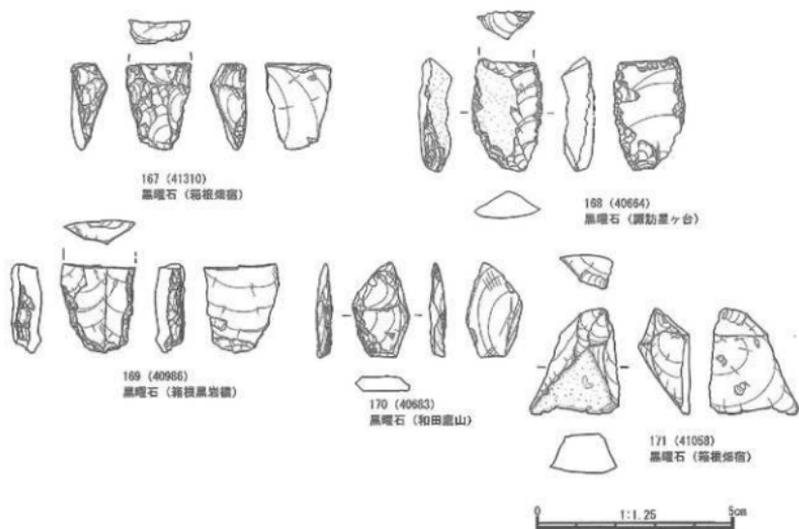
礫器 (172)

輝石安山岩製で、やや平坦な形状の亜円礫の一辺に片刃の刃部を設けている。

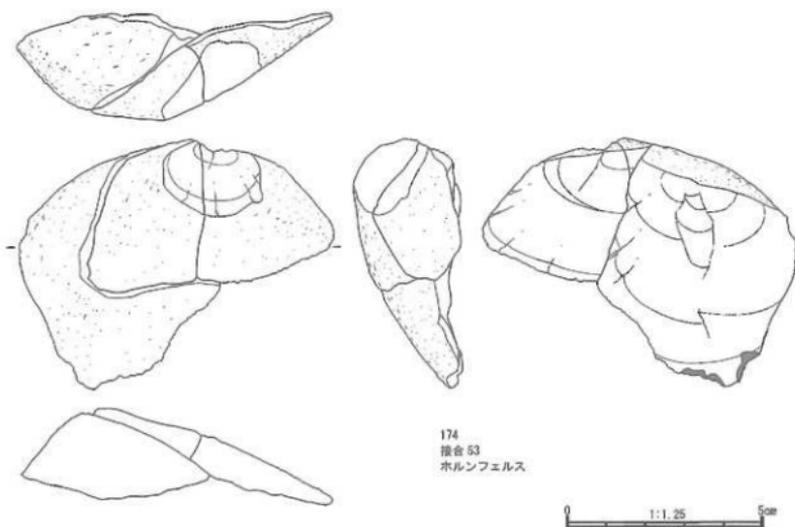
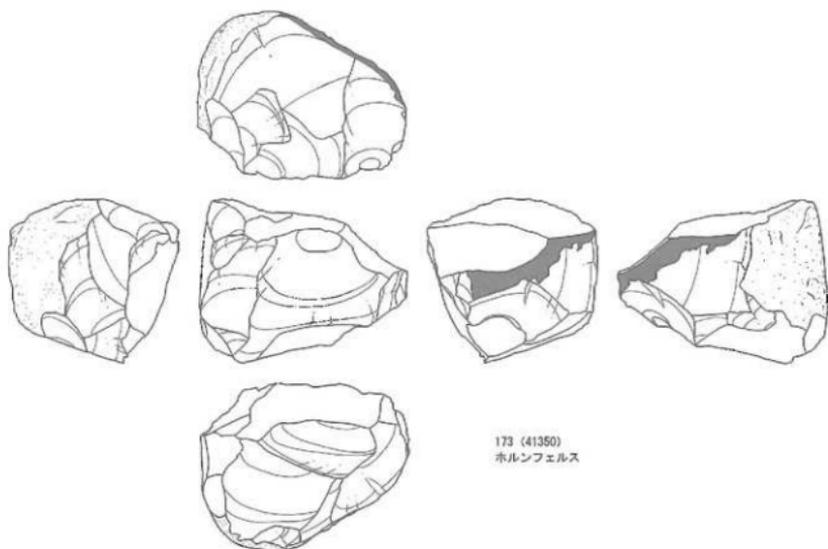
剥片類・石核・接合資料 (171・173・174)

黒曜石製の資料には箱根燧石群の剥片6点、諏訪星ヶ台群の剥片1点がある。いずれも少数だが黒曜石(箱根燧石群)製には礫面のあるものが認められる(171)。

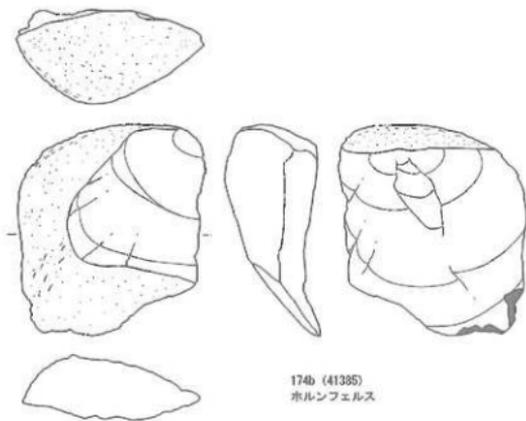
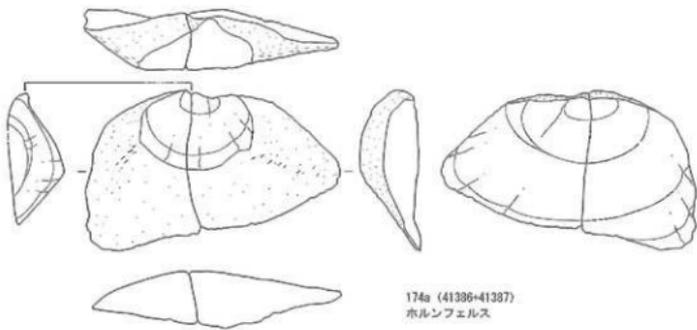
ホルンフェルス製の資料には剥片5点、石核1点がある。173の石核は打面転移により図中の表面、上面、下面が主たる作業面となっている。174(接合資料53)は剥片2点が接合しており、亜円礫からの初期段階の工程を示すものである。



第98図 第V文化層エリアB出土石器(1)



第99図 第V文化層エリアB出土石器(2)



第100図 第V文化層エリアB出土石器(3)

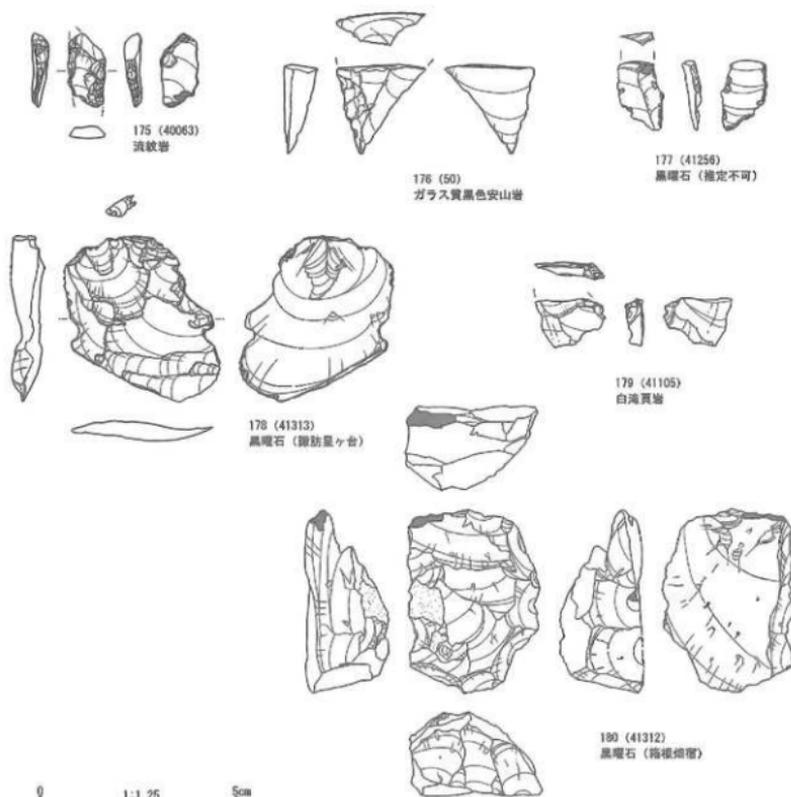
4 エリアC

(1) 遺物の分布 (第102図)

AB-12 グリッドを中心とする範囲。石器9点がやや分散して出土した。出土層位は休場層上位から漸移層である。

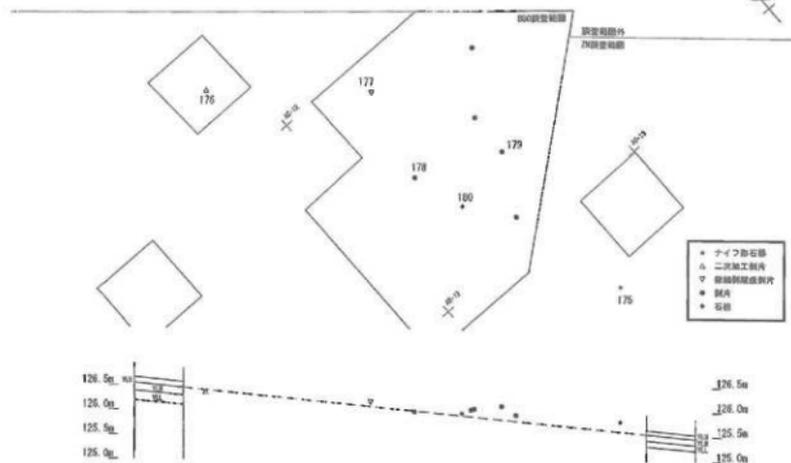
第46表 第V文化層エリアC石材別器種組成

	黒曜石		ガラス質黒色安山岩	白濁質岩	凝紋岩	合計
	諏訪屋ヶ台	天城拍時 指櫃燧岩				
ナイフ形石器					1	1
二次加工剥片			1			1
鋭利縁産剥片		1				1
剥片	1	1	2		1	5
石核		1				1
合計	1	2	2	1	1	9

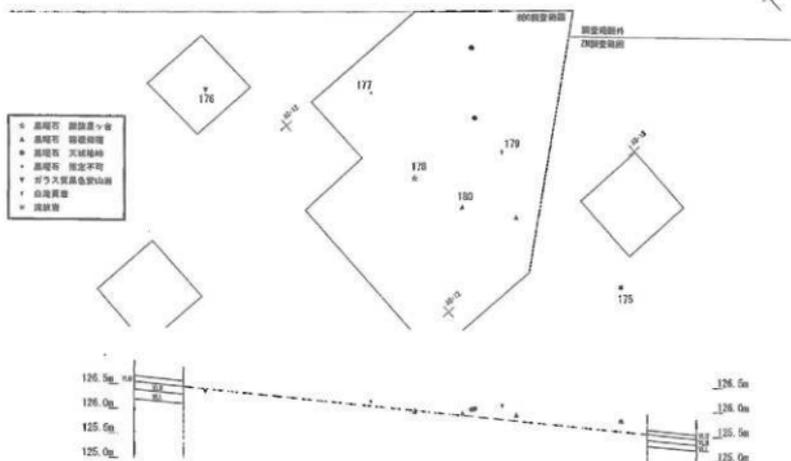


第101図 第V文化層エリアC出土石器

器種別



石材別



0 1:200 5m

第102図 第V文化層エリアC遺物分布図

(2) 出土石器 (第101図)

ナイフ形石器 (175)

流紋岩製、二側縁加工で、基部は欠損している。

二次加工剥片 (176)・微細剥離痕剥片 (177)

176は端部の破片で、左側縁に二次加工が見られる。177は黒曜石(推定不可だが外観は信州系に類似する)製で、両側縁に微細剥離痕が認められる。

剥片 (178・179)・石核 (180)

5点出土したが、石材、石質等はばらばらである。178以外の4点は漸移層出土で、縄文時代の資料が混在している可能性もある。178が黒曜石(諏訪星ヶ台群)製、180が黒曜石(箱根畑宿群)製。179は石材を白滝頁岩に分類しているが、小片であり、第IV文化層の102、106ほど特徴的なものではないため、異なる産地の頁岩の可能性もある。

5 エリアD

(1) 遺物の分布 (第104・105図)

Y-10、Z-9・10グリッド周辺の範囲。石器50点、礫31点が出土した。礫は大半が2箇所にまとまっており、それぞれ3号・4号礫群とした。石器は礫に比べると分散しているが、大きく2群に分け、2号・3号石器集中としてとらえた。出土層位は休場層上位から漸移層を中心に上下の層にも及ぶが、礫は大半が休場層上位出土である。

2号石器集中 石器31点から成る。径約14mの範囲に分布する石器をまとめたが、分布の中心はZ-10グリッド内の径約4mの範囲にある。この分布の中心部に隣接して3号礫群が分布する。出土層位は主に休場層中位から漸移層である。

3号石器集中 石器19点から成る。長径約20mの範囲に分布する石器をまとめたが、分布の中心はZ-9グリッド内の径約2mの範囲にある。分布の周縁部に4号礫群が分布する。出土層位は主に休場層中位から漸移層である。

3号礫群 (第103図) 礫8点が径約4mの範囲にまとまる。出土層位は休場層中・上位である。この礫群の礫には被熱痕跡は認められない。

4号礫群 (第103図) 礫18点が径約4mの範囲にまとまる。出土層位は休場層上位である。被熱痕跡のある礫が2点含まれる。

第47表 第V文化層エリアD石器別器種組成

	黒曜石				ホルンフェルス	建賀頁岩	メノウ	合計
	諏訪星ヶ台	和田麓山	箱根畑宿	天城拍峰				
尖頭器		1						1
ナイフ形石器	1		2	1		2		6
切出形石器			1					1
二次加工剥片					1			1
剥片			5	1		26	1	33
砕片					2	4		6
合計	1	1	8	2	2	33	1	50

第48表 第V文化層2号石器集中石材別器種組成

	黒曜石			ホルンフェルス	建賀頁岩	メノウ	合計
	箱根畑宿	天城拍峰	未分析				
ナイフ形石器	1	1		1			3
二次加工剥片							1
剥片				19	1	1	21
砕片				2	4		6
合計	1	1	2	25	1	1	31

第49表 第V文化層3号石器集中石材別器種組成

	黒曜石				ホルンフェルス	メノウ	合計
	諏訪星ヶ台	和田麓山	箱根畑宿	天城拍峰			
尖頭器							1
ナイフ形石器	1		1			1	3
切出形石器			1				1
剥片			5	1		7	14
合計	1	1	7	1		8	19

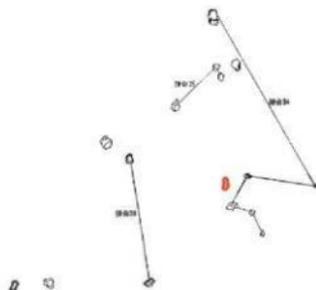
3号塚群

3-02 V
3-03 V
3-04 V



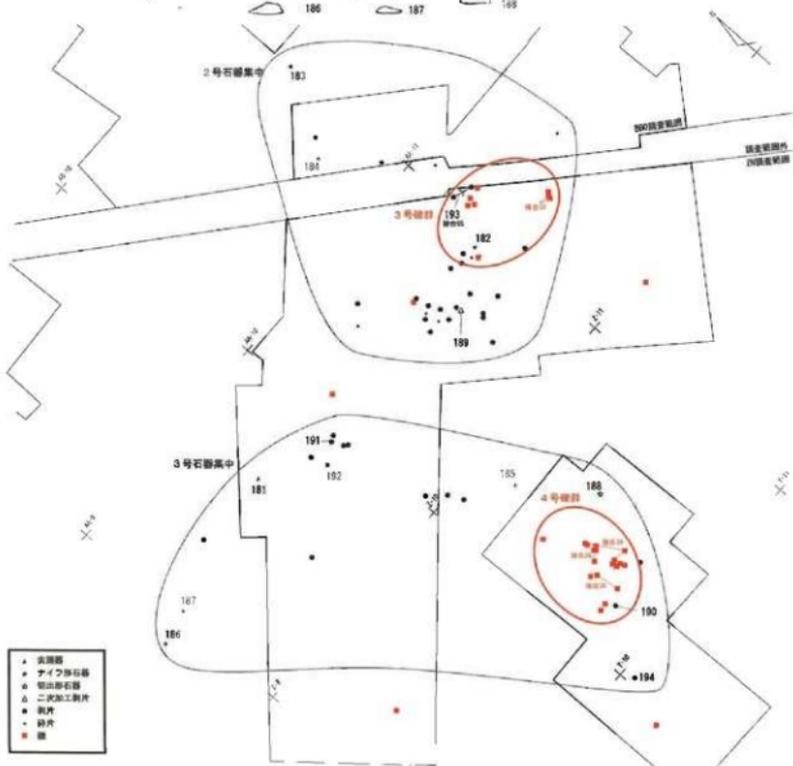
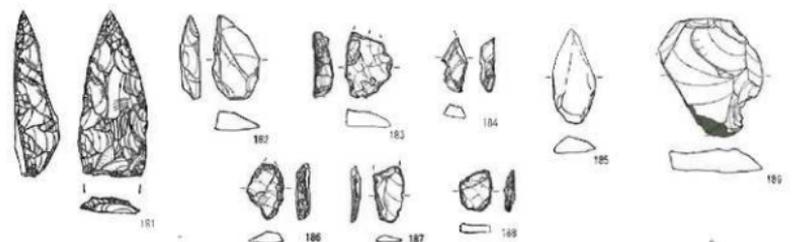
4号塚群

4-01 V
4-02 V
4-03 V

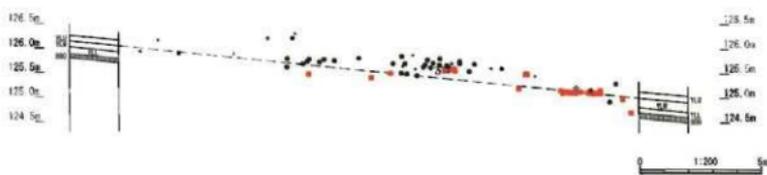


0 1:40 m

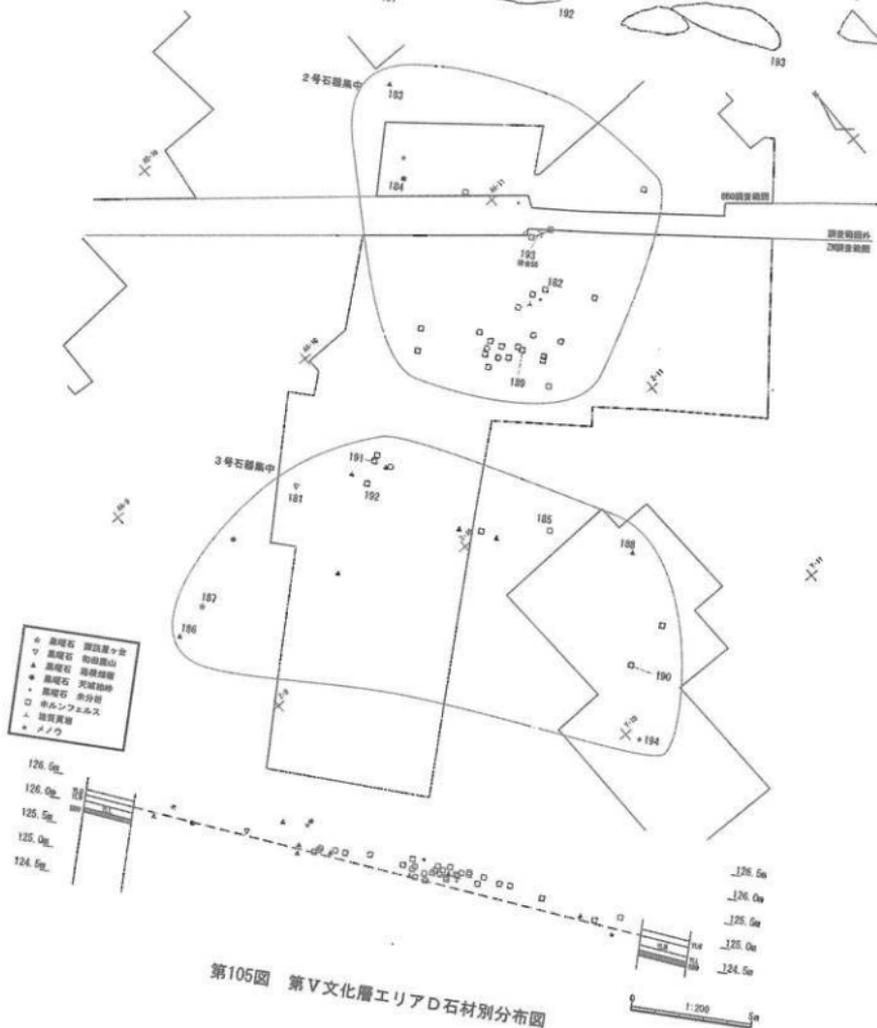
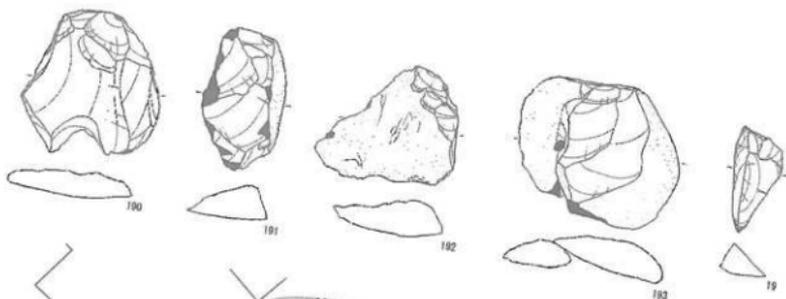
第103図 第V文化層（エリアD）3号・4号塚群

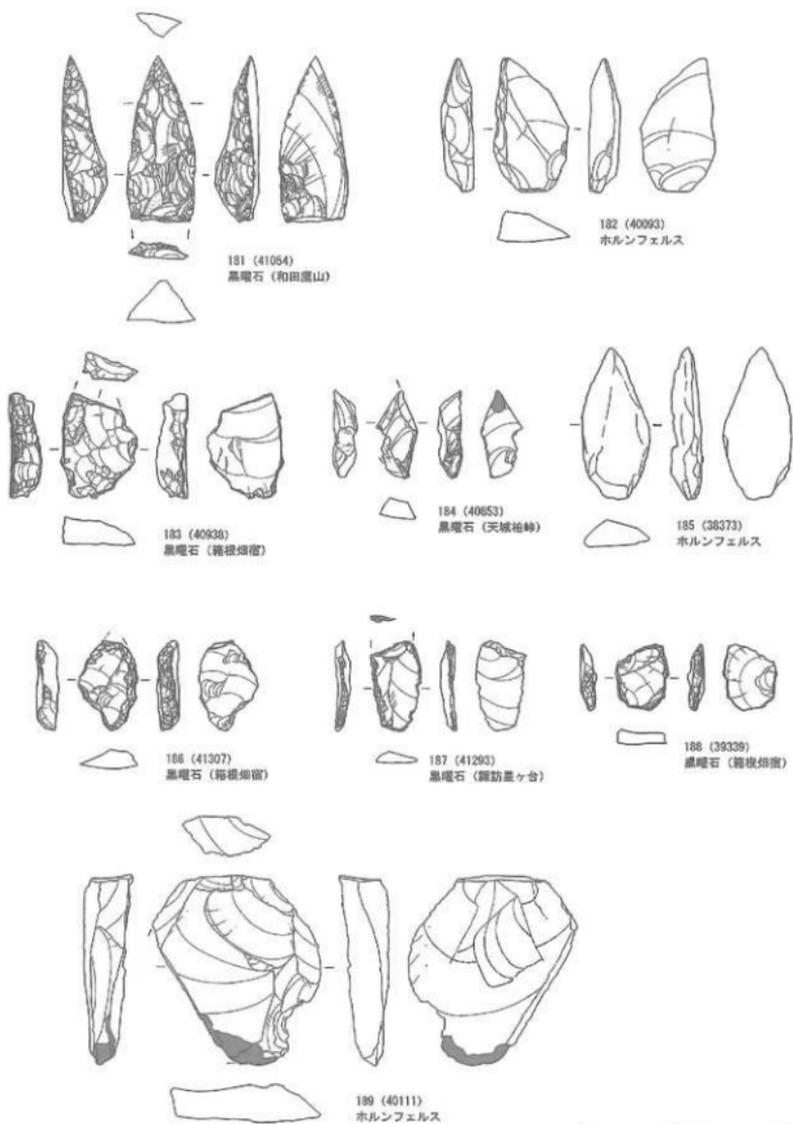


- 実器類
- ▲ アイノ原石器
- △ 釜山原石器
- △ 二次加工副片
- 剥片
- 碎片
- 鏃

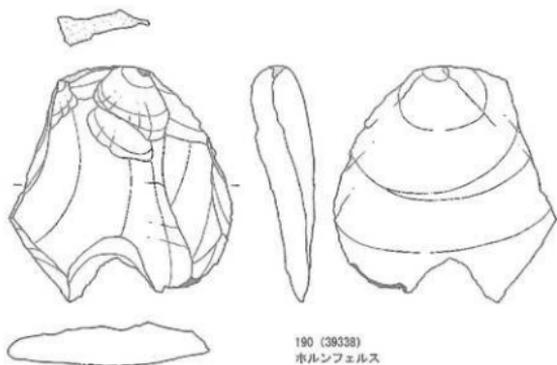


第104図 第V文化層エリアD器種別分布図

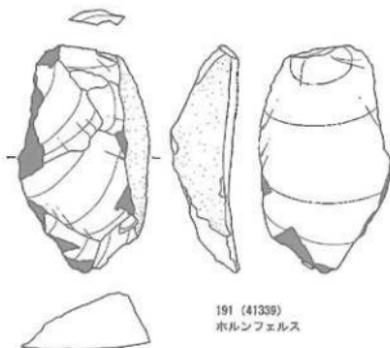




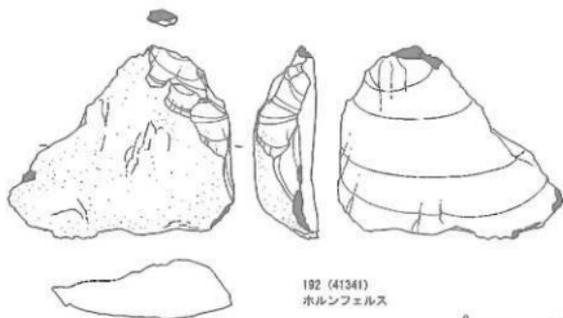
第106図 第V文化層エリアD出土石器 (1)



190 (39338)
ホルンフェルス



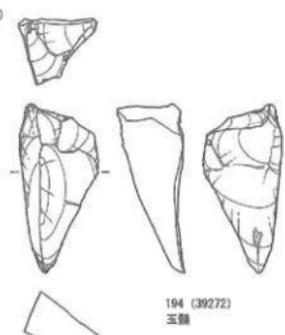
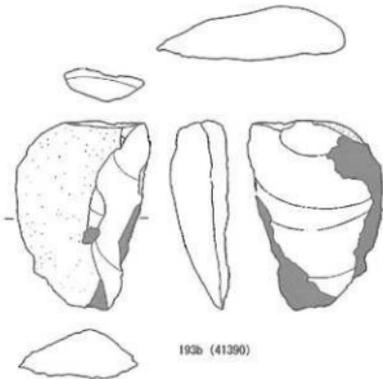
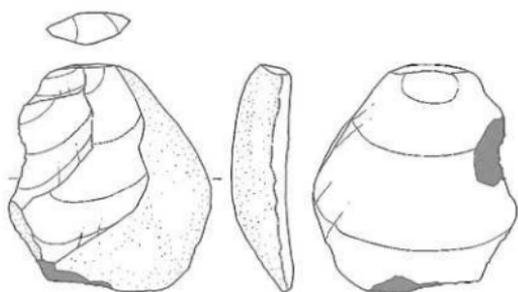
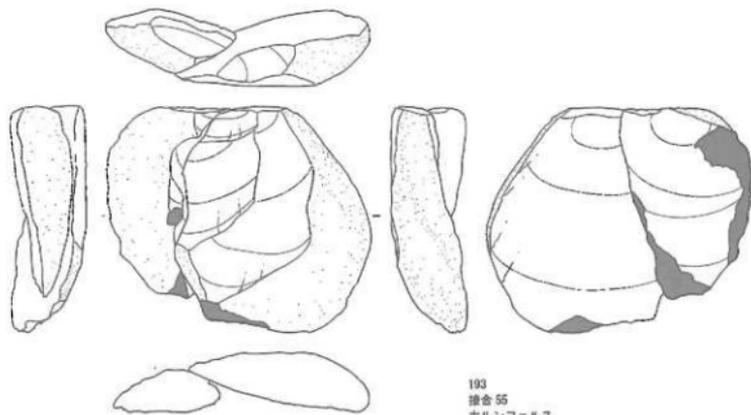
191 (41336)
ホルンフェルス



192 (41341)
ホルンフェルス



第107図 第V文化層エリアD出土石器(2)



第108図 第V文化層エリアD出土石器(3)

(2) 出土石器 (第106～108図)

尖頭器 (181)

黒曜石 (和田鷹山群) 製。片面加工で断面はやや甲高の三角形を呈する。

ナイフ形石器 (182～187)

182・185はホルンフェルス製で、後者は特に風化が激しいが、いずれも二側縁加工と見られる。183・186は黒曜石 (箱根畑宿群) 製で、183は素材末端側を円蓋状に整形し、186は素材打面側を尖蓋としている。184は黒曜石 (天城峠群) 製で、大きく欠損しているが、ナイフ形石器の破片と考えられる資料である。187は黒曜石 (諏訪屋ヶ台群) の石刃状剥片製、二側縁加工で、素材打面側を欠損している。

切出形石器 (188)

黒曜石 (箱根畑宿群) 製で素材を横位に用い、素材打面側と末端側との2辺に二次加工している。刃部には微細剥離痕が顕著に見られる。

二次加工剥片 (189)

ホルンフェルス製で右側縁に抉入状の加工が見られる。

剥片類 (190～194)

石材はホルンフェルスが主体で黒曜石、玉髄、珪質頁岩が少量伴う。

ホルンフェルスの資料は自然面成いは単剥離打面の幅広のものが主体で、礫面のある資料も多い (190～193)。

194は玉髄製の剥片である。同一個体と見られる資料が1点出土している。

6 エリアE

(1) 遺物の分布 (第109図)

Z-13・14グリッドを中心とする範囲。石器30点、礫3点が出土した。石器はまとまった分布を示し、4号石器集中としてとらえた。

4号石器集中 石器30点が長径約15mの範囲に分布する。

出土層位は主に休場層中位から漸移層である。

(2) 出土石器 (第110図)

尖頭器 (195)

黒曜石 (諏訪屋ヶ台群) 製、両面加工で、最終段階の整形は表面周縁の加工によっている。

ナイフ形石器 (196～198)・切出形石器 (199)

全て黒曜石 (箱根畑宿群) 製。196は素材を斜位に用いた二側縁加工、197は基部側破片と見られ、右側縁に対向調整が入っている。198は基部破片で両側縁が二次加工されている。199は素材を横位に用い、左側縁に素材打面、右側縁に背部加工を配している。

搔器 (200)

黒曜石 (箱根畑宿群) 製。剥片の両側縁に二次加工が施されている。下半部を折損しており、搔器に分類したが、他器種の可能性もある。

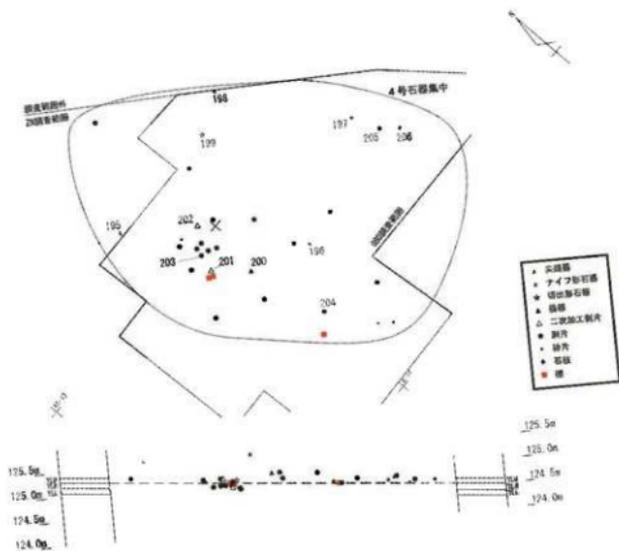
二次加工剥片 (201・202)

201は黒曜石 (箱根畑宿群) 製で右側縁下部に急斜度の二次加工が見られる。202はホルンフェルス製で風化のため明瞭でないが左側縁に二次加工が認められる。

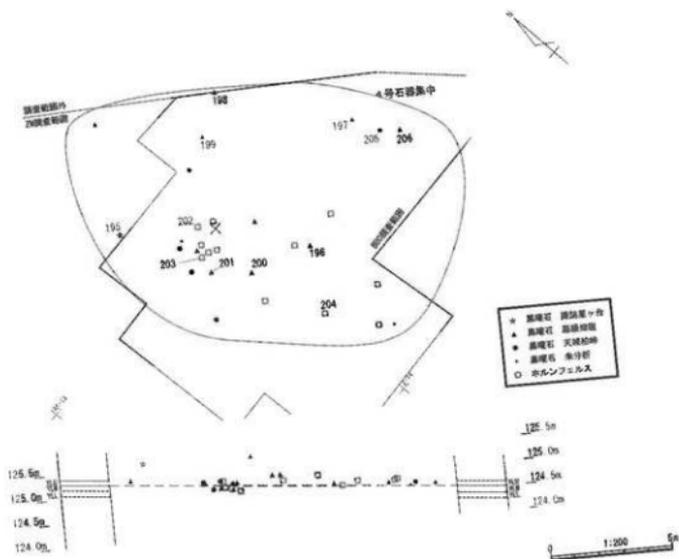
第50表 第V文化層
エリアE石材別器種組成

	黒曜石				ホルンフェルス	合計
	諏訪屋ヶ台	箱根畑宿	天城峠	未分析		
尖頭器	1					1
ナイフ形石器		3				3
切出形石器		1				1
搔器	1					1
二次加工剥片		1			1	2
剥片		3	5		10	18
砕片				2	1	3
石核		1				1
合計	1	10	5	2	12	30

器種別



石材別



第109図 第V文化層エリアE遺物分布図



第110図 第V文化層エリアE出土石器

剥片類・石核 (203～206)

ホルンフェルス、黒曜石(天城柏峠群、箱根畑宿群)の資料があるが、総じて小形である。その中でも比較的大形ものを図示した。203・204はホルンフェルス製の剥片である。205は黒曜石(天城柏峠群)製で、打縮部が大きく張り出した厚手の剥片である。206は黒曜石(箱根畑宿群)製で、やや厚手の剥片を素材とする石核と考えられる。

7 エリアF

(1) 遺物の分布 (第111・112図)

W・X-11、X-13グリッド周辺の範囲。石器49点が出土した。比較的分布がまとまる範囲を5号・6号・7号石器集中としてとらえた。出土層位は休場層上位から漸移層を中心に上下の層にも及ぶ。

5号石器集中(第52表) X-11グリッドで長径約9mの範囲に分布する石器12点から成る。出土層位は漸移層が中心である。

6号石器集中(第53表) X-13グリッドを中心とする径約12mの範囲に分布する石器18点から成る。出土層位は主に休場層上位から漸移層であるが、一部休場層直下黒色帯、休場層中・下位からも出土している。

7号石器集中(第54表) W-11グリッドを中心とする径約6mの範囲に分布する石器9点から成る。出土層位は主に休場層上位から漸移層である。

第51表 第V文化層エリアF石材別器種組成

	黒曜石	ホルンフェルス	碧玉(赤玉石)	合計				
ナイフ形石器	3	2	5	1	12			
掻器			1		1			
二次加工剥片			2		2			
剥片		14	1	9	5	29		
砕片		1		1		2		
石核				1	2	3		
合計	3	2	23	1	2	10	8	49

第52表 第V文化層
5号石器集中石材別器種組成

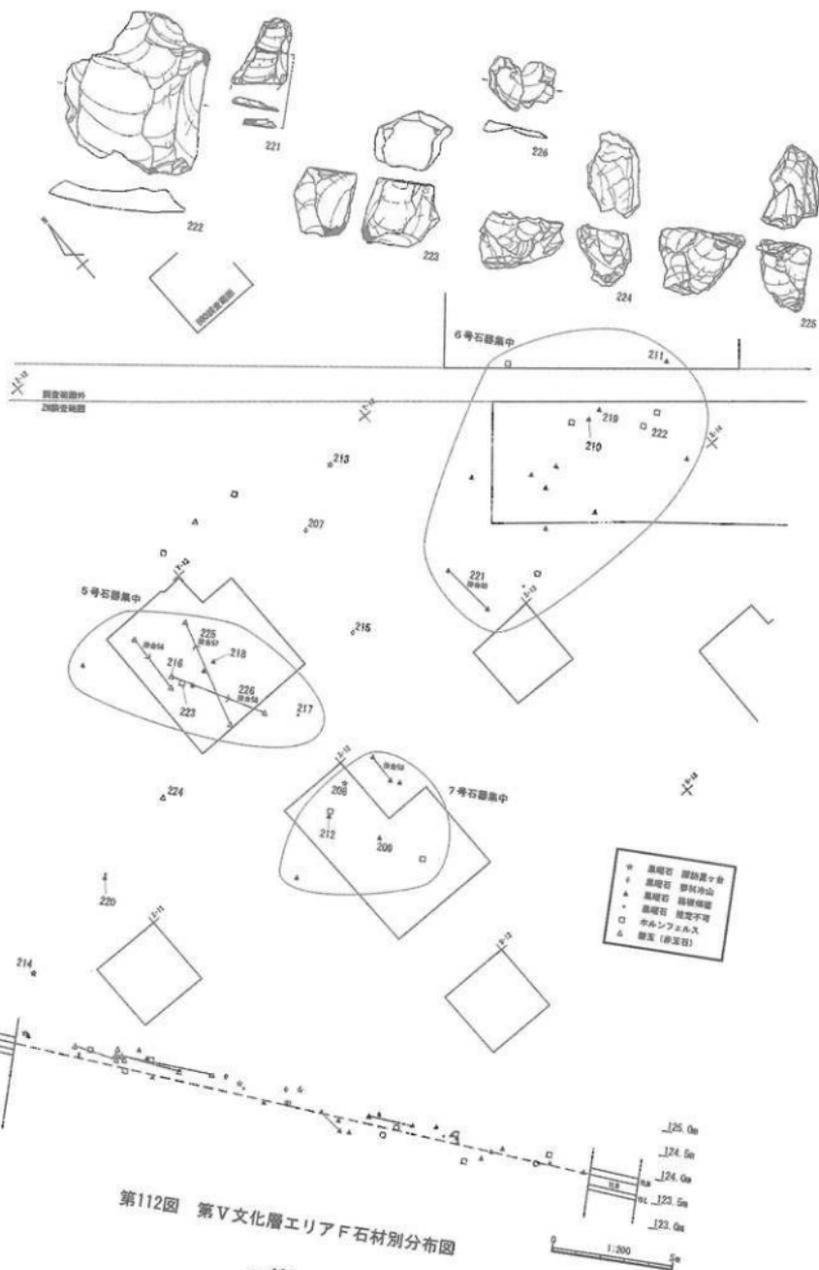
	黒曜石	ホルンフェルス	碧玉(赤玉石)	合計
ナイフ形石器	1	1	1	3
剥片	3		4	7
石核		1	1	2
合計	4	1	6	12

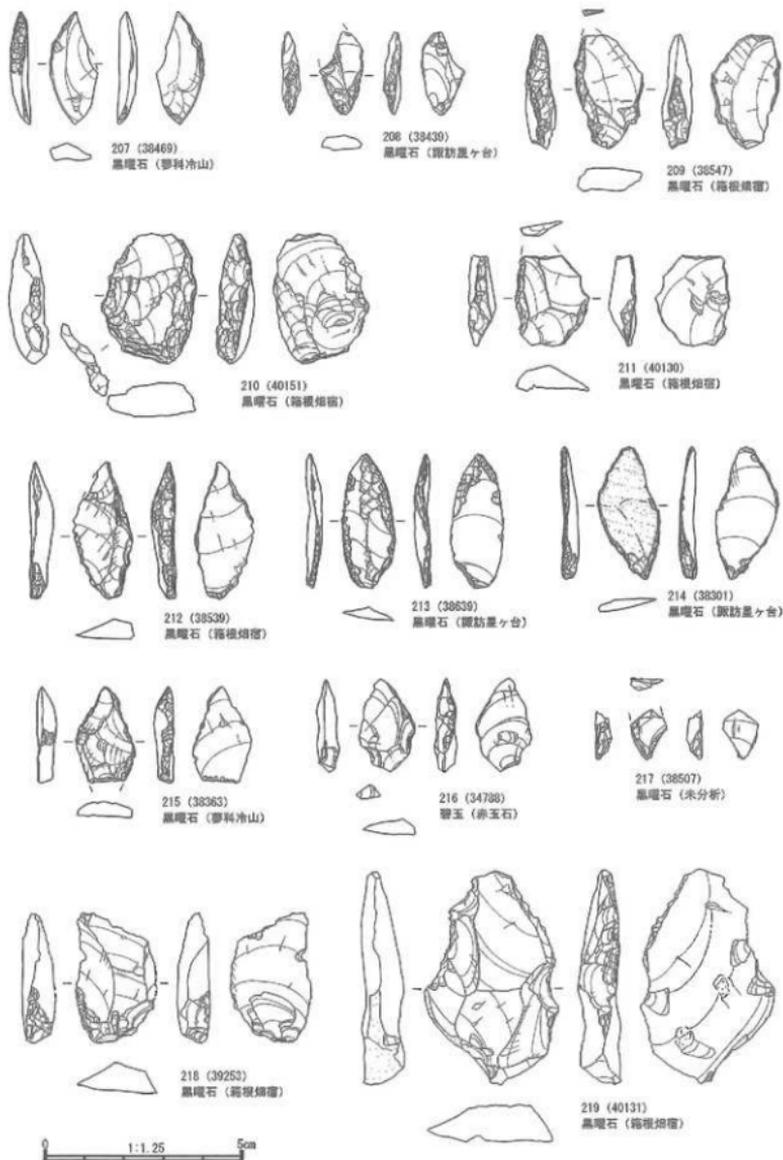
第53表 第V文化層
6号石器集中石材別器種組成

	黒曜石	ホルンフェルス	合計	
ナイフ形石器	2		2	
掻器	1		1	
二次加工剥片			1	
剥片	7	1	5	13
砕片	1		1	
合計	12	1	5	18

第54表 第V文化層
7号石器集中石材別器種組成

	黒曜石	ホルンフェルス	合計	
ナイフ形石器	1	2	3	
剥片		4	2	6
合計	1	6	2	9





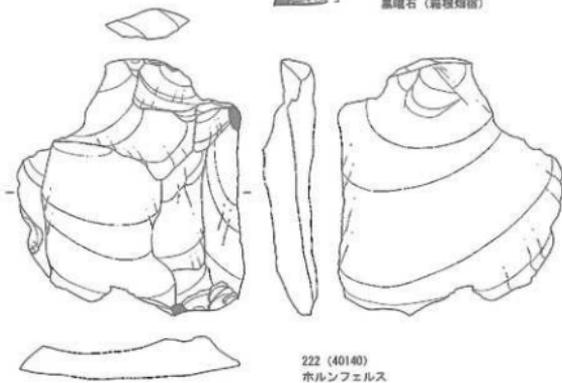
第113図 第V文化層エリアF出土石器(1)



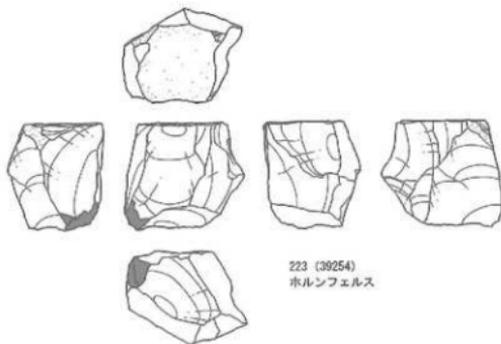
220 (38400)
黒曜石 (箱根畑産)



221
接合 60 (38506+38540)
黒曜石 (箱根畑産)



222 (40140)
ホルンフェルス



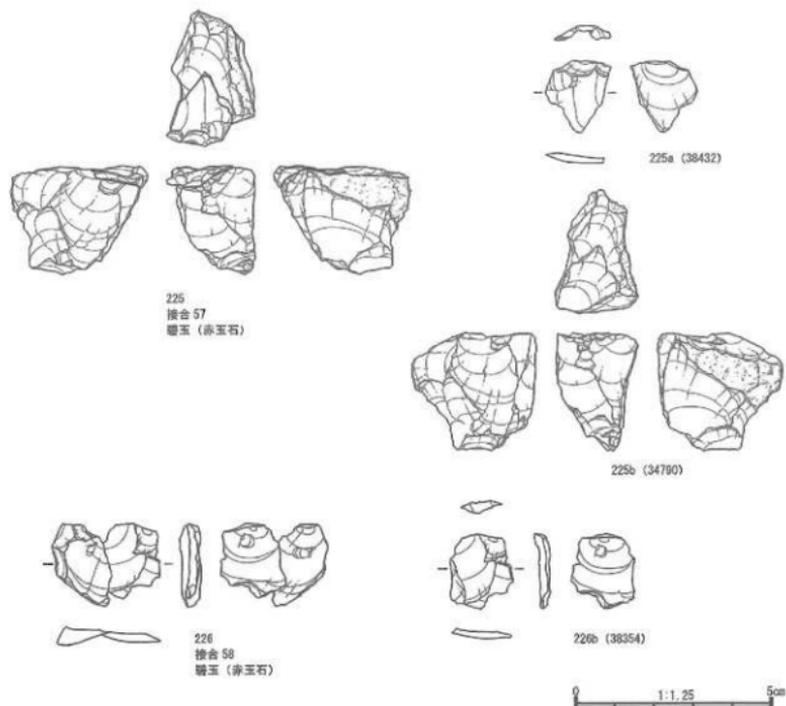
223 (39254)
ホルンフェルス



224 (38346)
碧玉 (赤玉石)



第114図 第V文化層エリアF出土石器(2)



第115図 第V文化層エリアF出土石器(3)

(2) 出土石器(第113～115図)

ナイフ形石器(207～218)

207～211は素材を横位に用いたものである。207は黒曜石(夢科冷山群)製で鎌番状末端となった折断剥片を利用し、先端側を部分的に加工している。208は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製で二側縁加工、209～211は黒曜石(箱根畑宿群)製で二側縁加工であり、210は基部側に打面を残置している。212～217は素材を縦位に用いた二側縁加工のものである。212は黒曜石(箱根畑宿群)製で素材の幅を背部加工によって大きく削っている。213・214は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製で、213の先端側は平垣加工によっている。216は碧玉(赤玉石)製で、基部に打面を残置している。217は基部破片と考えられ、石材は信州系黒曜石と見られる。218は黒曜石(箱根畑宿群)製で素材を縦位に用いた基部加工のものである。

搔器(219)

黒曜石(箱根畑宿群)製。素材剥片の打面側を急斜度調整で弧状に加工している。

二次加工剥片(220)

黒曜石(箱根畑宿群)製で左側縁に二次加工が見られる。

剥片類・石核・接合資料 (221～226)

黒曜石 (箱根畑宿群)、ホルンフェルス、碧玉 (赤玉石) の資料がある。

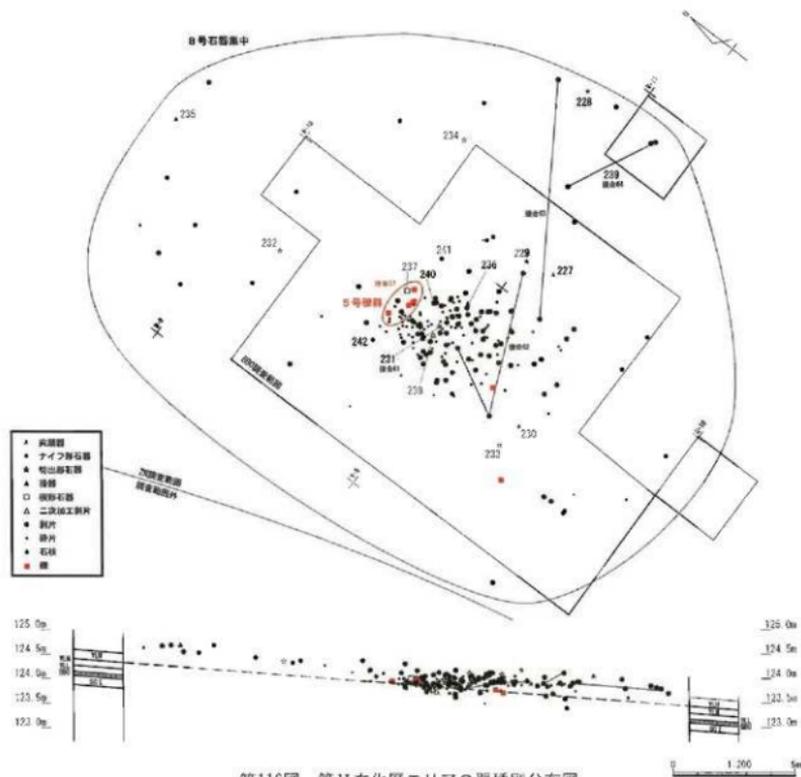
221 (接合資料 60) は黒曜石 (箱根畑宿群) 製の縦長剥片が折断されたものである。

224～226 は碧玉 (赤玉石) 製石器である。この石材は第V文化層ではこの範囲のみで出土した。小形の石核と剥片類があり、うち1点はナイフ形石器 (216) となっている。

8 エリアG

(1) 遺物の分布 (第116・118図)

U・V-9グリッドを中心とする範囲。石器237点、礫7点が出土した。石器はV-9グリッド南東部に密集し、周辺部にやや拡散する分布を示すが、基本的には同一の石材の分布が広がっているため、全体を一括して8号石器集中としてとらえた。また礫は比較的まとまって分布する5点を5号礫群としてとらえた。



第116図 第V文化層エリアG器種別分布図

8号石器集中 U・V-9 グリッドを中心とする 径約 24 m の範囲に分布する石器 237 点から成る。資料の大半は中心の径 9 m の範囲に密集する。出土層位は休場層中位から漸移層が中心であるが上下の層にも及び、休場層下位、休場層直下黒色帯、暗褐色土層からも出土している。

5号礫群（第 117 図） 8号石器集中の分布密集域に隣接して径約 2 m の範囲に礫 5 点がまとまる。礫に被熱痕跡は認められない。

(2) 出土石器（第 119・120 図）

尖頭器（227）

黒曜石（和田鷹山群）製。両面加工で、裏面最下部中央の平坦な剥離面が素材面とすると、素材を横位に用いたものである。

ナイフ形石器（228～231）

228 は黒曜石（諏訪星ヶ台群）製で石刃状剥片を素材とする二側縁加工、229 は黒曜石（天城柏峠群）製、小形の割に甲高の素材で背部加工は対向調整によっている。背部には基部から縦溝状の剥離が数条入っている。230 はホルンフェルス製で、風化が激しいが一側縁加工と見られる。231 はホルンフェルス製、石刃状剥片を素材とし、基部に打面を残して両側縁が二次加工されている。

切出形石器（232～234）

232 は黒曜石（和田鷹山群）製、折断面を両側縁に置き、右側縁基部側が二次加工されている。233・234 は黒曜石（箱根畑宿群）製で素材を斜位或いは横位に用いたもので、素材末端側が背部加工となっている。

搔器（235・236）

いずれも黒曜石（箱根畑宿群）製。235 は厚手の剥片の末端から右側縁にかけて二次加工されている。236 は急斜度加工が施されているため搔器に分類したが、小片のため詳細は不明である。

楔形石器（237）

黒曜石（箱根畑宿群）製。左側縁に対向調整が施されており、ナイフ形石器等からの転用の可能性がある。

二次加工剥片（238）

ホルンフェルス製でやや風化しているが、打面を残し一側縁に急斜度加工が施されている。ナイフ形石器等に分類される可能性もある。

剥片類・石核・接合資料（239～242）

石材は黒曜石（箱根畑宿群）とホルンフェルスとが主体である。

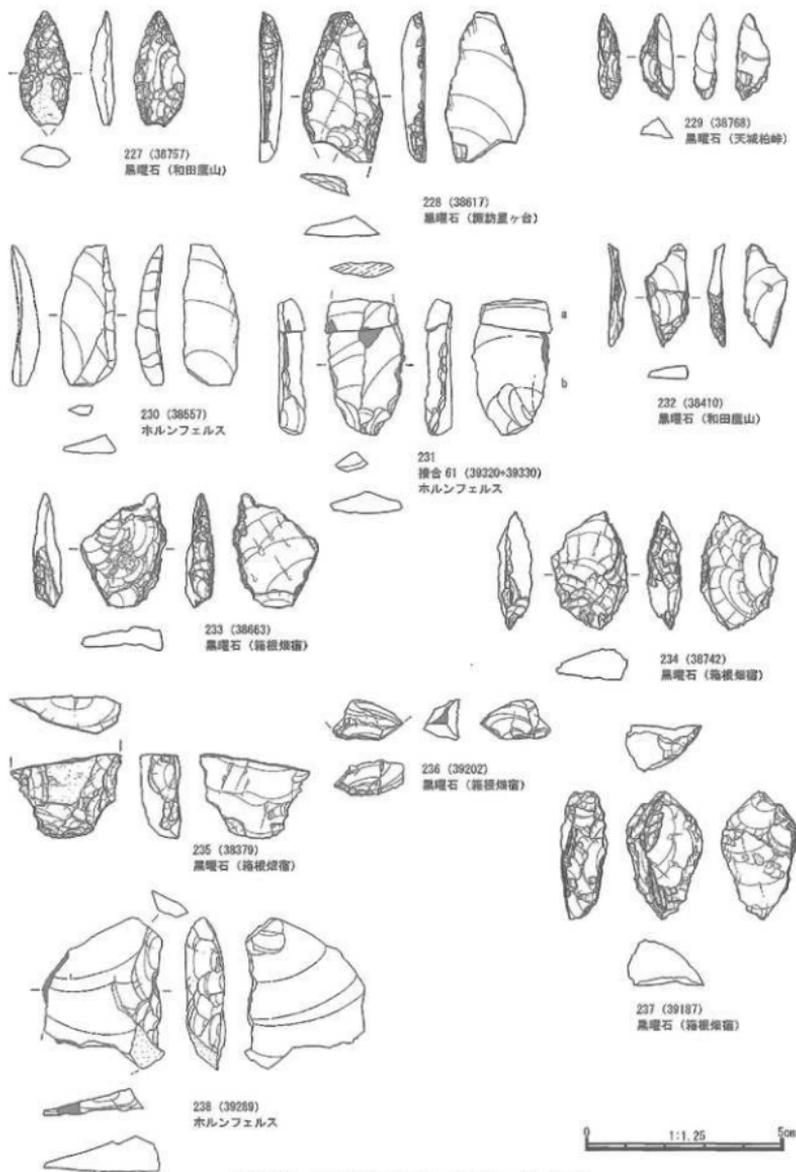
黒曜石（箱根畑宿群）は小形・不定形のもので占められる。239（接合資料 64）は剥片 2 点から成る接合資料で、両極剥離により破砕されたものの可能性がある。

ホルンフェルスも小形のもが主体だが、一部縦長剥片が含まれる（240・241）。但し背面の剥離痕構成から見て、連続的な縦長・石刃状剥片製作は認められない。石核（242）は打面転移を繰り返したブロック状のものが 1 点ある。

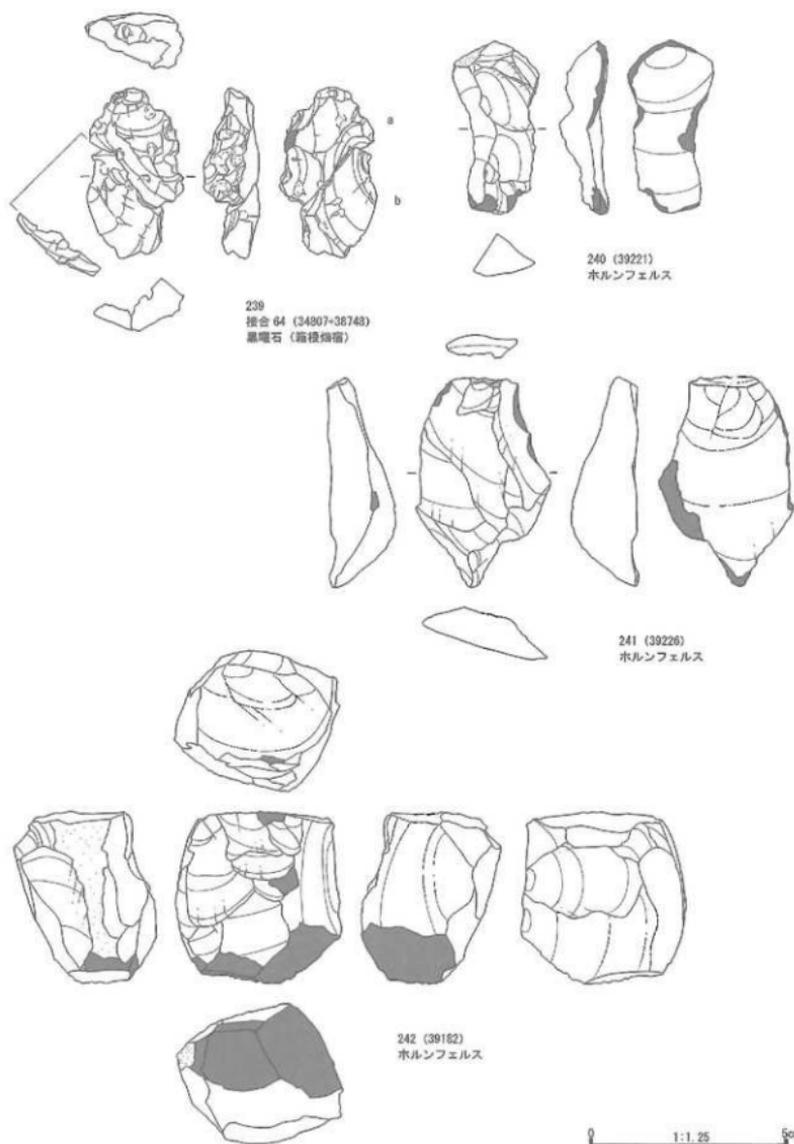
この他に珪質頁岩製の剥片 1 点が出土しているが、小片のため図示していない。

第55表 第V文化層エリアG石材別器種組成

尖頭器	黒曜石				ホルンフェルス		注質頁岩	合計	
	諏訪星ヶ台	和田鷹山	箱根畑宿	天城柏峠	未分析	推定不可			
ナイフ形石器	1	1	1		3			5	
切出形石器	1		2					3	
搔器			2					2	
楔形石器		1						1	
二次加工剥片					1			1	
剥片		43		5	56		1	106	
砕片		7			19	91		117	
石核						1		1	
合計	1	2	55	1	5	20	152	1	237



第119図 第V文化層エリアG出土石器(1)



第120図 第V文化層エリアG出土石器(2)

9 エリアH

(1) 遺物の分布 (第121図)

S.12グリッドを中心とする範囲。石器33点、礫1点が出土した。石器は1箇所にまとまった分布を示し、これを9号石器集中としてとらえた。

9号石器集中 径約16mの範囲に分布する石器33点から成る。出土層位は休場層中位から漸移層であるが1点暗褐色土層からも出土している。

(2) 出土石器 (第123・124図)

ナイフ形石器 (243～245)

243・244は黒曜石(蓼科冷山群)製、245は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製。243は二側縁加工、244は右側縁は急斜度調整、左側縁は折断面となっている。245は先端部のみ尖頭状に加工されている。

剥片類・石核・接合資料 (246～248)

利用石材はホルンフェルス、蓼科冷山群・諏訪星ヶ台群・箱根畑宿群の黒曜石、珪質頁岩である。

ホルンフェルス製の資料には246のような厚手の剥片が3点含まれる。1点ある石核(247)は消費が進んでいないブロック状石核だが、同一母岩と見られる資料はない。

黒曜石は箱根畑宿群が最も多い。このうち248(接合資料65)は石核に厚手の剥片3点が接合したものである。

第56表 第V文化層エリアH石材別器種組成

	黒曜石			ホルンフェルス	珪質頁岩	合計
	諏訪星ヶ台	蓼科冷山	箱根畑宿			
ナイフ形石器	1	2				3
剥片	2	4	10	5	1	22
剥片				5	1	6
石核			1	1		2
合計	3	6	11	5	7	33

10 エリアI

(1) 遺物の分布 (第122図)

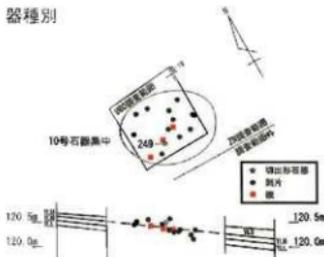
R-18グリッドの一角の範囲。石器13点、礫3点が出土した。遺物は1箇所にまとまった分布を示し、このうち石器を10号石器集中としてとらえた。礫のうち1点は重量2kg超の大形礫である。

10号石器集中 径約3mの範囲に分布する石器13点から成る。出土層位は休場層上位を中心とし、一部漸移層、富士黒土層からも出土している。

第57表 第V文化層エリアI石材別器種組成

	黒曜石		合計
	箱根畑宿	推定不可	
切出形石器	1		1
剥片	10	2	12
合計	11	2	13

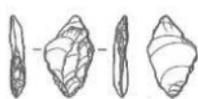
器種別



石材別



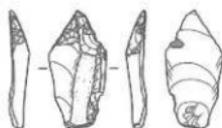
第122図 第V文化層エリアI遺物分布図



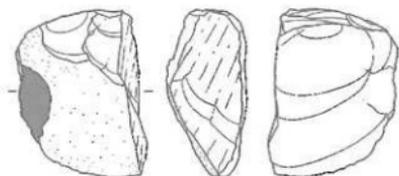
243 (39140)
黒曜石 (夢科冷山)



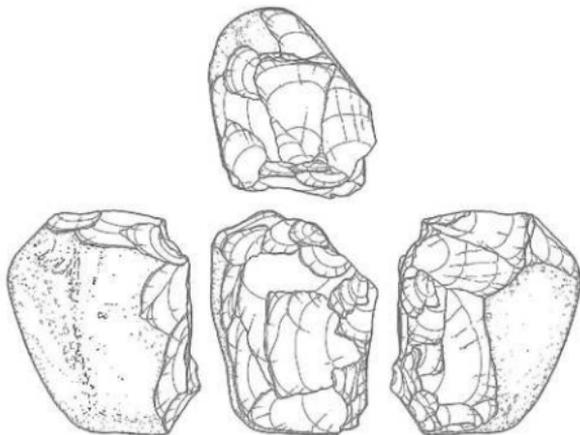
244 (39087)
黒曜石 (夢科冷山)



245 (39976)
黒曜石 (諏訪趾ヶ台)



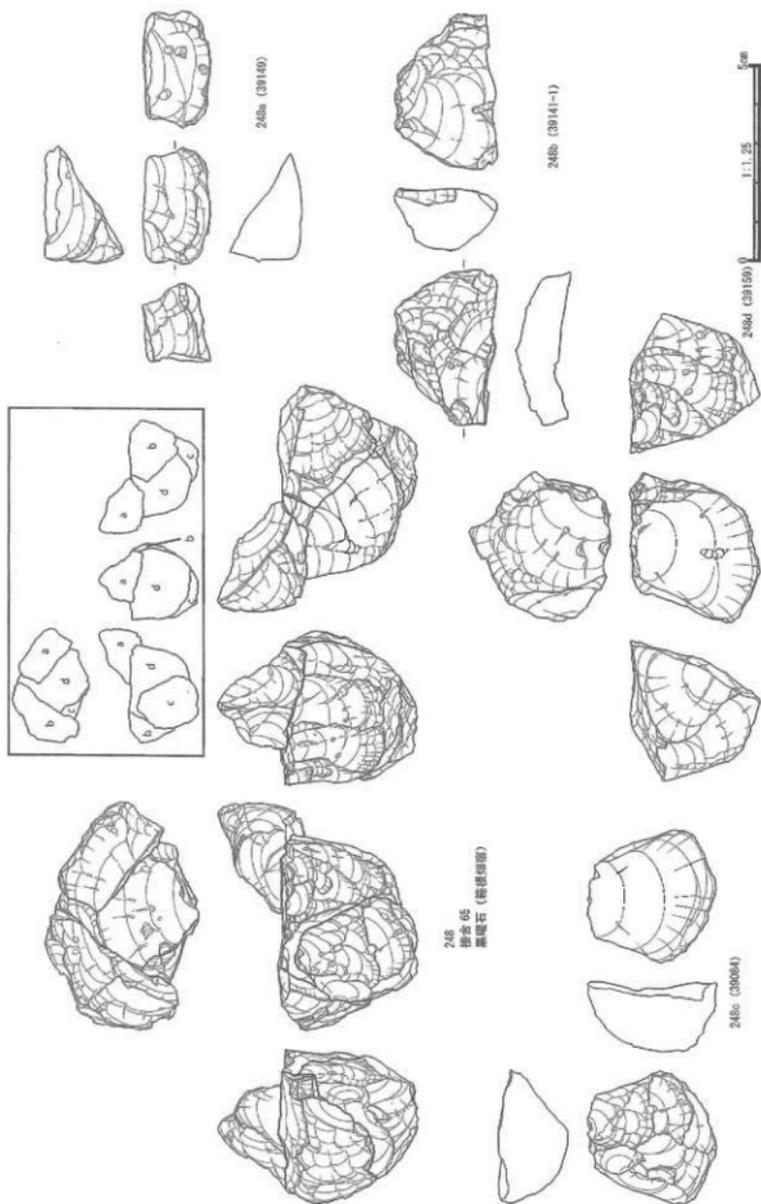
246 (39255)
ホルンフェルス



247 (41392)
ホルンフェルス



第123図 第V文化層エリアH出土石器(1)



第124図 第V文化層エリアH出土石器 (2)

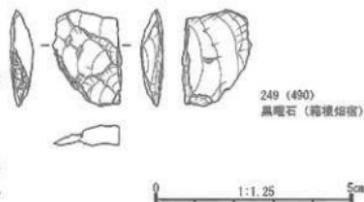
(2) 出土石器 (第125図)

切出形石器 (249)

黒曜石 (箱根畑宿群) 製。素材を横位に用い、右側縁を折断面とし、左側縁基部を二次加工している。

剥片

原産地分析で推定不可であった資料も含めて、全て黒曜石 (箱根畑宿群) と見られるが、同一母岩ではなく少なくとも2母岩 (半透明のものと不透明のもの) が存在するようである。



第125図 第V文化層エリアI出土石器

11 エリアJ

(1) 遺物の分布 (第126図)

N-18グリッドを中心とする範囲。石器6点が出土した。

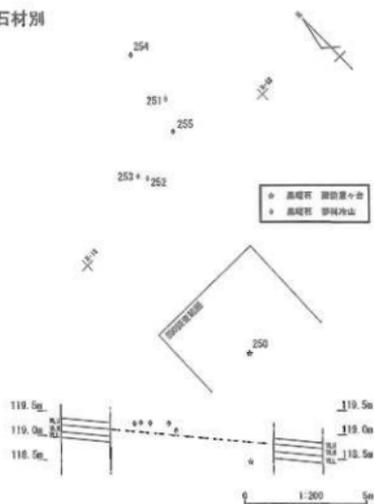
第58表 第V文化層
エリアJ 石材別器種組成

	黒曜石	御料 釜山	合計
尖頭器	1	1	2
ナイフ形石器		4	4
切出形石器		1	1
合計	1	5	6

器種別



石材別



第126図 第V文化層エリアJ遺物分布図

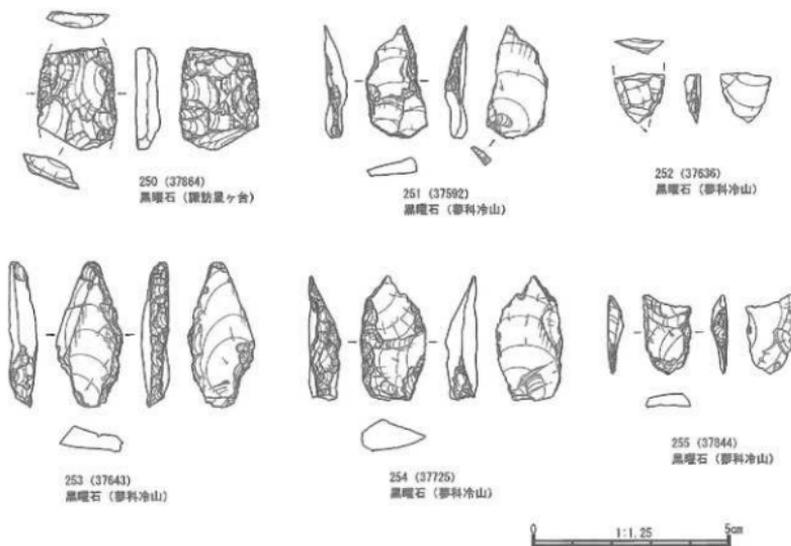
(2) 出土石器 (第 127 図)

尖頭器 (250)

黒曜石 (諏訪星ヶ台群) 製。両面加工で両端を欠損している。調査時の取り上げ層位は第 I スコリア層と記録されているが、出土地点は大規模な攪乱を受けていた範囲に隣接しており、原位置を留めていなかった可能性がある。

ナイフ形石器 (251 ~ 254)・切出形石器 (255)

全て黒曜石 (夢科冷山群) 製。251・254 は打面を残置した二側縁加工のもの。252 は一側縁加工の基部破片と見られる。253 は素材を斜位に用いた二側縁加工で素材末端側に背部加工、打面部に基部加工が施されている。255 は左側縁を素材末端の平坦面として基部のみ二次加工し、打面側は一辺を二次加工している。



第127図 第V文化層エリアJ出土石器

12 エリアK

(1) 遺物の分布 (第 128・129 図)

K~M-22~24 グリッドを含む範囲。石器 106 点、礫 13 点が出土した。石器は大きく 2 箇所にとまっていた分布を示し、それぞれ 11 号・12 号石器集中としてとらえた。

11 号石器集中 (第 60 表) M-22 グリッドを中心とする径約 5 m の範囲に分布する石器 23 点から成る。出土層位は休場層上位であるが、2 点漸移層からも出土している。

12 号石器集中 (第 61 表) K-23 グリッドを中心とする径約 24 m の範囲に分布する石器 82 点から成る。出土層位は休場層上位が中心であるが、上下の休場層直下黒色帯から暗褐色土層にまで及んでいる。

第59表 第V文化層エリアK石材別器種組成

	黒曜石		ホ ル ン フェ ル ス	ガ ラ ス 質 黒 色 安 山 岩	瑠 璃 質 頁 岩	合 計
	箱 根 畑 宿 群	推 定 不 可				
ナイフ形石器	1		2			3
切出形石器	2					2
削器		1				1
二次加工剥片			2	1		3
剥片	18	3	65		2	88
砕片			2	4		6
石核			3			3
合計	21	4	76	1	2	106

第60表 第V文化層
11号石器集中石材別器種組成

	黒 曜 石	ホ ル ン フェ ル ス	合 計
剥片	2	19	21
石核		2	2
合計	2	21	23

第61表 第V文化層12号石器集中石材別器種組成

	黒曜石		ホ ル ン フェ ル ス	ガ ラ ス 質 黒 色 安 山 岩	瑠 璃 質 頁 岩	合 計
	箱 根 畑 宿 群	推 定 不 可				
ナイフ形石器	1		2			3
切出形石器	2					2
削器		1				1
二次加工剥片			2	1		3
剥片	16	3	45			64
砕片			2	4		6
石核			1			1
合計	19	4	54	1	2	82

(2) 出土石器 (第130～135図)

ナイフ形石器 (256～258)

256は右側縁上半及び左側縁下半に二次加工し、左側縁上半を刃部とするナイフ形石器であったが、刃部から先端にかけて再加工が行われたものと考えられる。黒曜石(箱根畑宿群)製。257・258はホルンフェルス製で風化が進んでいるが縦長剥片の少なくとも一側縁を加工したものと見られる。

切出形石器 (259・260)

2点とも黒曜石(箱根畑宿群)製。259は素材を横位に用いて素材打面を左側縁に置き、対辺を背部加工で成形している。260も素材を横位に用いているが、二次加工は基部のみで先端側は素材形状のままとなっている。

削器 (261)

黒曜石(産地分析では推定不可だが恐らく畑宿産)製。厚手剥片の右側縁末端側に急斜度加工で抉入状の刃部を設けている。

二次加工剥片 (262・263)

262はホルンフェルス製で、厚手の縦長剥片の裏面先端から左側縁にかけて平坦加工が行われている。263はガラス質黒色安山岩製で、縦長剥片の右側縁末端側に二次加工が認められる。

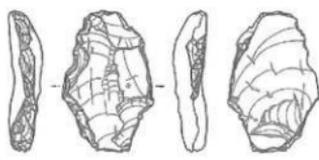
剥片類・石核・接合資料 (264～276)

ホルンフェルス、黒曜石(箱根畑宿群)が主体を占める。後者は大半が12号石器集中にまとまる。

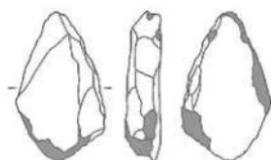
黒曜石の資料は分析不可のものも含めて箱根畑宿群と見られる。いずれも小形で全て長さ3cm以下(うち17点が2cm以下)である。石核や剥片剥離過程の分かる接合資料は見られないが、剥片類は264・265のように単剥離打面で石核調整に乏しい。



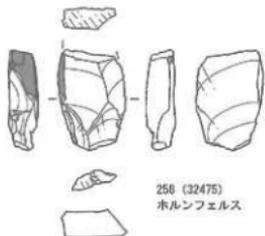
第128図 第V文化層エリアK器種別分布図



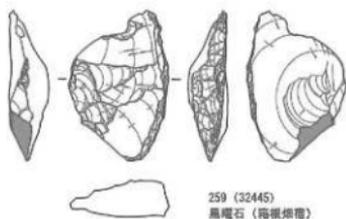
256 (29461)
黒曜石 (箱根燧石)



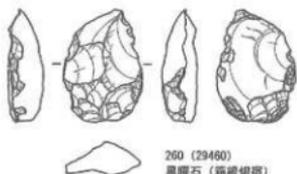
257 (32403)
ホルンフェルス



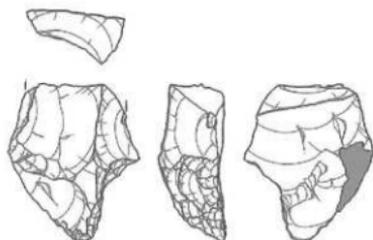
258 (32475)
ホルンフェルス



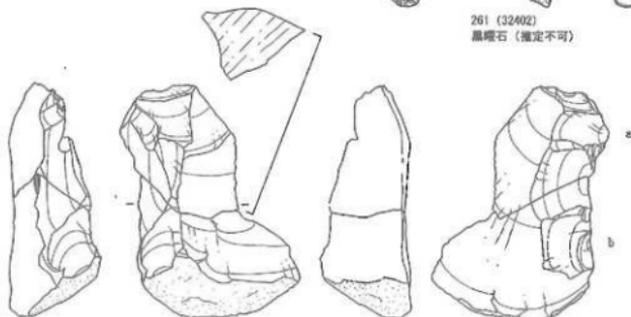
259 (32445)
黒曜石 (箱根燧石)



260 (29490)
黒曜石 (箱根燧石)



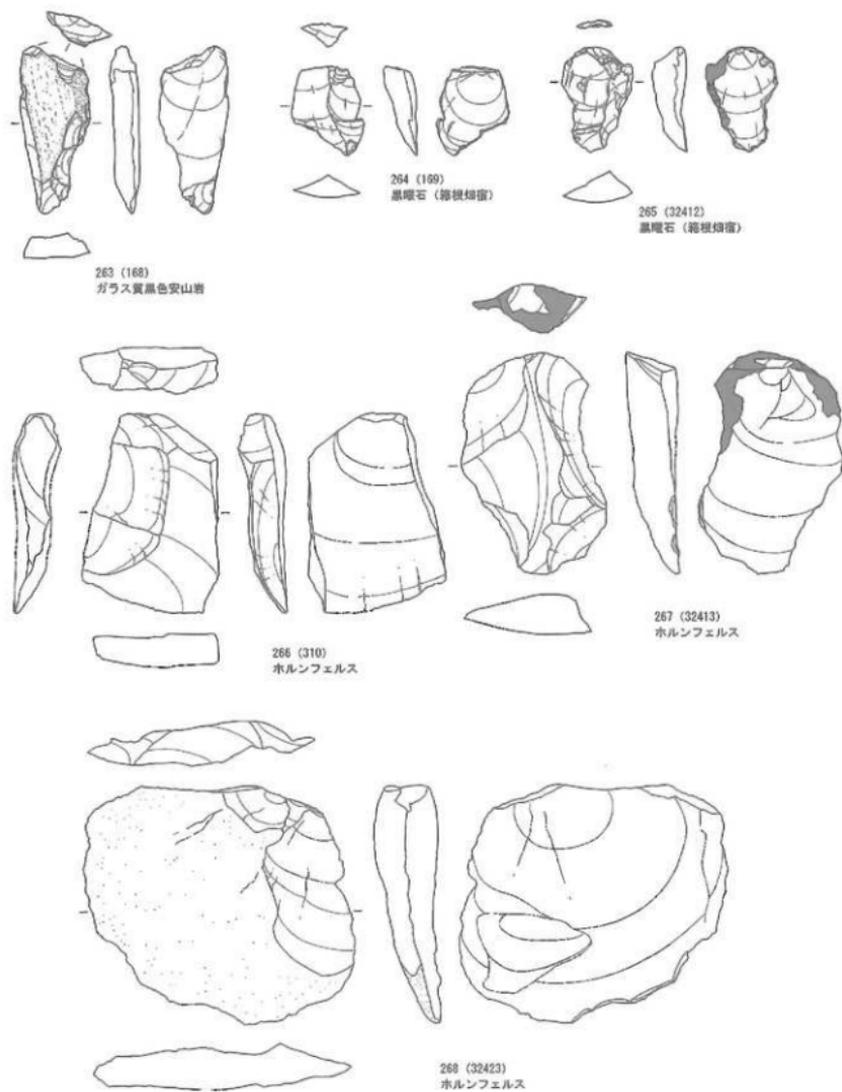
261 (32402)
黒曜石 (推定不可)



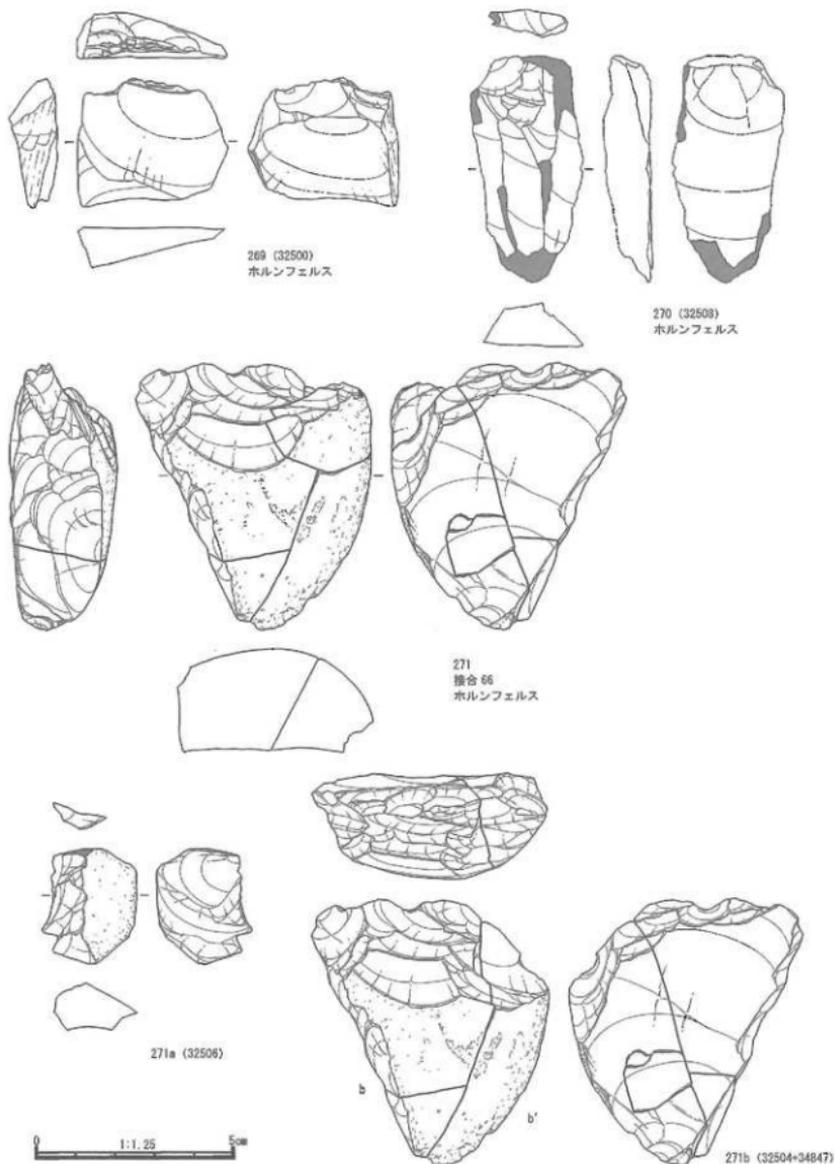
262
接合 70 (32393-32478)
ホルンフェルス



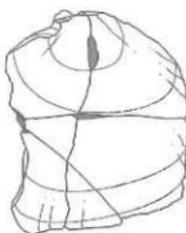
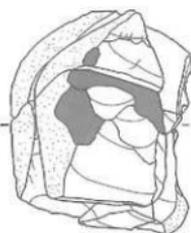
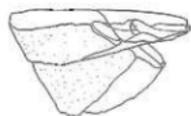
第130図 第V文化層エリアK出土石器(1)



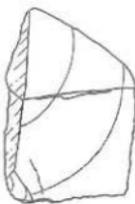
第131図 第V文化層エリアK出土石器(2)



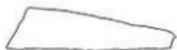
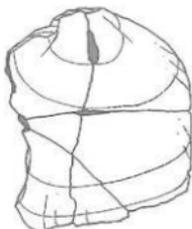
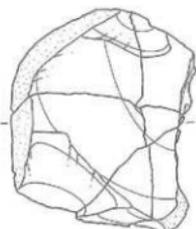
第132図 第V文化層エリアK出土石器(3)



272
推倉 67
ホルンフェルス



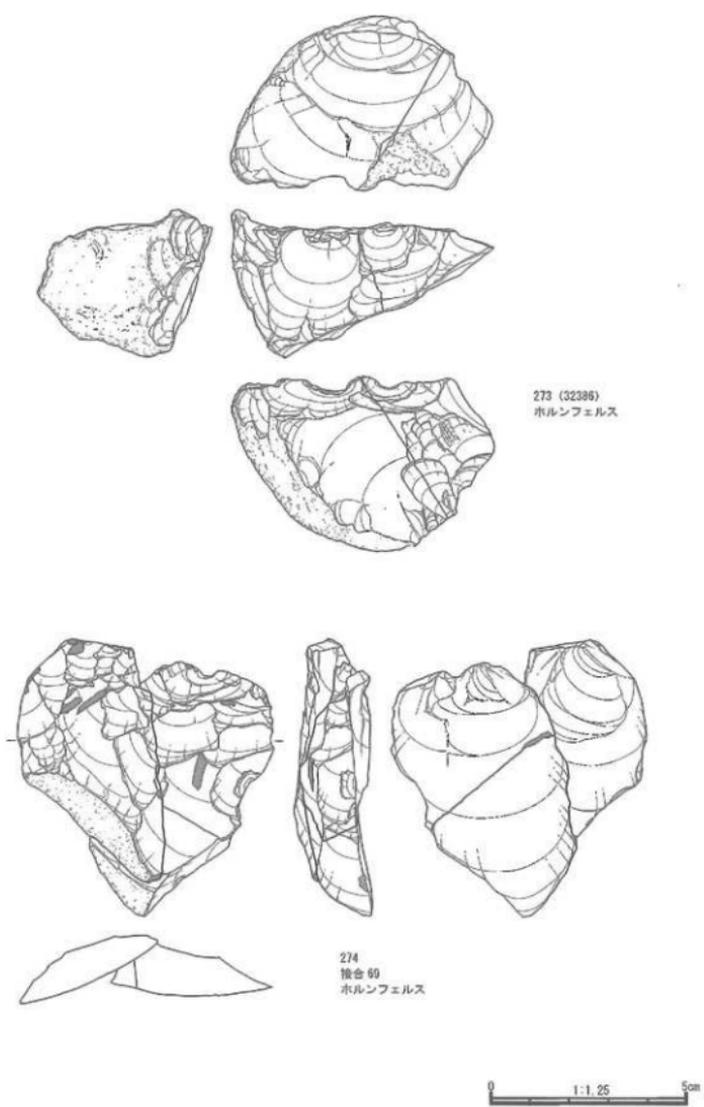
272a (32497)



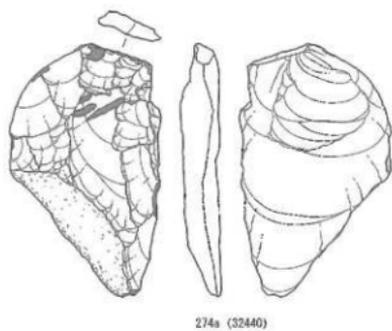
272b (32510)



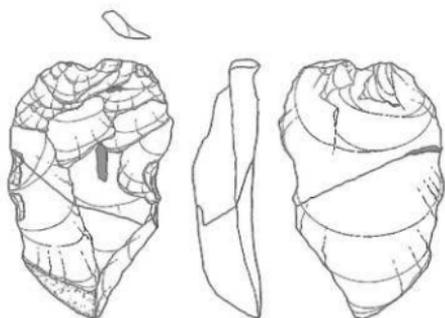
第133図 第V文化層エリアK出土石器(4)



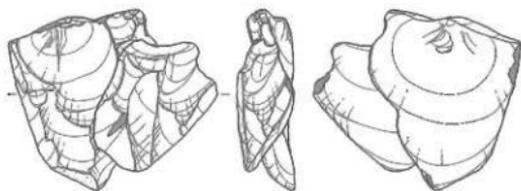
第134図 第V文化層エリアK出土石器(5)



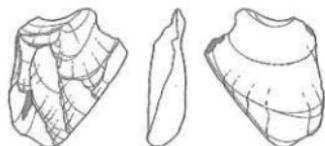
274a (32440)



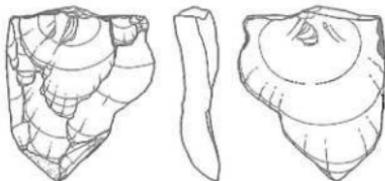
274b (32422)



275
 鎌倉 72
 ホルンフェルス



275a (32401)



275b (32438)



276 (32466)
 瑠璃質頁岩



第135図 第V文化層エリアK出土石器(6)

ホルンフェルスの資料は比較的大形のものが多く、縦長のもの(266・267)、幅広のもの(268・269)、石刃状のもの(270)と形態も多様である。石核や接合資料からは、打面と作業面とを交互に入れ替える工程(271:接合資料66)と、打面を固定して同一方向に剥離する工程(272:接合資料67、273、274:接合資料69、275:接合資料72)との存在が窺え、縦長の剥片は後者の工程でしばしば生ずるものと推測される。なお、271・273～275は肌理が細かく風化度の弱い同一の石質の資料である。

以上のほか珪質頁岩の剥片2点が出土している(276)。

13 その他の資料(第136～138図)

上記のエリアA～Kの範囲外から出土した資料のうち、休場層中位～上位から出土したもの、及び漸移層以上から出土したもののうち形態的に休場層の資料と判断されるものをここに含めた。したがって第V文化層の資料との同時期性が不明確な資料も含まれている。石器50点、礫6点があり、主な石器を図示した。

尖頭器(277～286)

277は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製の有樋(面取り)尖頭器である。ファシットは右先端部に入り、階段状末端となっている。ファシットの形成後、さらにファシットの対辺や裏面に加工が施されている。278はホルンフェルス製、279はガラス質黒色安山岩製の両面加工品であるが、278は風化が激しく剥離の詳細は不明である。280～283は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製、両面加工で、残された素材面から素材剥片を横位に用いたものであることが分かる。284～286は片面加工、或いは基部のみ裏面加工のあるものである。286の裏面基部側の剥離は折損時に由来する可能性が高い。3点とも黒曜石製(284:天城柏峠群、285:和田小深沢群、286:和田鷹山群)。

ナイフ形石器(287～310)

287はホルンフェルス製、二側縁加工で右側縁基部がやや内湾するものである。288・289もホルンフェルス製で一側縁或いは二側縁加工と見られるが、風化が進行しており定かではない。

290～302は縦長剥片を素材とし打面側を基部とするものである。290は基部両側縁をV字形に二次加工したものである。291～297は二側縁加工で片側縁基部が弱く内湾する特徴をもつ。298～300は背部加工ではなく尖頭部と基部とを中心にトリミングしたもので、298、299は加工度合から見て周縁加工の尖頭器に近い。301・302にも基部を中心とした二次加工が見られるが、先端部を欠いている。302では基部加工が片側縁に限られている。

303～305は素材剥片を逆位に用い、素材打面側に尖頭部を設けたものである。

306は素材を横位に用いた二側縁加工のものである。

307～310はナイフ形石器の折損品と考えられる資料である。

切出形石器(311～313)

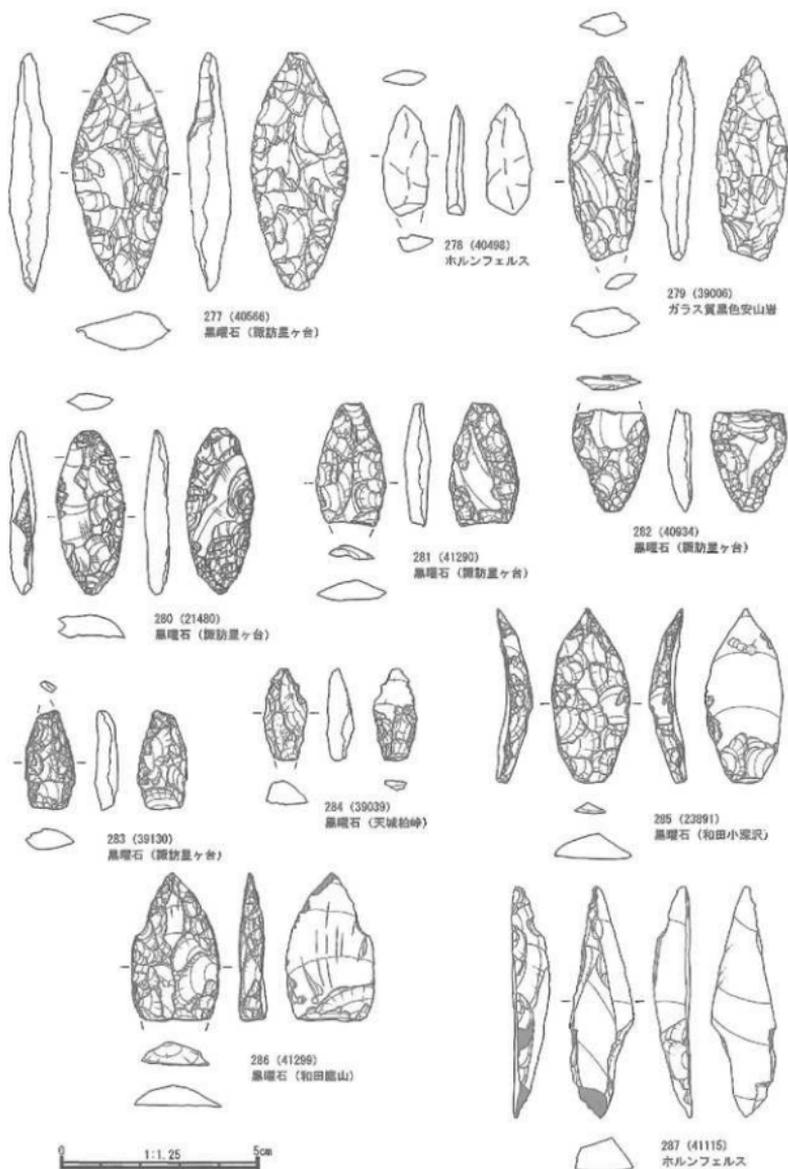
311は素材を横位に用い二側縁を加工したもので、312では二次加工が基部まで遡っている。313は311と同様の素材、加工であるが先端部を欠くため本来の刃部形状は不明である。

二次加工剥片(314)

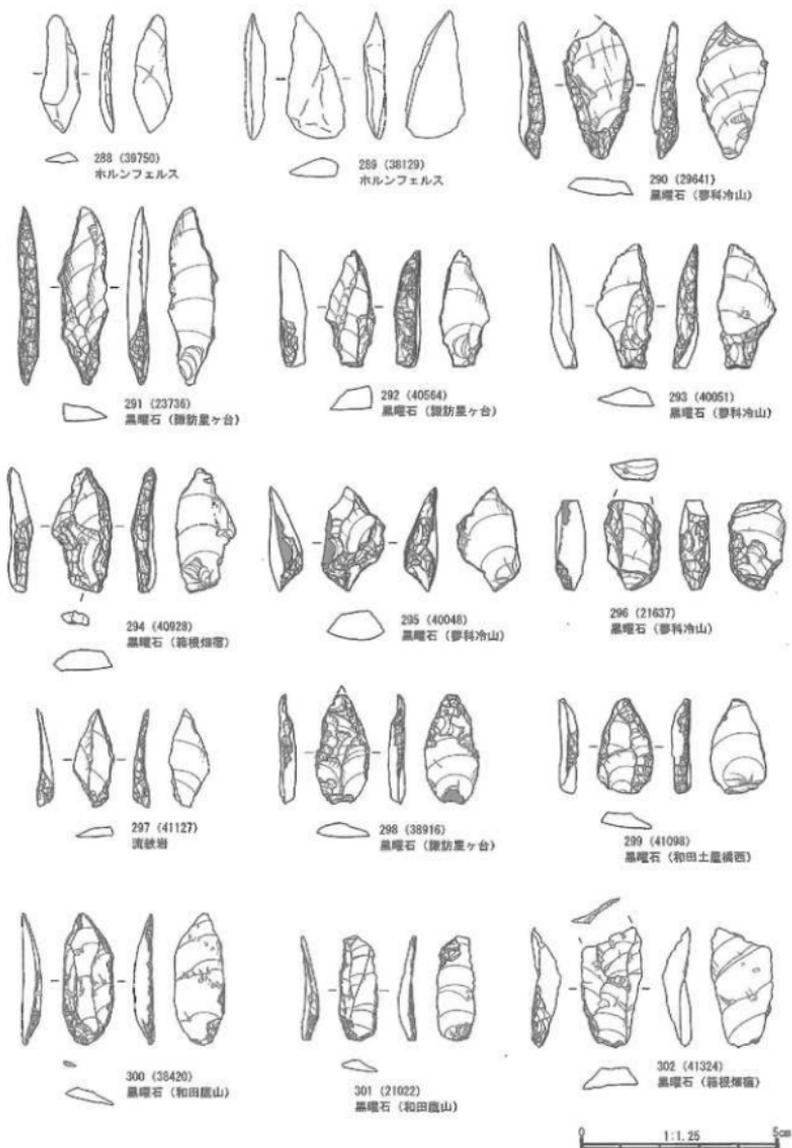
玉髄製。石刃状剥片の右側縁に部分的に二次加工が認められる。

第62表 第V文化層エリア外石材別器種組成

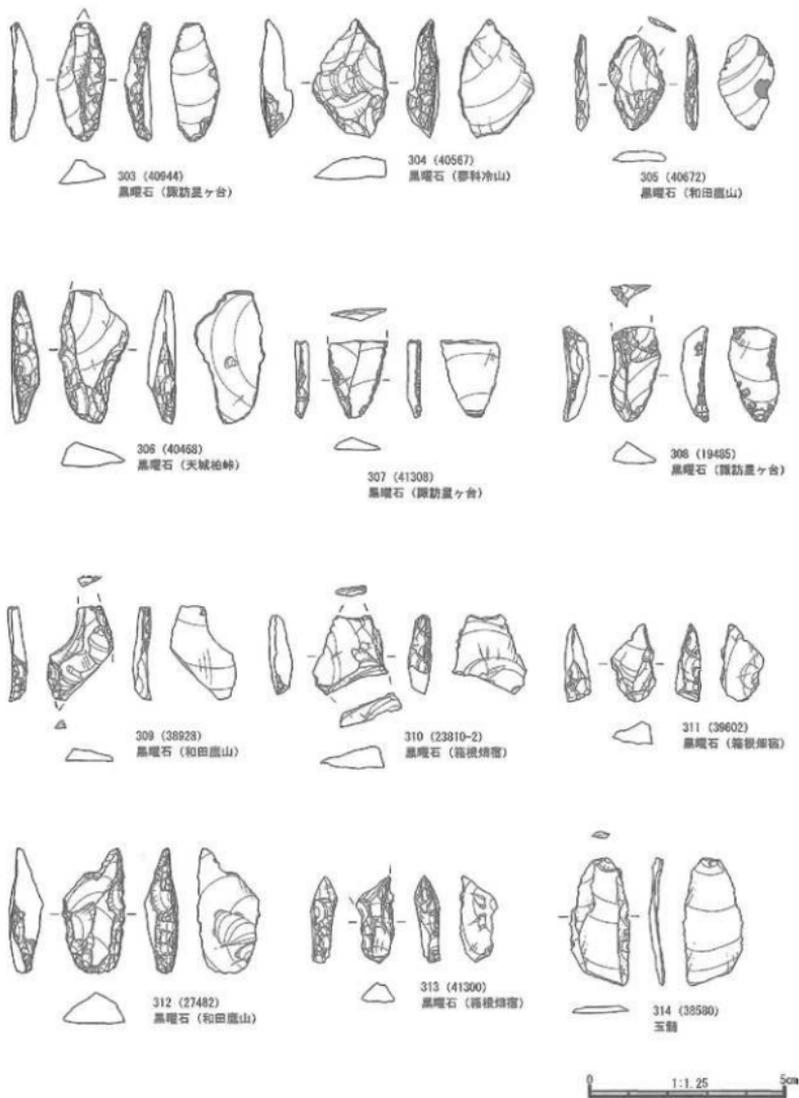
	諏訪星ヶ台	和田鷹山	和田小深沢	和田土屋横西	黒曜石	夢科冷山	高根俣山	天城柏峠	ホルンフェルス	ガラス質黒色安山岩	メノウ	流紋岩	合計
尖頭器	5	1	1					1	1	1			10
ナイフ形石器	6	4		1	5	3		1	3			1	24
切出形石器		1					2						3
二次加工剥片												1	1
剥片	3						6	1	1				11
砕片													1
合計	14	6	1	1	5	12	3	3	5	1	1	1	50



第136図 第V文化層エリア外出土石器(1)



第137図 第V文化層エリア外出土石器(2)

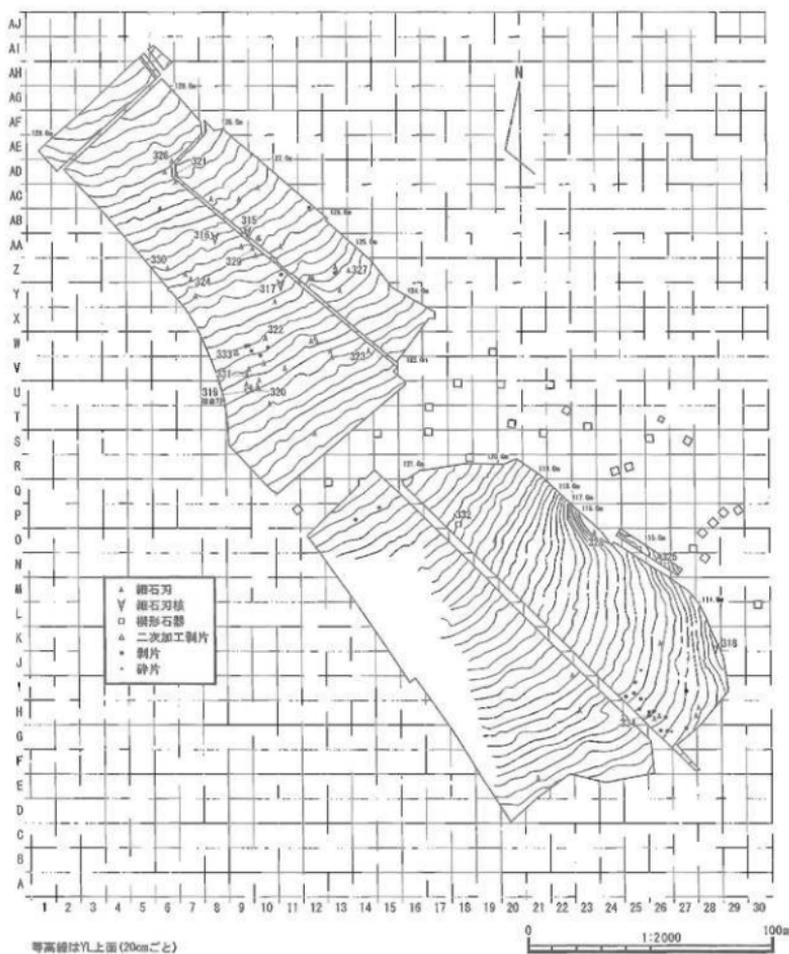


第138図 第V文化層エリア外出土石器(3)

第7節 第VI文化層

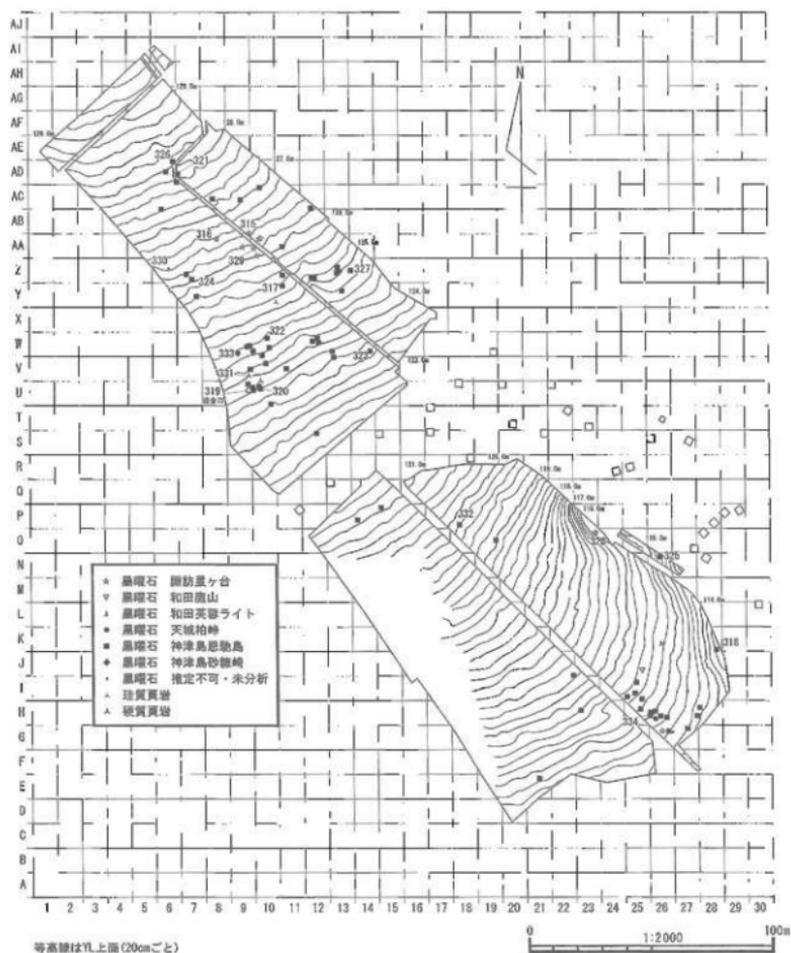
1 概要と遺物の分布

漸移層を中心に出土した石器 87 点から成り、細石刃石器群関連資料を主体とする（第 139・140 図、第 63 表）。分布は散的であるが、細石刃石器群では調査区でも北西側の 1 区、2 区で比較的分布密度が高い。



第139図 第VI文化層器種別分布図

V-9 グリッド周辺のは第V文化層エリアGの石器群と分布が重複するが、細石刃や神津島産黒曜石製の石器は明らかに上層に位置づけられるため分離した。また、H-25 グリッド周辺については、第IV章第2節で述べた通り縄文時代の資料群より下層にくる資料を分離したものであるが、特徴に乏しい剥片類が主体のため縄文時代の資料が混在している可能性もある。



第140図 第VI文化層石材別分布図

2 出土石器 (第141・142図)

細石刃核 (315～318)

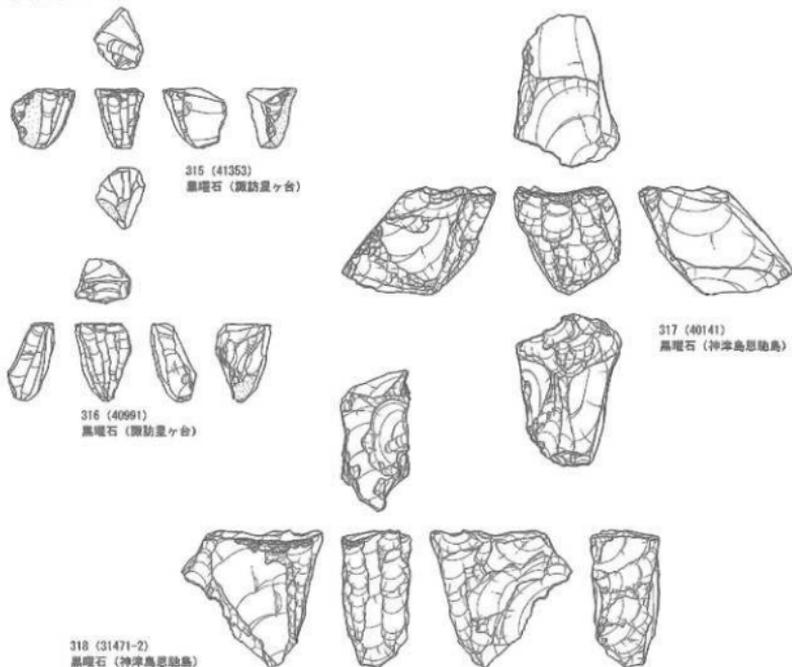
315は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製で、背部に稜線を設け、角錐状を呈する。316は黒曜石(諏訪星ヶ台群)製で、背部は平坦加工で面的に調整されている。317は黒曜石(神津島恩馳島群)製で、図中止面側と下面側との2箇所に作業面が設けられている。318は黒曜石(神津島恩馳島群)製、おそらく厚手の剥片素材で、小口面に作業面を設けている。

細石刃 (319～331)

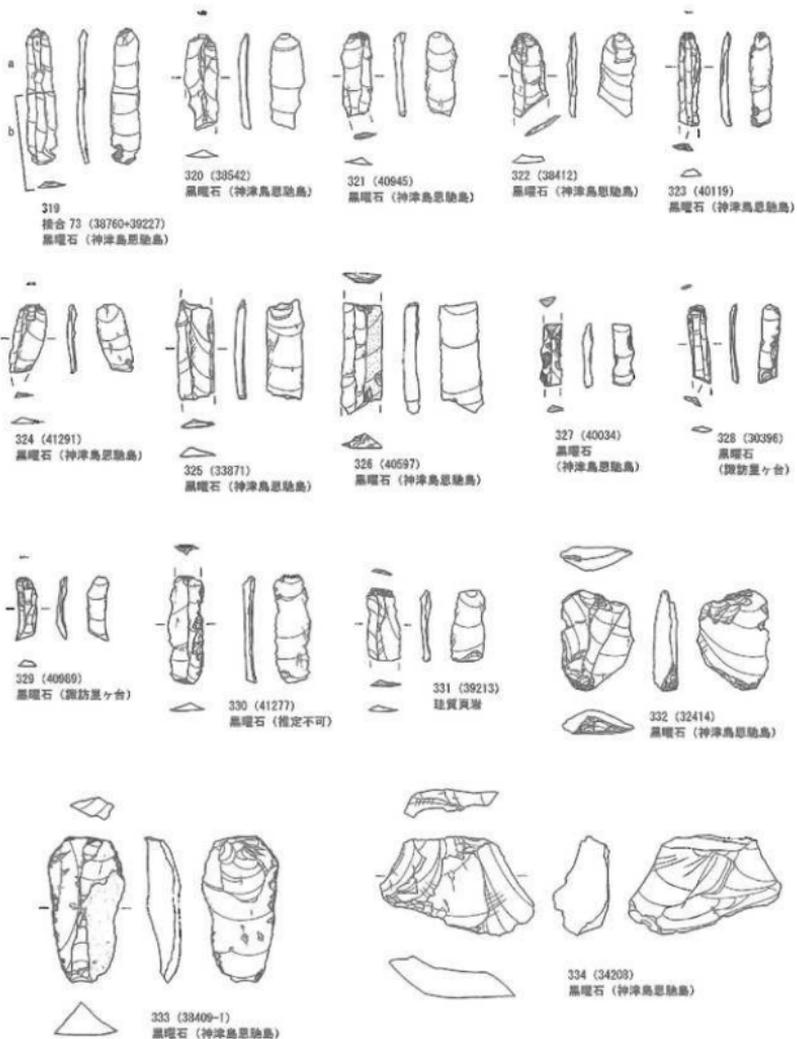
大半が黒曜石(神津島恩馳島群)製で、他に黒曜石(諏訪星ヶ台群)製と珪質頁岩製のものがある。背面剥離痕から判断する限りでは単設打面のものが主である。327・328・330のように二次加工のあるものが少数見られる。

第63表 第VI文化層石材別器種組成

	黒曜石										合計
	諏訪星ヶ台	和田山	和田芙蓉ライト	天城泊峠	神津島恩馳島	神津島砂島崎	推定不可	未分析	珪質頁岩	珪質頁岩	
細石刃	6	1	1	43					2	1	55
細石刃核	2			2							4
珪質石器				1							1
二次加工剥片					1						1
剥片	1				22	1					24
碎片		1									2
合計	9	1	1	1	69	1	1	1	2	1	87



第141図 第VI文化層出土石器 (1)



第142図 第VI文化層出土石器 (2)

楔形石器 (332)・二次加工剥片 (333)

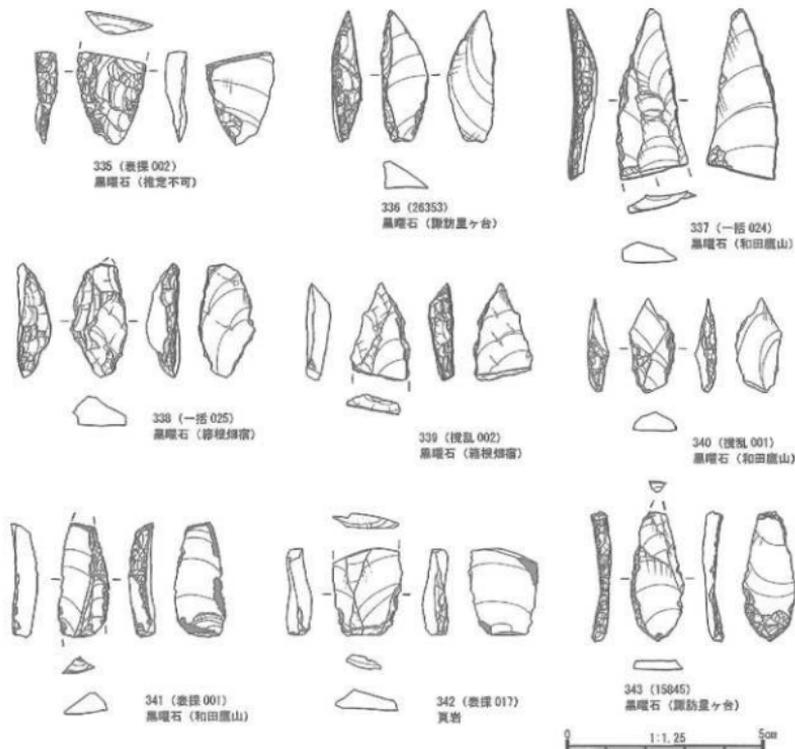
332はP-18グリッド、333はW-9グリッドから出土した。ともに黒曜石(神津島恩馳島群)製だが共存する石器はなく、細石刃石器群に伴うものかは不明である。

剥片類 (334)

剥片類については形態や出土位置等から縄文時代の資料と厳密に分離することは困難であった。ここでは、休場層から出土した黒曜石(神津島恩馳島群)製の資料、V-9グリッドで細石刃石器群とともに出土した資料、H-26グリッド周辺で縄文時代の資料の下層から出土した資料を第VI文化層に含めている。334はH-26グリッドで出土した剥片である。

第8節 表採・一括等の遺物

形態からは旧石器時代の遺物と考えられるが、表採や後代の遺構・攪乱等の出土、或いは出土位置不明など、原位置から大きく遊離した状態にあると考えられる資料を本節でまとめて提示する(第143図)。



第143図 表採・一括等の石器

尖頭器 (335)

3・6区付近表採。黒曜石(分析不可であったがおそらく信州産)製の片面加工品の破片である。

ナイフ形石器 (336～343)

336は縄文時代の住居跡(SB14)調査中に出土した。幅広剥片素材を横位に用いたもので、第Ⅲ或いは第Ⅳ文化層に近い時期の所産と考えられる。337は4区暗褐色土層出土で、本来は第Ⅳ・Ⅴ文化層など休場層のものと考えられる。338は4区区耕作土出土。厚い背部加工があり、第Ⅳ文化層に近い時期の所産と考えられる。339・340は4区の攪乱出土。第Ⅲ或いは第Ⅳ文化層に近い時期の可能性が考えられる。341は4区表採。休場層の時期と考えられる。342は試掘坑TP2-11付近表採。基部加工で第Ⅱ文化層に近い時期の可能性が考えられる。343は6区暗褐色土層出土。この地区ではローム層の堆積が良好でなく、下層に旧石器時代の資料が出土していないためここに含めた。休場層の時期と見られる。

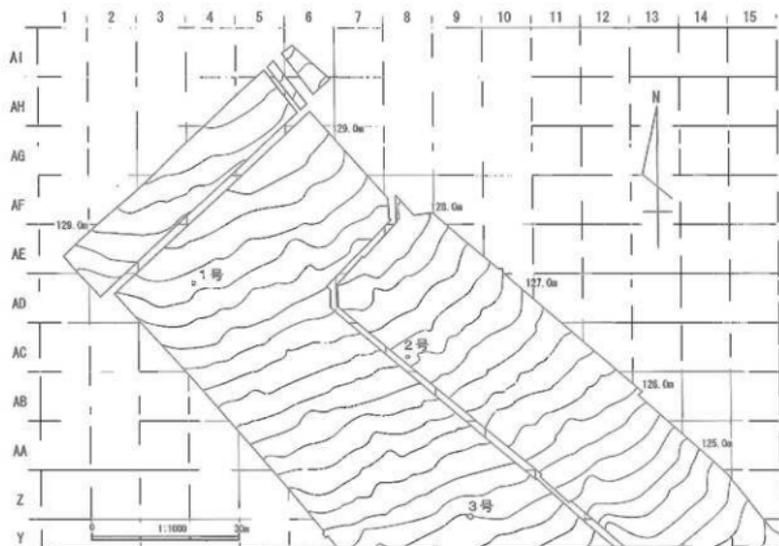
第9節 休場層の遺構

休場層中から土坑が3基検出された(第144・145図)。検出面はいずれも休場層下位に相当し、覆土もローム質の土から成っている。調査時の所見では覆土に焼土粒や炭化物が含まれていたことが記録されているが(第64表)、土坑の用途等との関連は不明である。

1号土坑 AD-4グリッドで検出された。長径100cmの楕円形で、深さ70cmの上部で開いた円筒形を成す。

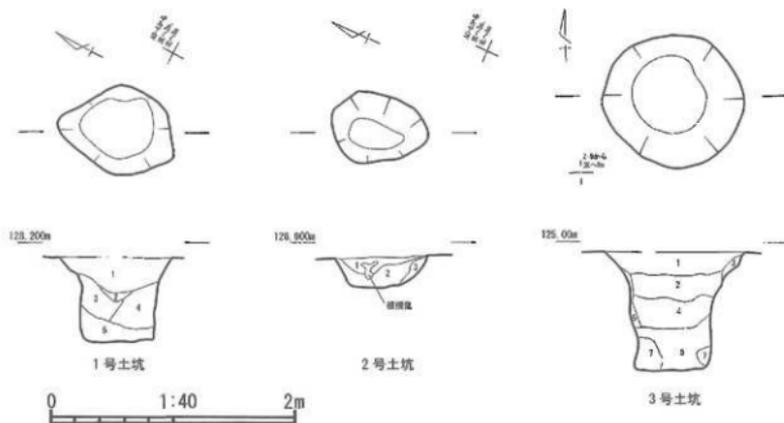
2号土坑 AC-8グリッドで検出された。長径80cmの楕円形で深さ20cm。他の2基と形状が異なり浅い皿状を成しており、異なる機能をもった遺構と考えられる。

3号土坑 Z-9グリッドで検出された。径110cmの円形で、深さ100cmの上部で開いた円筒形を成す。



等高線は1m上面(20cmごと)

第144図 土坑位置図



第145図 休場層の土坑

第64表 休場層の土坑の土層

1号土坑の土層		
番号	色調	内容
1	黄褐色土	休場層下位相当土。
2	暗褐色土	赤色スコリアをごく少量含む。
3	暗褐色土	赤色スコリアを含み、黒色が混じる。
4	暗褐色土	赤色スコリアを少量含む、炭化物をごく少量含む。
5	暗褐色土	赤色スコリアを少量含む、他の層より硬化している。
2号土坑の土層		
番号	色調	内容
1	褐色土(7.5YR 4/6)	休場層中位相当土。径1mm大の炭化物を少量、径1mm大の焼土粒、径3~5mm大の黒色粒を含む。しまりはなく、粘性がある。
2	暗褐色土(10YR 3/4)	径1mm大の焼土粒・炭化物を少量含む。ややしまりがあり、粘性がある。
3	極暗褐色土(7.5YR 2/3)	黒褐色土(休場層直下黒色帯相当)と黄褐色ロームとの混土。径1mm大の焼土粒をごく少量含む。しまりはなく、粘性がある。
3号土坑の土層		
番号	色調	内容
1	褐色土(10YR 4/4)	休場層上・中位相当土。径1mmの焼土粒・炭化物を含む。褐色スコリアを含む。しまりはなく、やや粘性がある。
2	褐色土(10YR 4/6)	径1mm大の焼土粒・炭化物を少量含む。褐色スコリアが混じる。しまりはなく、粘性がある。
3	暗褐色土(7.5YR 3/4)	休場層直下黒色帯相当土とロームとの混土。径1mm大の炭化物を少量含む。しまり、粘性はない。壁の崩落土の可能性もある。
4	褐色土(7.5YR 4/4)	径1mmの炭化物と径2mm大の褐色スコリアを少量含む。休場層相当土の可能性もある。しまりはなく、粘性がある。
5	褐色土(7.5YR 4/3)	休場層直下黒色帯相当土とロームとの混土。
6	褐色土(7.5YR 4/3)	休場層相当土の可能性もある。径1mm大の炭化物・焼土粒を含む。しまりはなく、粘性がある。
7	黒褐色土(10YR 2/3)	第1黒色帯相当土と黄褐色ロームとの混土。しまりがなく崩れやすいが、やや粘性がある。

なお、本報告では便宜上現地調査段階の遺構名称から変更を行っている。これらの遺構に発掘調査段階で付与されていた記号・番号はそれぞれ以下の通りである。

1号土坑：DOI 2号土坑：SF334 3号土坑：SF333

第Ⅵ章 縄文時代草創期の遺物

第1節 資料の概要

縄文時代草創期に帰属すると考えられる資料として石器 32 点が出土した（第 146・147 図、第 65 表）。分布は散在的であり、調査区北西側の 1・2 区にやや多い傾向がある。出土層位は漸移層から暗褐色土層にわたっており、一部は攪乱丸縄文時代中期の遺構から出土した。これらの石器群と関連する遺構や土器は見つかっていない。

第2節 出土石器

有茎尖頭器（第 148・149 図 344～363）

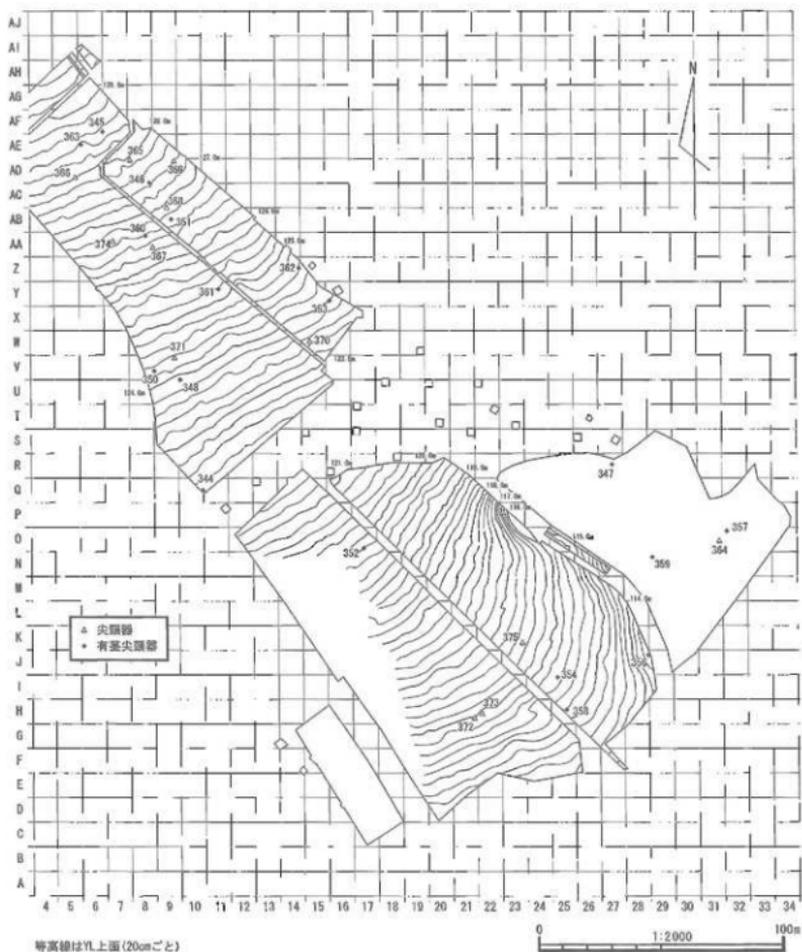
344～354 は基部両側縁が内湾形に整形され、逆刺が明瞭になる一群である。344～350 はガラス質黒色安山岩製で、茎部と身部との長さの比が 1.2～3 程度となる比較的大形のものである。351～353 はガラス質黒色安山岩の、茎部と身部との長さの比が 1.2 以下の小形品で、逆刺が発達する、「花見山型」と呼ばれる形態のものである。354 はホルンフェルス製で風化が進んでいるが同様の形態であったと見られる。355～363 は逆刺が発達せず、細形で長い身部をもつ一群である。355 はホルンフェルス製、先端と基部を欠き、風化も進んでいるが、薄く細形の形態のためこの一群に含まれる可能性が高い。356 もホルンフェルス製で風化が進んでおり、本来はより長い茎部が付いていた可能性がある。同様にホルンフェルス製の 362・363 も風化のため緻密な本来の形態は把握が困難である。357～359 はガラス質黒色安山岩製で、358 は特に茎部と身部との境界が不明瞭な形態を示す。360 は黒曜石（天城峠群）製で、基部側の断片と考えられる。361 は頁岩製で、茎部と身部との境界が不明瞭な形態を示す。

尖頭器（第 149・150 図 364～375）

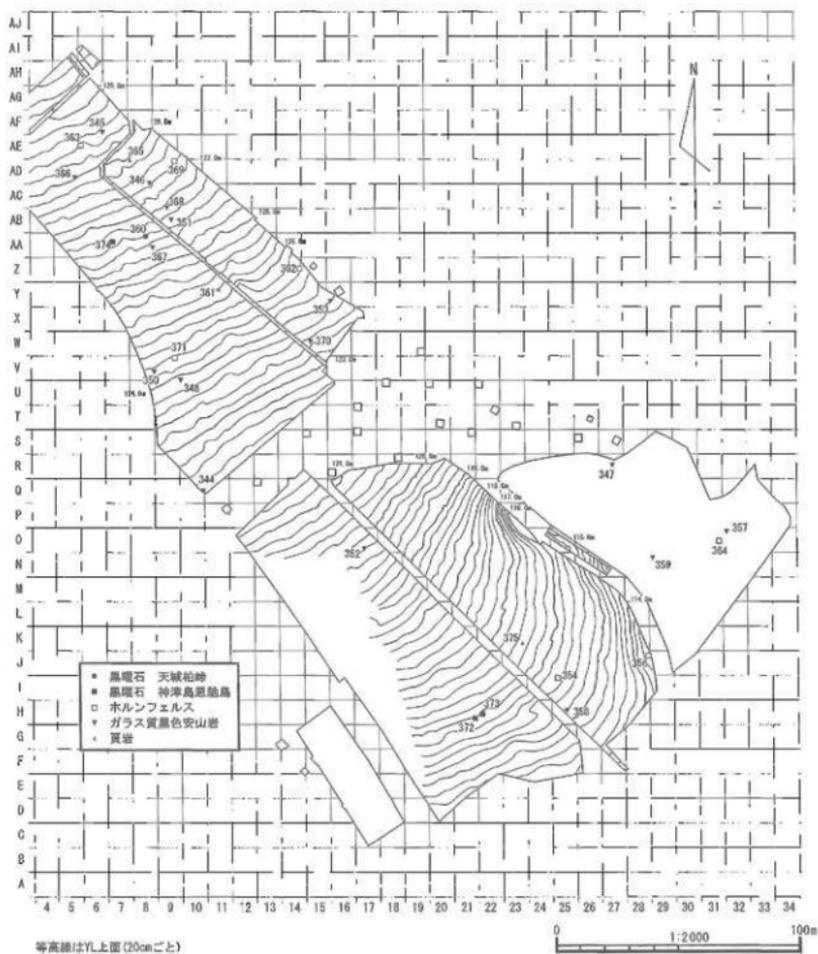
364・365 は細身の形態の破片で、有茎尖頭器の可能性もある。364 はホルンフェルス製、365 は頁岩製で両側縁が鋸歯状に仕上げられている。366～368、375 は基部側に最大幅をもつ細身の一群である。366～368 はガラス質黒色安山岩製でほぼ相似の形態である。375 は頁岩製で、基部の挟入部は破損によるものと見られる。364～374 はやや幅広い一群である。369・371 はホルンフェルス製、370 はガラス質黒色安山岩製で、371 は特に薄手に整形されている。372～374 は黒曜石（神津島恩馳島群）製であるが、374 は尖頭器類と異なり急傾度調整で整形されており、他の器種に分類される可能性もある。

第65表 縄文時代草創期石材別器種組成

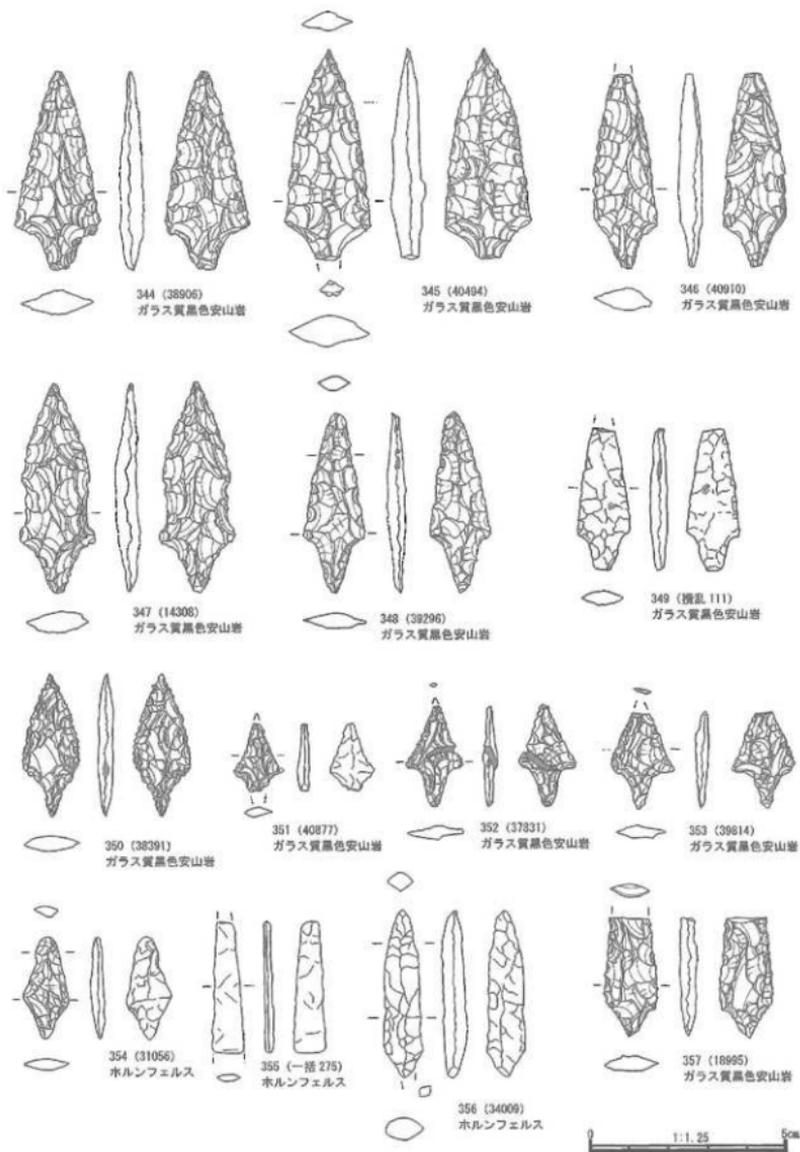
	黒曜石 天城峠群	神津島恩馳島	ホルンフェルス	ガラス質黒色安山岩	頁岩	合計
尖頭器			3	3	4	12
有茎尖頭器	1		5	13	1	20
合計	1	3	8	17	3	32



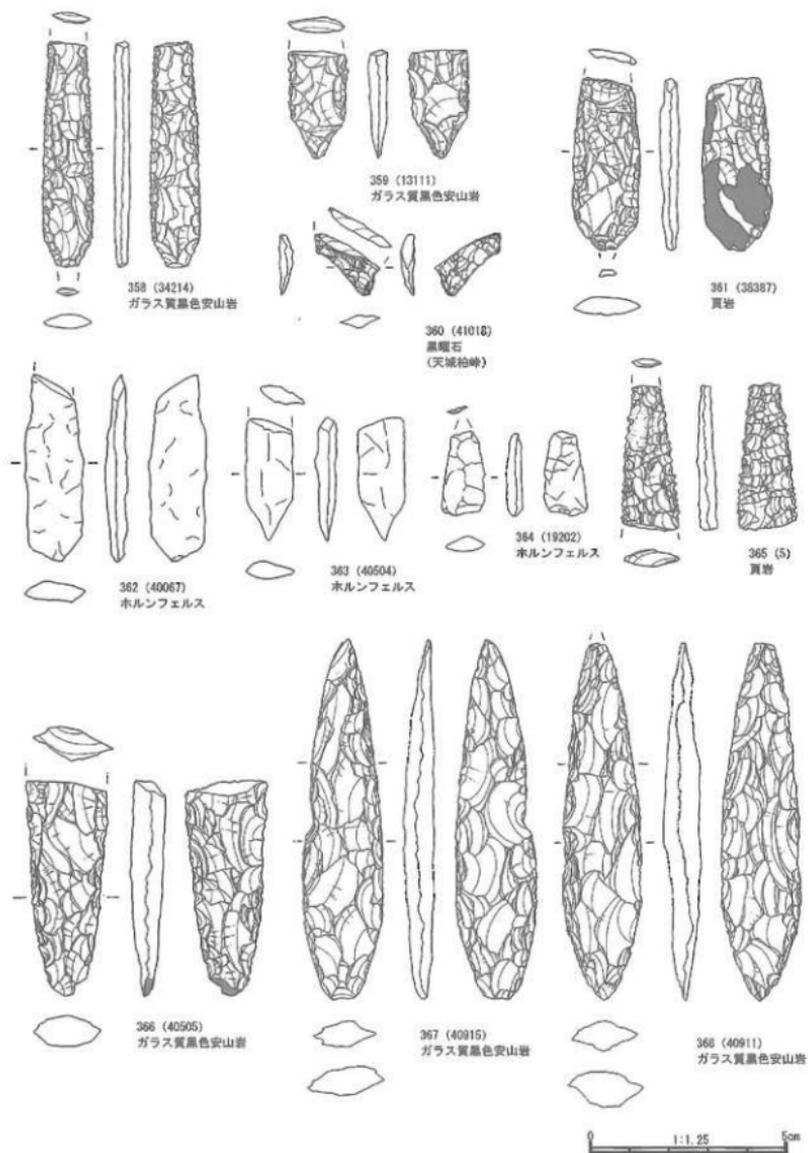
第146図 縄文時代草創期器種別分布図



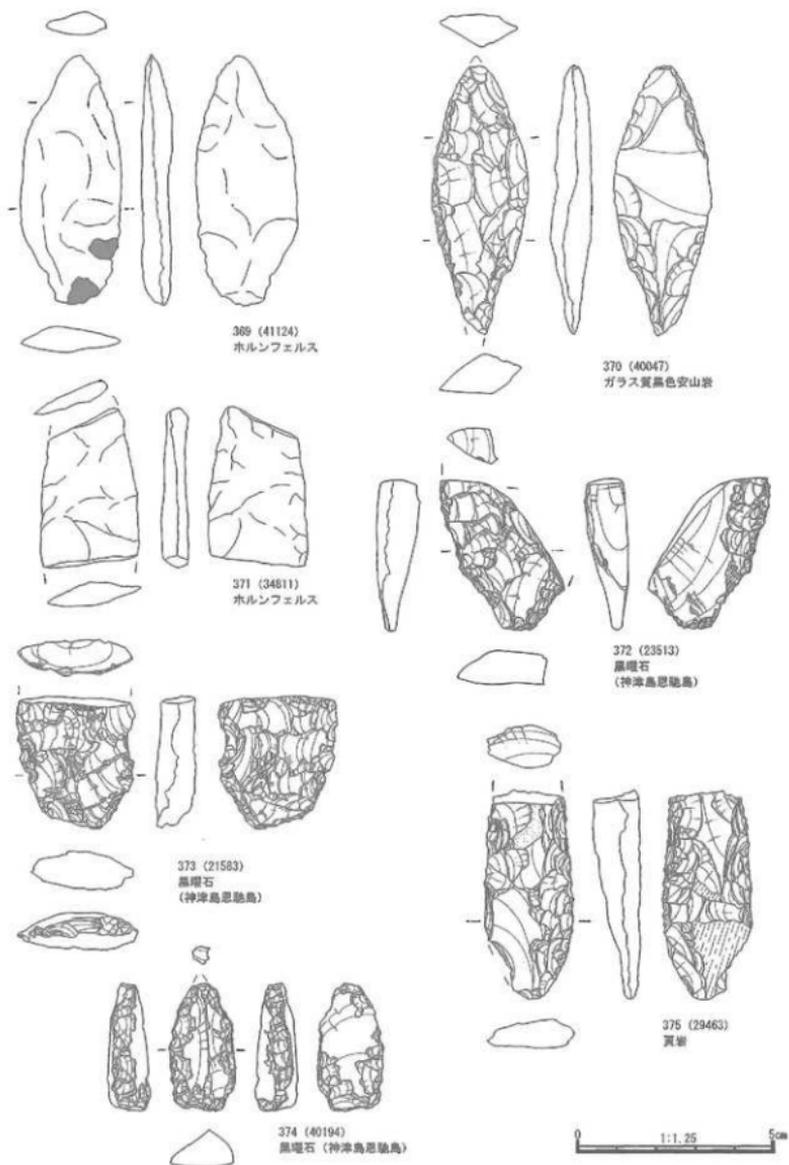
第147図 縄文時代草創期石材別分布図



第148図 縄文時代草創期の石器 (1)



第149図 縄文時代草創期の石器 (2)



第150図 縄文時代草創期の石器 (3)

第七章 まとめ

第1節 旧石器時代

1 文化層の概要

旧石器時代の資料は主として第Ⅲスコリア帯から漸移層にかけて出土している。本報告では出土層位等からこれを7つに区分した。代表的な石器を第151・152図に示す。出土資料の内容を総括し、既調査地点（第二東名関連調査地、大岡元長窪線関連調査地）出土資料との関係を述べ、また「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年」（静岡県考古学会1995）の大別編年との対比から各時期の概略的な位置づけを整理しておく。第Ⅱ～Ⅳ文化層の位置づけについては次項にてさらに詳述することとする。

（1）第Ⅲスコリア帯

黒曜石（天城柏峠群）製の小形の石核1点が出土した。近隣で関連する可能性がある資料として今回の調査地の北西に隣接する桜畑上遺跡（第二東名No.1地点）第Ⅱ文化層の石器群がある（財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所2009d）。黒曜石（天城柏峠群）製石器から成る小規模な石器集中1箇所が出土しており、分割した剥片を素材とする小形の石核も出土している。

（2）第Ⅰ文化層

第Ⅱ黒色帯～ニセロームにかけて出土した石器7点から成る。対向調整による厚形の背部加工をもつナイフ形石器や石刃状剥片があり、散在的な分布で石器群の共時性は不明であるが愛鷹・箱根第2期後半の特徴を示す資料である。

（3）第Ⅱ文化層

主に第Ⅰ黒色帯から出土した石器590点、礫36点から成り、石器群の主たる分布域は5地点ある。

第Ⅱ文化層の資料の8割以上の資料がまとまるエリアEの石器群は基部加工のナイフ形石器と円形搔器とを特徴とするもので、主に信州産黒曜石による剥片剥離が行われた4号石器集中と畑宿産黒曜石による剥片剥離が行われた5号石器集中がある。基部加工のナイフ形石器主体で搔器が多いなどの点から桜畑上遺跡（大岡元長窪線関連）BB Iの石器群に近い編年の位置づけが与えられる（財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所2003a）。エリアEの石器群とともに検出された炭化物集中範囲の炭化材から $24180 \pm 110\text{yrBP}$ 、 $24190 \pm 100\text{yrBP}$ 、 $24340 \pm 100\text{yrBP}$ の年代が得られているが、これは桜畑上遺跡（大岡元長窪線関連）BB Iの炭素年代に近く、若干新しい値を示している。

エリアBも信州産黒曜石による剥片剥離が行われた石器集中が1箇所あり、ナイフ形石器、切出形石器、搔器が出土している。エリアA、C、Dは特徴的な資料に乏しい。

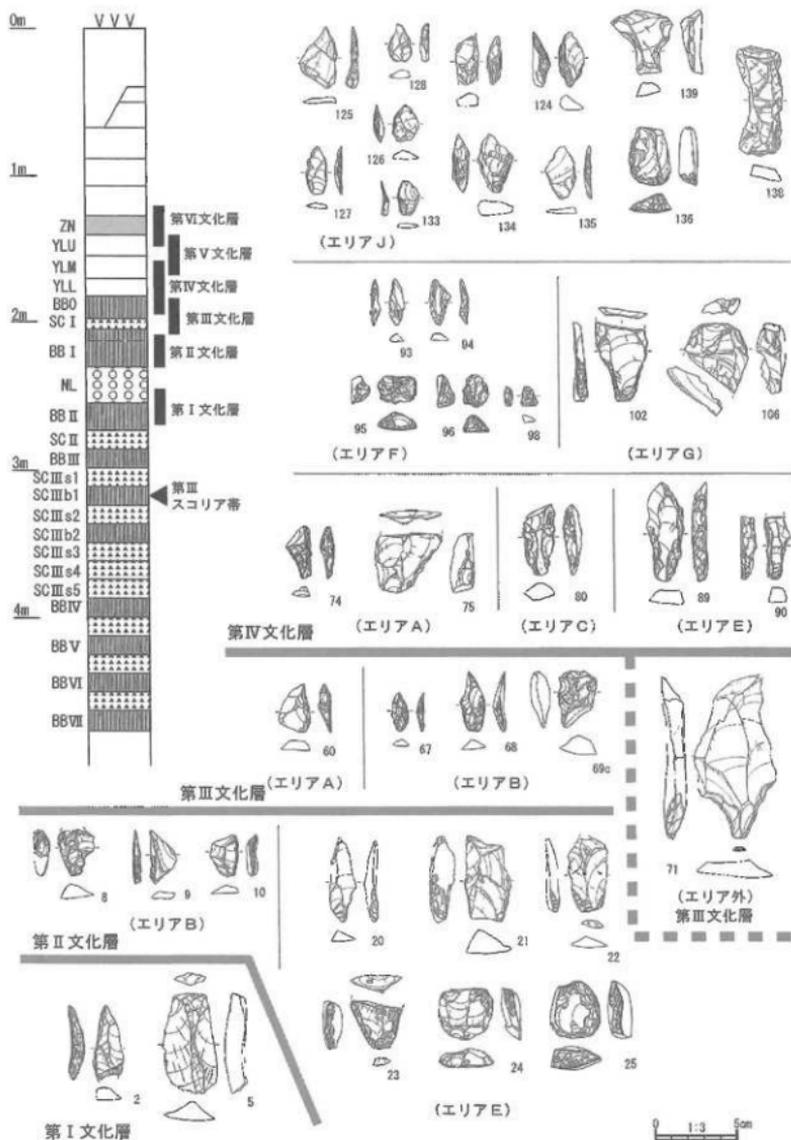
（4）第Ⅲ文化層

休場層直下黒色帯を中心に出土した石器63点、礫32点から成る。石器群の主たる分布域は2地点あり、それぞれに小規模な石器集中が1箇所ずつ分布する。一側縁加工のナイフ形石器や鋭歯状厚型調整による削器などが見られる。愛鷹・箱根第3期後半に位置づけられる。

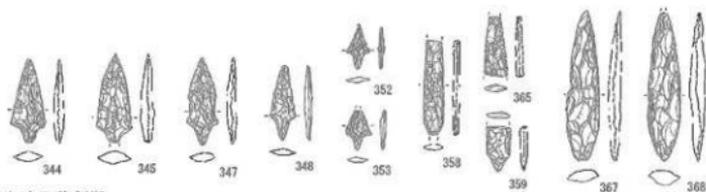
単独出土した基部加工のナイフ形石器（第53図72）は第Ⅲ文化層に含めているが出土層位からすると他の石器より時期が遡る可能性がある。

（5）第Ⅳ文化層

休場層下位～中位を中心に出土した石器401点、礫176点から成る。調査区の南北にわたって点々と遺物集中地点が分布し、本報告では10のエリアに整理して捉えた。愛鷹・箱根第3期後半の資料を主体とすると考えられるが、地点ごとに特徴の異なる石器群が認められ、エリアCでは角錐状石器が1点



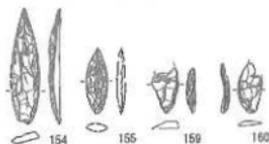
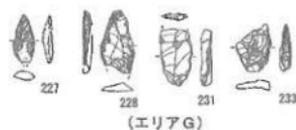
第151図 文化層の概要(1)



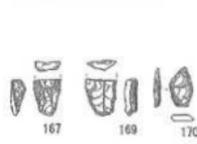
縄文時代草創期



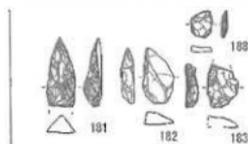
第VI文化層



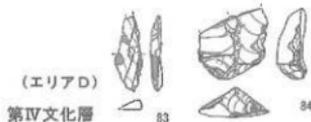
第V文化層



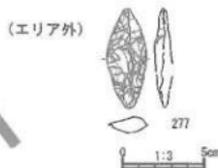
(エリアB)



(エリアD)



第IV文化層



第152図 文化層の概要(2)

出土し、エリアEでは鋸歯状厚形調整加工による二側縁加工ナイフ形石器が出土し、エリアFでは小形のナイフ形石器、切出形石器、掻器を伴う信州産黒曜石主体の石器群が分布し、エリアJでは畑宿産黒曜石主体の石器群が分布し、各種のナイフ形石器、切出形石器、掻器等が出土している。

エリアDではホルンフェルスの石器集中1箇所が分布するが、1点出土したナイフ形石器は第4期前半の特徴を示すもので、他より新しい時期に位置づけられる可能性がある。

エリアG、Hは散在的に分布したもので石器群としてのまとまりは不明であるが、エリアGでは礫群が1基（1号礫群）あり、これに伴う石器については層位を押さえやすい。この1号礫群に伴う石器には石材が白滝頁岩に分類された二次加工剥片が1点（第71図106）あり、さらに礫群外から同母岩の可能性が高いナイフ形石器1点（第71図102）が出土している。頁岩系の石材は理化学的な産地分析の技術が確立していないため産地の判定は肉眼観察によるところが大きく、対象となる石器が小片で特徴に乏しい場合は判定が困難で確実性が低いものとならざるを得ない。本来「白滝頁岩」と称されているのは千葉県南部に分布する峰岡層群下部の白滝層に産する頁岩であるが、当研究所では肉眼観察により白滝頁岩に類似した特徴をもつ頁岩が白滝頁岩として分類されてきた（註2）。

〔千葉県の歴史〕を参照すると、白滝頁岩の特徴は次のように記載されている。

「青灰色～暗緑灰色または茶褐色を基調とする色調を呈し、紡錘形の斑紋を有するものに代表される珪質頁岩であり、チャート質のもののほか、オパール化しているものが一部に見られる。このほかにも、紡錘形の斑紋が見られない暗灰色～明灰色を呈するものや黒色のものなど各種のパラエティータが存在する。」（田村他2004：1329頁）

第IV文化層出土の2点の石器は黄灰色の地に紡錘形の斑紋が入るもので、白滝頁岩の典型例に類似した特徴が見られるものであった（註1）。なお、下総台地では立川ロームIV層下部の遺跡が同時期に相当するが、高原山・信州系の黒曜石が主体となる中で箱根系の黒曜石が少数見られることが知られており、今回の資料からは両地域の相互的な繋がり的一端が窺われる。

（6）第V文化層

休場層中位～上位を中心に出土した石器639点、礫80点から成る。6つの文化層のうちで最も資料数が多く、特に調査地北西側に密集範囲が多い。石器の主たる分布域を本報告では11のエリアに整理して捉えた。尖頭器、切出形石器などを主とする石器群で、愛鷹・箱根第4期後半の資料を主体とすると考えられる。桜畑上遺跡（第二東名No.1地点）第Ⅷ文化層c群の資料と同時期に位置づけられる。尖頭器はエリアA、B、D、E、G、Jで出土しているが、いずれにおいても製作時に生じる剥片等を伴わず製品が搬入されたものと見られる。

まとまった剥片剥離が行われた地点はエリアG（畑宿産黒曜石主体）とエリアK（ホルンフェルス主体）に認められる。また、エリアAでは信州産黒曜石の板状原石から縦長剥片を剥離した資料が出土している。この時期の愛鷹山麓では信州産黒曜石の剥片剥離を示す資料の出土例はいまだ多くなく、注目すべき資料である。

また、有樋（面取り）尖頭器が1点出土している（第136図277）。これは便宜的に第V文化層に含めているが、漸移層出土で他の資料との関係は明瞭でなく、第4期後半の石器群との共存関係が認められたことを示している訳ではない。左右対称の所謂「男女倉型」（堤1988・1989）のもので、愛鷹山麓の既報告資料としては中見代第I遺跡（沼津市教育委員会1989）、広合遺跡a区（沼津市教育委員会1987）、桜畑上遺跡（第二東名No.1地点）の例がある。なお、第IV文化層で削片の可能性のある資料（第67図98）が1点出土しており関連資料として注目される。

（7）第VI文化層

漸移層を中心に出土した石器87点から成る。細石刃、細石刃核など細石刃石器群を主体とする資料

である。神津高産黒曜石製のものも多く、信州系黒曜石や少数ながら頁岩製の資料が見られる。桜畑上遺跡（第二東名 No.1 地点）でも細石刃石器群が散漫に分布しており、それと同様の分布を示している。

（8）土坑

休場層下位を検出面として土坑が3基検出されている。1号・3号土坑は円筒状の、第Ⅲ黒色帯の土坑を縮小したような形状を呈する。なお、桜畑上遺跡（大岡元長直線関連調査地点）でも休場層から円筒状の土坑が2基出土している。

2 第Ⅰ黒色帯～休場層下部の石器群について

今回の調査では第Ⅰ黒色帯～休場層下部にかけてまとまった数量の資料が出土しており、第Ⅱ～Ⅳ文化層の3つの文化層に分けて整理した。第Ⅰ黒色帯～休場層下部は「愛鷹・箱根山麓の旧石器編年」では第3期に含まれている。愛鷹・箱根第3期の石器群は当初第Ⅰ黒色帯と休場層直下黒色帯の2段階（笹原1995）、ニセロームの石器群を含めて3段階（笹原1996）の編年が提示され、或いは第Ⅰ黒色帯～休場層直下黒色帯の石器群を南関東のⅣ層下部・Ⅴ層段階と対比して3又は4段階の編年（織笠1996、須藤1996）に区分されてきた。その後休場層下部の寺林遺跡第Ⅲ文化層の石器群が第3期終末として追加され（笹原2004）、これを含めた形の編年も提示されている（笹原2005、高尾2006、中村2006）。

一方、近年の東駿河湾環状道路や第二東名に関わる調査でこの時期の資料は大きく増加している。従来知られていたよりも多様な石器群の様相が明らかになり、従来の変遷観の枠に当て嵌めて第3期の「b段階」や「c段階」などと呼称することがあまり意味をなしていない事例も多い。そこで、多層位遺跡や露坪から層位が捉えられる事例を軸に石器群の新旧関係を整理し、可能な限り細分した変遷案を第66表・第153図に示す（註3）。全体的な傾向を抽出するならばナイフ形石器が第Ⅰ黒色帯上部で大形化し、休場層直下黒色帯で小形化するという流れが認められるが、第153図に示したように同時期に多様な石器群が並存しており、時間軸を輪切りにした「段階」設定は実際から乖離している。そこで、石器群の時系列の縦の繋がりをもとに整理を試みると、この時期の石器群は次のようにまとめられる。

第Ⅰ黒色帯下部に位置づけられる石器群としては子ノ神遺跡第Ⅱ文化層（第153図63～68）、陣場上B遺跡第Ⅱ文化層、桜畑上遺跡（第二東名 No.1 地点）第Ⅴ文化層（第153図59～62）などがある。信州・伊豆・箱根の黒曜石製の縦長剥片素材を主体とする一個縁加工、二個縁加工のナイフ形石器に小形の切出形石器を伴う。小形のナイフ形石器、切出形石器は休場層下部まで継続的に存在する。これに対し、畑宿産黒曜石やホルンフェルスを利用した大形の石器素材として石刃状剥片、一般的剥片製作が行われる。石刃状剥片は主に基部加工のナイフ形石器に利用される例が第Ⅰ黒色帯中・上部以降の石器群に見られる（第153図17、29、51、56）。

一方、第Ⅰ黒色帯中部の石器群では鋸歯状厚形調整により整形された角錐状石器が現れる。桜畑上遺跡（大岡元長直線関連調査地点）BBⅠ（第153図53）、上ノ池遺跡第Ⅲ文化層など、当初は1点伴うのみだが、第Ⅰスコリア層上部～休場層直下黒色帯で子ノ神遺跡第Ⅲ文化層、野台南遺跡第Ⅳ文化層など角錐状石器主体の石器群が現れる（第153図35、39～41）。角錐状石器の出現とはほぼ同時期に鋸歯状厚形調整が前記の黒曜石製石器やホルンフェルス製石器に適用されるようになり、厚形の背部加工によるナイフ形石器や厚形の撻器が現れる。第Ⅰ黒色帯のイラウネ遺跡第Ⅲ文化層（第153図55）や上ノ池遺跡第Ⅱ文化層が代表例だが、厚形背部加工のナイフ形石器は角錐状石器が衰退する休場層直下黒色帯～休場層下部の石器群でも多数見られる（第153図1、3、7、11、16、20～22、25、26）。

したがって、第Ⅰ黒色帯～休場層下部の石器群は概略的にまとめれば黒曜石製を主とする小形剥片製石器群、畑宿産黒曜石・ホルンフェルス製を主とする大形剥片製石器群（しばしば石刃状剥片製となる）に、角錐状石器・厚形調整加工のナイフ形石器といった新たな調整加工技術を適用した石器群が複合し

たものとして捉えられる。個別の石器群ではどの要素が主体となるかによって石器組成が変わるため、同時期であっても様々な石器群が存在しうることとなる。

そうした流れの中で第Ⅱ～Ⅳ文化層の石器群の位置づけを考えると第66表左側に示したようになる。

第Ⅱ文化層の石器群は第Ⅰ黒色帯中・上部付近に位置づけられる。エリアEの石器群は基部加工、或いは基部・先端部加工のナイフ形石器が一側縁、二側縁加工のナイフ形石器に加わり、搔器は第Ⅰ黒色帯下部に比べて厚形のものが見られるなどの特徴を示す。ホルンフェルス製、或いは畑宿産黒曜石製の石刃状剥片製石器に搔器などが伴ったものと捉えられる。また、エリアBでは黒曜石製の小形剥片製ナイフ形石器に加え、厚形調整加工のナイフ形石器の破片と見られる石器が出土している。

第Ⅲ文化層は休場層直下黒色帯を中心とし、角錐状石器が盛行する時期に当たるが、同時期に厚形の背部加工をもつナイフ形石器や小形薄手のナイフ形石器も並行して存在しており（子ノ神遺跡第Ⅲ文化層、梅ノ木沢遺跡第Ⅳ文化層など）、後者の様相を示す石器群と捉えられる。

第Ⅳ文化層は休場層直下黒色帯上部から休場層下部に位置づけられる。同時期の石器群では各要素が複合した多用な石器群が見られる。休場層直下黒色帯上部の秋葉林遺跡第Ⅳ文化層や下ノ大窪遺跡第Ⅲ文化層では厚い背部加工で基部側に最大幅のある「涙滴形」のナイフ形石器（第153図20～22、25）が特徴的であるが、それ以外に薄手のナイフ形石器も存在しており、休場層下部の寺林遺跡第Ⅲ文化層、秋葉林遺跡第Ⅶa文化層などでは涙滴形のナイフ形石器（第153図11）や同様の加工による切出形石器（第153図1）の他、基部加工ナイフ形石器（第153図15、17）、一側縁加工・二側縁加工ナイフ形石器（第153図2、8、12、13）など多様なナイフ形石器、切出形石器が含まれる。第Ⅳ文化層の多様な石器群はこの時期のこうした特徴を反映したものと言える。基本的には休場層下部に位置づけられると考えられるが、エリアGの1号礫群に関連する資料は礫群の層位から判断して他より時期的に先行し、休場層直下黒色帯上部に位置づけられる可能性がある。

第66表 第Ⅰ黒色帯～休場層下部の石器群の編年

層位	桜畑上 (東駿河湾環状遺跡)	愛鷹・箱根山麓の遺跡		
YL	IV文エリアD?	(第4期前半)		
	IV文(その他)	寺林直文	秋葉林Ⅶa文(第5期区)	
BBO	IV文エリアG	下ノ大窪Ⅲ文	梅ノ木沢Ⅵ文	秋葉林Ⅶ文
SCI	Ⅲ文	上ノ池Ⅱ文	野台南Ⅳ文	梅ノ木沢Ⅶ文
		子ノ神Ⅲ文	中見代ⅡⅤ層	
BBI	Ⅱ文エリアB Ⅱ文エリアE	桜畑上(第二東名)Ⅵ文	梅ノ木沢Ⅵ文	中見代ⅡⅡ文
		上ノ池Ⅲ文	ノラウネⅢ文	中見代第ⅢⅤⅥ層
		桜畑上(大岡元長産物)ⅧⅠ	中見代ⅡⅦⅧ層	
NL		桜畑上(第二東名)Ⅴ文	陣場上ⅧⅡ文	子ノ神Ⅱ文

※ゴシック体表記のものは層位の安定した礫群を伴う石器群

第2節 縄文時代草創期

形態から縄文時代草創期のものと判断した尖頭器・有茎尖頭器32点を抽出した。代表的な資料を第152図に示す。基本的には縄文時代初頭、草創期前半に位置づけられる。分布にまともではなく、出土層位も安定的ではないため共時性はない資料群と考えられるが、これは愛鷹山麓の遺跡では普遍的に見られる状況である。石材と形態とはある程度の相関が認められ、「花見山型」はガラス質黒色安山岩、細長い身部をもつ型はホルンフェルスかガラス質黒色安山岩、縁辺が鋸歯状をなすものは頁岩系の石材が用いられることが多い。また、長身の両面加工尖頭器もガラス質黒色安山岩製の場合が多い。



第153図 第I黒色帯～休場層下部の石器群

【註】

- 1 本遺跡出土の白滝頁岩と同定された資料は千葉県立中央博物館の田村隆氏、奈良文化財研究所の国武貞克氏に実現して頂いた。頁岩は同じ産地でもかなり多様な特徴をもつものが産出するため、産地の特定はしばしば困難であるが、第Ⅳ文化層の第71図102及び106の石器に関しては白滝層に産出するものに特徴的な斑文を有し、いわゆる白滝頁岩である可能性が高いとのこと意見を頂いた。また、第Ⅴ文化層に白滝頁岩とした割片が1点ある(第101図179)が、これは小片のため判定不能とのことであった。
- 2 旧石器時代の資料では矢川上C遺跡第Ⅳ文化層(財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所2009a)で割片1点、元野遺跡YⅠで割器類1点(財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所2008a)、秋葉林遺跡第Ⅷ文化層(第13地区)(財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所2009c)で割片1点が白滝頁岩製とされている。ちなみに秋葉林遺跡のものは、色調は黄灰色の地に紡錘形の斑文が入る本遺跡第Ⅳ文化層のものに類似した特徴をもつが、節理が多く石材としての質は悪いものである。
- 3 第66表は多層位遺跡の出土例を基準に、スコリア層との関係から出土層位が近いものは近接した時期のものとして並行関係においた。但し、中見代第Ⅲ遺跡第Ⅵ層と中見代第Ⅱ遺跡第Ⅷ層とに対応する部分のみは層位的な前後関係は不明瞭である。鋸歯状厚形調整のある石器が発達するものを後出として整理した。

【参考文献】

- 今村啓爾 2006「先石器時代陥穴の使用法—静岡県愛鷹山麓BBⅢ期の場合—」『生業の考古学』同成社、27-38頁
- 織笠 昭 1996「列島内対比—Ⅴ～Ⅳ下層の茂呂系ナイフ形石器を軸に—」『石器文化研究』5、405-416頁
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2003a「大岡元長窪線関連遺跡Ⅰ」静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第138集
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2003b「寺林遺跡・虎杖原古墳」静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第142集
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2008a「元野遺跡 第二東名No.19地点」静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第189集
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2008b「下ノ大窪遺跡 第二東名No.146地点」静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第190集
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009a「矢川上C遺跡 第二東名No.39-II地点」静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第200集
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009b「大岡元長窪線関連遺跡Ⅲ 野台南遺跡・柏窪A遺跡」静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第205集
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009c「秋葉林遺跡Ⅰ 第二東名No.25地点(旧石器時代～縄文時代草創期編)」静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第207集
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009d「桜畑上遺跡 第二東名No.1地点」静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第208集
- 笹原千賀子 2004「愛鷹・箱根山麓第3期の石器群—第3期から第4期へ、寺林遺跡の編年的位置—」『静岡県埋蔵文化財調査研究所設立20周年記念論文集』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所、73-86頁
- 笹原芳郎 1995「第2期・第3期の石器群」『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 予稿集』静岡県考古学会シンポジウムⅩ、22-27頁
- ・笹原芳郎 1996「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 予稿集」静岡県考古学会シンポジウムⅩ、45-48頁

- 荻原芳郎 2005『愛鷹・箱根旧石器時代編年の現状と課題』『地域と文化の考古学Ⅰ』明治大学文学部考古学研究
室編、91-106頁
- 静岡県考古学会 1995『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 予稿集』静岡県考古学会シンポジウムⅩ
- 静岡県考古学会 1996『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 収録集』静岡県考古学会シンポジウムⅪ
- 鈴木裕篤 2002『西大曲遺跡』『沼津市史 資料編 考古』沼津市、16-20頁
- 須藤隆司 1996『中部・東海・北陸地方におけるV・IV下層段階の石器群—列島内対比の視点から—』『石器文化
研究』5、451-464頁
- 須藤隆司 2006『中部地方の地域編年』『旧石器時代の地域編年の研究』同成社、103-140頁
- 高尾好之 2006『東海地方の地域編年』『旧石器時代の地域編年の研究』同成社、62-102頁
- 田村隆・国武貞克・吉野真如 2004『旧石器時代石器石材写真集』『千葉県歴史資料編 考古4』千葉県、
1320-1426頁
- 堤 隆 1988『槌状剥離を有する石器の再認識(上)—男女倉型・東内野型と呼称されるある種の石器をめぐっ
て—』『信濃』第40巻第4号、24-45頁
- 堤 隆 1989『槌状剥離を有する石器の再認識(下)—男女倉型・東内野型と呼称されるある種の石器をめぐっ
て—』『信濃』第41巻第5号、38-64頁
- 長泉町教育委員会 1986『中尾・イラウネ・野台』
- 中村雄紀 2006『後期旧石器時代後半期の居住形態の地域的様相—愛鷹・箱根第3期・第4期の遺跡群—』『東京
大学考古学研究室研究紀要』第20号、1-36頁
- 沼津市教育委員会 1982『一般国道246号裾野バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書 子ノ神・大谷津・山崎Ⅱ・
丸尾Ⅱ』沼津市文化財調査報告書第27集
- 沼津市教育委員会 1987『広合遺跡発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書第41集
- 沼津市教育委員会 1988『土手上・中見代Ⅱ・第Ⅲ発掘調査報告書(足高尾上No.1・6・7遺跡)』沼津市文化
財調査報告書第43集
- 沼津市教育委員会 1989『中見代Ⅰ遺跡発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書第45集
- 由井将雄・藤井敏嗣 1989『愛鷹火山の地質』『地震研究所集報』Vol.64、347-389頁
- ※脱稿後、以下の論文が発表され、房総半島南部の珪質頁岩として新たに保田層群前島層産の珪質頁岩が紹介さ
れた。これは従来白滝頁岩に分類されていたものであるが、同論文で「保田層産珪質頁岩」として分離されている。
本遺跡第Ⅳ文化層出土の2点はこの保田層産珪質頁岩に含まれるものと見られる。
- 田村 隆・山岡磨由子・川端結花・青山幸重 2010『房総半島の後期旧石器時代石器群(上)』『千葉県立中央博
物館研究報告—人文科学—』第11巻第2号、109-227頁

第67表 石器接合資料の一覧

発掘番号	調査年度	発掘地	出土層	エリヤ	接合資料の構成	接合部の計測値				原料	産地	接合形態					
						長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)			接合部	接合部	接合部	接合部	接合部	
1	10	7	E	A	29110-29142	3.40	2.25	3.25	29.1	黒曜石	天候破砕				1	1	2
2					27995-27999	1.02	1.81	0.26	0.6	黒曜石	動物土層埋没						2
3	27	14	E	B	27994-27994	3.40	2.14	3.22	3.0	黒曜石	動物土層埋没						2
4	29	14	E	B	27919-27999+27996-27919+27913-1	2.29	4.29	1.87	27.7	黒曜石	動物土層埋没						2
5	32	16A	E	B	27919+27917-1	4.68	2.19	1.84	18.2	黒曜石	動物土層埋没						2
6					27948-27922	1.22	1.84	0.25	0.5	黒曜石							2
7	27	12	E	B	27913-2-27913-1	2.91	3.11	1.41	3.7	黒曜石	動物土層埋没						2
8					24266-24228	2.71	2.12	0.91	2.2	黒曜石							2
9					24264-24264	2.97	2.65	1.08	4.3	黒曜石							2
10					24227-24213	2.40	3.67	1.11	3.2	黒曜石							2
11					24247-24239	4.72	0.200	1.22	15.5	黒曜石							2
12					24448-24258	4.89	4.28	1.89	13.9	黒曜石							2
13	42	42	E	B	24252-24229	3.17	2.19	1.24	12.0	黒曜石	動物土層埋没						2
14	27	44	E	B	24250-24248	2.07	1.96	0.42	1.2	黒曜石							2
15	27	44	E	B	24212-24212	0.289	2.28	0.69	1.6	黒曜石							2
16	37	45	E	B	24252-24241+24234	2.30	2.15	0.72	1.7	黒曜石	動物土層埋没						2
17					24420-24273	1.58	1.89	0.25	0.3	黒曜石							2
18					24422-24444	1.26	1.28	0.31	0.9	黒曜石							2
19					24422+24252	1.197	2.29	0.44	1.1	黒曜石							2
20	38	46	E	B	24252-24212+24428	1.28	0.28	0.28	24.3	黒曜石							2
21					24428-24259	2.640	2.88	0.36	6.1	黒曜石							2
22					24428+24214	2.288	1.82	0.59	2.5	黒曜石							2
23					24426-24413	1.780	2.23	1.19	7.3	黒曜石							2
24	38	47	E	B	24250-24421	2.71	0.82	1.95	2.4	黒曜石							2
25					24414+24211	0.200	0.73	3.69	4.9	黒曜石							2
26	38	48	E	B	24252-24228	1.26	2.68	2.28	16.5	黒曜石							2
27	38	48	E	B	24413-24238	4.40	2.21	2.58	18.5	黒曜石							2
28					24252+24714	0.233	1.24	0.47	1.6	黒曜石							2
29					24252+24262	1.74	2.51	0.20	0.9	黒曜石							2
30	40	50	E	B	24262-24259	4.89	4.02	1.81	22.7	黒曜石							2
31					24262+24264	1.59	1.29	0.21	1.8	黒曜石							2
32					24251+24265	7.11	2.62	0.80	19.8	ホルンフェルス							2
33	40	51	E	B	24251-24460-24227	2.46	3.39	1.73	12.7	黒曜石	動物土層埋没						2
34	41	52	E	B	24252-24260	2.42	2.20	1.82	14.1	黒曜石	動物土層埋没						2
35	41	52	E	B	24252-24266	7.12	2.81	1.89	66.8	ホルンフェルス							2
36	42	53	E	B	24252-24227	2.46	2.24	2.26	2.8	黒曜石	動物土層埋没						2
37	42	53	E	B	24116-24247	3.80	3.99	1.61	31.3	ホルンフェルス							2
38	42	53	E	B	24116-24223	2.78	2.02	0.26	6.1	黒曜石	動物土層埋没						2
39	51	60	E	B	27895-27929-27899	2.42	2.91	1.16	8.2	黒曜石	天候破砕						2
40	51	60	E	B	27827-27909-1	4.59	3.29	1.47	11.7	黒曜石	天候破砕						2
41	54	70	E	B	27922-27922-27922	2.24	1.82	0.52	1.9	黒曜石	天候破砕						2
42	58	72	E	B	41223-41227	2.17	1.39	0.59	2.5	黒曜石	天候破砕						2
43	57	79	E	B	41221-41220	6.640	2.89	1.29	17.0	黒曜石	動物土層埋没						2
44	59	82	E	C	41102A-41214	6.172	1.72	1.08	5.9	黒曜石	動物土層埋没						2
45	64	82	E	C	78-81-82	0.59	2.72	2.26	25.9	ガラス製褐色砂山							4
46	63	100	F	F	40123-40117	1.89	3.89	0.93	2.6	黒曜石	動物土層埋没						2
47	62	125	E	J	23982-23971	3.78	2.22	0.70	2.2	黒曜石							2
48	64	143	E	J	23980-24121-24184	3.91	3.72	1.23	14.1	ガラス製褐色砂山							2
49	63	147	E	J	24012-23985	1.49	2.11	0.32	0.9	黒曜石							2
50	63	163	V	A	2-940-9-511-9-507	4.11	3.29	1.22	16.3	黒曜石	動物土層埋没						3
51	66	163	V	A	2-940-9-509-9-511-9-541-9-218	4.89	2.21	1.11	14.1	黒曜石							2
52	66	163	V	A	2-940-9-509-9-511-9-541-9-218	4.22	1.77	1.12	6.1	黒曜石							2
53					2-941-9-541-9-540	2.212	2.02	0.52	5.2	黒曜石							2
54	66	174	V	B	41288-41287-41289	6.23	2.00	2.69	76.1	ホルンフェルス							2
55	100	174	V	B	41288-41287	4.84	0.44	1.51	20.4	ホルンフェルス							2
56					41271-41267	1.92	2.20	0.92	3.2	黒曜石							2
57	100	183	V	F	41271-41266	5.89	4.25	1.29	84.2	ホルンフェルス							2
58					24129-24232	1.77	1.63	0.63	1.3	黒曜石							2
59	119	225	V	F	24242-24790	2.75	2.22	2.16	10.3	黒曜石	動物土層埋没						1
60	119	228	V	F	24793-24254	2.69	2.68	0.92	2.6	黒曜石							2
61	114	231	V	F	24258-24249	2.29	2.42	0.61	3.6	黒曜石							2
62					24249-24249	0.240	2.19	0.89	2.1	黒曜石							2
63	115	231	V	G	24230-24230	2.89	1.88	0.64	4.2	ホルンフェルス							2
64					24241-24232-24233	1.312	2.64	0.92	2.4	黒曜石							2
65					24236-24236	2.22	2.51	1.01	4.8	黒曜石							2
66	120	238	V	G	24207-24216	4.24	2.41	1.28	9.6	黒曜石							2
67	120	246	V	H	24145-24141-24091-24119	0.22	2.25	2.80	12.1	黒曜石							2
68	120	251	V	K	22208-22204-24247	4.271	1.58	2.61	1.9	ホルンフェルス							2
69	122	276	V	K	22206-21847	6.72	3.85	2.86	106.2	ホルンフェルス							2
70	123	272	V	K	22487-22510	6.65	4.61	2.89	60.3	ホルンフェルス							2
71					22281-22281	2.21	0.413	1.19	21.2	ホルンフェルス							2
72	138	274	V	K	22480-22422	7.62	6.47	1.78	81.1	ホルンフェルス							2
73	138	282	V	K	22423-22288	9.85	4.82	3.27	48.9	ホルンフェルス							2
74	125	275	V	K	22423-22288	1.58	2.05	0.77	1.3	黒曜石							2
75	125	275	V	K	22421-22428	4.93	3.28	1.48	23.3	ホルンフェルス							2
76	142	310	V	K	20227-20240	2.42	0.76	0.17	0.6	黒曜石	動物土層埋没						2

※原料の産地のみで記載される接合資料については、接合状態が不明となる場合がある。後者の場合計測値を記載付与で示した。

行	品名	规格	产地	品牌	单位	数量	单价	总价	备注
3420	镀锌板	1.2*1000	Q235	宝钢	张	100	10.50	1050.00	
3421	镀锌板	1.5*1000	Q235	宝钢	张	100	12.00	1200.00	
3422	镀锌板	2.0*1000	Q235	宝钢	张	100	15.00	1500.00	
3423	镀锌板	2.5*1000	Q235	宝钢	张	100	18.00	1800.00	
3424	镀锌板	3.0*1000	Q235	宝钢	张	100	21.00	2100.00	
3425	镀锌板	3.5*1000	Q235	宝钢	张	100	24.00	2400.00	
3426	镀锌板	4.0*1000	Q235	宝钢	张	100	27.00	2700.00	
3427	镀锌板	4.5*1000	Q235	宝钢	张	100	30.00	3000.00	
3428	镀锌板	5.0*1000	Q235	宝钢	张	100	33.00	3300.00	
3429	镀锌板	5.5*1000	Q235	宝钢	张	100	36.00	3600.00	
3430	镀锌板	6.0*1000	Q235	宝钢	张	100	39.00	3900.00	
3431	镀锌板	6.5*1000	Q235	宝钢	张	100	42.00	4200.00	
3432	镀锌板	7.0*1000	Q235	宝钢	张	100	45.00	4500.00	
3433	镀锌板	7.5*1000	Q235	宝钢	张	100	48.00	4800.00	
3434	镀锌板	8.0*1000	Q235	宝钢	张	100	51.00	5100.00	
3435	镀锌板	8.5*1000	Q235	宝钢	张	100	54.00	5400.00	
3436	镀锌板	9.0*1000	Q235	宝钢	张	100	57.00	5700.00	
3437	镀锌板	9.5*1000	Q235	宝钢	张	100	60.00	6000.00	
3438	镀锌板	10.0*1000	Q235	宝钢	张	100	63.00	6300.00	
3439	镀锌板	10.5*1000	Q235	宝钢	张	100	66.00	6600.00	
3440	镀锌板	11.0*1000	Q235	宝钢	张	100	69.00	6900.00	
3441	镀锌板	11.5*1000	Q235	宝钢	张	100	72.00	7200.00	
3442	镀锌板	12.0*1000	Q235	宝钢	张	100	75.00	7500.00	
3443	镀锌板	12.5*1000	Q235	宝钢	张	100	78.00	7800.00	
3444	镀锌板	13.0*1000	Q235	宝钢	张	100	81.00	8100.00	
3445	镀锌板	13.5*1000	Q235	宝钢	张	100	84.00	8400.00	
3446	镀锌板	14.0*1000	Q235	宝钢	张	100	87.00	8700.00	
3447	镀锌板	14.5*1000	Q235	宝钢	张	100	90.00	9000.00	
3448	镀锌板	15.0*1000	Q235	宝钢	张	100	93.00	9300.00	
3449	镀锌板	15.5*1000	Q235	宝钢	张	100	96.00	9600.00	
3450	镀锌板	16.0*1000	Q235	宝钢	张	100	99.00	9900.00	
3451	镀锌板	16.5*1000	Q235	宝钢	张	100	102.00	10200.00	
3452	镀锌板	17.0*1000	Q235	宝钢	张	100	105.00	10500.00	
3453	镀锌板	17.5*1000	Q235	宝钢	张	100	108.00	10800.00	
3454	镀锌板	18.0*1000	Q235	宝钢	张	100	111.00	11100.00	
3455	镀锌板	18.5*1000	Q235	宝钢	张	100	114.00	11400.00	
3456	镀锌板	19.0*1000	Q235	宝钢	张	100	117.00	11700.00	
3457	镀锌板	19.5*1000	Q235	宝钢	张	100	120.00	12000.00	
3458	镀锌板	20.0*1000	Q235	宝钢	张	100	123.00	12300.00	
3459	镀锌板	20.5*1000	Q235	宝钢	张	100	126.00	12600.00	
3460	镀锌板	21.0*1000	Q235	宝钢	张	100	129.00	12900.00	
3461	镀锌板	21.5*1000	Q235	宝钢	张	100	132.00	13200.00	
3462	镀锌板	22.0*1000	Q235	宝钢	张	100	135.00	13500.00	
3463	镀锌板	22.5*1000	Q235	宝钢	张	100	138.00	13800.00	
3464	镀锌板	23.0*1000	Q235	宝钢	张	100	141.00	14100.00	
3465	镀锌板	23.5*1000	Q235	宝钢	张	100	144.00	14400.00	
3466	镀锌板	24.0*1000	Q235	宝钢	张	100	147.00	14700.00	
3467	镀锌板	24.5*1000	Q235	宝钢	张	100	150.00	15000.00	
3468	镀锌板	25.0*1000	Q235	宝钢	张	100	153.00	15300.00	
3469	镀锌板	25.5*1000	Q235	宝钢	张	100	156.00	15600.00	
3470	镀锌板	26.0*1000	Q235	宝钢	张	100	159.00	15900.00	
3471	镀锌板	26.5*1000	Q235	宝钢	张	100	162.00	16200.00	
3472	镀锌板	27.0*1000	Q235	宝钢	张	100	165.00	16500.00	
3473	镀锌板	27.5*1000	Q235	宝钢	张	100	168.00	16800.00	
3474	镀锌板	28.0*1000	Q235	宝钢	张	100	171.00	17100.00	
3475	镀锌板	28.5*1000	Q235	宝钢	张	100	174.00	17400.00	
3476	镀锌板	29.0*1000	Q235	宝钢	张	100	177.00	17700.00	
3477	镀锌板	29.5*1000	Q235	宝钢	张	100	180.00	18000.00	
3478	镀锌板	30.0*1000	Q235	宝钢	张	100	183.00	18300.00	
3479	镀锌板	30.5*1000	Q235	宝钢	张	100	186.00	18600.00	
3480	镀锌板	31.0*1000	Q235	宝钢	张	100	189.00	18900.00	
3481	镀锌板	31.5*1000	Q235	宝钢	张	100	192.00	19200.00	
3482	镀锌板	32.0*1000	Q235	宝钢	张	100	195.00	19500.00	
3483	镀锌板	32.5*1000	Q235	宝钢	张	100	198.00	19800.00	
3484	镀锌板	33.0*1000	Q235	宝钢	张	100	201.00	20100.00	
3485	镀锌板	33.5*1000	Q235	宝钢	张	100	204.00	20400.00	
3486	镀锌板	34.0*1000	Q235	宝钢	张	100	207.00	20700.00	
3487	镀锌板	34.5*1000	Q235	宝钢	张	100	210.00	21000.00	
3488	镀锌板	35.0*1000	Q235	宝钢	张	100	213.00	21300.00	
3489	镀锌板	35.5*1000	Q235	宝钢	张	100	216.00	21600.00	
3490	镀锌板	36.0*1000	Q235	宝钢	张	100	219.00	21900.00	
3491	镀锌板	36.5*1000	Q235	宝钢	张	100	222.00	22200.00	
3492	镀锌板	37.0*1000	Q235	宝钢	张	100	225.00	22500.00	
3493	镀锌板	37.5*1000	Q235	宝钢	张	100	228.00	22800.00	
3494	镀锌板	38.0*1000	Q235	宝钢	张	100	231.00	23100.00	
3495	镀锌板	38.5*1000	Q235	宝钢	张	100	234.00	23400.00	
3496	镀锌板	39.0*1000	Q235	宝钢	张	100	237.00	23700.00	
3497	镀锌板	39.5*1000	Q235	宝钢	张	100	240.00	24000.00	
3498	镀锌板	40.0*1000	Q235	宝钢	张	100	243.00	24300.00	
3499	镀锌板	40.5*1000	Q235	宝钢	张	100	246.00	24600.00	
3500	镀锌板	41.0*1000	Q235	宝钢	张	100	249.00	24900.00	

附 編

- 附編 1 蛍光 X 線分析による桜畑上遺跡出土の黒曜石石器の産地推定
- 附編 2 桜畑上遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)
- 附編 3 桜畑上遺跡から出土した炭化材の樹種

附編 1 蛍光X線分析による桜畑上遺跡出土の黒曜石石器の産地推定

独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授 望月 明彦

分析法

試料の分析法として蛍光X線分析法を用いた。蛍光X線分析のもっとも大きな特徴は試料を破壊せずに分析できることにある。本研究室で取り扱う考古学的試料(主として黒曜石、その他土器、陶器、ガラス器、金属器など)は、その考古学的価値から破壊することができない場合が多い。非破壊分析である蛍光X線分析はこれらの試料の分析には欠かせない方法といえる。また、迅速に分析できることもあり、多数の試料の分析に適した方法である。本研究室で最も多く分析する黒曜石の場合、遺跡からの出土数が多いことから蛍光X線分析の迅速性は強力な武器となっている。

しかし、分析で得られる結果は試料表面の分析結果なので、試料表面が風化、汚染されている試料では正しい分析結果を得ることはできない。従って分析にあたっては試料の表面状態を十分見極めることが重要である。土壌などによる汚染の場合は洗浄により正しい結果を得られる可能性があるが、風化の場合は風化層を除去しなくては正しい結果は得られず、試料は破壊されることになる。

蛍光X線分析には波長分散蛍光X線分析(WDX)とエネルギー分散蛍光X線分析(EDX)の二つの方法がある。本報告で用いているのはEDXである。WDXでは分光結晶を用いて蛍光X線を分離して、検出器で検出する。この方法では装置が大掛かりになり、強い1次X線を必要とする。一方、EDXでは蛍光X線を半導体検出器(SSD)で検出する。WDXと異なり、X線を分離検出するために機械的な部分の必要がないことから装置はコンパクトである。SSDは多元素の蛍光X線を同時に分離検出可能であるが、液体窒素などを用いて冷却する必要がある。WDXでは冷却水で十分である。また、試料の形態による測定への影響はEDXのほうが少ない。

分析装置としてセイコーインスツルメンツ(現SIIナノテクノロジー)のSEA-2110L 蛍光X線分析装置を用いた。

産地推定法

黒曜石の産地を推定するにはあらかじめ黒曜石産地の原石を測定し、各産地の特長を示すデータベースを作成しておく必要がある。正確な推定を行うためにはできる限り多くの産地から原石を採集しておく必要がある。図1には推定のために用いた東日本の黒曜石産地について示す。遺跡出土の黒曜石についても産地原石と同様の測定を行い、どの産地原石と最も類似しているかを判別して推定結果とする。このとき得られる推定結果は、あくまで原石データベースのどの産地に最も近いか、という情報である。もし、原石データベースにその試料本来の産地のデータが含まれていなければ正確な産地推定は不可能である。その試料の産地はこの産地ではない、という推定結果は正確であり信用できる。しかし、その試料の産地はこの産地である、という結果は原石データベースの中でその産地が最も近いということを示しているだけなのである。

実際に産地推定を行うためには蛍光X線分析による測定データを用いて何らかの指標を算出し、それらの指標を用いて分析試料と原石データベースとの照合を行う。最も多く用いられているのは各元素が試料中にどのくらい(何%)含まれているかという定量値である。ファンダメンタルパラメータ法(FP法)を用いて産地原石を測定し、各元素組成による判別群の作成を試みたが、各群はまとまりが悪くよい結果は得られなかった。主な理由として試料の形状が考えられる。原石の測定試料として遺跡出土試料と

同様の条件に近づけるためにハンマーで割ってさまざまな形状のまま測定を行った。しかし、蛍光X線分析では平面試料を分析する必要がある。また、原石では十分な厚みのある試料を測定するが、遺跡出土試料中には非常に薄い試料も存在し、その場合にはさらに各判別群はばらついてしまうことが考えられた。

そこで、測定によって得られた蛍光X線強度を用いる判別法を検討した。最もよく用いられるのは蛍光X線強度比を用いる方法である。前述したように測定結果には試料形状や厚みが影響を与える。しかし、その影響の仕方は原子番号の近い元素(蛍光X線エネルギーの近い)ほど似ており、原子番号が離れるほど影響の仕方は異なる。従って、原子番号の近い元素の蛍光X線強度比を用いれば形状、厚みによる影響を小さく抑えることができる。さらに、各産地の違いをよく表す元素を検討し、以下に示す指標による判別法を採用することにした。これにより、元素組成による方法よりもかなり正確な判別が可能になった。

しかし、この方法には大きな欠点もある。それは蛍光X線強度が分析装置によって異なるということであり、当然蛍光X線強度比も装置ごとに異なってしまうということである。従って、原石のデータベースは測定装置ごとに作成する必要がある。産地推定を行う機関ごとに原石データベースを作成する必要があり、原石データベースを共有することができない。この点はこれから解決すべきところであり、現在岩石標準試料を用いた補正法を検討中である。

以下に、測定した元素と産地推定に用いた指標を示す。

測定元素：アルミニウム (Al)、ケイ素 (Si)、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr)

指標 : Rb 分率 = Rb 強度 × 100/A

Sr 分率 = Sr 強度 × 100/A

Zr 分率 = Zr 強度 × 100/A

Mn 強度 × 100/Fe 強度

$\log(\text{Fe 強度} / \text{K 強度})$

$(A = \text{Rb 強度} + \text{Sr 強度} + \text{Y 強度} + \text{Zr 強度})$

推定のための第1の方法としては上記のうち Zr 分率を除く4つの指標を用いて2つのグラフによる推定法を用いた。以下この方法を判別図法、2つのグラフを判別図と呼ぶことにする。判別図法は、形状、厚みの影響を受けにくく、信頼性の高い産地推定法であるといえよう。また、指標の計算は非常に簡単であり、推定結果はグラフにより視覚的・直感的に把握できることから非常にわかりやすいことも大きな長所といえる。判別図法によるプロットを図2と図3に示す。産地推定を行った試料数が非常に多いため、分析番号 0001-0765 についての判別図を図に示した。高原山エリアを除く中部・関東地方の全ての産地が検出された。

第2の方法として多変量解析の1つの手法である判別分析を用いた。この方法はすでに分類された群のいずれに未知の試料が帰属するかを求める方法である。変量として上記の指標をすべて用いた。原石の群はあらかじめクラスター分析と主成分分析によって分類し、判別分析によって結果に矛盾がないかを確認した。判別分析で注意しなければならないことがある。それは、「原石データベースの中でどの判別群が最も近いかを判別する」という手法であることである。もし、その試料の産地がデータベース中になくてもデータベース中で最も近い産地を判別群としてしまう。産地がデータベース中に無い場合には正確な産地推定結果は「産地不明」という結果でなくてはならない。正確な結果を出すためには原石データベースの充実不可欠であり、判別分析の結果が妥当かどうかは十分検討されなければならない。

産地原石判別群(SEIKO SEA-2110L蛍光X線分析装置による)

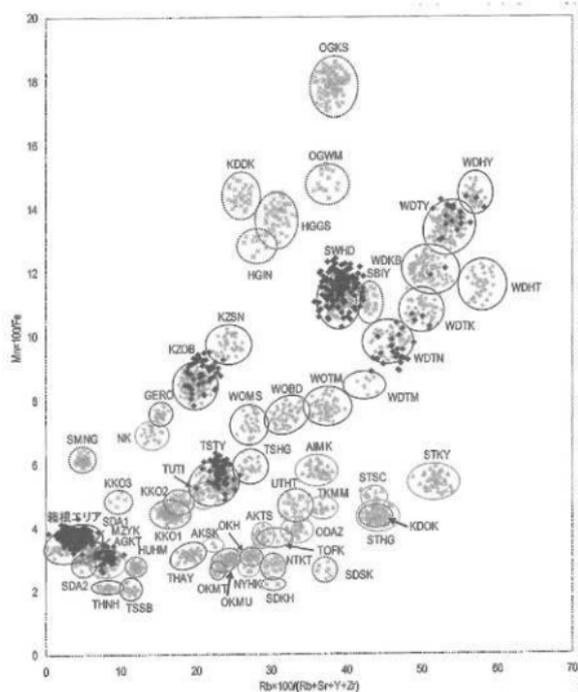
産地判別	産地No.	タイプ	産地群	判別群	記号	記号	産地名称(分析産)
北海道	1	白濁	八号武群	ETHG	---	---	摩石山産(18), 八号武群産(11), 八号武(19), 徳田産(4), 徳田林産(4)
	2	上土燐	徳田武群	ETHY	---	---	十三号武(4)
	3	粗片	安佐群	ODAZ	---	---	安佐(25), 徳田武(19), 徳田武(5)
	4	黒川	黒川武群	AKTS	---	---	黒川(9), 黒川(10), 黒川(15)
	5	赤点	赤点武群	AKSE	---	---	赤点(19)
	6	赤+黒濁	徳田武群	ETHK	---	---	徳田(18)
	7	赤+片濁	徳田武群	ETHD	---	---	徳田(18)
	8	赤濁	徳田武群	ETHJ	---	---	徳田(18)
	9	本産	出雲武群	KDDK	---	---	出雲武群産(14)
	10	濁濁	八号武群	ETHM	---	---	八号武(22)産, 八号武(18), 阿蘇武(4)
群馬	11	黒濁	赤+黒濁	OGGS	---	---	赤+黒濁産(17), 赤+黒濁産(9)
	12	黒濁	赤+黒濁	OGVM	---	---	赤+黒濁産(14)
山梨	13	粗黒	月山群	ROGS	---	---	月山産(10), 穂積町産(11), 穂積町寺沢(11)
	14	粗黒	今野武群	ISGN	---	---	今野武(9), 大淵田(4)
新潟	15	泥濁	赤+黒濁	SHRY	---	---	赤+黒濁産(4)
	16	赤濁	甘藷武群	THAY	TKH1	TKH2	甘藷武(25), 徳田武(2)
長野	赤濁 (WC)	赤濁	高野山群	THGN	TKG1	TKG2	七号武(9), 赤点(19)産
			徳田武群	ETHY	WDTY	WDTI	徳田(18)産, 徳田(18)産
			小淵武群	WDRB	WDTJ	---	小淵(21), 小淵(24), 黒野産(16), 黒野寺(17), 上原産(19), 赤田産(4), 赤田産(2), 上原産(1)
			上原産武群	WDTN	WDTA	---	赤濁(18), 上原産(23), 上原産(29), 上原産(1)
			上原産武群	WDTM	WDT5	---	(18), 丁字産(18)
	赤濁 (WC)	赤濁	赤濁	WDRY	---	---	赤濁(18)産
			フナ武群	WODJ	OMG1	---	フナ武(24), フナ武(赤濁)(18), 赤+黒濁(12), 赤+黒濁(18), 赤+黒濁(4)
			赤+黒濁	WODM	OMG2	---	赤+黒濁(12), 赤+黒濁(2)産(18), 赤+黒濁(12), 赤+黒濁(18)
			高野山群	WOTM	OMG3	---	赤+黒濁(12), 赤+黒濁(2)産(18), 赤+黒濁(12), 赤+黒濁(18)
			高野山群	WOTN	---	---	赤+黒濁(12), 赤+黒濁(2)産(18), 赤+黒濁(12), 赤+黒濁(18)
赤濁	赤濁	赤濁	THYU	THY	---	赤濁(12), 赤濁(2)産, 赤濁(2)産(18), 赤濁(2)産, 赤濁(12), 赤濁(17), 赤濁(18), 赤濁(18)	
		赤濁	THYG	---	---	赤濁(12)産	
赤濁	赤濁	赤濁	THSI	---	---	赤濁(12)産, 赤濁(18)	
		赤濁	THSV	---	---	赤濁(12)産	
赤濁	赤濁	赤濁	THNY	ASY	---	赤濁(12)産, 赤濁(18)	
		赤濁	THNU	HTJ	---	赤濁(12)産	
赤濁	赤濁	赤濁	THNK	HKNA	---	赤濁(12)産	
		赤濁	THNL	ELY	---	赤濁(12)産	
赤濁	赤濁	赤濁	THNT	EMT	---	赤濁(12)産	
		赤濁	THNS	KSW	---	赤濁(12)産	
赤濁	赤濁	赤濁	KZOB	KOZ1	---	赤濁(12)産, 赤濁(18), 赤濁(18)	
		赤濁	KZSN	KOZ2	---	赤濁(12)産, 赤濁(18)	
赤濁	赤濁	赤濁	OKJM	---	---	赤濁(12)産, 赤濁(18), 赤濁(18)産(18)	
		赤濁	OKML	---	---	赤濁(12)産, 赤濁(18), 赤濁(18)	
赤濁	赤濁	赤濁	OKMT	---	---	赤濁(12)産	
		赤濁	OK	---	---	赤濁(12)産, 赤濁(18)産, 赤濁(18)産	

佐々木篤高氏提供試料(まだ地図には入れていない)

産地判別	産地No.	タイプ	産地群	記号	産地名称(分析産)
群馬	小淵	赤濁	KDDK	---	小淵(18)産(18)
	赤濁	赤濁	KZOB	---	赤濁(12)産(18), 赤濁(18)産(18), 赤濁(18)産(18)
群馬	赤濁	赤濁	KZOB	---	赤濁(12)産(18), 赤濁(18)産(18), 赤濁(18)産(18)
	赤濁	赤濁	KZOB	---	赤濁(12)産(18)
群馬	赤濁	赤濁	MZCY	---	赤濁(12)産(18)
	赤濁	赤濁	SHNG	---	赤濁(12)産(18)
	赤濁	赤濁	SDA1	---	赤濁(12)産(18)
	赤濁	赤濁	SDA2	---	赤濁(12)産(18)
群馬	赤濁	赤濁	SDG0	---	赤濁(12)産(18)

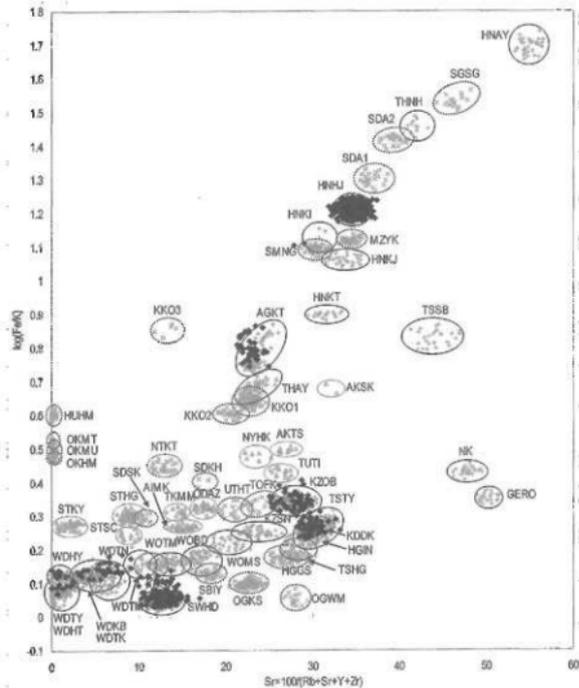


図1 原石を分析・採取した黒曜石産地



○ 中部・関東の産地 △ 東北北陸・福島の産地 □ 北海道の産地 * 通称出土試料

図2 黒曜石産地判別図 (分析番号0001-0765) (1)



○ 中部・関東の産地 △ 東北北陸・福島の産地 □ 北海道の産地 * 通称出土試料

図3 黒曜石産地判別図 (分析番号0001-0765) (2)

検討法として判別の基礎データとなるマハラノビス距離の値を確認している。また、判別図法では結果が目に見える形で示されるので判別図法による推定結果も誤判別をなくすために非常に有効である。

判別図法と判別分析との結果は非常に一致度が高いが、和田鷹山群と和田小深沢群など同じエリアの中の類似した群の場合には異なる群に分類される場合もある。このような場合は判別分析の結果を採用している。

判別分析のアプリケーションにはSTATSOFTのSTATISTICA 2000 Release 5.5を用いた。また、原石データベースの検討に用いたクラスター分析、主成分分析も同様である。

産地推定結果

分析された全試料についての推定結果の集計を以下に示す。文化層や遺構ごとなどの推定結果については報告書の相当部分を参照されたい。

表1 桜畑上遺跡出土黒曜石産地推定結果

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田 (WO)	ブドウ沢	WQBD	2	0.03
	牧ヶ沢	WOMS	0	0
	高松沢	WOTM	0	0
和田 (WD)	芙蓉ライト	WDHY	3	0.05
	鷹山	WDTY	78	1.17
	小深沢	WDKB	3	0.05
	土屋橋北	WDTK	9	0.14
	土屋橋西	WDTN	29	0.44
	土屋橋南	WDTM	4	0.06
	古峠	WDHT	0	0
陣跡	墨ヶ台	SWHD	1062	15.93
夢科	冷山	TSTY	137	2.06
	双子山	TSHG	137	0
	摺鉢山	TSSB	0	0
天城	柏峠1	AGKT	468	7.02
箱根	畑宿	HNHJ	558	8.37
	鍛冶屋	HNKJ	19	0.29
	黒岩橋	HNKI	2	0.03
	上多賀	HNKT	0	0
	芦ノ湯	HNAY	0	0
神津島	思馳島	KZOB	4291	64.37
	砂籾崎	KZSN	1	0.02
高原山	甘湯沢	THAY	0	0
	七尋沢	THNH	0	0
新津	金津	NTKT	0	0
新発田	板山	SBYI	0	0
深浦	八森山	HUHM	0	0
木造	出来島	KDDK	0	0
男鹿	金ヶ崎	OGKS	0	0
	脇本	OGWM	0	0
羽黒	月山	HGGS	0	0
	今野川	HGIN	0	0

エリア	判別群	記号	試料数	%
北上川	折居1群	KKO1	0	0
	折居2群	KKO2	0	0
	折居3群	KKO3	0	0
宮崎	湯ノ倉	MZYK	0	0
仙台	秋保1群	SDA1	0	0
	秋保2群	SDA2	0	0
色麻	根岸	SMNG	0	0
塩竈	塩竈港群	SGSG	0	0
小泊	折腰内	KDOK	0	0
魚津	草月上野	UTHT	0	0
高岡	二上山	TOFK	0	0
佐波	真光寺	SDSK	0	0
	金井二ツ坂	SDKH	0	0
	久見	OKHM	0	0
陽岐	峠地区	OKMT	0	0
	箕浦	OKMU	0	0
	8号沢	STHG	0	0
白滝	黒曜の沢	STKY	0	0
	赤石山頂	STSC	0	0
赤井川	曲川	AIMK	0	0
豊浦	豊泉	TUTI	0	0
霞戸	安住	ODAZ	0	0
十勝	三股	TKMM	0	0
名寄	布川	NYHA	0	0
旭川	高砂台	AKTS	0	0
	春光台	AKSK	0	0
不明産地1	NK	NK	0	0
下呂石	GERO	GERO	0	0
合計			6666	100

不可など	206
総計	6872

核坝上遺跡出土黒曜石産地推定結果

研究区域：核坝上遺跡を中心とする調査区域

参照図：神奈川理工大学環境学研究所ホームページ「核坝上遺跡」

核坝上遺跡		研究区域		産地	産地	産地	産地	産地	産地
産地	産地	産地	産地						
1	104	101	102	103	104	105	106	107	108
109	110	111	112	113	114	115	116	117	118
119	120	121	122	123	124	125	126	127	128
129	130	131	132	133	134	135	136	137	138
139	140	141	142	143	144	145	146	147	148
149	150	151	152	153	154	155	156	157	158
159	160	161	162	163	164	165	166	167	168
169	170	171	172	173	174	175	176	177	178
179	180	181	182	183	184	185	186	187	188
189	190	191	192	193	194	195	196	197	198
199	200	201	202	203	204	205	206	207	208
209	210	211	212	213	214	215	216	217	218
219	220	221	222	223	224	225	226	227	228
229	230	231	232	233	234	235	236	237	238
239	240	241	242	243	244	245	246	247	248
249	250	251	252	253	254	255	256	257	258
259	260	261	262	263	264	265	266	267	268
269	270	271	272	273	274	275	276	277	278
279	280	281	282	283	284	285	286	287	288
289	290	291	292	293	294	295	296	297	298
299	300	301	302	303	304	305	306	307	308
309	310	311	312	313	314	315	316	317	318
319	320	321	322	323	324	325	326	327	328
329	330	331	332	333	334	335	336	337	338
339	340	341	342	343	344	345	346	347	348
349	350	351	352	353	354	355	356	357	358
359	360	361	362	363	364	365	366	367	368
369	370	371	372	373	374	375	376	377	378
379	380	381	382	383	384	385	386	387	388
389	390	391	392	393	394	395	396	397	398
399	400	401	402	403	404	405	406	407	408
409	410	411	412	413	414	415	416	417	418
419	420	421	422	423	424	425	426	427	428
429	430	431	432	433	434	435	436	437	438
439	440	441	442	443	444	445	446	447	448
449	450	451	452	453	454	455	456	457	458
459	460	461	462	463	464	465	466	467	468
469	470	471	472	473	474	475	476	477	478
479	480	481	482	483	484	485	486	487	488
489	490	491	492	493	494	495	496	497	498
499	500	501	502	503	504	505	506	507	508
509	510	511	512	513	514	515	516	517	518
519	520	521	522	523	524	525	526	527	528
529	530	531	532	533	534	535	536	537	538
539	540	541	542	543	544	545	546	547	548
549	550	551	552	553	554	555	556	557	558
559	560	561	562	563	564	565	566	567	568
569	570	571	572	573	574	575	576	577	578
579	580	581	582	583	584	585	586	587	588
589	590	591	592	593	594	595	596	597	598
599	600	601	602	603	604	605	606	607	608
609	610	611	612	613	614	615	616	617	618
619	620	621	622	623	624	625	626	627	628
629	630	631	632	633	634	635	636	637	638
639	640	641	642	643	644	645	646	647	648
649	650	651	652	653	654	655	656	657	658
659	660	661	662	663	664	665	666	667	668
669	670	671	672	673	674	675	676	677	678
679	680	681	682	683	684	685	686	687	688
689	690	691	692	693	694	695	696	697	698
699	700	701	702	703	704	705	706	707	708
709	710	711	712	713	714	715	716	717	718
719	720	721	722	723	724	725	726	727	728
729	730	731	732	733	734	735	736	737	738
739	740	741	742	743	744	745	746	747	748
749	750	751	752	753	754	755	756	757	758
759	760	761	762	763	764	765	766	767	768
769	770	771	772	773	774	775	776	777	778
779	780	781	782	783	784	785	786	787	788
789	790	791	792	793	794	795	796	797	798
799	800	801	802	803	804	805	806	807	808
809	810	811	812	813	814	815	816	817	818
819	820	821	822	823	824	825	826	827	828
829	830	831	832	833	834	835	836	837	838
839	840	841	842	843	844	845	846	847	848
849	850	851	852	853	854	855	856	857	858
859	860	861	862	863	864	865	866	867	868
869	870	871	872	873	874	875	876	877	878
879	880	881	882	883	884	885	886	887	888
889	890	891	892	893	894	895	896	897	898
899	900	901	902	903	904	905	906	907	908
909	910	911	912	913	914	915	916	917	918
919	920	921	922	923	924	925	926	927	928
929	930	931	932	933	934	935	936	937	938
939	940	941	942	943	944	945	946	947	948
949	950	951	952	953	954	955	956	957	958
959	960	961	962	963	964	965	966	967	968
969	970	971	972	973	974	975	976	977	978
979	980	981	982	983	984	985	986	987	988
989	990	991	992	993	994	995	996	997	998
999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008
1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018
1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028
1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038
1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048
1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058
1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068
1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078
1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088
1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098
1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108
1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118
1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128
1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138
1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148
1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158
1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167	1168
1169	1170	1171	1172	1173	1174	1175	1176	1177	1178
1179	1180	1181	1182	1183	1184	1185	1186	1187	1188
1189	1190	1191	1192	1193	1194	1195	1196	1197	1198
1199	1200	1201	1202	1203	1204	1205	1206	1207	1208
1209	1210	1211	1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218
1219	1220	1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228
1229	1230	1231	1232	1233	1234	1235	1236	1237	1238
1239	1240	1241	1242	1243	1244	1245	1246	1247	1248
1249	1250	1251	1252	1253	1254	1255	1256	1257	1258
1259	1260	1261	1262	1263	1264	1265	1266	1267	1268
1269	1270	1271	1272	1273	1274	1275	1276	1277	1278
1279	1280	1281	1282	1283	1284	1285	1286	1287	1288
1289	1290	1291	1292	1293	1294	1295	1296	1297	1298
1299	1300	1301	1302	1303	1304	1305			

物料名称		规格		品牌		用途		单位		数量		重量		体积		备注	
物料名称	规格	品牌	用途	单位	数量	重量	体积	物料名称	规格	品牌	用途	单位	数量	重量	体积	备注	
100001	100001	100001	100001	100001	100001	100001	100001	100001	100001	100001	100001	100001	100001	100001	100001	100001	100001

年份	企业名称	所属行业	营业收入				利润总额			
			营业收入	营业成本	利润总额	净利润	营业收入	营业成本	利润总额	净利润
2019	江苏华辰新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	181,025,000	106,747,000	74,278,000	37,441,000	181,025,000	106,747,000	74,278,000	37,441,000
2020	江苏华辰新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	210,357,000	129,614,000	80,743,000	40,372,000	210,357,000	129,614,000	80,743,000	40,372,000
2021	江苏华辰新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	253,628,000	157,330,000	96,298,000	48,149,000	253,628,000	157,330,000	96,298,000	48,149,000
2022	江苏华辰新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	284,519,000	179,415,000	105,104,000	52,552,000	284,519,000	179,415,000	105,104,000	52,552,000
2023	江苏华辰新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	312,125,000	195,210,000	116,915,000	58,458,000	312,125,000	195,210,000	116,915,000	58,458,000
2019	江苏恒通新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	152,345,000	91,234,000	61,111,000	30,555,000	152,345,000	91,234,000	61,111,000	30,555,000
2020	江苏恒通新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	178,921,000	109,345,000	69,576,000	34,788,000	178,921,000	109,345,000	69,576,000	34,788,000
2021	江苏恒通新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	201,456,000	124,567,000	76,889,000	38,444,000	201,456,000	124,567,000	76,889,000	38,444,000
2022	江苏恒通新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	229,874,000	141,234,000	88,640,000	44,320,000	229,874,000	141,234,000	88,640,000	44,320,000
2023	江苏恒通新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	258,123,000	157,890,000	100,233,000	50,116,000	258,123,000	157,890,000	100,233,000	50,116,000
2019	江苏恒泰新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	135,678,000	82,345,000	53,333,000	26,666,000	135,678,000	82,345,000	53,333,000	26,666,000
2020	江苏恒泰新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	158,921,000	97,234,000	61,687,000	30,843,000	158,921,000	97,234,000	61,687,000	30,843,000
2021	江苏恒泰新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	182,345,000	112,345,000	70,000,000	35,000,000	182,345,000	112,345,000	70,000,000	35,000,000
2022	江苏恒泰新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	208,765,000	128,901,000	79,864,000	39,932,000	208,765,000	128,901,000	79,864,000	39,932,000
2023	江苏恒泰新材料股份有限公司	化学原料及化学制品制造业	234,567,000	145,678,000	88,889,000	44,444,000	234,567,000	145,678,000	88,889,000	44,444,000

行次	科目名称		单位		金额		币种		日期		摘要		凭证		备注	
	一级	二级	名称	代码	元	角	分	元	角	分	月	日	内容	号	页	页
1	101	库存现金	人民币	2222	100.00					12	31	期初余额	100.00			
2	102	银行存款	人民币	2222	100.00					12	31	期初余额	100.00			
3	103	其他货币资金	人民币	2222	100.00					12	31	期初余额	100.00			
4	104	坏账准备	人民币	2222						12	31	期初余额				
5	105	长期股权投资	人民币	2222						12	31	期初余额				
6	106	固定资产	人民币	2222						12	31	期初余额				
7	107	累计折旧	人民币	2222						12	31	期初余额				
8	108	无形资产	人民币	2222						12	31	期初余额				
9	109	长期待摊费用	人民币	2222						12	31	期初余额				
10	110	递延所得税资产	人民币	2222						12	31	期初余额				
11	111	其他流动资产	人民币	2222						12	31	期初余额				
12	112	其他非流动资产	人民币	2222						12	31	期初余额				
13	121	短期借款	人民币	2222						12	31	期初余额				
14	122	应付票据	人民币	2222						12	31	期初余额				
15	123	应付账款	人民币	2222						12	31	期初余额				
16	124	预收账款	人民币	2222						12	31	期初余额				
17	125	应付职工薪酬	人民币	2222						12	31	期初余额				
18	126	应交税费	人民币	2222						12	31	期初余额				
19	127	应付利息	人民币	2222						12	31	期初余额				
20	128	应付股利	人民币	2222						12	31	期初余额				
21	129	其他应付款	人民币	2222						12	31	期初余额				
22	130	预计负债	人民币	2222						12	31	期初余额				
23	131	递延所得税负债	人民币	2222						12	31	期初余额				
24	132	其他流动负债	人民币	2222						12	31	期初余额				
25	133	其他非流动负债	人民币	2222						12	31	期初余额				
26	140	所有者权益合计	人民币	2222						12	31	期初余额				
27	141	实收资本	人民币	2222						12	31	期初余额				
28	142	资本公积	人民币	2222						12	31	期初余额				
29	143	盈余公积	人民币	2222						12	31	期初余额				
30	144	未分配利润	人民币	2222						12	31	期初余额				
31	150	资产总计	人民币	2222	100.00					12	31	期初余额	100.00			
32	151	负债合计	人民币	2222						12	31	期初余额				
33	152	所有者权益合计	人民币	2222	100.00					12	31	期初余额	100.00			
34	160	营业收入	人民币	2222						12	31	期初余额				
35	161	营业成本	人民币	2222						12	31	期初余额				
36	162	营业税金及附加	人民币	2222						12	31	期初余额				
37	163	销售费用	人民币	2222						12	31	期初余额				
38	164	管理费用	人民币	2222						12	31	期初余额				
39	165	财务费用	人民币	2222						12	31	期初余额				
40	166	资产减值损失	人民币	2222						12	31	期初余额				
41	167	公允价值变动损益	人民币	2222						12	31	期初余额				
42	168	投资收益	人民币	2222						12	31	期初余额				
43	169	营业外收入	人民币	2222						12	31	期初余额				
44	169	营业外支出	人民币	2222						12	31	期初余额				
45	170	利润总额	人民币	2222						12	31	期初余额				
46	171	所得税费用	人民币	2222						12	31	期初余额				
47	172	净利润	人民币	2222						12	31	期初余额				
48	180	所有者权益合计	人民币	2222						12	31	期初余额				
49	181	实收资本	人民币	2222						12	31	期初余额				
50	182	资本公积	人民币	2222						12	31	期初余额				
51	183	盈余公积	人民币	2222						12	31	期初余额				
52	184	未分配利润	人民币	2222						12	31	期初余额				

基础信息		组织信息		财务信息		其他信息	
代码	名称	地址	性质	注册资本	实收资本	总资产	净资产
100001
100002
100003
100004
100005
100006
100007
100008
100009
100010
100011
100012
100013
100014
100015
100016
100017
100018
100019
100020
100021
100022
100023
100024
100025
100026
100027
100028
100029
100030
100031
100032
100033
100034
100035
100036
100037
100038
100039
100040
100041
100042
100043
100044
100045
100046
100047
100048
100049
100050
100051
100052
100053
100054
100055
100056
100057
100058
100059
100060
100061
100062
100063
100064
100065
100066
100067
100068
100069
100070
100071
100072
100073
100074
100075
100076
100077
100078
100079
100080
100081
100082
100083
100084
100085
100086
100087
100088
100089
100090
100091
100092
100093
100094
100095
100096
100097
100098
100099
100100

工程名称			工程地址			工程性质		工程内容		工程合同		工程竣工		工程验收						
工程名称	工程地址	工程性质	工程内容	工程合同	工程竣工	工程验收	工程名称	工程地址	工程性质	工程内容	工程合同	工程竣工	工程验收	工程名称	工程地址	工程性质	工程内容	工程合同	工程竣工	工程验收
1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01	1.01.01.01.01.01

系统名称	年份	版本	厂商	软件名称	软件类型	软件代码	软件类别	软件版本	软件说明	软件来源
Windows XP	2005	SP2	Microsoft	Windows XP	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	微软
Windows Vista	2006	SP1	Microsoft	Windows Vista	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	微软
Windows 7	2009	SP1	Microsoft	Windows 7	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	微软
Windows 8	2012		Microsoft	Windows 8	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	微软
Windows 8.1	2013		Microsoft	Windows 8.1	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	微软
Windows 10	2015		Microsoft	Windows 10	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	微软
Linux	2000		Linus	Linux	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Linus
Ubuntu	2004		Canonical	Ubuntu	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Canonical
Red Hat	2003		Red Hat	Red Hat	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Red Hat
SUSE	2003		SUSE	SUSE	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	SUSE
CentOS	2003		CentOS	CentOS	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	CentOS
Oracle Solaris	2002		Oracle	Oracle Solaris	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Oracle
Mac OS X	2002		Apple	Mac OS X	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Apple
iOS	2007		Apple	iOS	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Apple
Android	2008		Google	Android	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Google
Windows Phone	2010		Microsoft	Windows Phone	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows Embedded	2006		Microsoft	Windows Embedded	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows RT	2012		Microsoft	Windows RT	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows Server	2003		Microsoft	Windows Server	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows Server 2008	2008		Microsoft	Windows Server 2008	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows Server 2012	2012		Microsoft	Windows Server 2012	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows Server 2016	2016		Microsoft	Windows Server 2016	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows Server 2022	2022		Microsoft	Windows Server 2022	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft

系统名称	年份	版本	厂商	软件名称	软件类型	软件代码	软件类别	软件版本	软件说明	软件来源
Windows XP	2005	SP2	Microsoft	Windows XP	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	微软
Windows Vista	2006	SP1	Microsoft	Windows Vista	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	微软
Windows 7	2009	SP1	Microsoft	Windows 7	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	微软
Windows 8	2012		Microsoft	Windows 8	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	微软
Windows 8.1	2013		Microsoft	Windows 8.1	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	微软
Windows 10	2015		Microsoft	Windows 10	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	微软
Linux	2000		Linus	Linux	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Linus
Ubuntu	2004		Canonical	Ubuntu	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Canonical
Red Hat	2003		Red Hat	Red Hat	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Red Hat
SUSE	2003		SUSE	SUSE	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	SUSE
CentOS	2003		CentOS	CentOS	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	CentOS
Oracle Solaris	2002		Oracle	Oracle Solaris	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Oracle
Mac OS X	2002		Apple	Mac OS X	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Apple
iOS	2007		Apple	iOS	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Apple
Android	2008		Google	Android	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Google
Windows Phone	2010		Microsoft	Windows Phone	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows Embedded	2006		Microsoft	Windows Embedded	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows RT	2012		Microsoft	Windows RT	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows Server	2003		Microsoft	Windows Server	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows Server 2008	2008		Microsoft	Windows Server 2008	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows Server 2012	2012		Microsoft	Windows Server 2012	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows Server 2016	2016		Microsoft	Windows Server 2016	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft
Windows Server 2022	2022		Microsoft	Windows Server 2022	操作系统	5X26-0422	系统软件	5X26-0422	操作系统	Microsoft

年度	考核对象	考核内容	考核结果	履职情况			廉洁自律		
				履职情况	廉洁自律	考核结果	履职情况	廉洁自律	考核结果
2017	
2018	
2019	

年度	考核对象	考核内容	考核结果	履职情况			廉洁自律		
				履职情况	廉洁自律	考核结果	履职情况	廉洁自律	考核结果
2017	
2018	
2019	

年份	行业名称	地区	行业代码	主要经济指标			
				增加值	现价	现价	现价
2007	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2008	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2009	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2010	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2011	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2012	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2013	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2014	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2015	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2016	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2017	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2018	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2019	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2020	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2021	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2022	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2023	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2024	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2025	住宿和餐饮业	北京	5812	100.0	100.0	100.0	100.0

年份	行业名称	地区	行业代码	主要经济指标			
				增加值	现价	现价	现价
2007	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2008	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2009	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2010	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2011	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2012	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2013	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2014	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2015	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2016	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2017	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2018	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2019	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2020	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2021	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2022	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2023	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2024	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0
2025	住宿和餐饮业	天津	5812	100.0	100.0	100.0	100.0

股票代码	证券简称	证券代码	行业名称	所属板块	停牌分析		停牌日期	停牌原因	最新公告日期	停牌期间涨跌幅	停牌期间最高价	停牌期间最低价
					停牌前涨跌幅	停牌前最高价						
000001	平安银行	000001	银行	银行	1.5%	12.24	2021.11.10	停牌				
000002	万科A	000002	房地产	房地产	2.1%	10.50	2021.11.10	停牌				
000003	中兴通讯	000003	通信	通信	0.5%	22.50	2021.11.10	停牌				
000004	ST农化	000004	农业	农业	-1.2%	6.80	2021.11.10	停牌				
000005	世纪铝业	000005	有色金属	有色金属	3.5%	15.50	2021.11.10	停牌				
000006	深天马A	000006	电子	电子	1.8%	25.80	2021.11.10	停牌				
000007	ST广田	000007	农业	农业	-2.5%	8.50	2021.11.10	停牌				
000008	ST北摩	000008	机械	机械	4.2%	18.20	2021.11.10	停牌				
000009	金城医药	000009	医药	医药	1.0%	16.50	2021.11.10	停牌				
000010	ST深锦	000010	有色金属	有色金属	-0.8%	12.50	2021.11.10	停牌				
000011	ST顺源	000011	农业	农业	-1.5%	7.20	2021.11.10	停牌				
000012	ST华发	000012	机械	机械	2.8%	14.80	2021.11.10	停牌				
000013	ST松发	000013	农业	农业	-1.0%	6.50	2021.11.10	停牌				
000014	ST华源	000014	有色金属	有色金属	1.2%	11.80	2021.11.10	停牌				
000015	ST世纪	000015	机械	机械	3.1%	17.50	2021.11.10	停牌				
000016	ST松发	000016	农业	农业	-1.1%	7.00	2021.11.10	停牌				
000017	ST松发	000017	农业	农业	-1.3%	7.50	2021.11.10	停牌				
000018	ST松发	000018	农业	农业	-1.4%	7.80	2021.11.10	停牌				
000019	ST松发	000019	农业	农业	-1.6%	8.20	2021.11.10	停牌				
000020	ST松发	000020	农业	农业	-1.7%	8.50	2021.11.10	停牌				
000021	ST松发	000021	农业	农业	-1.8%	8.80	2021.11.10	停牌				
000022	ST松发	000022	农业	农业	-1.9%	9.10	2021.11.10	停牌				
000023	ST松发	000023	农业	农业	-2.0%	9.40	2021.11.10	停牌				
000024	ST松发	000024	农业	农业	-2.1%	9.70	2021.11.10	停牌				
000025	ST松发	000025	农业	农业	-2.2%	10.00	2021.11.10	停牌				
000026	ST松发	000026	农业	农业	-2.3%	10.30	2021.11.10	停牌				
000027	ST松发	000027	农业	农业	-2.4%	10.60	2021.11.10	停牌				
000028	ST松发	000028	农业	农业	-2.5%	10.90	2021.11.10	停牌				
000029	ST松发	000029	农业	农业	-2.6%	11.20	2021.11.10	停牌				
000030	ST松发	000030	农业	农业	-2.7%	11.50	2021.11.10	停牌				
000031	ST松发	000031	农业	农业	-2.8%	11.80	2021.11.10	停牌				
000032	ST松发	000032	农业	农业	-2.9%	12.10	2021.11.10	停牌				
000033	ST松发	000033	农业	农业	-3.0%	12.40	2021.11.10	停牌				
000034	ST松发	000034	农业	农业	-3.1%	12.70	2021.11.10	停牌				
000035	ST松发	000035	农业	农业	-3.2%	13.00	2021.11.10	停牌				
000036	ST松发	000036	农业	农业	-3.3%	13.30	2021.11.10	停牌				
000037	ST松发	000037	农业	农业	-3.4%	13.60	2021.11.10	停牌				
000038	ST松发	000038	农业	农业	-3.5%	13.90	2021.11.10	停牌				
000039	ST松发	000039	农业	农业	-3.6%	14.20	2021.11.10	停牌				
000040	ST松发	000040	农业	农业	-3.7%	14.50	2021.11.10	停牌				
000041	ST松发	000041	农业	农业	-3.8%	14.80	2021.11.10	停牌				
000042	ST松发	000042	农业	农业	-3.9%	15.10	2021.11.10	停牌				
000043	ST松发	000043	农业	农业	-4.0%	15.40	2021.11.10	停牌				
000044	ST松发	000044	农业	农业	-4.1%	15.70	2021.11.10	停牌				
000045	ST松发	000045	农业	农业	-4.2%	16.00	2021.11.10	停牌				
000046	ST松发	000046	农业	农业	-4.3%	16.30	2021.11.10	停牌				
000047	ST松发	000047	农业	农业	-4.4%	16.60	2021.11.10	停牌				
000048	ST松发	000048	农业	农业	-4.5%	16.90	2021.11.10	停牌				
000049	ST松发	000049	农业	农业	-4.6%	17.20	2021.11.10	停牌				
000050	ST松发	000050	农业	农业	-4.7%	17.50	2021.11.10	停牌				

股票代码	证券简称	证券代码	行业名称	所属板块	停牌分析		停牌日期	停牌原因	最新公告日期	停牌期间涨跌幅	停牌期间最高价	停牌期间最低价
					停牌前涨跌幅	停牌前最高价						
000051	ST松发	000051	农业	农业	-4.8%	17.80	2021.11.10	停牌				
000052	ST松发	000052	农业	农业	-4.9%	18.10	2021.11.10	停牌				
000053	ST松发	000053	农业	农业	-5.0%	18.40	2021.11.10	停牌				
000054	ST松发	000054	农业	农业	-5.1%	18.70	2021.11.10	停牌				
000055	ST松发	000055	农业	农业	-5.2%	19.00	2021.11.10	停牌				
000056	ST松发	000056	农业	农业	-5.3%	19.30	2021.11.10	停牌				
000057	ST松发	000057	农业	农业	-5.4%	19.60	2021.11.10	停牌				
000058	ST松发	000058	农业	农业	-5.5%	19.90	2021.11.10	停牌				
000059	ST松发	000059	农业	农业	-5.6%	20.20	2021.11.10	停牌				
000060	ST松发	000060	农业	农业	-5.7%	20.50	2021.11.10	停牌				
000061	ST松发	000061	农业	农业	-5.8%	20.80	2021.11.10	停牌				
000062	ST松发	000062	农业	农业	-5.9%	21.10	2021.11.10	停牌				
000063	ST松发	000063	农业	农业	-6.0%	21.40	2021.11.10	停牌				
000064	ST松发	000064	农业	农业	-6.1%	21.70	2021.11.10	停牌				
000065	ST松发	000065	农业	农业	-6.2%	22.00	2021.11.10	停牌				
000066	ST松发	000066	农业	农业	-6.3%	22.30	2021.11.10	停牌				
000067	ST松发	000067	农业	农业	-6.4%	22.60	2021.11.10	停牌				
000068	ST松发	000068	农业	农业	-6.5%	22.90	2021.11.10	停牌				
000069	ST松发	000069	农业	农业	-6.6%	23.20	2021.11.10	停牌				
000070	ST松发	000070	农业	农业	-6.7%	23.50	2021.11.10	停牌				
000071	ST松发	000071	农业	农业	-6.8%	23.80	2021.11.10	停牌				
000072	ST松发	000072	农业	农业	-6.9%	24.10	2021.11.10	停牌				
000073	ST松发	000073	农业	农业	-7.0%	24.40	2021.11.10	停牌				
000074	ST松发	000074	农业	农业	-7.1%	24.70	2021.11.10	停牌				
000075	ST松发	000075	农业	农业	-7.2%	25.00	2021.11.10	停牌				
000076	ST松发	000076	农业	农业	-7.3%	25.30	2021.11.10	停牌				
000077	ST松发	000077	农业	农业	-7.4%	25.60	2021.11.10	停牌				
000078	ST松发	000078	农业	农业	-7.5%	25.90	2021.11.10	停牌				
000079	ST松发	000079	农业	农业	-7.6%	26.20	2021.11.10	停牌				
000080	ST松发	000080	农业	农业	-7.7%	26.50	2021.11.10	停牌				
000081	ST松发	000081	农业	农业	-7.8%	26.80	2021.11.10	停牌				
000082	ST松发	000082	农业	农业	-7.9%	27.10	2021.11.10	停牌				
000083	ST松发	000083	农业	农业	-8.0%	27.40	2021.11.10	停牌				
000084	ST松发	000084	农业	农业	-8.1%	27.70	2021.11.10	停牌				
000085	ST松发	000085	农业	农业	-8.2%	28.00	2021.11.10	停牌				
000086	ST松发	000086	农业	农业	-8.3%	28.30	2021.11.10	停牌				
000087	ST松发	000087	农业	农业	-8.4%	28.60	2021.11.10	停牌				
000088	ST松发	000088	农业	农业	-8.5%	28.90	2021.11.10	停牌				
000089	ST松发	000089	农业	农业	-8.6%	29.20	2021.11.10	停牌				
000090	ST松发	000090	农业	农业	-8.7%	29.50	2021.11.10	停牌				

附編 2 桜畑上遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1. 測定対象試料

桜畑上遺跡は、静岡県駿東郡長泉町上長窪 (北緯 35° 08' 57", 東経 138° 52' 33") に所在する。測定対象試料は、第Ⅱ文化層 (BB 1) 出土炭化物 (No.1(C713) : IAAA-90927、No.2(C713) : IAAA-90928、No.3(C713) : IAAA-90929)、合計 3 点である。

2. 測定の意義

炭化物と重複して分布する石器群の年代を推定する。

3. 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理 (AAA : Acid Alkali Acid) により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸 (80℃) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液 (80℃) を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸 (80℃) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で 30分、850℃で 2時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO₂) を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4. 測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシユウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5. 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polash 1977)。
- (2) ¹⁴C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。¹⁴C 年代と誤差は、1桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、¹⁴C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ¹⁴C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により ¹³C/¹²C を測定した場合には表中に (AMS) と注記する。

- (4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04 データベース (Reimer et al. 2004) を使い、OxCalv4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

6. 測定結果

BB I において石器群と重複して出土した炭化物の ^{14}C 年代は、No.1(C713) が $24180 \pm 110\text{yrBP}$ 、No.2(C713) が $24190 \pm 100\text{yrBP}$ 、No.3(C713) が $24340 \pm 100\text{yrBP}$ である。

炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-90927	No.1 (C713)	層位: BB I	炭化物	AAA	-24.32 ± 0.53	$24,180 \pm 110$	4.93 ± 0.07
IAAA-90928	No.2 (C713)	層位: BB I	炭化物	AAA	-20.26 ± 0.82	$24,190 \pm 100$	4.92 ± 0.06
IAAA-90929	No.3 (C713)	層位: BB I	炭化物	AAA	-20.05 ± 0.87	$24,340 \pm 100$	4.83 ± 0.06

[#3077-1,2,3]

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1s 暦年代範囲	2s 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-90927	$24,170 \pm 110$	4.94 ± 0.07	$24,180 \pm 111$	22347BC - 22117BC (68.2%)*	22464BC - 22004BC (95.4%)*
IAAA-90928	$24,110 \pm 100$	4.97 ± 0.06	$24,187 \pm 99$	22341BC - 22137BC (68.2%)*	22445BC - 22037BC (95.4%)*
IAAA-90929	$24,250 \pm 100$	4.88 ± 0.06	$24,335 \pm 102$	22503BC - 22290BC (68.2%)*	22610BC - 22190BC (95.4%)*

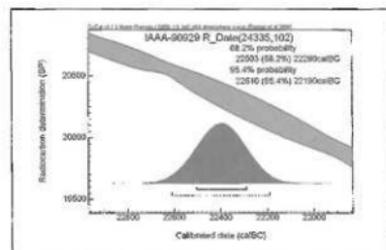
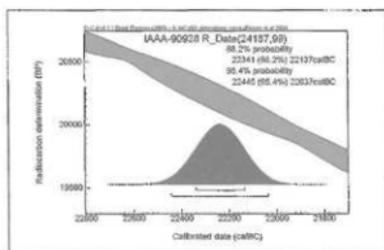
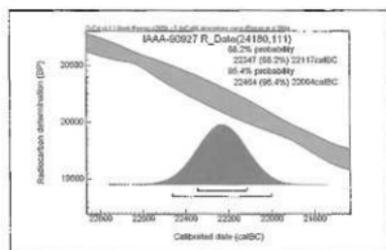
*Warning! Date out of range [参考値]

参考文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389

Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058



[参考] 暦年較正年代グラフ

附編3 桜畑上遺跡から出土した炭化材の樹種

はじめに

桜畑上遺跡では、旧石器時代の炭化物集積が検出されている。今回の分析調査では、旧石器時代の木材利用を明らかにするため、出土した炭化材を対象とした樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は、旧石器時代第Ⅱ文化層 (BB I) から出土した炭化材 (分析番号1~3) である。一括されている試料から無作為に3片を抽出して同定を行う。

2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口 (横断面)・柾目 (放射断面)・板目 (接線断面) の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、高地・伊東(1982)や Wheeler 他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、全て広葉樹のハンノキ属ハンノキ亜属に同定された。解剖学的特徴等を記す。

・ハンノキ属ハンノキ亜属 (*Alnus* subgen. *Alnus*)
カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のもの集合放射組織とがある。

4. 考察

BB I から出土した炭化材で、破片が数片認められる。このうち、3点について同定を実施した結果、全て落葉広葉樹のハンノキ属に同定された。ハンノキ属には、ハンノキなど、湿地や谷筋など、比較的湿った環境に生育する種類が含まれており、本遺跡周辺の谷筋等に生育していたことが推定される。BB I のこれまでの調査事例では、清水柳北遺跡でカラマツ?や広葉樹、観音洞 B 遺跡でトネリコ属類似種が確認されている (バリノ・サーヴェイ株式会社, 1989, 1994)。調査事例が少ないため、古植生の詳細については不明であるが、トネリコ属にはハンノキ属と共に生育する種類が含まれており、今回の分析結果はこれまでの結果とも矛盾しない。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所。
伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181。

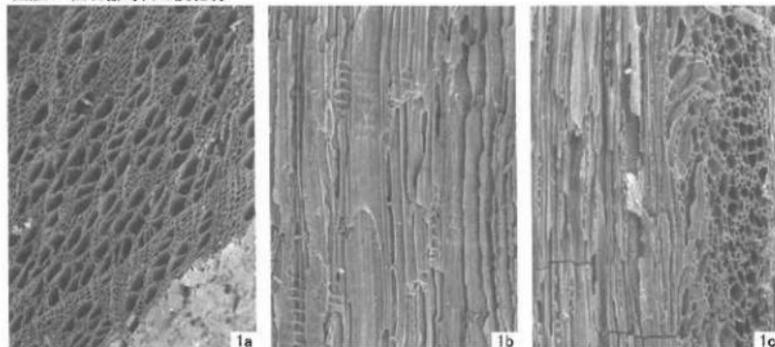
表1. 旧石器時代の樹種同定結果

分析番号	層位	資料番号	樹種
1~3	BB I	C713	ハンノキ属ハンノキ亜属
			ハンノキ属ハンノキ亜属
			ハンノキ属ハンノキ亜属

- 伊東 隆夫,1996.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ,木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東 隆夫,1997.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ,木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東 隆夫,1998.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ,木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東 隆夫,1999.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ,木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,17-216.
- バリノ・サーヴェイ株式会社,1989.炭化材同定,「清水柳北遺跡発掘調査報告書その1」,沼津市文化財調査報告書第47集,沼津市教育委員会,419-420.
- バリノ・サーヴェイ株式会社,1994.観音洞遺跡出土炭化材の材同定報告,「五輪・観音洞・元山中・陰洞遺跡Ⅱ」,三島市教育委員会,480-481.
- バリノ・サーヴェイ株式会社,1999.押出し遺跡の1区で検出された堅穴住居跡(SB-8)の年代観と構築材について,「押出し遺跡 遺構編」,(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所,115-117.
- 島地 謙・伊東 隆夫,1982.国産木材組織,地球社,176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998.広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)*IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

※ 本分析は、放射性炭素年代測定と合わせて(株)加速器分析研究所に委託しており、同社の協力会社・バリノ・サーヴェイ株式会社にて実施された。

図版1 旧石器時代の炭化材



1.ハンノキ属ハンノキ亜属(分析番号1)

a:木口,b:柾目,c:板目

200 μ m a
200 μ m b,c

写 真 图 版



調査区全景



遺跡遠景（東側から）



桜畑上遺跡上空から愛鷹山を望む



1-1区・1-2区完掘状況



7-2区完掘状況



4-2区完掘状況



第Ⅰ文化層エリアB 2号石器集中



第Ⅱ文化層エリアC 3号石器集中・1号礫群



第Ⅱ文化層エリアE 4・5号石器集中



第Ⅱ文化層エリアA



第Ⅲ文化層エリアB 2号石器集中



第Ⅳ文化層エリアB 1号石器集中



第Ⅳ文化層エリアG 1号礫群



第Ⅳ文化層エリアJ 8号石器集中



第Ⅳ文化層エリアD(奥)・第Ⅴ文化層エリアE(手前)



第Ⅴ文化層エリアA 1号礫群



第V文化層エリアD 3号礫群



第V文化層エリアD 4号礫群



第V文化層エリアG 中央部



第V文化層エリアH 9号石器集中



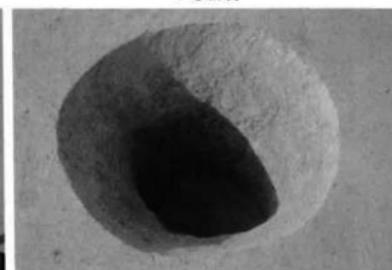
第V文化層エリアK 12号石器集中



1号土坑

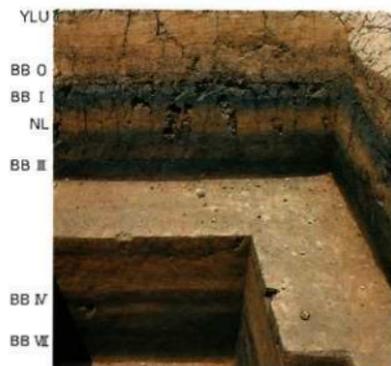


2号土坑

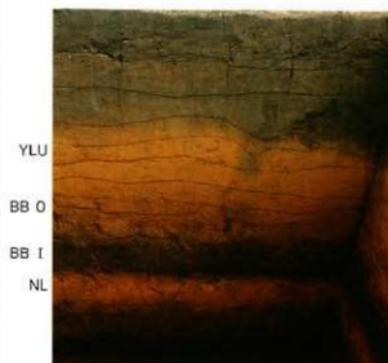


3号土坑

図版 6



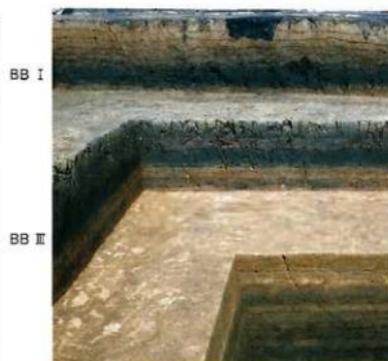
TP I -3 土層断面 (休馬層上位～中部ローム層)



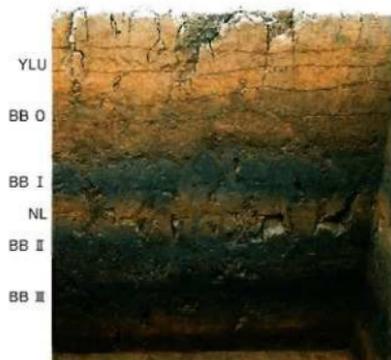
TP1-10 土層断面 (表土～第Ⅲスコリア帯)



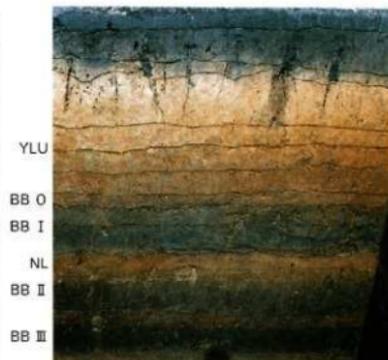
TP2-2 土層断面 (表土～第Ⅲスコリア帯)



TP71 土層断面 (漸移層～中部ローム層)



TP82 土層断面 (休場層上位～第Ⅲスコリア帯)



TP18 土層断面 (耕作土～第Ⅲ黑色帯)



第Ⅱ·第Ⅱ文化層出土石器



第IV文化層出土石器



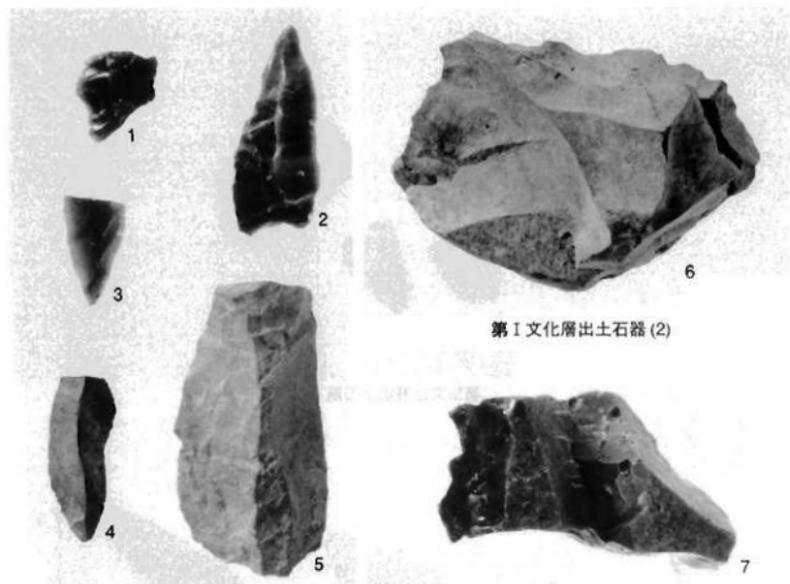
第V文化層出土石器



第Ⅵ文化層出土石器



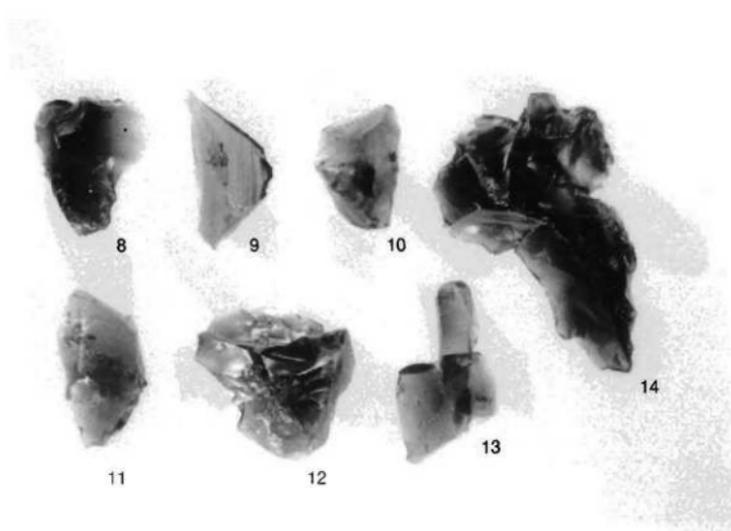
縄文時代草創期出土石器



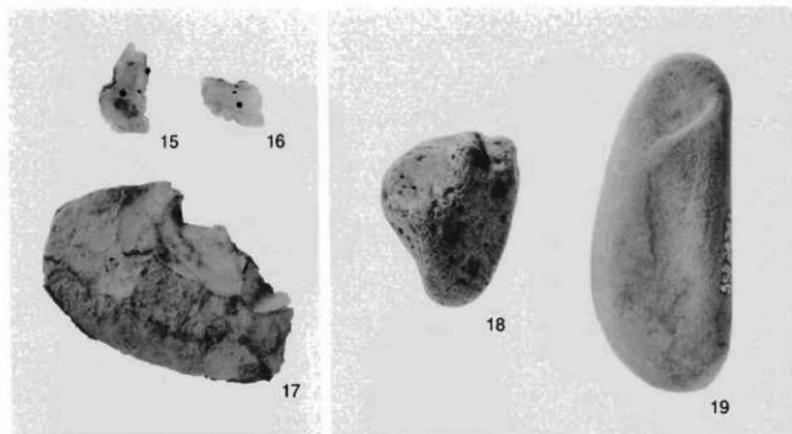
第Ⅰ文化層出土石器(2)

SCⅡ・第Ⅰ文化層出土石器(1)

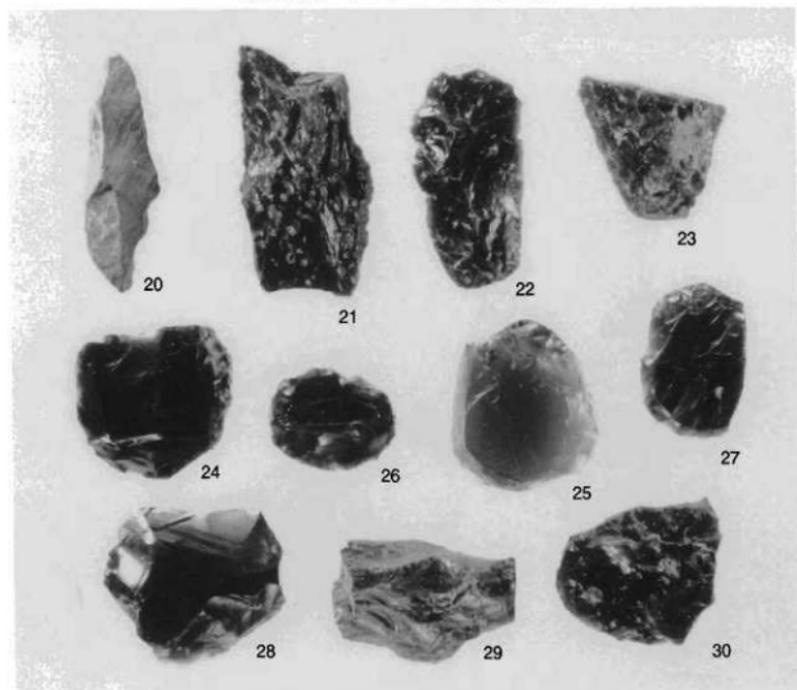
第Ⅱ文化層エリアA出土石器



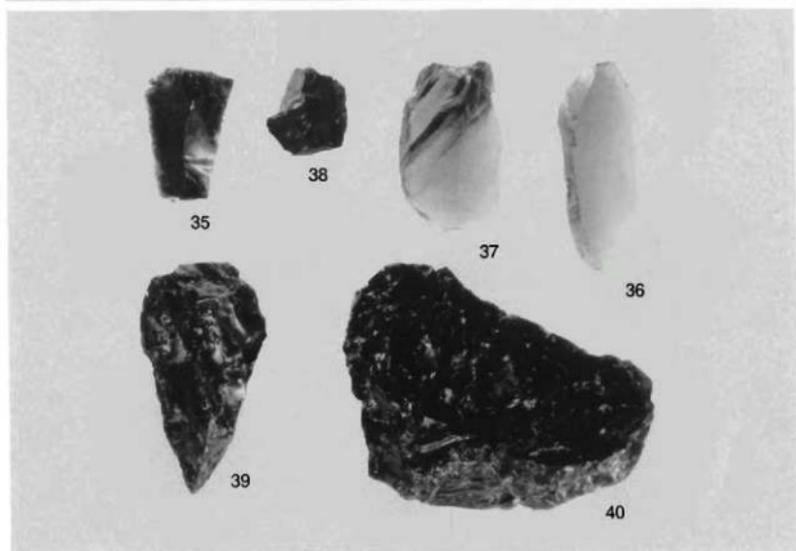
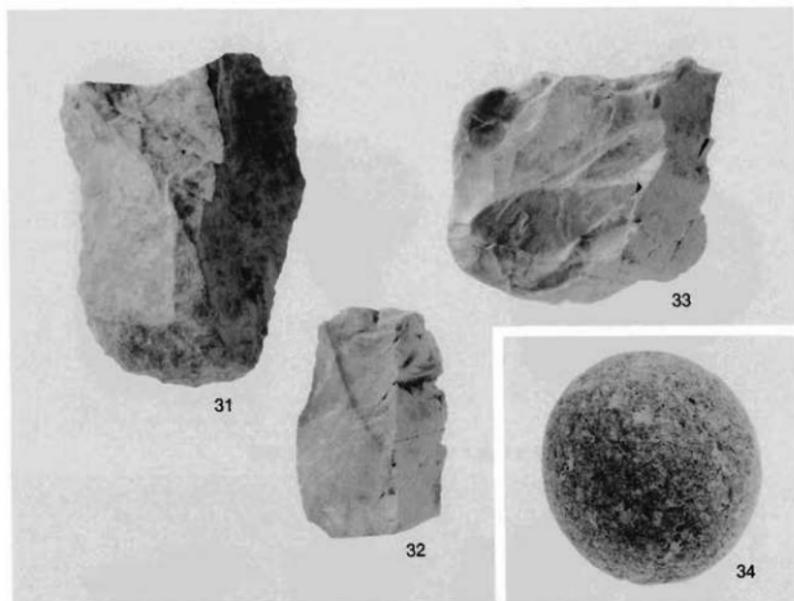
第Ⅱ文化層エリアB出土石器



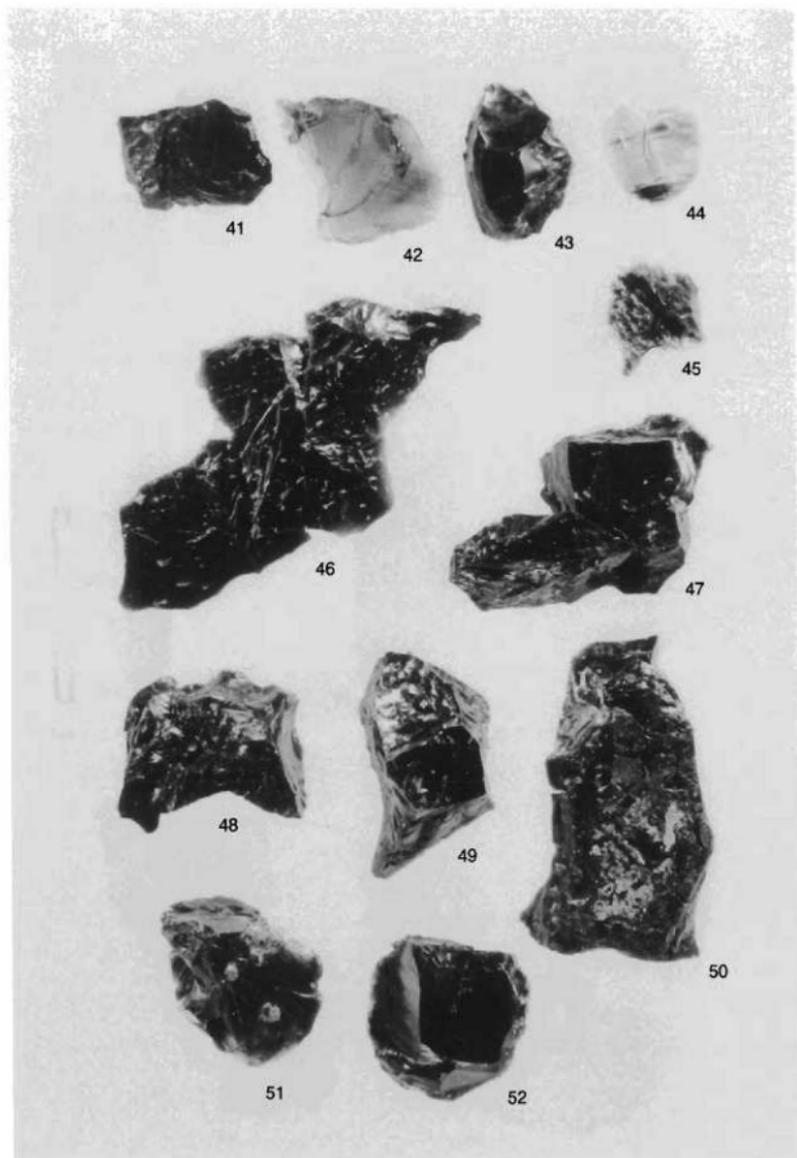
第Ⅱ文化層エリアC・エリアD出土石器



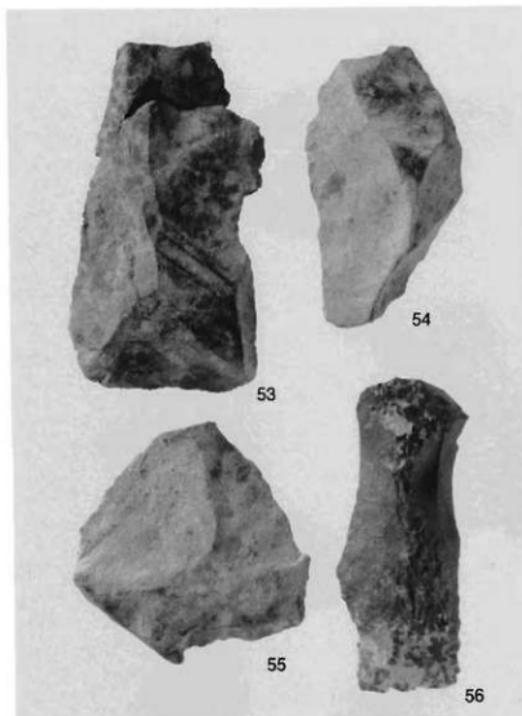
第Ⅱ文化層エリアE出土石器(1)



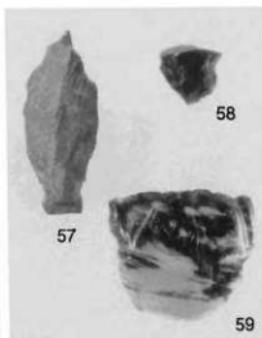
第Ⅱ文化層エリアE出土石器(2)



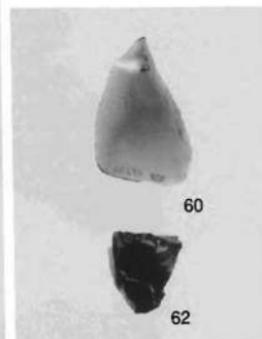
第Ⅱ文化層エリアE出土石器(3)



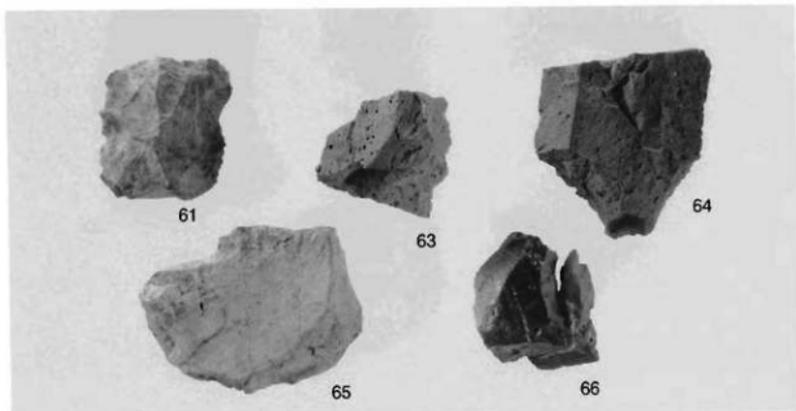
第Ⅱ文化層エリアE出土石器(4)



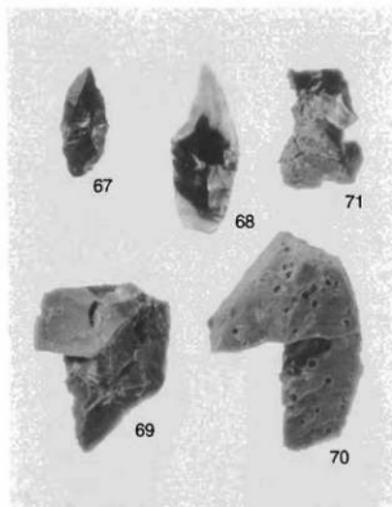
第Ⅱ文化層エリア外出土石器



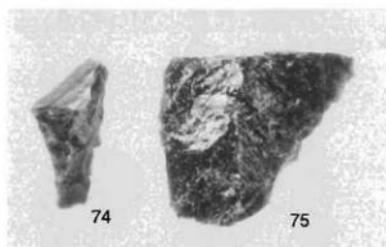
第Ⅲ文化層エリアA出土石器(1)



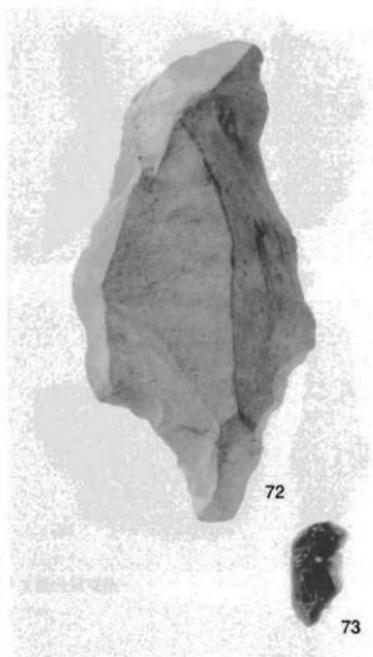
第Ⅲ文化層エリアA出土石器(2)



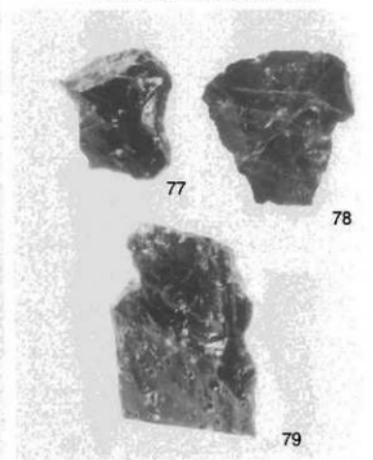
第Ⅲ文化層エリアB出土石器



第Ⅳ文化層エリアA出土石器



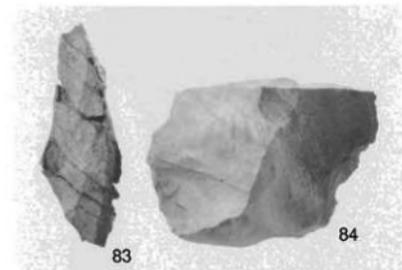
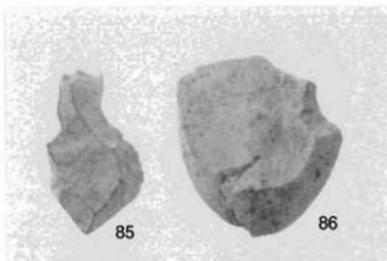
第Ⅲ文化層エリア外出石器



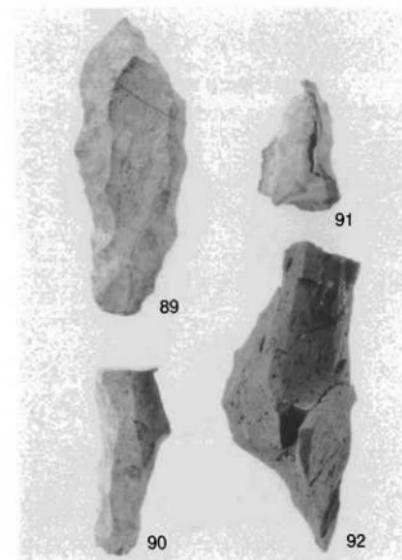
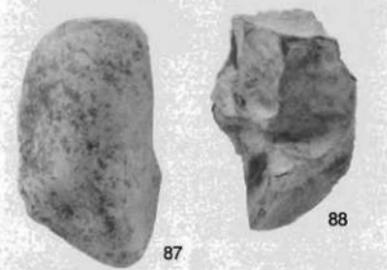
第Ⅳ文化層エリアB出土石器



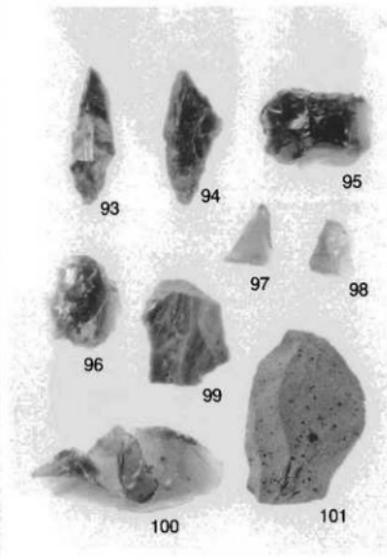
第IV文化層エリアC 出土石器



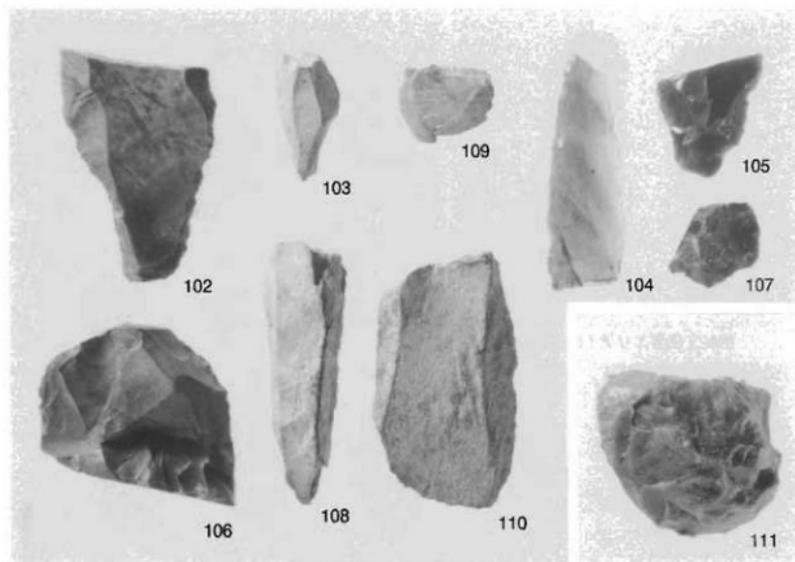
第IV文化層エリアD 出土石器



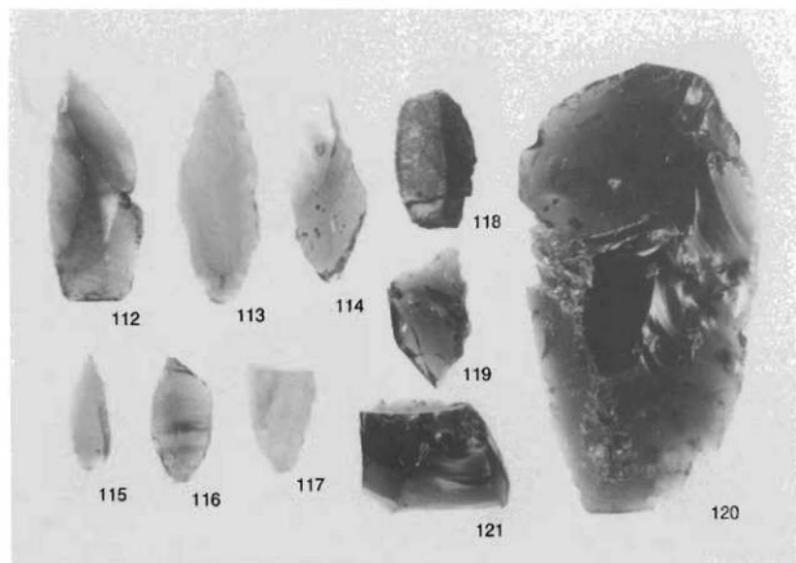
第IV文化層エリアE 出土石器



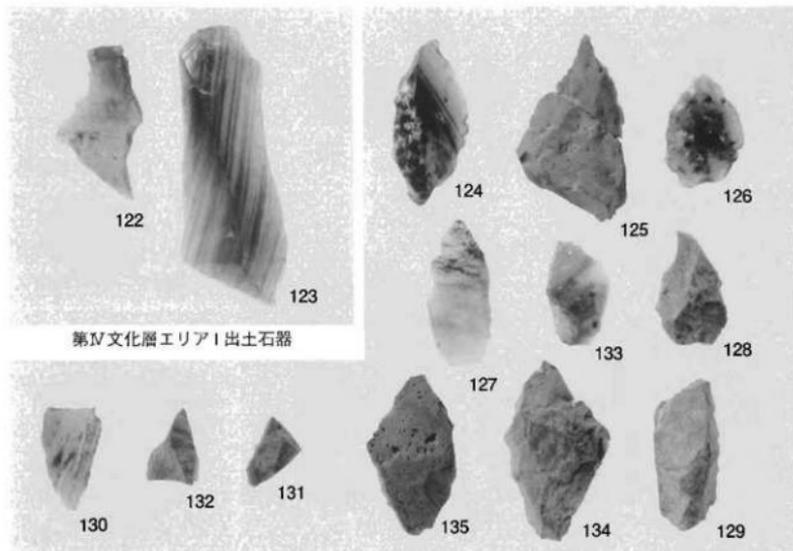
第IV文化層エリアF 出土石器



第Ⅳ文化層エリアG出土石器

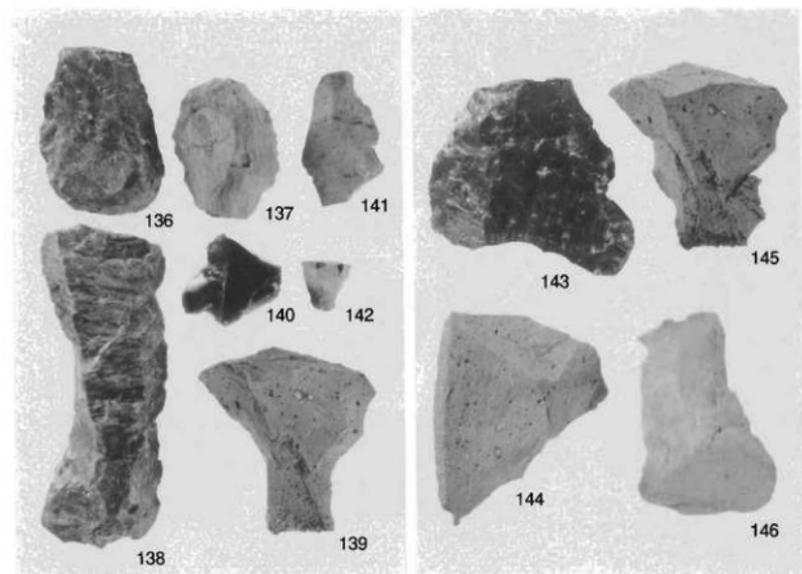


第Ⅳ文化層エリアH出土石器

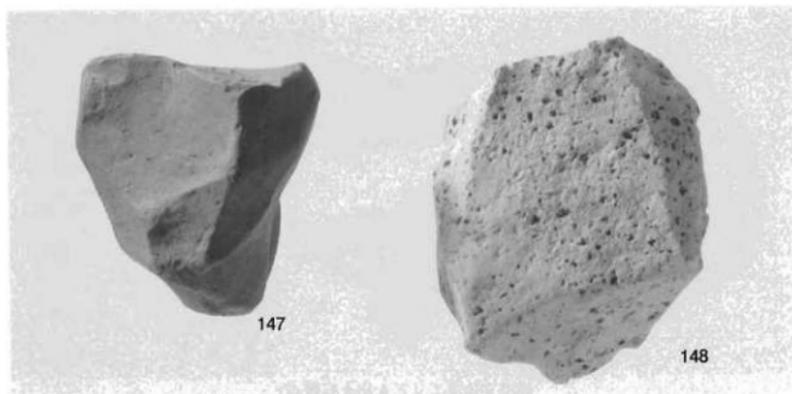


第IV文化層エリアI出土石器

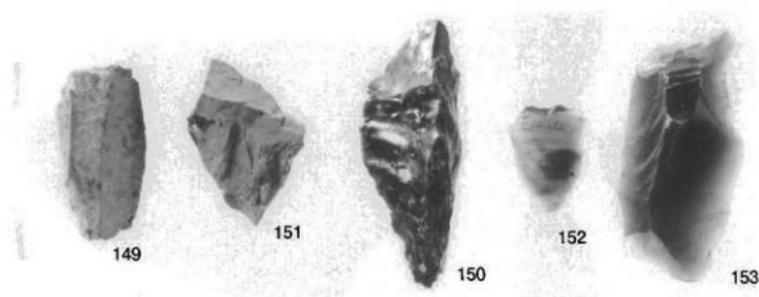
第IV文化層エリアJ出土石器(1)



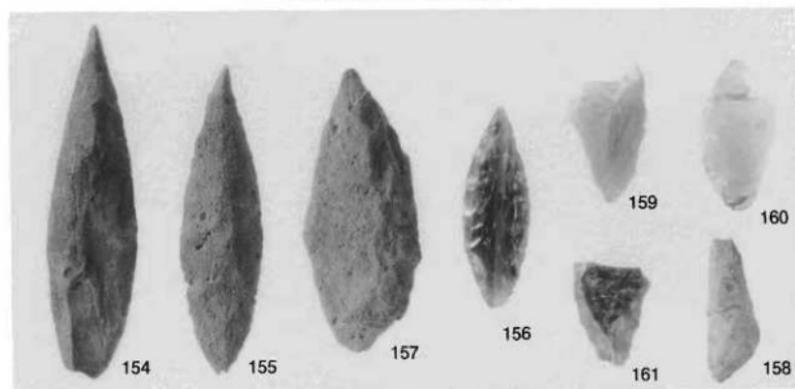
第IV文化層エリアJ出土石器(2)



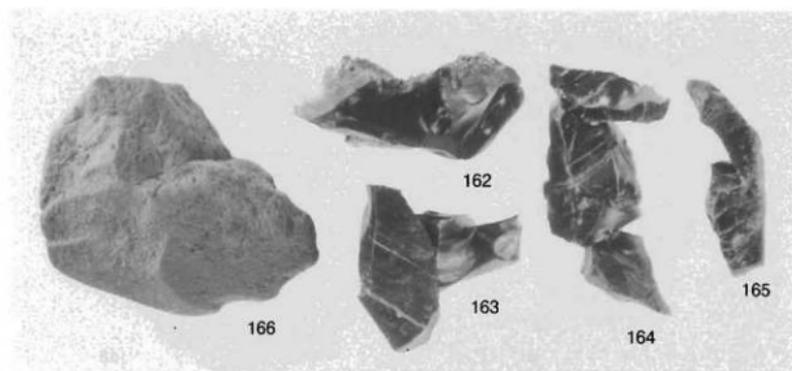
第Ⅳ文化層エリア J 出土石器 (3)



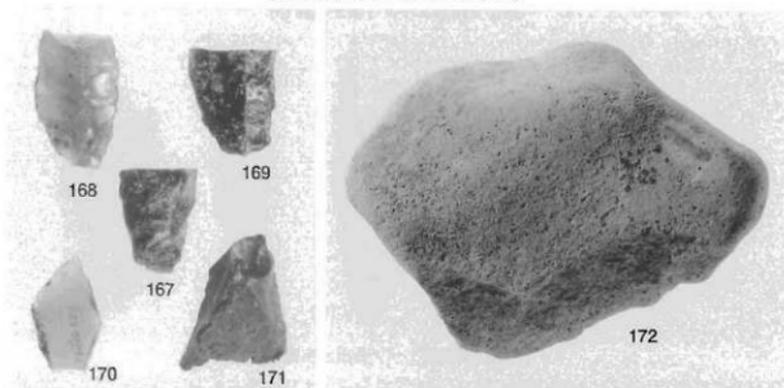
第Ⅳ文化層エリア外出土石器



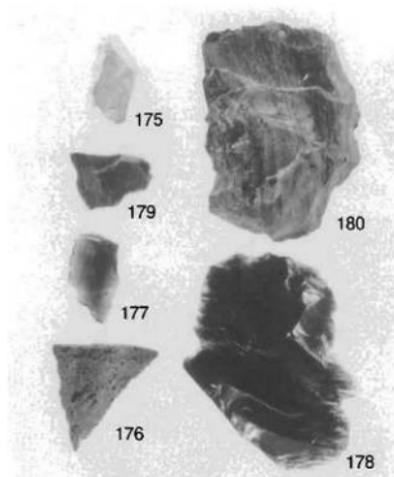
第Ⅳ文化層エリア A 出土石器 (1)



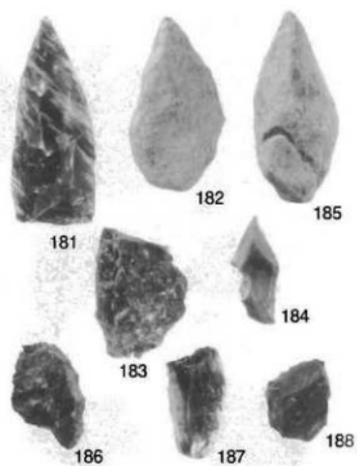
第V文化層エリアA出土石器(2)



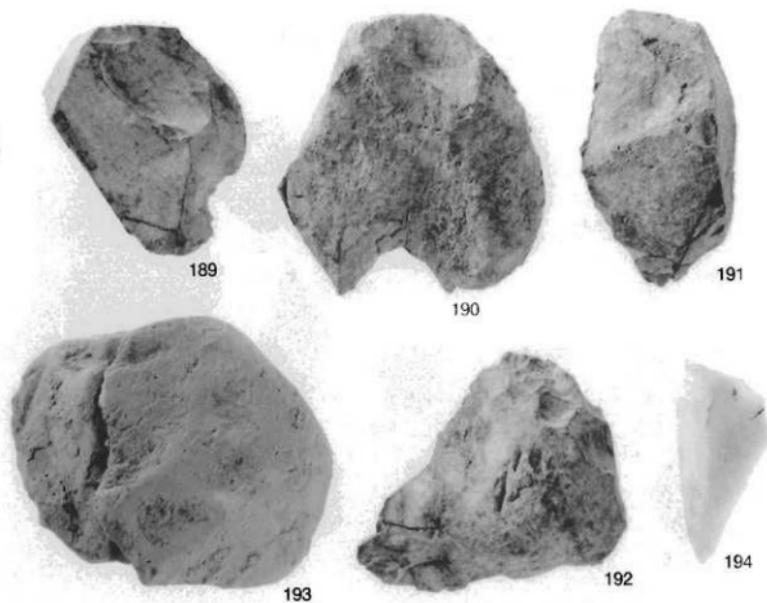
第V文化層エリアB出土石器



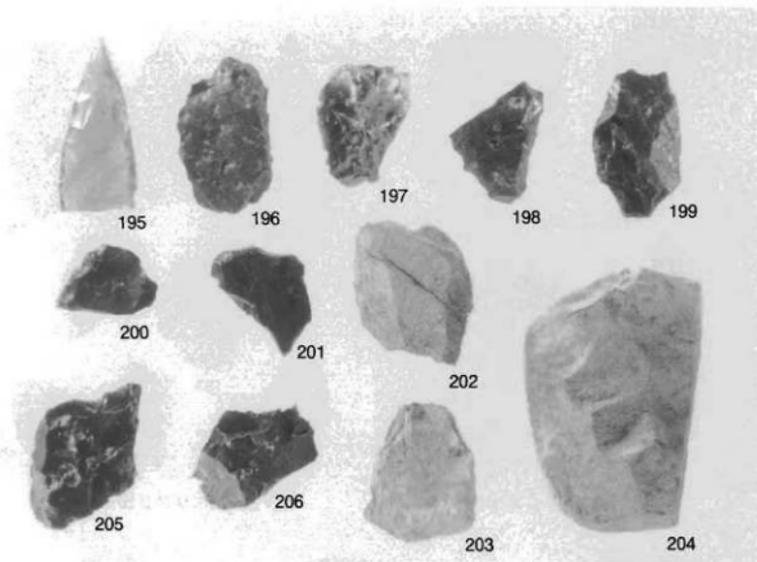
第V文化層エリアC 出土石器



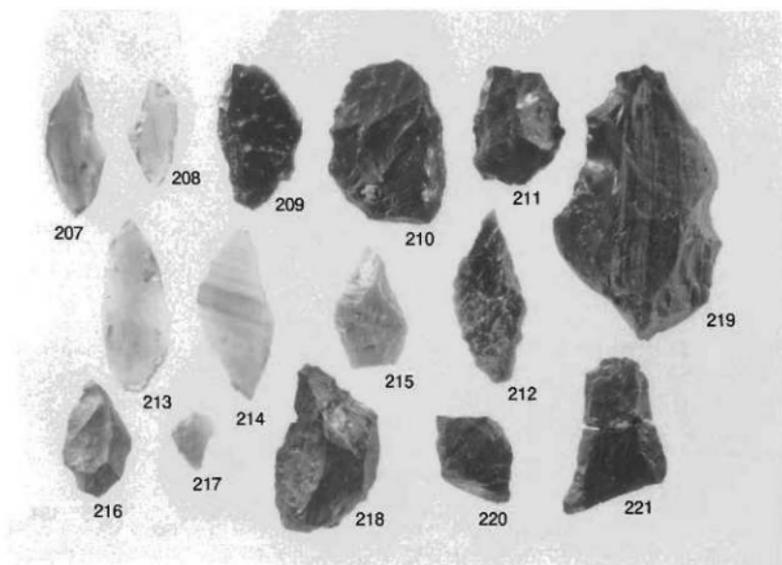
第V文化層エリアD 出土石器 (1)



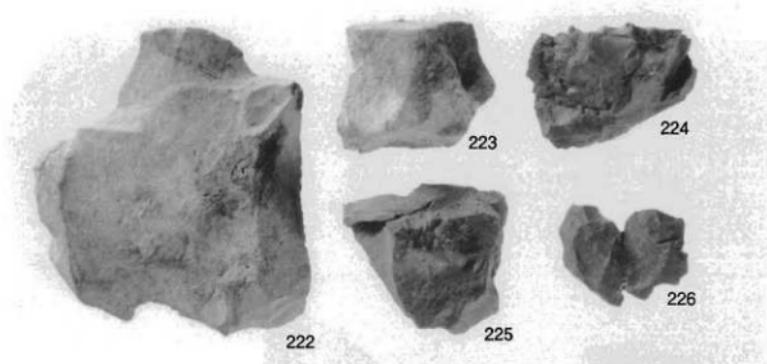
第V文化層エリアD 出土石器 (2)



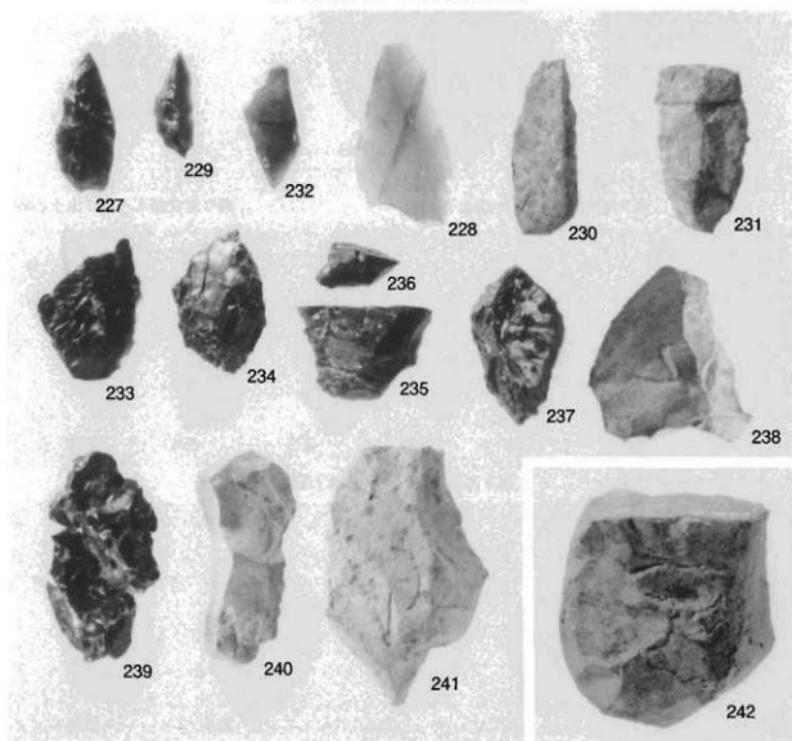
第V文化層エリアE出土石器



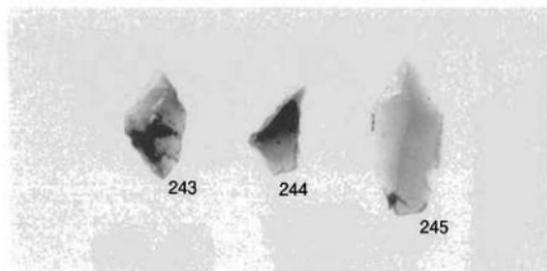
第V文化層エリアF出土石器(1)



第V文化層エリアF出土石器(2)



第V文化層エリアG出土石器



243

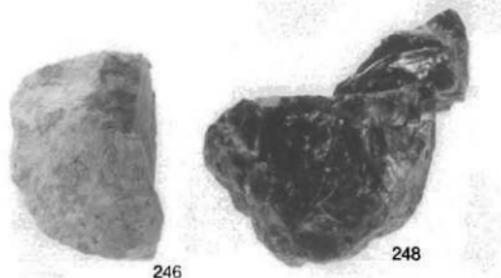
244

245



247

第V文化層エリアH出土石器(2)



246

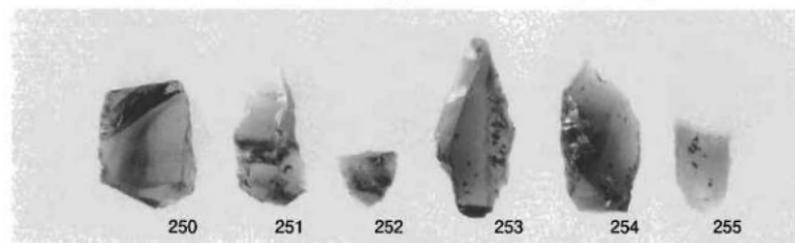
248

第V文化層エリアH出土石器(1)



249

第V文化層エリアI出土石器



250

251

252

253

254

255

第V文化層エリアJ出土石器



257

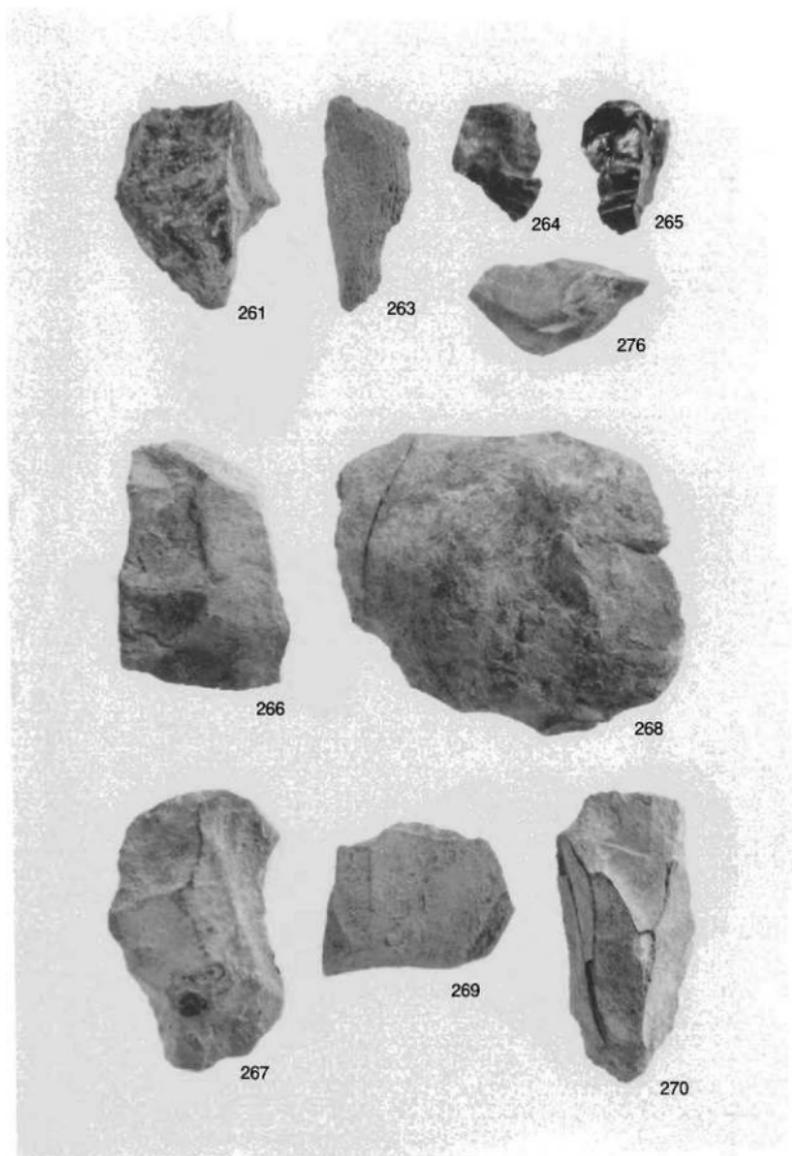
258

256

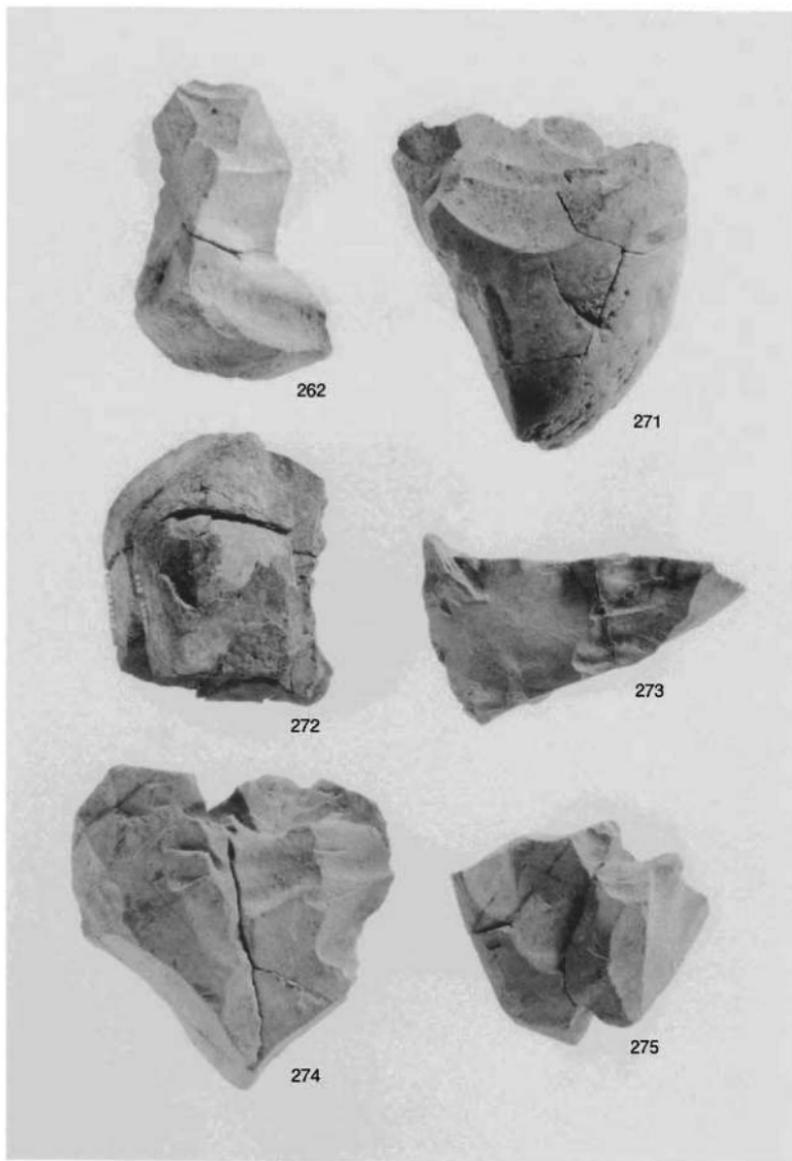
259

260

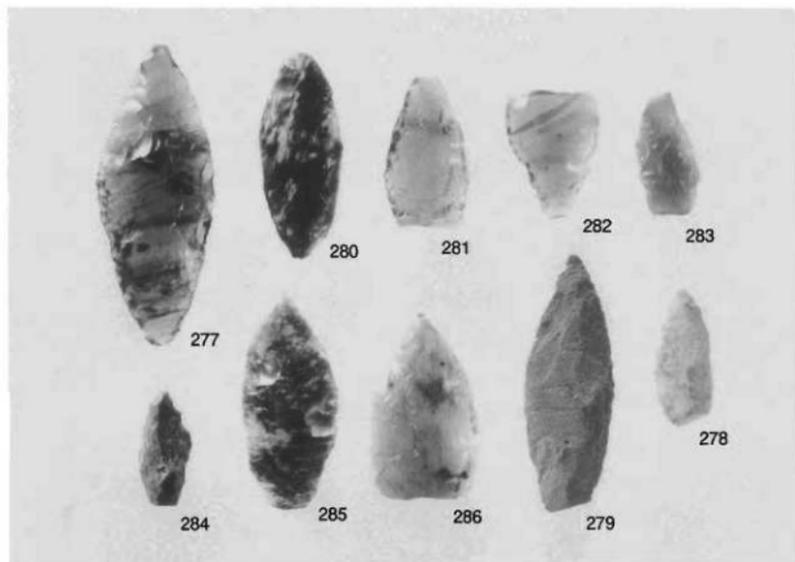
第V文化層エリアK出土石器(1)



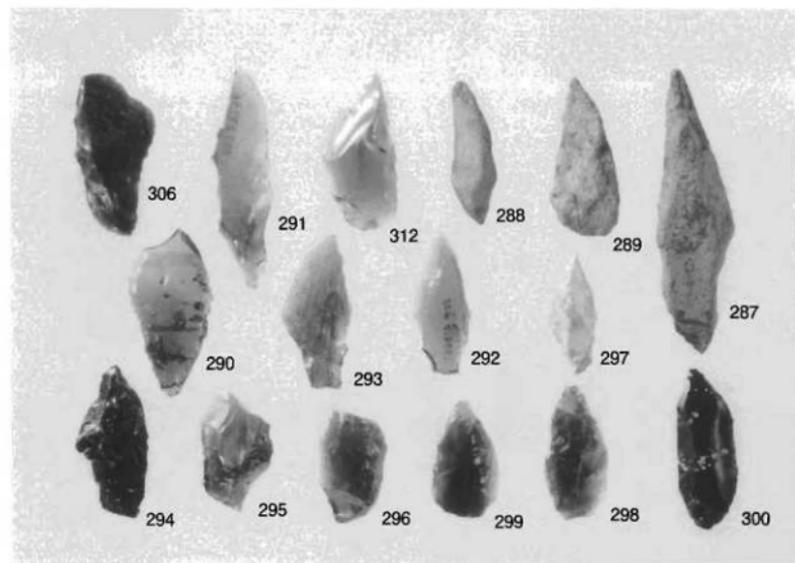
第V文化層エリアK出土石器(2)



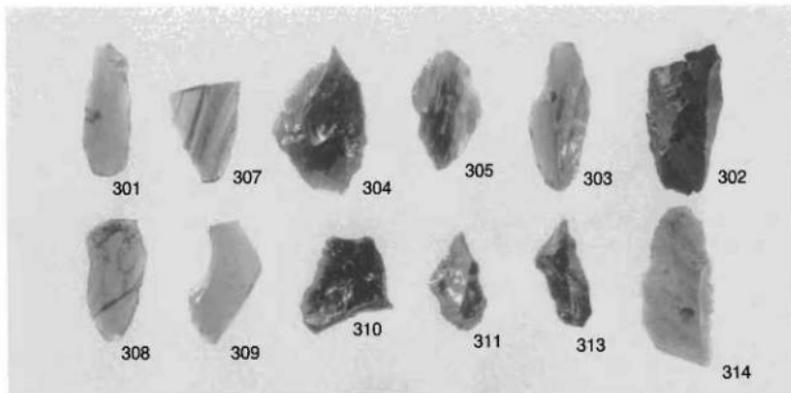
第V文化層エリアK出土石器(3)



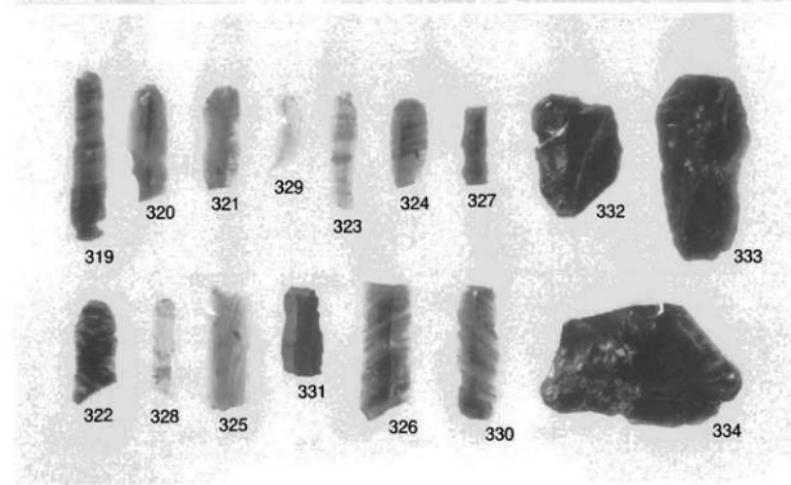
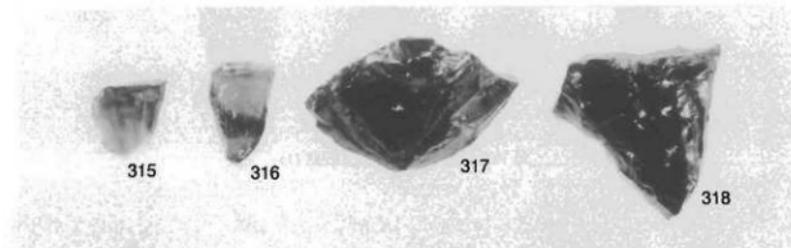
第V文化層エリア外出土石器(1)



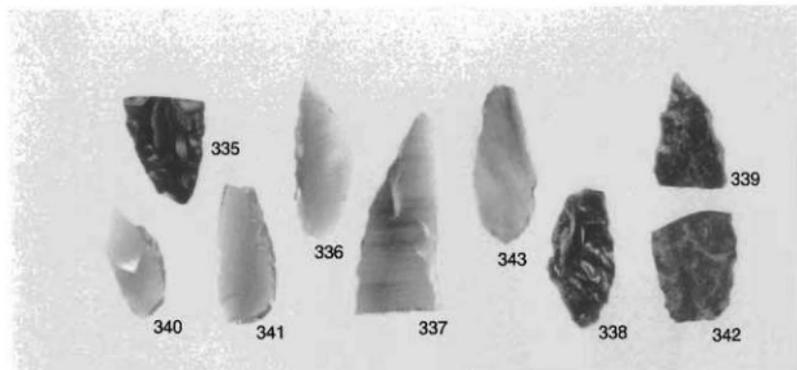
第V文化層エリア外出土石器(2)



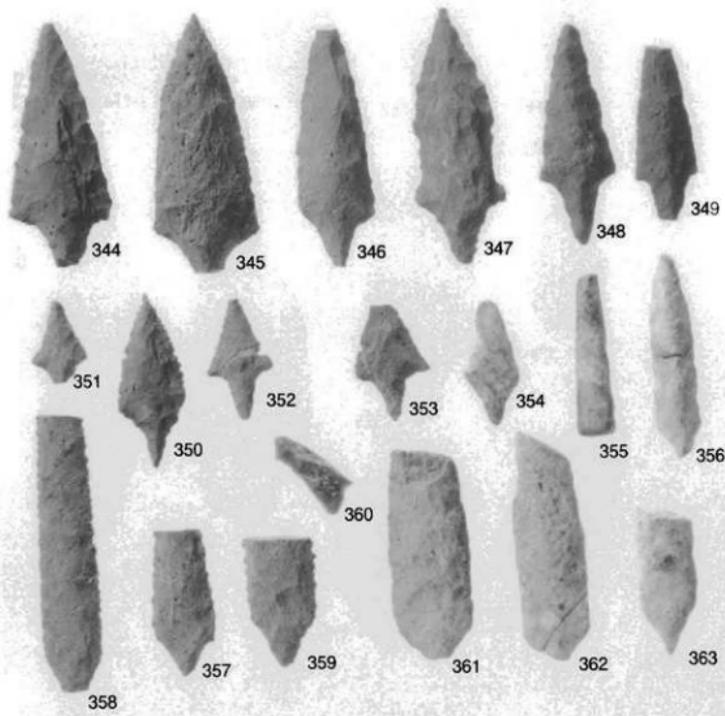
第V文化層エリア外出土石器(3)



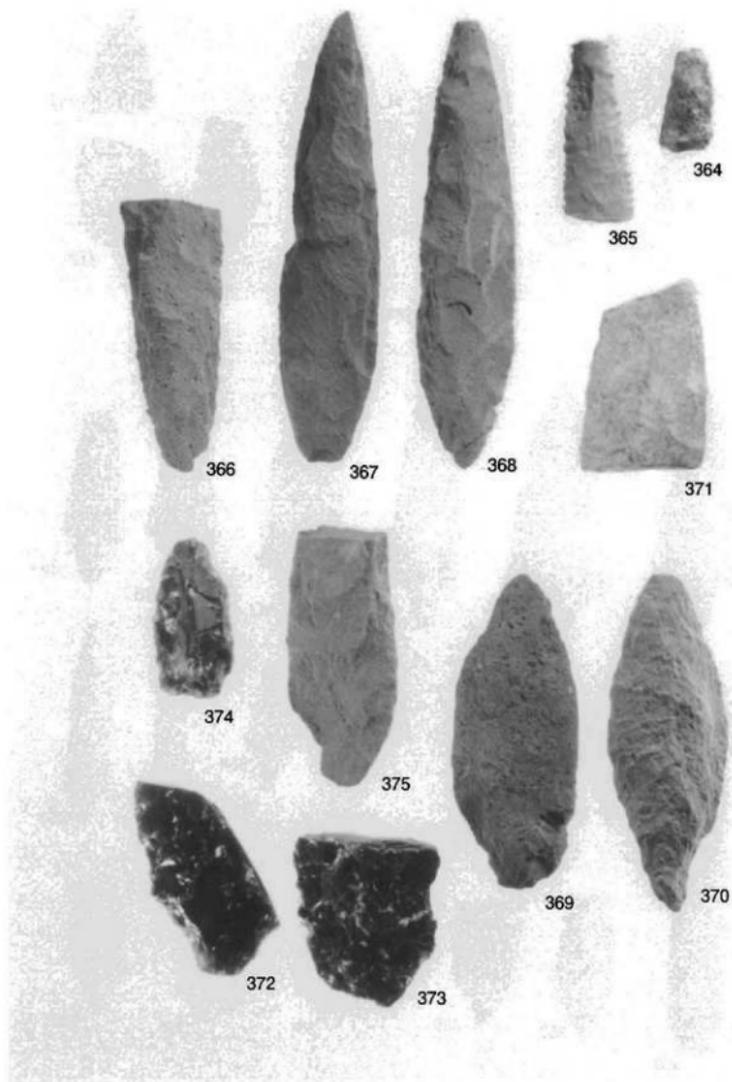
第VI文化層出土石器



表採・一括等の石器



縄文時代草創期出土石器 (1)



縄文時代草創期出土石器 (2)

報告書抄録

ふりがな	さくらばたけういせき								
書名	桜畑上遺跡 旧石器時代～縄文時代草創期層								
副書名	平成12・13・15～19年度 東駿河湾農状道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書								
巻次									
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告								
シリーズ番号	第224集								
編著者名	中村雄紀								
編纂機関	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所								
所在地	〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23番20号 TEL 054-262-4261 (代)								
発行年月日	西暦 2010年9月30日								
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
桜畑上 遺跡	静岡県 長泉町 上長堤 字上野	22342	..	世界測地系		2000.7～9	32,300㎡	道路建設（東駿河湾農状道路建設工事に伴う調査）	
				35°	138°	2001.4～7			
				8'	52'	2003.8～			
				57°	33°	2008.3			
				日本測地系					
				35°	138°				
8'	52'								
45°	44°								
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
桜畑上遺跡	散布地	旧石器時代	石器集中28 礎群11 土坑3 炭化物集山	石器（尖頭器/角錐状石器/ ナイフ形石器/切出形石器 /環器/削器/磨器/敲石/ 二次加工剥片/微細剥片 剥片/削片/細石刃/細石刃 核/石核/剥片/砕片） 有茎尖頭器/尖頭器	第Ⅲスコリア帯から薄砂層にかけて、大別7時期から成る重層遺跡				
要約	桜畑上遺跡は後期旧石器・縄文・古墳時代を中心とする遺跡である。本書ではそのうち後期旧石器時代の調査成果を収録した。主として第Ⅰ黒色帯から赤褐色層にかけて、尾根の広範囲にわたって遺跡が展開しており、愛蔵・著述第3期、第4期の石器群が重層的に出土している。								

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第224集

桜畑上遺跡 I

平成12・13・15～19年度 東駿河湾環状道路建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書
(旧石器時代～縄文時代草創期編)

編集・発行 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422-8002 静岡市駿河区谷田23-20
TEL 054-262-4261 (代)
FAX 054-262-4266

印刷所 株式会社エムクリエーション
〒142-0051 東京都品川区平塚2-4-16
TEL 03-3787-8923 (代)

